

平成 3 0 年度
全国学力・学習状況調査
分析結果報告書



平成 3 0 年 1 1 月

千葉県総合教育センター

序

今年度も多くの関係者の御尽力により、無事、全国学力・学習状況調査が実施されました。文部科学省により7月下旬に発表された結果を受け、本県では「全国平均を若干下回るものの、概ね全国平均と同程度」「中学校数学Aについては継続的に課題がみられる」と発表しました。各学校ではどのような結果でしたでしょうか。

文部科学省では、全国学力・学習状況調査を開始して以来、毎年、「本調査の実施によって、各教育委員会や各学校に対して、学習指導要領に示される内容等を正しく理解するよう促すとともに重視される力を子供たちに身に付けさせるといった国としての具体的なメッセージを示すこととなる」と述べています。

現行の学習指導要領で求められている力が、各教科に関する調査に具現化されているのですから、すべての教職員がその調査内容を知っておきたいものです。普段、自分が指導している事項がどのような形で出題されているのか、この問題を解ける力をもつ子供にするためにはどのような指導が必要なのか。そのような視点で本調査を見れば、すべての教職員にとって、自分の指導方法を見直し、計画し、実行するためのよい材料となるはずです。しかしながら、学校質問紙調査の「全国学力・学習状況調査の分析結果の活用」に関する項目への、本県における肯定的な回答の割合は、毎年少しずつ増加しているものの、未だ全国の水準に達していない状況です。是非とも活用をお願いします。

一方で、こんな取組をしたら、目に見えて本調査の結果が向上したという報告も続々と届いています。

- ・本調査問題をそのまま教材として取り入れた授業の実施（例：算数の授業においてノートを使って、数量の関係を図や数直線などに表しながら、考え方を書かせる。）
- ・家庭学習の指導の充実（例：児童生徒に宿題だけでなく自主学習等に取り組ませ、教員が毎日チェックしている。）
- ・管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修の重視（例：管理職が明確なビジョンや方針を示し共通理解を図っている。中学校において教科を超えて授業を見せ合い、磨き合いを行っている。）

等々です。さらに、本冊子「Ⅲ 結果の活用に向けて 1 地域別の傾向」の中にもたくさん事例を掲載しましたので、ご参照ください。

最後に、改善に成功した学校の主な共通点を記したいと思います。

- ・学校内の全職員で一斉に問題を解いている。
- ・「分析ツール」を使って自校の本調査の結果分析を行い、全職員で共有している。
- ・本報告書を活用しながら自校の課題を明確にした上で、各学年で取り組むべき事項、学校全体で取り組むべき事項を教務主任等を中心に、学校として打ち出している。
- ・指導改善サイクル「PDCA」が確立している。
- ・保護者や地域に向けて、本調査の結果について成果や課題を知らせている。

今後さらに各学校において、児童生徒の学力向上のために、全国学力・学習状況調査の結果が、学校全体で教育活動を改善するために活用されることを願っております。

平成30年11月

千葉県総合教育センター所長 秋元 大輔

目 次

序

I	結果の概要	1
1	本年度の調査概要 及び 本県の課題	
2	教科区分別調査結果	
3	平成19年度からの本県の平均正答率（全国比）の推移	
4	教科に関する調査	
	（1）国語	
	（2）算数・数学	
	（3）理科	
5	質問紙調査に関する調査	
	（1）児童生徒質問紙調査	
	（2）学校質問紙調査	
II	結果の詳細	
1	教科に関する調査	9
	（1）小学校国語	
	（2）中学校国語	
	（3）小学校算数	
	（4）中学校数学	
	（5）小学校理科	
	（6）中学校理科	
2	質問紙調査	63
	（1）児童生徒質問紙調査	
	（2）学校質問紙調査	
	（3）トピックス	
	家庭学習の充実に向けて	
	主体的・対話的で深い学びの充実に向けて	
	自己肯定感に関する状況について	
	指導改善サイクルの確立を目指して	
III	結果の活用に向けて	89
1	地域別の傾向	
	（1）葛南地区	
	（2）東葛飾地区	
	（3）北総地区	
	（4）東上総地区	
	（5）南房総地区	
2	分析ツールを活用した指導改善	
3	学力向上に役立つ情報	
IV	回答結果集計データ	113

I 結果の概要

1 本年度の調査概要 及び 本県の課題

平成30年度全国学力・学習状況調査

- (1) 調査実施日 平成30年4月17日(火)
- (2) 本県の実施状況 公立小学校796校(第6学年 51, 353人)
公立中学校386校(第3学年 47, 569人)
合計1,182校(義務教育学校・特別支援学校を含む)
- (3) 調査内容 ア教科 国語A、算数・数学A：主として「知識」に関する問題
国語B、算数・数学B：主として「活用」に関する問題
理科(3年に1回実施)：「知識」「活用」を一体的に出題
イ児童生徒質問紙、学校質問紙

各教科区分に共通する課題

記述式の正答率が低い

無解答率が高い

	前回の課題	今年度の課題	詳細
小学校国語	◆話すこと・聞くこと ◆記述式	◆書くこと ◆短答式 ◆記述式	P 10～17
小学校算数	◆数と計算 ◆数量関係	◆量と測定 ◆図形 ◆記述式	P 28～37
小学校理科	H27 ◆観察・実験器具の操作技能	◆記述式	P 48～54
児童質問紙	◆算数への関心等 ◆言語活動・読解力 ◆学習習慣	◆算数・数学への関心等 ◆地域・社会への関心等 ◆学習習慣	P 64～65 P 68 P 72
小学校 学校質問紙	◆個に応じた指導 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆家庭学習 ◆教員研修・教職員の取組	◆個に応じた指導 ◆算数・数学科の指導方法 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆指導改善サイクルの確立	P 73 P 74 P 76～77 P 87～88
中学校国語	◆伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ◆記述式	◆記述式	P 18～27
中学校数学	◆関数 ◆数と式 ◆資料の活用 ◆記述式	◆数と式 ◆図形 ◆関数 ◆資料の活用 ◆記述式	P 38～47
中学校理科	H27 ◆記述式 ◆物理的領域・化学的領域 ◆基礎的・基本的な知識・技能の活用	◆化学的領域 ◆生物的領域 ◆短答式 ◆記述式	P 55～62
生徒質問紙	◆総合的な学習への関心等 ◆自尊感情	◆算数・数学への関心等 ◆理科への関心等 ◆地域・社会への関心等 ◆学習習慣	P 64～65 P 66～67 P 68 P 72
中学校 学校質問紙	◆個に応じた指導 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆家庭学習 ◆教員研修・教職員の取組	◆個に応じた指導 ◆算数・数学科の指導方法 ◆学力向上に向けた取組・指導方法 ◆家庭学習 ◆指導改善サイクルの確立	P 73 P 74 P 76～77 P 78 P 87～88

*本冊子における千葉県・全国の平均正答率及び平均正答数は、公立学校に在籍する児童生徒の数値である。

2 教科区分別調査結果

*数値は、千葉県・全国ともに、公立学校の平均正答率（％）である。ただし、文部科学省の発表に基づき、全国平均正答率は小数第1位まで、県平均正答率は小数点以下を四捨五入した結果を示している。右の（ ）の数値は平均正答数である。

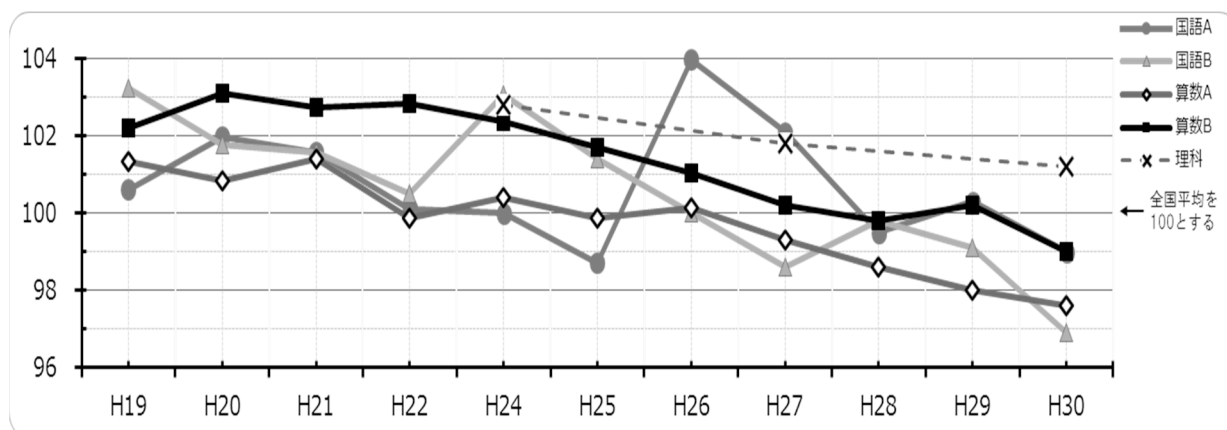
小学校	千葉県	全国	中学校	千葉県	全国
国語A（12問）	70（8.4）	70.7（8.5）	国語A（32問）	76（24.3）	76.1（24.3）
国語B（8問）	53（4.3）	54.7（4.4）	国語B（9問）	61（5.5）	61.2（5.5）
算数A（14問）	62（8.7）	63.5（8.9）	数学A（36問）	64（23.0）	66.1（23.8）
算数B（10問）	51（5.1）	51.5（5.1）	数学B（14問）	46（6.4）	46.9（6.6）
理科（16問）	61（9.8）	60.3（9.6）	理科（27問）	65（17.6）	66.1（17.9）

本県の状況は、全国平均を若干下回るものの、概ね全国平均と同程度である。
このうち、中学校数学Aについては継続的に課題が見られる。

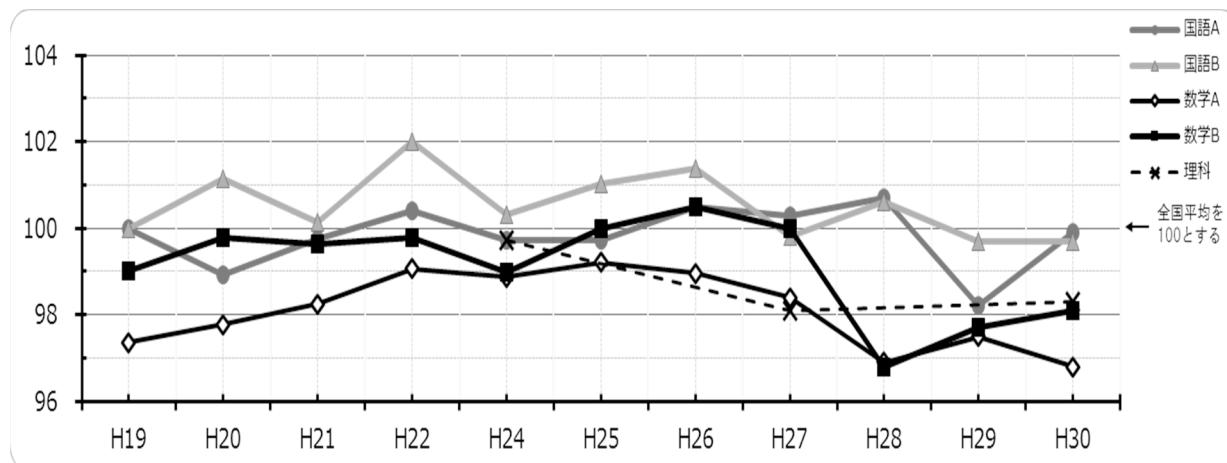
3 平成19年度からの本県の平均正答率（全国比）の推移

*全国（公立）を100として、千葉県（公立）の結果を相対的に表した数値をもとに記述した。

<小学校>



<中学校>



※平成22・24年度は抽出調査のため、平均正答率については95%信頼区間の中央値を表している。

※指数は、小数第1位までの平均正答率をもとに算出しているため、教科区分別調査結果を用いた値と一致しない場合がある。

※平成23年度は、東日本大震災の影響を考慮し、実施が見送られた。

4 教科に関する調査

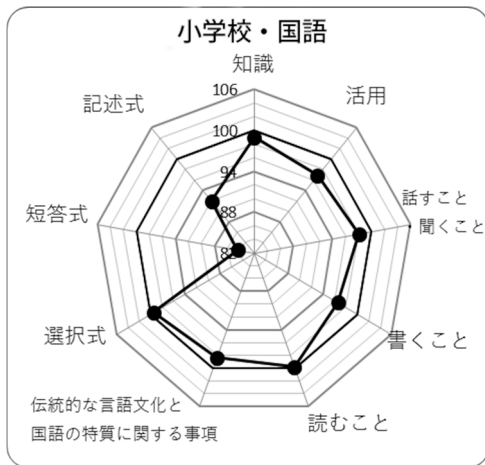
(1) 国語

【小学校】

知識（国語 A）、活用（国語 B）ともに平均正答率は、全国と同程度である。領域別では、「書くこと」が全国を下回り、問題形式別では、「短答式」「記述式」が全国を大きく下回った。「読むこと」の領域は全国と同程度の状況が続いている。

平均正答率（％）

小学校	千葉県(公立)	全国(公立)
国語 A	70	70.7
国語 B	53	54.7



知識／活用	知識	99.0
	活用	96.9
領域等	話すこと・聞くこと	98.1
	書くこと	96.6
	読むこと	99.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	98.4
問題形式	選択式	99.5
	短答式	84.5
	記述式	91.9

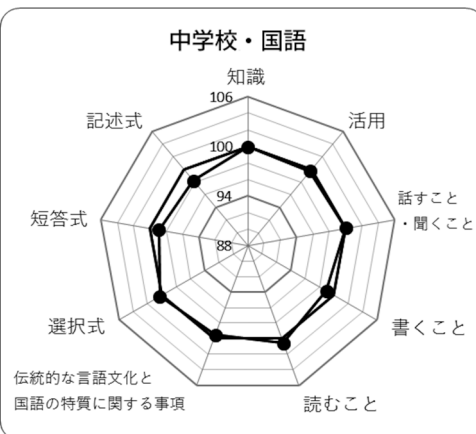
※全国を 100 としたときの指数で表している。
※今回「短答式」での出題は 1 題（A 5）であった。

【中学校】

知識（国語 A）、活用（国語 B）ともに平均正答率は、全国と同程度である。すべての領域で全国と同程度である。問題形式では、「短答式」「記述式」が全国をやや下回るが、昨年度に比べて改善がみられた。

平均正答率（％）

中学校	千葉県(公立)	全国(公立)
国語 A	76	76.1
国語 B	61	61.2



知識／活用	知識	99.9
	活用	99.7
領域等	話すこと・聞くこと	99.9
	書くこと	99.0
	読むこと	100.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	99.6
問題形式	選択式	100.4
	短答式	98.9
	記述式	98.2

※全国を 100 としたときの指数で表している。

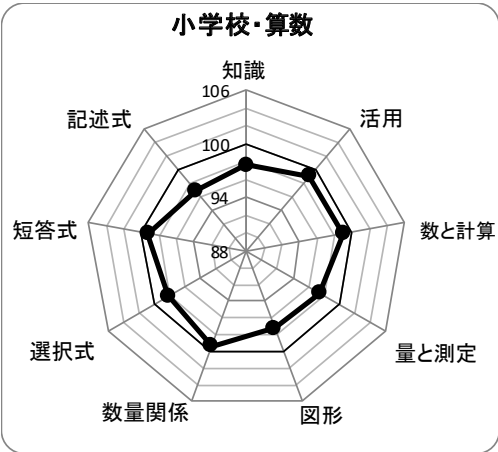
(2) 算数・数学

【小学校】

知識（算数 A）、活用（算数 B）ともに平均正答率は、全国と同程度である。領域別では、「量と測定」「図形」が全国を下回った。問題形式別では、「選択式」が全国をやや下回り、「記述式」については全国を下回った。

平均正答率（％）

小学校	千葉県(公立)	全国(公立)
算数 A	62	63.5
算数 B	51	51.5



知識／活用	知識	97.6
	活用	99.0
領域	数と計算	99.0
	量と測定	97.5
	図形	97.2
	数量関係	99.4
問題形式	選択式	98.1
	短答式	99.2
	記述式	96.8

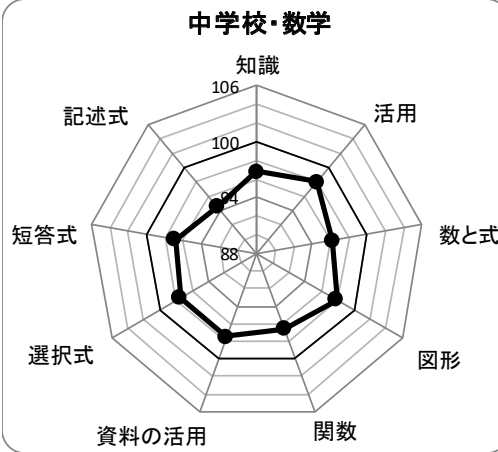
※全国を 100 としたときの指数で表している。

【中学校】

知識（数学 A）の平均正答率は全国を下回り、活用（数学 B）の平均正答率は全国と同程度であった。領域別では、すべての領域で全国を下回った。問題形式別では、「選択式」「短答式」が全国を下回り、「記述式」は全国を大きく下回った。

平均正答率（％）

中学校	千葉県(公立)	全国(公立)
数学 A	64	66.1
数学 B	46	46.9



知識／活用	知識	96.8
	活用	98.1
領域	数と式	96.3
	図形	97.9
	関数	96.6
	資料の活用	97.5
問題形式	選択式	97.4
	短答式	96.9
	記述式	94.6

※全国を 100 としたときの指数で表している。

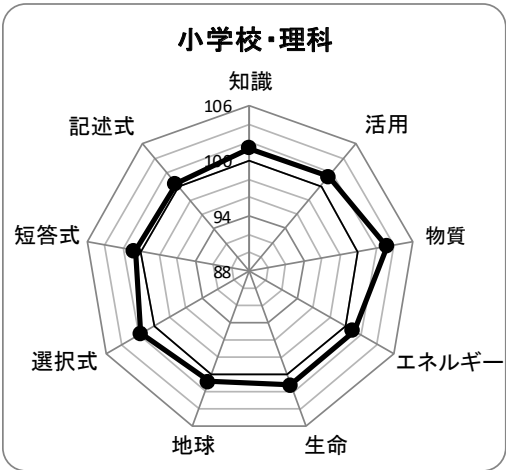
(3) 理科

【小学校】

知識、活用ともに平均正答率は、全国と同程度である。領域別では、「物質」は全国を上回り、「エネルギー」「生命」は全国をやや上回った。問題形式別では、「選択式」が全国をやや上回った。

平均正答率（％）

小学校	千葉県(公立)	全国(公立)	[内訳]	千葉県(公立)	全国(公立)
理科	61	60.3	知識	79	78.0
			活用	57	56.2



知識／活用	知識	101.3
	活用	101.4
領域	物質	103.2
	エネルギー	101.1
	生命	101.2
	地球	100.8
問題形式	選択式	101.6
	短答式	100.6
	記述式	100.4

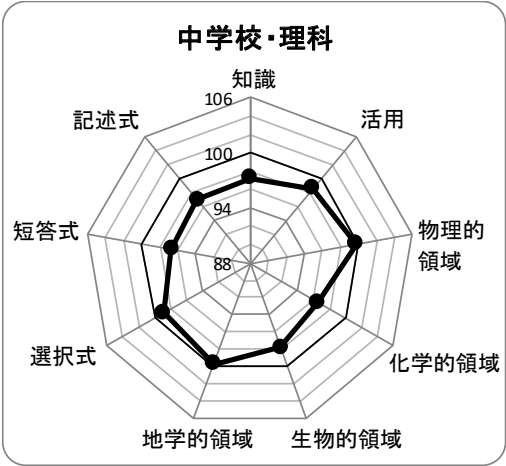
※全国を 100 としたときの指数で表している。

【中学校】

知識、活用ともに平均正答率は、全国と同程度である。領域別では、「化学的領域」「生物的領域」は全国を下回った。問題形式別では、「選択式」は全国をやや下回り、「短答式」「記述式」は全国を下回った。

平均正答率（％）

中学校	千葉県(公立)	全国(公立)	[内訳]	千葉県(公立)	全国(公立)
理科	65	66.1	知識	66	67.9
			活用	64	64.9



知識／活用	知識	97.2
	活用	98.6
領域	物理的領域	99.7
	化学的領域	96.5
	生物的領域	97.8
	地学的領域	99.7
問題形式	選択式	98.9
	短答式	96.7
	記述式	97.0

※全国を 100 としたときの指数で表している。

5 質問紙調査に関する調査

※チャート図は、千葉県の結果について、全国を母集団として標準化したものである。内側の破線が全国平均を表している。

※◇は成果を、◆は課題を示している。

(1) 児童生徒質問紙調査

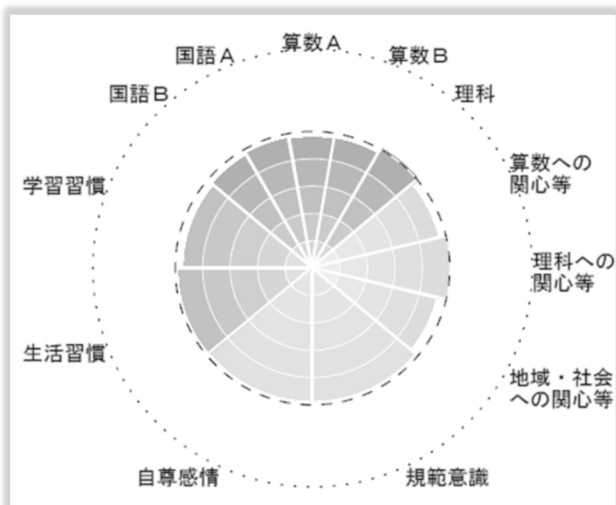
全体的に、児童は全国とほぼ同程度、生徒は全国と比べてやや低い状況である。

領域別に見ると、「算数・数学への関心等」、「地域・社会への関心等」は、児童生徒ともに全国と比べてやや低い状況にある。「理科への関心等」は、児童が全国と同程度であり、生徒はやや低い状況にある。

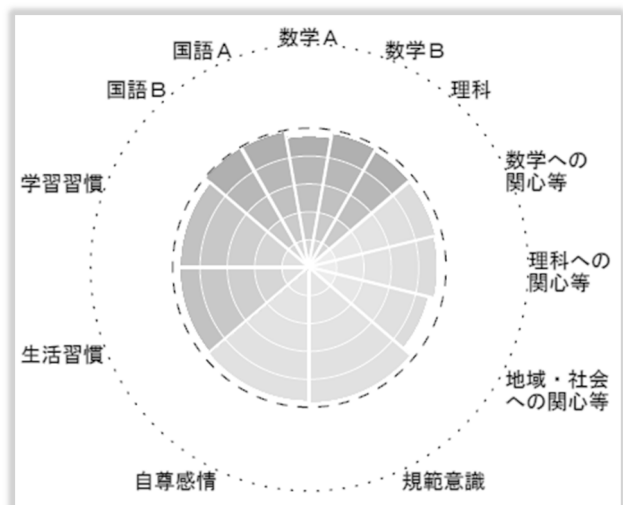
また、「主体的・対話的で深い学びの充実」「規範意識」「学習習慣」では、肯定的回答をした児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

〈児童生徒質問紙調査と教科の結果〉

【児童】



【生徒】



領域名		対応する質問番号	成果と課題
学習に対する 関心・意欲・ 態度	算数・数学 への関心等	27～36	◇「理科の勉強が好き」、「理科の授業の内容 がよく分かる」児童の割合は、全国よりや や高い。
	理科への関心 等	児 38～45、 47～50、 52、53 生 38～45、 47～50	◇「ニュースを見る」児童の割合は、全国より やや高い。
	地域・社会 への関心等	19～26	◆「算数・数学への関心等」は、児童生徒と もに全国よりやや低い。 ◆「ボランティア活動に参加したことがあ る」児童生徒の割合は、全国より低い。
規範意識・ 自尊感情	規範意識	4～6	◇児童生徒ともに「規範意識」は、全国と同 程度である。
	自尊感情	1、3	◆生徒の「自尊感情」は、全国よりやや低い。
学習の基盤と なる活動・ 習慣	生活習慣	7～9	◇児童の「生活習慣」は、全国と同程度であ る。
	学習習慣	10～12	◆生徒の「生活習慣」は、全国よりやや低い。 ◆児童生徒ともに「学習習慣」は、全国より やや低い。

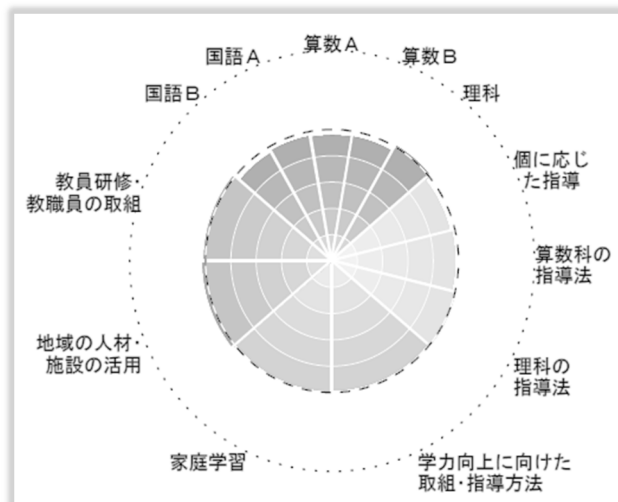
(2) 学校質問紙調査

全体的に、小学校は全国と同程度、中学校は全国と比べてやや低い状況である。

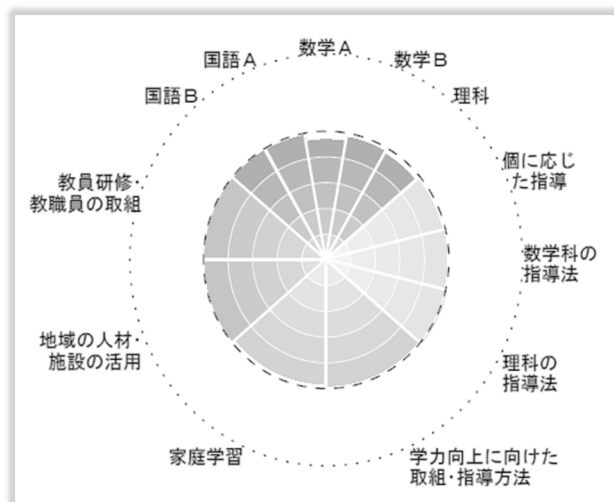
領域別に見ると、「理科の指導方法」「教員研修・教職員の取組」は、小中学校とも全国と同程度である。「算数・数学科の指導方法」「学力向上に向けた取組・指導方法」は、小中学校とも全国と比べてやや低く、「個に応じた指導」は低い。「地域の人材・施設の活用」は、小学校が全国と比べてやや高く、中学校はやや低い。「家庭学習」は、小学校が全国と同程度、中学校がやや低い状況である。

〈学校質問紙調査と教科の結果〉

【小学校】



【中学校】



領域名		対応する質問番号	成果と課題
教科指導	個に応じた指導	小 35、36 中 34、35	◇小学校理科において、「好奇心や意欲を喚起する工夫」「科学的な体験・自然体験をする授業」を行った割合は全国よりやや高い。 ◇中学校理科において、「観察や実験結果の分析・解釈」「レポートの作成方法」の指導を行った割合が全国よりやや高い。 ◆小中学校ともに「算数・数学の習熟度別の少人数指導」は、全国より低い。
	算数・数学科の指導方法	小 37～40 中 36～39	
	理科の指導方法	小 42～51 中 40～49	
学力向上	学力向上に向けた取組・指導方法	小 22～27、30 中 21～26、29	◇「理科の自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えた」割合は、小学校は全国より高く、中学校は著しく高い。 ◆小中学校とも「調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた」割合は、全国より低い。
	家庭学習	小 63～71 中 60～68	
学校経営	地域の人材・施設の活用	小 53～55、57 59～62 中 51～53 55～59	◇小中学校とも「講師を招聘した校内研修を行っている」割合は、全国より高い。 ◇「職場見学や職場体験活動を行っている」小学校の割合は、全国より著しく高い。 ◆小中学校とも「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行っている」割合は、全国より低い。 ◆「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている」割合は、小学校で全国よりやや低く、中学校で低い。
	教職員研修・教職員の取組	小 16～20 72～76 78～84 中 15～19 69～73 75～81	

Ⅱ 結果の詳細

1 教科に関する調査

(1) 小学校国語

① 全体的な結果

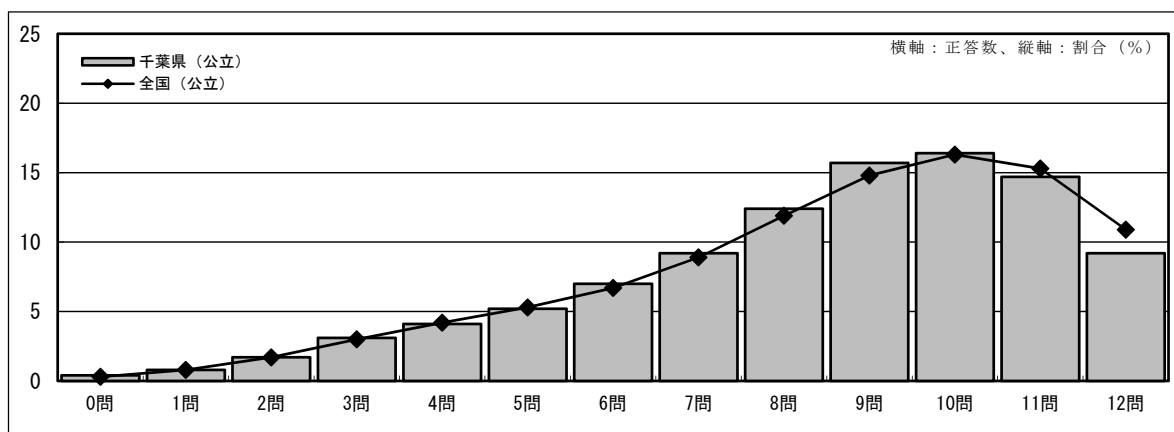
ア 正答数の分布

＊「A～D層」について

- ・各層は全国（公立）の児童を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
- ・千葉県的人数比率は、全国のA～D層を基準に示してある。

【国語A】

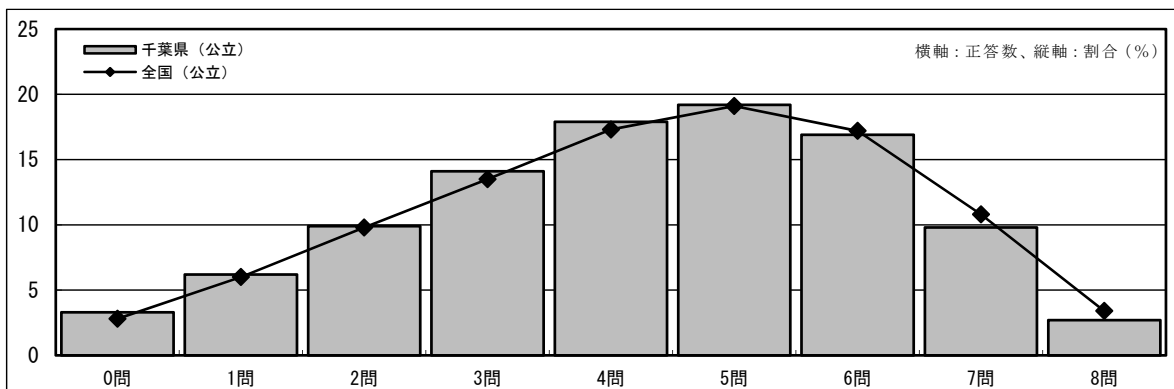
平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、B層の割合が高くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		*D 層	* C 層	* B 層	* A 層
						0～6 問	7～8 問	9～10 問	11～12 問
千葉県 (公立)	8.4 問／ 12 問	70 %	9.0	2.6	千葉県 (公立)	22.3 %	21.6 %	32.2 %	23.9 %
全 国 (公立)	8.5 問／ 12 問	70.7 %	9.0	2.7	全 国 (公立)	22.0 %	20.7 %	31.1 %	26.2 %

【国語B】

平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、C層の割合が高くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		*D層	*C層	*B層	*A層
						0～2問	3～4問	5問	6～8問
千葉県 (公立)	4.3問 ／8問	53 %	4.0	1.9	千葉県 (公立)	19.5 %	32.0 %	19.2 %	29.3 %
全 国 (公立)	4.4問 ／8問	54.7 %	5.0	1.9	全 国 (公立)	18.6 %	30.8 %	19.1 %	31.4 %

イ 調査区分ごとに見た傾向（全国を100としたときの指数で示している）

知識／活用

「知識」「活用」ともに、平均正答率は全国と同程度である。

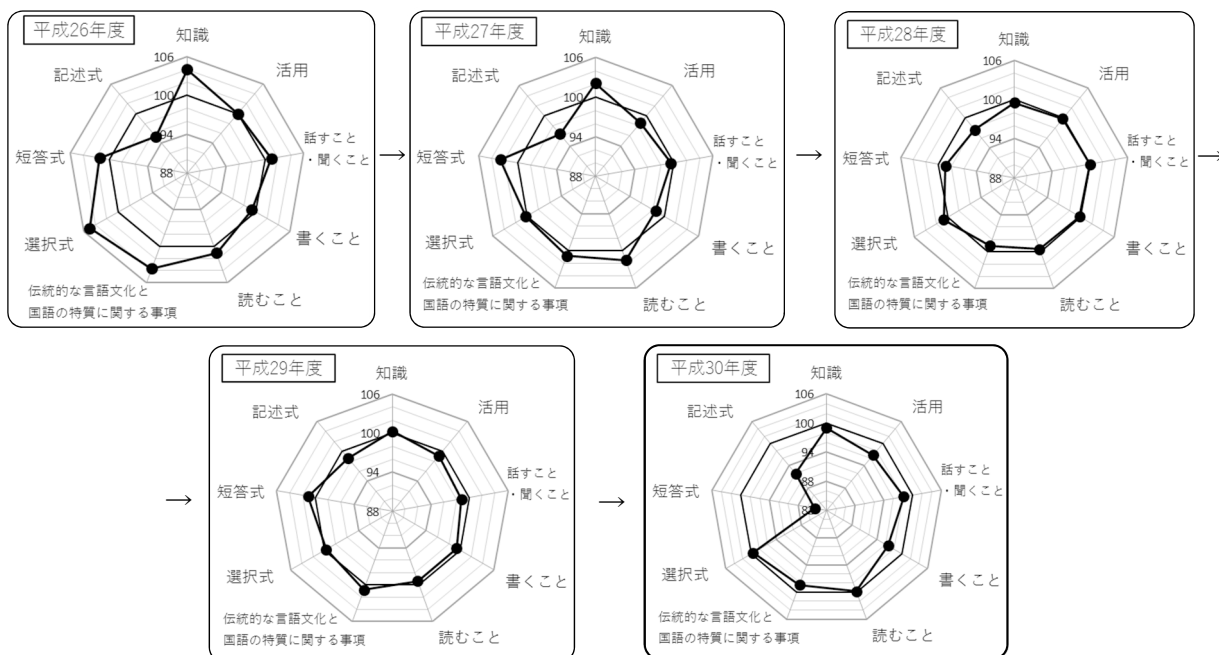
領域等

「書くこと」が全国を下回っている。「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国をやや下回っている。

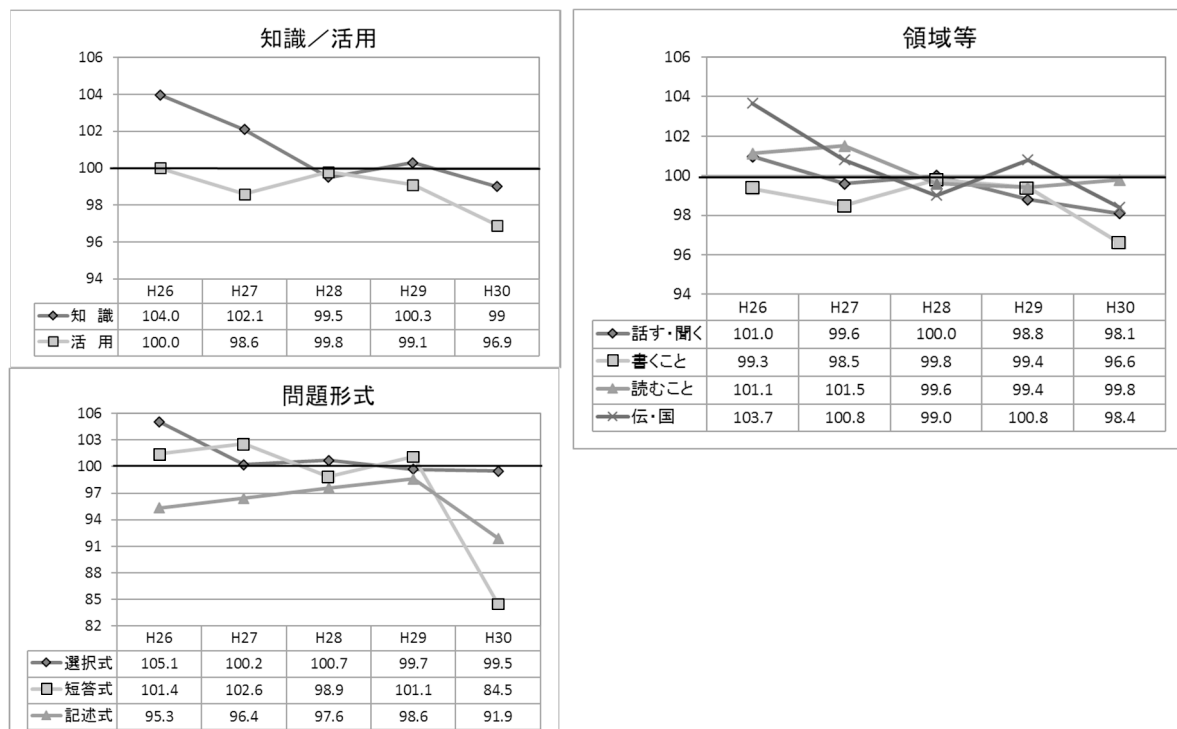
問題形式

「短答式」は、全国を大きく下回っている（該当設問は1題）。「記述式」は昨年度まで上昇傾向にあったが、今回は低下し、全国を大きく下回っている。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域等〕 学習指導要領の領域等

「話」 話すこと・聞くこと 「書」 書くこと 「読」 読むこと

「伝」 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

〔評価の観点〕

「関」 国語への関心・意欲・態度

「話」 話す・聞く能力

「書」 書く能力

「読」 読む能力

「言」 言語についての知識・理解・技能

〔問題形式〕

「選」 選択式

「短」 短答式

「記」 記述式

□ 全国を上回るもの

■ 全国を下回るもの（課題あり）

△：全国との差3.0ポイント以上

▼：全国との差3.0ポイント以下

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域 等	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率(%)			無解答率(%)		
								千葉県 (公立)	全国 との 差		千葉県 (公立)	全国 との 差	
A	1	図書館への行き方の説明として適切なものを選択する	相手や目的に応じ自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	話	3・4	話	選	91.0	0.2		0.2	0.1	
	2	物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える	書	5・6	書	選	73.0	-0.8		0.4	0.1	
	3	【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を捉える (H29)	読	3・4	読	選	73.4	-0.5		0.2	0.0	
								74.2	-0.2		0.5	0.0	
	4	物語を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える	読	5・6	読	選	75.3	1.3		0.4	0.1	
	5	【春休みの出来事の一部】の中で、……部と——部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く (H25) (H27)	伝	3・4	言	短	30.0	-5.5	▼	4.3	0.4	
								35.1	-1.4		19.4	-0.8	
								51.7	-1.4		0.6	0.0	
	6	慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する（心を打たれる）	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う (H30中)	伝	3・4	言	選	90.3	-0.1		1.6	0.2	
								94.8	0.1		0.8	0.0	
	7	【話を聞いている様子の一部】の□、□に入る内容の組み合わせとして適切なものを選択する	相手や場面に応じて適切に敬語を使う	伝	5・6	言	選	55.8	-0.2		2.9	0.2	

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域 等	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率(%)			無解答率(%)		
								千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差	
A	8ア	文の中で漢字を使う (<u>せい</u> 造)	学年別漢字配当表 に示されている漢 字を文の中で正し く使う	伝	5 ・ 6	言	選	75.6	2.2		5.6	0.4	
	8イ	文の中で漢字を使う (<u>せつ</u> 備)						83.1	0.9		6.6	0.3	
	8ウ	文の中で漢字を使う (<u>しょう</u> 毒)						82.4	0.2		6.9	0.3	
	8エ	文の中で漢字を使う (<u>かん</u> 理)						63.7	-1.3		7.7	0.3	
	8オ	文の中で漢字を使う (<u>せつ</u> 極的)						46.0	-5.4	▼	8.1	0.4	
B	1一	【話し合いの様子の一部】 における木村さんの発言の 意図として、適切なものを 選択する	話し合いの参加者と して、質問の意図 を捉える	課題改善 (H26)	5 ・ 6	話	選	80.9	-1.6		0.7	0.3	
								60.9	0.7		3.9	0.4	
	1二	【話し合いの様子の一部】 における司会の発言の役割 として、適切なものを選択 する	計画的に話し合う ために、司会の役 割について捉える	課題改善 (H26)	5 ・ 6	話	選	78.1	0.6		0.9	0.3	
								66.5	1.3		8.9	1.0	
	1三	これから言葉をどのように 使っていきたいかについて 北川さん、小池さんのいず れかの意見を取り上げ、□ を書く	話し手の意図を捉 えながら聞き、自 分の意見と比べる などして考えをま とめる	話・書	5 ・ 6	関・ 話・ 書	記	29.3	-4.5	▼	7.6	1.4	
	2一	「かみかみあえ」について の【おすすめする文章】の 最初の部分に□□□□のよう に書いた理由として適切な ものを選択する	目的や意図に応じ て、文章全体の構 成の効果を考える	書	5 ・ 6	書	選	57.6	0.0		2.2	0.5	
	2二	【おすすめする文章】の □□□□に、むし歯を防ぐ効 果について、【保健室の先 生の話から分かったこと】 を取り入れて詳しく書く	目的や意図に応じ 内容の中心を明確 にして、詳しく書 く	書	5 ・ 6	関・ 書	記	11.1	-2.4		3.0	0.3	
	2三	【紹介する文章】を基にし て【おすすめする文章】を 書くときの工夫として適切 なものを選択する	推薦するためには 他のものと比較し て書くことで、よ さが伝わることを 捉える	課題改善 (H29)	5 ・ 6	書	選	69.7	-1.1		4.2	0.8	
								32.1	-0.9		3.1	0.3	
	3一	山下さんは、どのようなこ とが知りたくて【自伝「旅 人」の一部】を読んだのか その説明として適切なもの を選択する	目的に応じて、複 数の本や文章など を選んで読む	読	5 ・ 6	読	選	49.6	0.2		4.0	0.8	
	3二	【伝記「湯川秀樹」の一部】 を読んで、【ノートの一部】 の□□□□最も心がひかれた一 文とその理由の文章の □□□□に入る内容を書く	目的に応じて、文 章の内容を的確に 押さえ、自分の考 えを明確にしなが ら読む	書・読	5 ・ 6	関・ 書・ 読	記	51.0	-1.3		13.7	1.8	

小学校・国語【課題の見られた設問の例】

A 5	問題の概要・趣旨 【春休みの出来事の一部】の中で、主語と述語とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す	正答率(%)	
		県	差
		30.0	-5.5

※「差」は、全国平均との差を示している。

大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の【春休みの出来事の一部】をよく読んで、あとの【問い】に答えましょう。

【春休みの出来事の一部】 文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

① ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。② ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③ 今年の春休みは、とてもじゆう実したものでなりました。でも、反省していることもあります。④ 反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

（問い） 部とのつながりが合っていない文の番号を、①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また、部はそのままだと、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

選んだ文の番号……

書き直した一文

○正答は、主語と述語が照応していない文の番号④を選び、かつ述語を正しく書き直すことができていないものであるが、本県では④以外の文を選んだ児童の割合（類型6～8）は合わせると四七・五％にのぼる。④を選びながら「用具の手入れをあまりしなかったです。」など述語を主語と照応させて書くことができなかった児童の割合（類型3、4）も七・七％である。

○本問は主語が人ではない上に、述語が動作であるため、主語と述語を適切に照応させるには「こと」などの体言を補う必要があり、本文中③の文は、その手がかりを提示するものでもあった。

○学習指導に当たっては、手紙や実用的な文、スピーチ原稿など、正しく書く必要性に迫られる学習場面を活用し、主語と述語が適切な係り受けの関係となることが、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くようにすることが大切である。

B 1 三	問題の概要・趣旨 これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、自分の考えを書く	正答率(%)	
		県	差
		29.3	-4.5

三 松山さんは、話し合いの様子（一部）の で、自分の考えを話します。あなたが松山さんなら、どのような考えを話しますか。その内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

○「話し合い」の金子さんと青木さんのように、代表で発表した北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、その取り上げたことに対してどう考えるのかを書くこと。

○◇司会が話しているように、「これから言葉をどのように使っていきたいか」について書くこと。

○八十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。

【話し合いの様子（一部）】

司会 このとき代表の人に考えを発表してもらいました。田中さんは、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉があるから言葉はみだれているという考え、北川さんは、言葉が省略して使われているから言葉はみだれているという考えでした。小池さんは、言葉の使われ方は時代によって変わるものだから言葉はみだれていないという考えでした。三人の意見について、みなさんはどう考えますか。

金子 田中さんが話したように、ぼくも本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉は確かに多いと思います。これからは、よく使っている言葉でも、疑問をもったときは意味を調べてみたいと思います。

青木 本来の意味とは異なる使われ方をしていると田中さんは言っていました。そのように使われ方をしても自分の思いが相手に伝わることはあると思います。相手の理解を確かめながら言葉を使っていることだと思います。

◇司会 金子さんと青木さんは、これから言葉をどのように使っていきたいかについて話していました。みなさんも、そのことについての自分の考えも話してください。

松山

（話し合いが続く）

B 2 二	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
		県	差
	給食の献立を【おすすめする文章】に、むし歯を防ぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く	11.1	-2.4

【保健室の先生の話から分かったこと】

食べ物をよくかむと、

- 口のまわりのきんにくを動かすことになり、のうの働きが活発になる。
- だ液がたくさん出て、口の中をきれいに保つので、むし歯になりにくい。
- まんぷく感が得られ、食べ過ぎにならない。
- 食べ物本来の味が分かるので、うす味の食事に慣れる。
- だ液の量が増え、消化がよくなる。

かみかみあえ



「かみかみあえ」は、するめが入っていて、よくかんで食べるこんだてです。そのため、このような名前がついています。

するめはかにも、にんじんやきゅうり、もやしなどの野菜が入っていて、栄養のバランスやいりどりも考えられています。

中華風ドレッシングの味やするめのうまみが野菜にしみこんでいます。

○ 給食の献立を紹介する文章を書くに当たって、むし歯を防ぐ効果に要点を置き、【紹介する文章】と【保健室の先生の話から分かったこと】の双方から関連する内容を拾い上げる必要があるが、片方だけを取り上げて書いている解答（類型4）、双方に触れていながらむし歯を防ぐ効果についての適切な内容を取り上げて書くことができていない解答（類型8）が本県では多かった。

○ 学習指導に当たっては、複数の情報を関係付けて考える機会を設定し、図を用いて整理して考えたり、調べて分かった事柄や事実、自分の考えが相手に伝わるか考えたりできるようにすることが必要である。

B 3 二	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
	【伝記「湯川秀樹」の一部】を読んで、【C】最も心がひかれた一文とその理由の文章に適切な内容を書く	51.0	-1.3	13.7	+1.8

【伝記「湯川秀樹」の一部】

秀樹は、大学を卒業した後、引き続き大学に残って研究を続けたが、なかなか成果を出すことができなかった。そのころ世界では、秀樹を取り組んでいる研究の分野で新発見が相次いでいた。研究の見通しがつかず、秀樹にとって苦しい日々が続いていた。

昼夜を問わず、秀樹の頭の中には研究のことがあった。ふとんに入ってからも研究のことを考え、次々にうかんでくるアイデアをわすれないために、まくらもとにはノートを置くようにした。そして、アイデアを思いっくに電灯をつけてノートに書きこむようにし、ねばり強く考え続けていた。秀樹は、だれも知らない真実を探ろうとしていたのである。

「自分の力で、やれるところまでやってみよう。」

この言葉は、自分の仕事を一つ仕上げた上でなければ、外国へ出かけたくなかった。と留学の話を断ったときの湯川博士の言葉である。湯川博士はわざわざいこうから、積み木に熱中したり、書道にしよう強く取り組んだり、一度始めたことを最後までやりとげようとしていた。

また、これらのことから、「自分の力で、やれるところまでやってみよう」という一文は、ねばり強く物事に取り組む湯川博士のことをよく表していると思った。

わたしは、勉強やスポーツに取り組んでいるとき、どちらかというとあきらめてしまうことがある。これからは湯川博士のように、ねばり強く最後までやりとげようようにしていきたい。

○ 最も心がひかれた一文とその理由

○ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえるためには、何のために、何を知らなければならないのか、どのような情報が必要なのか、という目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読むことが大切である。また、自分の考えを明確にするためには、必要な叙述を選び、他の部分に書かれている叙述と比べたり、自分の知識や経験、考えなどと関係付けたりしながら自分の考えをまとめていくことが大切である。

③ 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 知識(A問題)、活用(B問題)ともに全国と同程度である。 ◇ 「読むこと」の領域は、全国と同程度の状況が続いている。 ◇ 児童質問紙における、授業時間以外の読書時間の長さと、A問題、B問題の平均正答率との間に相関がみられる。
	課題	◆ 主語と述語とのつながりを問う設問は、全国を大きく下回っている。今回と同様の趣旨で出題された平成27年度調査よりさらに低下しており、継続的課題である。 ◆ 「記述式」の正答率が昨年度より大きく低下している。特に、条件に応じて書くことや、複数の資料から必要な情報を適切に取り上げ、関連付けて書くことに課題がある。

話すこと 聞くこと	◇ 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて話すことについては、相当数の児童が理解できている【A1】。 ◇ 計画的に話し合うために司会の役割を捉えることについて、改善が見られる【B1二】。 ◆ 話し合いの参加者として質問の意図を捉えることは、全国をやや下回っている【B1一】。話し手だけでなく、聞き手の指導の充実を図り、メモの取り方や考えのまとめ方を具体的に理解できるように指導することが大切である。
書くこと	◆ 複数の資料の内容を関係付けて理解したり、表現したりすることに課題がある【B2二】。調べて分かった事柄や事実、自分の考えが明確に伝わるかどうかを意識できるように指導することが大切である。
読むこと	◇ 登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることは、全国をやや上回っており、叙述を基に文章の内容を解釈することができている【A4】。 ◆ 目的に応じて必要な情報を捉えること【A3】や、複数の資料から適切な内容を取り上げて、それらを関係づけて理解したり、表現したりすることに課題がある【B3一】。図鑑や事典などを、目次や索引、見出しに着目して読む読み方を身に付けさせる指導を低・中学年から意図的に展開し、他教科等の学習活動にも生かすことが大切である。
伝統的な言語 文化と国語の 特質に関する 事項	◇ 日常生活で使われている慣用句(心を打たれる)の意味を理解し、使うことは、相当数の児童が理解できている【A6】。 ◆ 主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題がある【A5】。 ◆ 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある【A7】。 ◆ 文の中で漢字を使うことについて、全国を大きく下回るものがある【A8】。 ・「せつ極的に開発している」【A8(オ)】
その他	◇ 児童質問紙において、【51】「文章で解答する問題にどのように解答したか」という質問に対して、「全ての書く問題で最後まで書こうとした」と回答した児童の割合が昨年度に引き続き上昇傾向にある(H30 76.0%、H29 74.9%、H28 73.5%)。また【15】「普段どのくらいの時間読書をするか」について、1日当たり30分を超える回答をした児童の割合は、全国よりも高い状態が継続しており(千葉43.9%、全国41.1%)、児童が読書に親しんでいることがうかがえる。 ◆ 学校質問紙において、【65】「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えたか」(千葉79.0%、全国84.4%)について、肯定的な回答の割合は、全国より低い。教科指導はもとより、日常の活動においても、必要な情報を捉えたり、伝えたい内容の中心を明確にして文章を書くことの習熟を図る場面を、意図的に設定し、継続的に指導することが必要である。

国語

TYPE
I・II

B 1

「言葉の使い方を見直すために、話し合おう」

～相手と自分の意見とを比べて、自分の考えをまとめる～

話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、相手の意見を踏まえて、自分の考えをまとめることについての指導事例を紹介しします。なお、本アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

課題の見られた問題の概要と結果

B 1 言葉の使い方を見直すために、話し合う

B 1三 正答率 **33.9%** これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、☐ (自分の考え) を書く

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕A エ
〔第5学年及び第6学年〕B ウ

授業アイデア例

本アイデア例では、B 1設問三に関する指導事例を紹介しします。以下は、話し合う学習の中でも、相手の意見を踏まえて、自分の考えをまとめる過程に着目した活動の例です。

学習活動 1 自分の意見と比べながら、友達の見解を整理する

ステップ1【考えをもつ】「生活の中で使っている言葉はみだれているか」について、自分の考えをもち、話し合いに参加する。

- ・立場：みだれている
- ・理由：「あけおめ」のように、省略した言葉を使う人が多い。



私は、省略した言葉を使う人が多いから、何となく言葉はみだれていると考えたけれど、みんなはどのように考えたのかな。

ステップ2【整理する】 B 1の【話し合いの様子の一部】を聞いて、友達の見解を整理し、自分の考えと比べる。
【比 べ る】

- 田中さん
- ・立場：みだれている
- ・理由：本来の意味とはことなる使われ方をしている言葉がある。(役不足)

比べて考えたことを整理する際には、児童の実態に応じて、それぞれの発言をメモとして書き残すことも考えられます。

ポイント

- 小池さん
- ・立場：みだれていない
- ・理由：時代によって言葉の使われ方が変わる。(例) 全然いい

私と立場は同じだけれど、田中さんの理由は、資料に基づいているものなのだな。

小池さんは、私と立場が逆だな。



そうか。省略した言葉を使うと言葉がみだれていると感じたのは、相手や場に合わないことや、意味が分りにくくなることがあるからなのだな。

- 北川さん
- ・立場：みだれている
- ・理由：省略した言葉
→相手や場に合わない意味が分りにくくなる(例) ことよろ

学習活動 2 友達の見解を踏まえて、自分の意見を見直す

ステップ3【考え直す】 学習活動1のステップ2で整理した友達の見解を踏まえて、「生活の中で使っている言葉はみだれているか」について考え直す。

北川さんの言っていた理由を、私も取り入れたいな。



- ・立場：みだれている
- ・理由：「あけおめ」や「ことよろ」のように省略した言葉を使うと、相手や場によって分りにくくなることがある。

ステップ4【まとめる】 「これから言葉をどのように使っていきたいか」について、メモを基に自分の考えを簡潔にまとめ、発表し合う。



北川さんも話していましたが、「あけおめ」や「ことよろ」のように言葉を省略して話すと、相手によって意味が分りにくくなることがあると思います。だから、私は、相手や場に合わせて言葉を使っていきたいです。

本授業アイデア例 活用のポイント！

- 自分の考えをまとめる際には、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理することなどが大切です。相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容や事例を取り上げるなどして、自分の考えを筋道を立ててまとめることができるように指導を工夫することが必要です。

参照▶「平成30年度 報告書 小学校 国語」P.52～P.59、「平成30年度 解説資料 小学校 国語」P.37～P.44

(国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」より)

(2) 中学校国語

① 全体的な結果

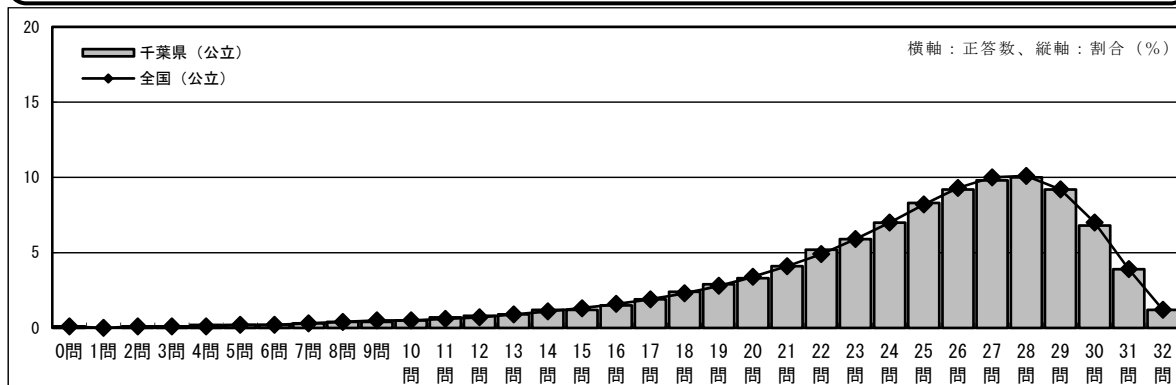
ア 正答数の分布

*「A～D層」について

- ・各層は全国（公立）の生徒を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数と同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
- ・千葉県的人数比率は、全国のA～D層を基準に示してある。

【国語A】

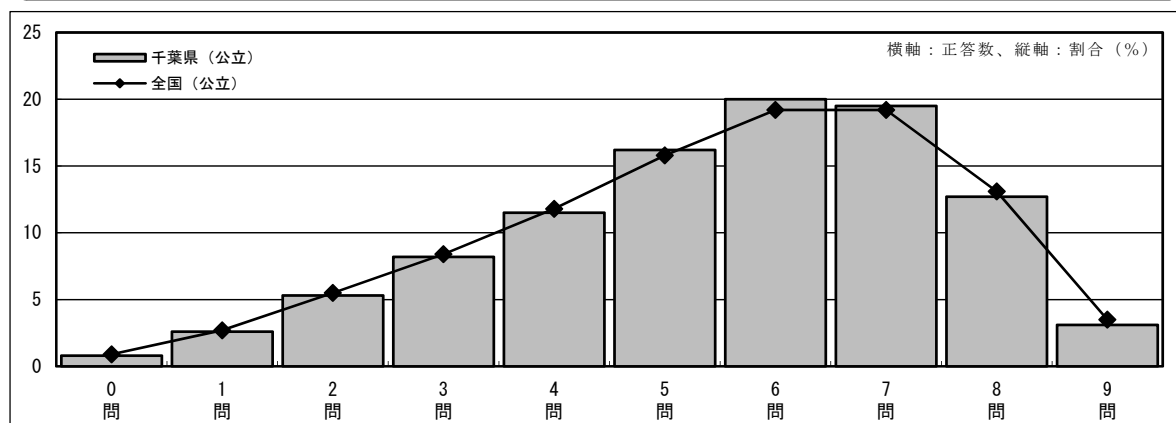
平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、A～D層のすべてにおいて全国とほぼ同じである。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		* D 層 0～21 問	* C 層 22～25 問	* B 層 26～27 問	* A 層 28～32 問
千葉県 (公立)	24.3 問 ／32 問	76 %	26.0	5.3	千葉県 (公立)	23.4 %	26.3 %	19.0 %	31.2 %
全 国 (公立)	24.3 問 ／32 問	76.1 %	26.0	5.3	全 国 (公立)	23.3 %	26.1 %	19.2 %	31.4 %

【国語B】

平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、A～D層のすべてにおいて全国とほぼ同じである。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		* D 層 0～3 問	* C 層 4～5 問	* B 層 6 問	* A 層 7～9 問
千葉県 (公立)	5.5 問 ／9 問	61 %	6.0	2.0	千葉県 (公立)	17.0 %	27.7 %	20.0 %	35.3 %
全 国 (公立)	5.5 問 ／9 問	61.2 %	6.0	2.0	全 国 (公立)	17.4 %	27.6 %	19.2 %	35.8 %

イ 調査区分ごとに見た傾向（全国を100としたときの指数で示している）

知識／活用

「知識」「活用」ともに全国と同程度である。

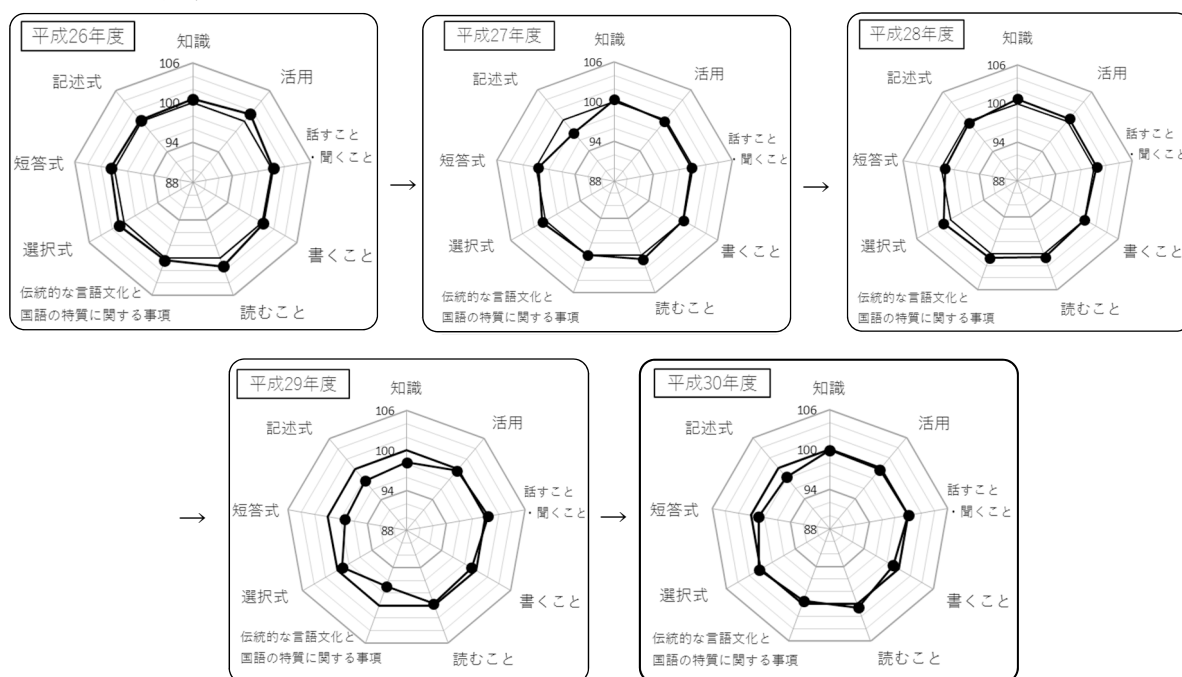
領域等

昨年度の課題「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に改善がみられた。

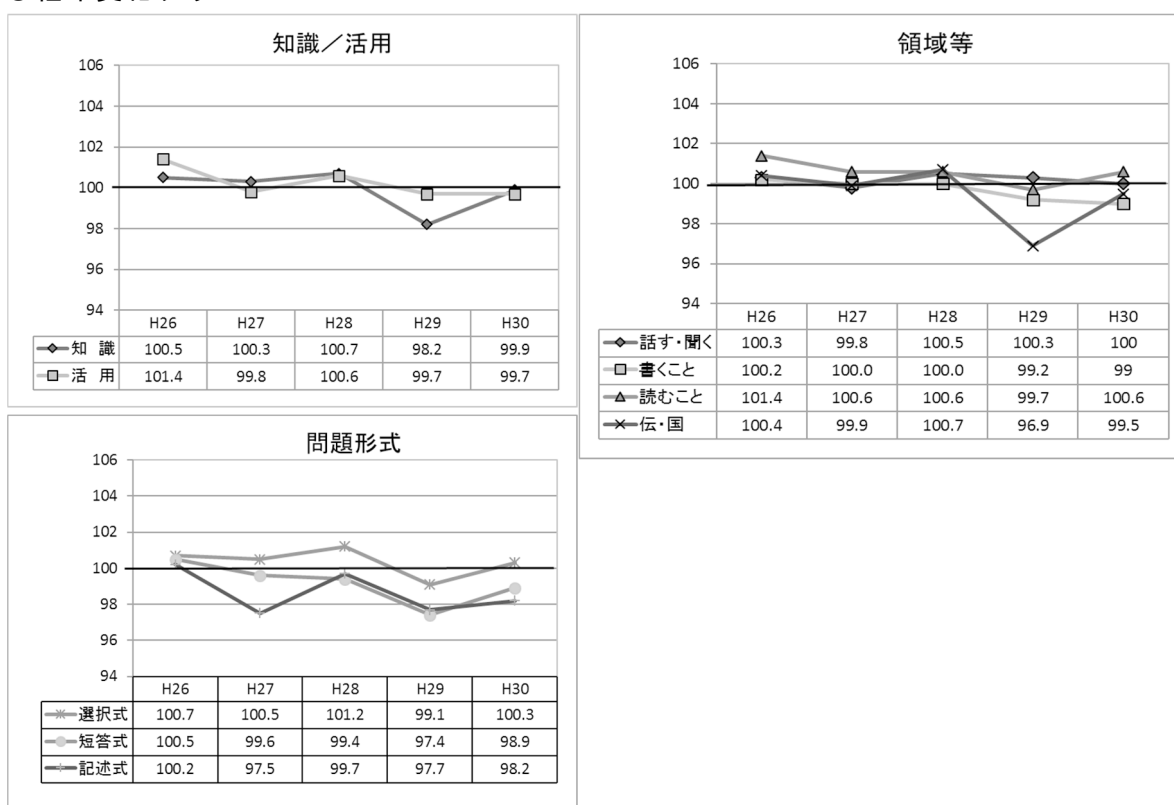
問題形式

「短答式」「記述式」が全国をやや下回っているが、昨年度に比べ改善がみられた。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域等〕 学習指導要領の領域等

「話」 話すこと・聞くこと 「書」 書くこと 「読」 読むこと

「伝」 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

〔評価の観点〕

「関」 国語への関心・意欲・態度

「話」 話す・聞く能力

「書」 書く能力

「読」 読む能力

「言」 言語についての知識・理解・技能

〔問題形式〕

「選」 選択式

「短」 短答式

「記」 記述式

□ 全国を上回るもの

■ 全国を下回るもの（課題あり）

△：全国との差3.0ポイント以上

▼：全国との差3.0ポイント以下

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域 等	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率		
								千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差	
A	1	スピーチの感想に対して先生が述べた言葉として適切なものを選択する	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	話	2	話・聞	選	87.3	-0.1		0.1	0.0	
	2一	図書だよりの下書きの構成を説明したものとして適切なものを選択する	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する	書	1	書	選	89.1	-0.4		0.4	0.1	
	2二	二つの意見の内容を一文で書き加える	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く	書	2	書	短	63.9	-0.1		3.8	0.5	
	3一	「それは掛け値のない一、二秒の間のできごとである」を説明したものとして適切なものを選択する	文脈の中における語句の意味を理解する	読	1	読	選	88.9	0.7		0.2	0.0	
	3二	父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	課題改善 (H27小)	読	1	読	83.7	0.9		0.2	0.0	
								68.5	1.0		2.5	-0.1	
	4一	意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する	書	1	書	選	62.9	0.1		0.2	0.0	
	4二	段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する	段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする	書	2	書	選	78.7	-0.7		0.3	0.0	

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域 等	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率		
								千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差	
A	5一	本文の第六段落の説明として適切なものを選択する	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる	読	2	読	選	75.3	-1.0		0.5	0.0	
	5二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	読	1	読	選	59.4	-0.1		0.4	0.0	
	6一	話合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する	話合いの話題や方向を捉える	話	1	話	選	74.3	1.9		0.6	0.1	
	6二	話合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	話	1	話	短	67.4	1.6		14.7	1.4	
	7一	場面に当てはまる語句の意味として適切なものを選択する（ハナイカダ）	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える	伝	1	言	選	87.6	0.3		0.6	0.0	
	7二	「それでは」の働きとして適切なものを選択する	接続詞の働きについて理解する	伝	1	言	選	88.6	0.2		0.9	0.0	
	8一1	漢字を書く（紙をひもで <u>く</u> ねる）	文脈に即して漢字を正しく書く	伝	2	言	短	77.0	-2.0		15.9	2.7	
	8一2	漢字を書く（舞台の <u>ま</u> クが上がる）		伝	2	言	短	73.7	0.8		15.5	1.1	
	8一3	漢字を書く（先制点を <u>く</u> ルす）		伝	2	言	短	70.4	-1.0		21.2	1.7	
	8二1	漢字を読む（ <u>も</u> 型を作る）	文脈に即して漢字を正しく読む	伝	2	言	短	96.2	0.5		1.9	0.0	
	8二2	漢字を読む（池の水が <u>は</u> る）		伝	2	言	短	97.9	0.1		1.0	0.1	
	8二3	漢字を読む（技を <u>く</u> る）		伝	2	言	短	98.0	-0.1		1.2	0.1	
	8三ア	適切な語句を選択する（立場の異なる両者の主張は終始一貫して変わらず、最後まで結論が出なかった）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝	1	言	選	80.0	2.3		0.9	0.1	
	8三イ	適切な語句を選択する（魚の中には群れを作って泳ぐ習性をもつものがある）		伝	2	言	選	91.7	0.7		0.5	0.0	

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域 等	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率			
								千 葉 県 （公 立）	全 国 と の 差		千 葉 県 （公 立）	全 国 と の 差		
A	8 三ウ	適切な敬語を選択する（先生が私たちに大切なことをおっしゃった）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う		伝	2	言	選	87.1	-0.9		0.6	0.0	
	8 三エ	適切な語句を選択する（彼はせきを切ったように話し始めた）			伝	1	言	選	31.4	2.2		1.0	0.1	
	8 三オ	適切な語句を選択する（意見の折り合いをつける）			伝	1	言	選	62.0	0.2		0.9	0.0	
	8 三カ	適切な語句を選択する（わたしが健康になったのは、ひとえに母のおかげです）		同一問題	伝	1	言	選	66.1	0.7		1.0	0.0	
				(H22)					63.3	1.7		63.5	1.5	
	8 三キ	適切な語句を選択する（姉はみんなと一緒に運動をすることが好きだ。一方、妹は一人で本を読むことが好きだ）			伝	1	言	選	95.0	-0.2		1.1	0.1	
	8 四 1	「心を打たれる」の意味として適切なものを選択する	慣用句の意味を理解する	小学校 同一問題	伝	小3・4	言	選	94.8	0.1		0.8	0.0	
									(H30小)	90.3	-0.1		1.6	0.2
	8 四 2	「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く	課題改善	伝	2	言	短	21.2	-1.1		7.3	0.8	
									(H27小)	51.7	-1.4		0.6	0.0
	8 五	作品への助言として適切なものを選択する	行書の基礎的な書き方を理解して書く		伝	1	言	選	52.9	-1.5		1.3	0.1	
	8 六 1	『韓非子』の中の語句の訳を抜き出す（いはく）	古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える		伝	2	言	短	90.3	-0.8		5.5	0.4	
	8 六 2	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（とほさざるなし）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む		伝	1	言	短	57.0	-6.0	▼	8.6	1.2	
	8 六 3	『韓非子』の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する	古典に表れたものの見方や考え方を理解する		伝	2	言	選	81.2	-0.1		2.4	0.2	

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域 等	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率		
								千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差	
B	1 一	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える	読	1	読	選	45.7	-0.2		0.2	0.0	
	1 二	複数の辞書を引用して「天地無用」の意味を示す効果として適切なものを選択する	文章の構成や展開について自分の考えをもつ	読	1	読	選	66.6	2.3		0.2	0.0	
	1 三	「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く	書・読	2・1	関・書・読	記	12.1	-1.2		7.2	0.2	
	2 一	二人の質問の意図として適切なものを選択する	質問の意図を捉える	話	1	話	選	87.2	0.4		0.2	0.0	
	2 二	二人に続いてする質問を書く	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	話	1	関・話	記	87.9	-0.4		6.3	0.4	
	2 三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	話	1	話	選	51.3	-3.3	▼	0.4	0.0	
	3 一	登場人物についての説明として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	読	1	読	選	80.8	0.6		0.4	0.0	
	3 二	文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる	読	2	読	選	71.5	3.3	△	0.4	0.0	
	3 三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	相手に的確に伝えるように、あらすじを捉えて書く	書・読・伝	1・1・2	関・書・読・言	記	48.2	-1.0		13.8	1.4	

中学校・国語【課題の見られた設問の例】

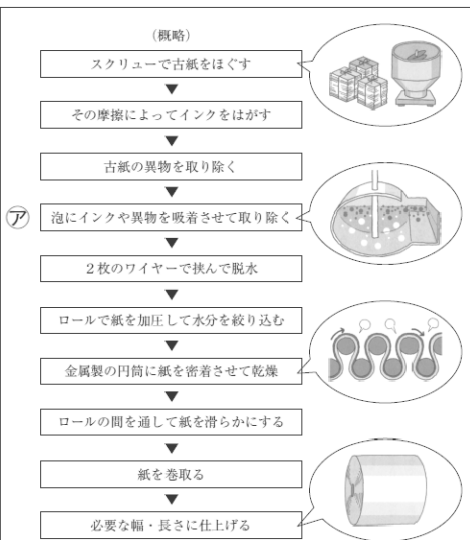
A 5 二	新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する	問題の概要・趣旨		正答率 (%)	
				県	差
				59.4	-0.1

※「差」は、全国平均との差を示している。

1 離解工程
2 粗選工程
3 脱墨工程
4 脱水工程

二 【新聞紙の製造工程】の⑦「泡にインクや異物を吸着させて取り除く」は、どの製造工程にあたりますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

(新聞紙の製造工程)



○正答は3であるが、本県では2を選んだ生徒の割合(類型2)も二六・九%であった。この文章では、それぞれの工程の説明の後に、「(粗選工程)」のように工程名が示されているが、「脱墨工程」については、「……脱墨工程に入ります。これは、空気を吹き込んで泡をたて、泡にインクや異物を吸着させて取り除くものです。」というように分け書きになっている。このような表現上の特徴を捉えることができず、図表⑦の「泡にインクや異物を吸着させて取り除く」の「異物」という部分と、文章の「古紙の異物を取り除く(粗選工程)」の「異物」という部分とを結び付けて捉えた生徒もいたと考えられる。

○図表が文章のどの部分と関連しているかを確認し、図表の役割について考えたり、文章の内容を捉えるためにどのような図表が必要かを考えたりするなどの学習活動が必要である。

⑦ 新聞紙の製造工程は、回転するスクリーンで古紙をほぐしながら、摩擦によってインクをはがします(離解工程)。そして、古紙の異物を取り除く(粗選工程)、脱墨工程に入ります。これは、空気を吹き込んで泡をたて、泡にインクや異物を吸着させて取り除くものです。

⑧ ここまでが、古紙処理の工程で、次に紙製造工程に入ります。ここでは、まず、噴射された原料を、プラスチック製の網でできた2枚のワイヤーで挟んで脱水します(脱水工程)。そして、ロールとロールで紙を加圧して水分を絞り込み(搾水工程)、蒸気で加圧した金属製の円筒に紙を密着させて乾燥させ(乾燥工程)、仕上げ工程に入ります。ここでは、ロールの間を通して紙を滑らかにし(カレンダー)、紙を巻取ります(リール)。そして、必要な幅・長さに仕上げ(ワインダー)、大きなロールとして出荷します。

A 8 四 2	慣用句「心を打たれた」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)の」「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く	問題の概要・趣旨		正答率 (%)	
				県	差
				21.2	-1.1

四 次の各問いに答えなさい。

1 次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

心を打たれる

1 遠慮する。
2 感動する。
3 一つのこと集中する。
4 あれこれと心配する。

2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)の」「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

○平成二十七年調査では、「文の中における主語を捉えることができるかどうかをみる」問題【小学校A2-1】に課題がみられた。これを踏まえて出題されたこの設問「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」の正答率は千葉二・二%、全国二二・三%であった。今回の結果から、文の中における主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりすることに引き続き課題があると考えられる。

○本県では、慣用句の意味を理解し、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書きながらも、主語を明確にして書くことができなかった生徒の割合(類型5)は六四・一%である。

なお、今回の【小学校A5】の結果をみると、小学校においても主語と述語の照応の理解については依然として課題であることが分かる。

○文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるようになっていくかを常に吟味するように指導することが大切である。

問題の概要・趣旨		正答率 (%)	
B 1 ー	グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する	県	差
		45.7	-0.2

【資料】

Q「天地無用」の意味は？

(※下線、■の項目が本来の意味)

《全体》

- (ア) 上下を逆にしてはいけない……55.5%
- (イ) 上下を気にしないでよい……29.2%
- (ア) と (イ) の両方……1.8%
- ▨ (ア)、(イ) とは全く別の意味……4.2%
- ▩ 分からない……9.3%

《年代別》

—— (ア) 上下を逆にしてはいけない
 - - (イ) 上下を気にしないでよい
 …… 分からない

年代	(ア) 上下を逆にしてはいけない (%)	(イ) 上下を気にしないでよい (%)	分からない (%)
16～19歳	36.6	30.5	13.4
20代	46.6	39.3	3.7
30代	54.1	29.6	8.9
40代	61.6	26.5	5.3
50代	63.2	28.2	4.1
60代	60.0	25.2	11.5

(平成25年度「国語に関する世論調査」より)

全体では、本来の意味である「(ア) 上下を逆にしてはいけない」を選んだ人の割合(55・5%)が、本来の意味ではない「(イ) 上下を気にしないでよい」を選んだ人の割合(29・2%)を26ポイント上回っています。また、「分からない」と回答した人が1割弱となっています。

④ 年代別にみると、16～19歳を除く全ての年代で、(ア)の割合が高いものの、最も低い60代でも25・2%の人が(イ)を選んでおり、どの年代でも4人に1人以上の割合で、本来とは逆の意味で考えていることが読み取れます。「天地無用」は、本来、誤解があってはならない注意喚起の言葉ですから、見過ごせない結果であるといえるかもしれません。

○正答は3であるが、本県では1を選んだ生徒の割合(類型1)も四・二%にのぼり、正答率とほぼ拮抗する結果となった。このように解答した生徒は、文章の「全体では」という表現で始まる段落と《全体》のグラフ、文章の「年齢別に見ると」という表現で始まる段落と《年代別》のグラフをそれぞれ結び付けながら読み、内容を正しく捉えることができていないものと考えられる。

○A5と本設問とともに誤答であった生徒の割合は、全国で二三・七%である。文章と図表などに関連させて内容を捉えることができていないと考えられる。

○グラフや図表、写真やイラストなどが用いられている文章を読む際には、文章の構成や展開を適切に把握し、それぞれの図表などが文章のどの部分と関連しているのかを捉えるように指導することが大切である。

問題の概要・趣旨		正答率 (%)	
B 2 三	ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する	県	差
		51.3	-3.3

【資料】

② 山川さんは、総合的な学習の時間に、ロボットについて発表しています。次は、山川さんが発表のために作成した【資料】「発表の直前の場面」と、それに続く「発表・質問の場面の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(「発表の直前の場面」の中は、頭の中で考えていることを表します。)

○正答は1であるが、2を選んだ生徒の割合(類型2)は三・一%である。このように解答した生徒は、【資料】の中の③の情報を取り上げながら発表をまとめることが、目的に合った適切な話の進め方であることが理解できていないものと考えられる。4を選んだ生徒(類型4、十三・七%)は、聞き手の反応を踏まえて話すことについての意識はあるが、「ロボットに期待すること」を発表するという目的を意識することができていないものと考えられる。

○説明や発表などをする際には、話の全体として伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために各部分をどのように組み立てるかを考えるように指導することが大切である。また、聞き手の反応から、話の受け止め方や理解の状況を捉え、それらを踏まえながら話すように指導することも重要である。

三 山川さんは、最後にロボットに期待することを述べて発表をまとめます。山川さんの話の進め方として最も適切なものを、次の1から4までの中から1つ選びなさい。

1 これまで話してきた内容を聞き手とのやりとりを踏まえた上で、【資料】の中の③の情報を取り上げながら発表をまとめる。

2 聞き手とのやりとりを通して生まれた新たな考えをもとに、【資料】の中の①と②の情報を基に発表をまとめる。

3 これまで話してきた内容を聞き手とのやりとりを踏まえ、【資料】の中の③の情報を基に発表をまとめる。

4 聞き手とのやりとりの内容を受けて話の方向を転換し、【資料】の中の③の情報を基に発表をまとめる。

ロボットに期待すること

1 人とコミュニケーションをとるロボットの例

人型のロボット

動物型のロボット

2 ロボットができることの例

- 人の言葉や行動を認識して反応する。
 - ・ 簡単な日常会話をする。
 - ・ ニュースや天気予報を伝える。
- 人と触れ合うことで学習する。
 - ・ 一人一人の顔を覚える。
 - ・ 接する相手に合わせて動く。

3 これからの社会とロボット

- ・ 65歳以上の人口の割合は、2060年には日本の総人口の約4割になる見込み。
- ・ 総務省のアンケート調査では、60代以上の54.5%が、人とコミュニケーションをとるロボットを「利用したい」、「利用を検討してもよい」と回答。(総務省ウェブページによる。)

③ 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 知識（Ａ問題）、活用（Ｂ問題）ともに全国と同程度である。 ◇ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、昨年度は全国を下回っていたが、改善が見られ、全国と同程度である。 ◇ 読書をしている生徒の割合は、全国をやや上回る状況が続いている。
	課題	◆ 「短答式」「記述式」の設問が全国をやや下回っている。 ◆ 目的に応じて文章を読む際、情報を整理し内容を的確に捉えることに課題がある。 ◆ 生徒質問紙において「文章などで解答する問題を最後まで書こうと努力した」と回答した生徒の割合は、全国より低い傾向が続き、昨年度よりも低下した。

話すこと 聞くこと	◇ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたり【Ａ１一】、必要に応じて質問したりすること【Ｂ２二】は全国と同程度であり、相当数の生徒が理解できている。 ◆ 話し合いの話題や方向を捉えて的確に話したり【Ａ６二】、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話したりすること【Ｂ２三】（千葉 51.3%、全国 54.6%）に課題がある。
書くこと	◇ 事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成することは相当数の生徒が理解できている【Ａ２一】。 ◆ 伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書くことに課題がある【Ａ２二】。 ◆ 文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題がある【Ａ８四２】。
読むこと	◇ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することは、調査対象学年の平成 27 年度小学校国語Ａ問題（千葉 68.5%）からの推移をみると、身に付いてきていると考えられる【Ａ３二、Ｂ３一】。 ◆ 情報を整理して内容を的確に捉えることに課題があり、特に文章とグラフやメモなど複数の資料を読み合わせて必要な情報を捉えること【Ａ５二】【Ｂ１一、三】に課題がある。図表が示された文章を読む際には、文章の構成や展開を捉えながら、図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたいことをよりの確に読み取るように指導することが大切である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことは、できている【Ａ８二１、２、３】。 ◆ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、課題がある【Ａ８三エ、オ、カ】。 ◆ 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題がある【Ａ８四２】。調査対象学年の平成 27 年度小学校Ａ問題で見られた、主語と述語の照応の理解についての課題が改善に至っていないと考えられる。なお、今回の小学校Ａ５問題にも同じ課題が見られ、「書くこと」との関連を図りつつ指導することが必要である。
その他	◇ 生徒質問紙において、【１５】「普段どのくらいの時間、読書をするか」（千葉 32.7%、全国 30.9%）について、１日当たり 30 分を超える回答をした生徒の割合は、全国をやや上回っており、読書に親しんでいるようすがうかがえる。 ◆ 学校質問紙において、【６２】「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えたか」（千葉 66.1%、全国 73.7%）について、肯定的回答の割合が全国より低い。【７８】「言語活動について、国語科だけでなく学校全体で取り組んでいるか」（千葉 86.6%、全国 90.7%）では、肯定的回答の割合は全国よりやや低く、全国と同程度の結果を示した小学校（千葉/全国ともに 94.2%）よりも低い。

⑤ ④の発表をグループで振り返る。

振り返りの観点の例

- 相手の反応を踏まえて、聞き手に聞いかけたり質問を促したりすることができたか。
- 聞き手のやりとりを生かして、「履も伝えたいこと」を伝えることができたか。

「3 宇宙飛行士の仕事内容」について説明しているときに、Bさんが首をかしげていたので、そのタイミングで質問を受けてみました。また、そこでやりとりした内容を生かして話をまとめてみたのですが、どうでしたか。



「宇宙飛行士の仕事内容」の説明を聞いていて、聞き手が首をかしげていたので、そのタイミングで質問を受けてみました。また、そこでやりとりした内容を生かして話をまとめてみたのですが、どうでしたか。

※ ⑤、⑥を繰り返して、グループ内の全員の発表とその振り返りを行う。

⑥ ⑤で振り返った内容を基に、各自で「話の構成シート」や質問を受けるタイミングなどを見直す。

第4時

⑦ グループを変えて発表する。

「3 宇宙飛行士の仕事内容」を話し終えた後の場面の例

「宇宙飛行士の仕事内容」は地上で何をしたいのか疑問をもたれたい。宇宙飛行士は、地上では日々訓練や講義活動などを行っています。

みんなうなずきながら聞いてくれているな。このまま、話のまとめに入ってもよさそうだな。

このように、宇宙飛行士は宇宙開発の更なる発展のために、様々な仕事を行っています。大変だけれど、人類の未来につながることで、やりがいのある仕事だと言えます。……宇宙飛行士の魅力が分かっただけです。

「宇宙飛行士の仕事内容」は地上で何をしたいのか疑問をもたれたい。宇宙飛行士は、地上では日々訓練や講義活動などを行っています。

みんなうなずきながら聞いてくれているな。このまま、話のまとめに入ってもよさそうだな。

⑧ ⑦の発表をグループで振り返る。

※ ⑧、⑨を繰り返して、グループ内の全員の発表とその振り返りを行う。

⑨ 学習を振り返る。

1回目の発表で、聞き手から宇宙飛行士の地上での仕事内容についての質問があったので、2回目では、その説明を加えて発表したところ、DさんやEさんがうなずきながら聞いてくれました。聞き手の反応を踏まえながら話した方が、伝えたいことを効果的に伝えられることが分かりました。

本授業アイディア例 ◆ 活用のポイント！

- 「平成27年度【中学校】授業アイディア例」P.5～P.6「テーマを決めて、プレゼンテーション対決をしよう」と関連させて指導することも考えられる。また、必要な情報を集める際には、「平成25年度【中学校】授業アイディア例」P.9～P.10「『世界遺産』の資料に、新たな情報をプラスしよう」、「平成28年度【中学校】授業アイディア例」P.7～P.8「興味をもった疑問に思いついたことについて調べよう」も参考になる。
- 他教科等の学習で取り扱った題材などを用いて学習することも考えられる。
- 国語科で学習した発表の仕方や質問の仕方、他教科等の学習に生かすことも考えられる。

参照▶「平成30年度 報告書 中学校 国語」P.73～P.77、「平成30年度 解説資料 中学校 国語」P.62～P.67

「テーマに沿って、調べたことや考えたことを発表しよう」 ～相手の反応を踏まえながら話す～

目的や場面に応じて発表する中で、全体と部分との関係に注意し、聞き手の反応を踏まえながら話を組み立てることに課題が見られました。そこで、本アイディア例では、テーマに沿って調べたことや考えたことを発表し合う学習を提案します。話の構成を聞き手に示しながら話すことや、聞き手に対して質問を促したりしなから話すことを通して、聞き手のやりとりを踏まえながら、伝えたいことを明確にして話す力を身に付けることを狙っています。

課題の見られた問題の概要と結果

B② 資料を作成して発表する (ロボット)	ロボットの期待することを決めて発表をまとめる
B② 正答率 55.1%	原稿の読み方として適切なものを選択する。

授業アイディア例

学習の流れ



第1時

- ① 学習の見通しをもち、自分が調べたい職業について考える。
- ② 各自に必要な情報を集める。

第2時

- ③ 調べたことを基に、「話の構成シート」を作成し、発表の内容や質問を受けるタイミングなどを考える。

「履も伝えたいこと」を端的に示した上で、話の構成が分かるように見出しを書きましょう。また、聞き手に聞いかけたり質問を促したりするタイミングについても考えておきましょう。作成した「話の構成シート」は、次の時間、グループごとに配付します。

第3時

- ④ グループ内で発表する。聞き手は「話の構成シート」を手元に置き、特に聞きたいと思った事柄などを意識しながら発表を聞く。

「3 宇宙飛行士の仕事内容」を話し終えた後の場面の例

Bさんが首をかしげているな。事前に考えていたとおり、12人が心を打たれた宇宙飛行士の言葉の説明の後で質問を受けてみたのだけれど、ここでも一度聞いてみようかな。

……というのが、宇宙飛行士の仕事内容のことについて何か質問はありますか。Bさんは、いいのですが。

宇宙飛行士の宇宙空間での仕事内容は分かりましたが、地上ではどのような仕事をしているのですか。

宇宙飛行士は、地上では日々訓練や講演活動などを行っています。このように、宇宙飛行士は宇宙開発の更なる発展のために、様々な仕事を行っています。大変だけれど、人類の未来につながることで、やりがいのある仕事だと言えます。

Aさんの発表の「宇宙飛行士の仕事内容」について詳しく知りたいな。

(3) 小学校算数

① 全体的な結果

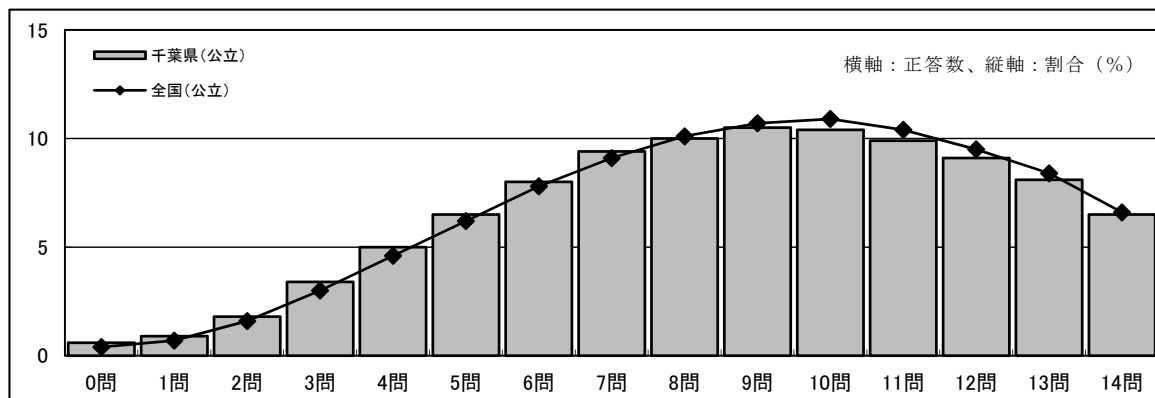
ア 正答数の分布

*「A～D層」について

- ・各層は全国（公立）の児童を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
- ・千葉県的人数比率は、全国のA～D層を基準に示してある。

【算数A】

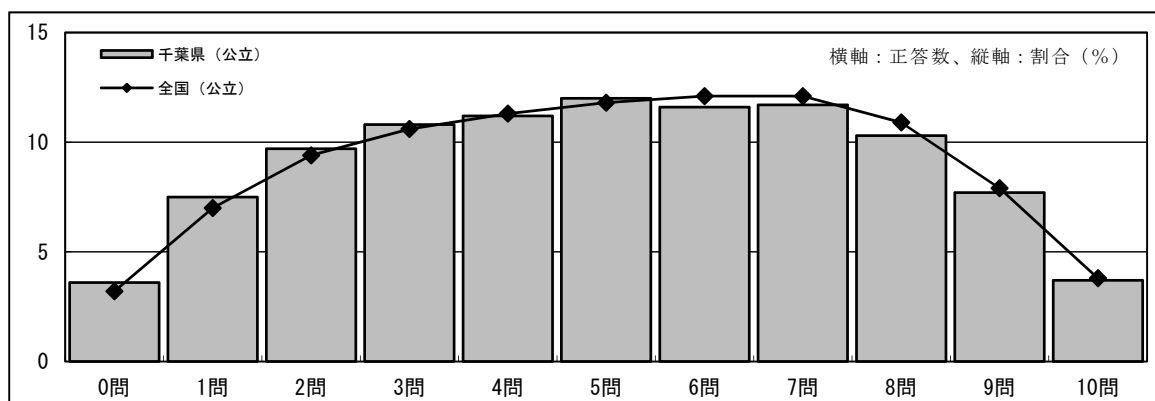
平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、D層の割合が高くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		* D層 0～6問	* C層 7～8問	* B層 9～10問	* A層 11～14問
千葉県 (公立)	8.7問/ 14問	62 %	9.0	3.3	千葉県 (公立)	26.2 %	19.4 %	20.8 %	33.6 %
全 国 (公立)	8.9問/ 14問	63.5 %	9.0	3.2	全 国 (公立)	24.3 %	19.2 %	21.6 %	35.0 %

【算数B】

平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、D層の割合が高くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		* D層 0～2問	* C層 3～4問	* B層 5～6問	* A層 7～10問
千葉県 (公立)	5.1問/ 10問	51 %	5.0	2.7	千葉県 (公立)	20.8 %	22.0 %	23.6 %	33.5 %
全 国 (公立)	5.1問/ 10問	51.5 %	5.0	2.7	全 国 (公立)	19.6 %	21.9 %	23.9 %	34.6 %

イ 調査区分ごとに見た傾向（全国を100としたときの指数で示している）

知識／活用

「知識」「活用」ともに全国と同程度の状況が続いている。

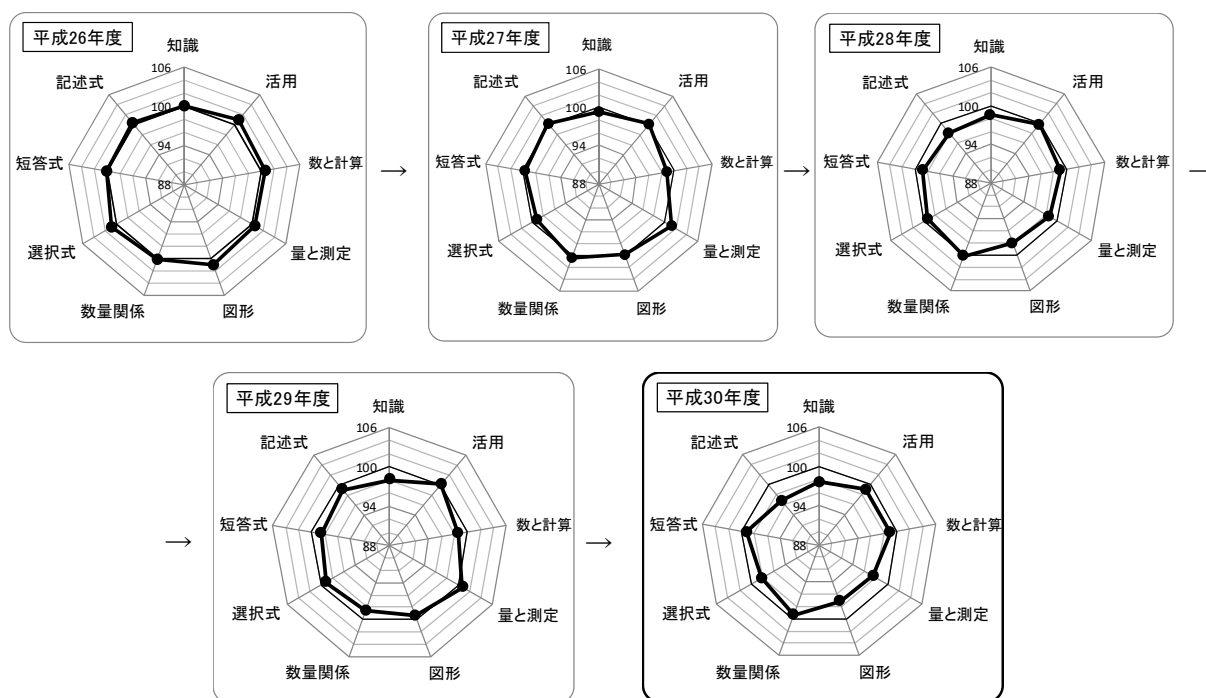
領域等

「数量関係」は、全国と同程度の状況が続いている。「量と測定」「図形」は、全国を下回った。

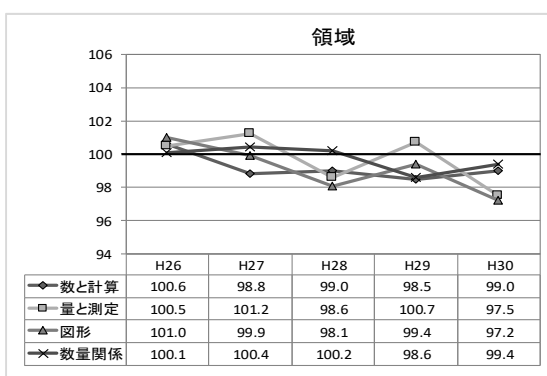
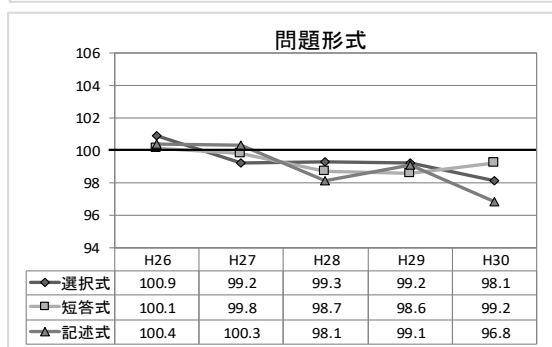
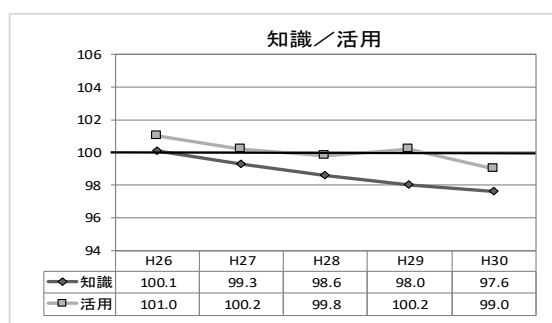
問題形式

「選択式」は、全国をやや下回り、「記述式」は、全国を下回った。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域〕 学習指導要領の領域

「数」 数と計算 「量」 量と測定 「図」 図形 「関」 数量関係

〔評価の観点〕

「考」 数学的な見方や考え方

「技」 数量や図形についての技能

「知」 数量や図形などについての知識・理解

〔問題形式〕

「選」 選択式 「短」 短答式 「記」 記述式

□ 全国を上回るもの
■ 全国を下回るもの（課題あり）

△：全国との差3.0ポイント以上

▼：全国との差3.0ポイント以下

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率		
								千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差	
A	1 (1)	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く	除数で表すことができる二つの数量の関係を理解している	数・関	4・5	知	短	64.5	1.6		2.0	0.3	
	1 (2)	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	数	5	技	選	60.8	-5.9	▼	3.1	0.7	
	1 (3)	針金1mの重さを求める式を選ぶ	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	数・関	5	知	選	64.9	-0.4		2.8	0.6	
	2	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ	小数の除法の意味について理解している (H24)	数	3・4・5	知	選	39.5	-0.4		1.3	0.3	
								42.1	1.0		3.5	0.1	
	3	3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	数	2	知	短	76.9	0.5		1.5	0.2	
	4 (1)	面積がそろっている㊦と㊧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している	量	5	知	選	84.3	-3.5	▼	0.8	0.2	

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨		領 域	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率		
									千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差	
A	4 (2)	㊦と㊧の二つのシートの 混み具合を比べる式の意 味について、正しいもの を選ぶ	単位量当たりの大きさを 求める除法の式と商の 意味を理解している	同趣旨の 出題	量	5	知	選	48.3	-1.8		1.3	0.3	
			(H25)						50.2	0.2		0.8	0.0	
	5 (1)	角㊨の角の大きさが、 何度であるかを選ぶ	180°の角の大きさを理 解している		量	4	知	選	93.8	-0.6		1.4	0.3	
	5 (2)	分度器の目盛りを読み、 180°よりも大きい角の大 きさを求める	180°や360°を基に分 度器を用いて、180°よ りも大きい角の大きさを 求めることができる	課題改善	量	4	技	短	55.7	-2.8		1.8	0.3	
			(H27)						58.4	0.4		0.5	0.0	
	6	空間の中にあるものの位 置を正しく書く	示された表現方法を基 に、空間の中にあるも のの位置を表現するこ とができる		図	4	技	短	72.0	-1.5		4.0	0.7	
	7 (1)	円周率を求める式として 正しいものを選ぶ	円周率の意味について 理解している	課題改善	図	3 ・ 5	知	選	41.3	-0.3		3.8	0.6	
			(H20)						75.7	-1.1		1.0	0.0	
	7 (2)	円の直径の長さが2倍に なったとき、円周の長さ が何倍になるかを選ぶ	直径の長さや円周の長 さの関係について理解 している		図・ 関	3 ・ 5	知	選	55.0	-0.6		4.3	0.7	
	8	200人のうち80人が小学生 のとき、小学生の人数は 全体の人数の何%かを選 ぶ	百分率を求めることが できる	課題改善	関	5	技	選	53.1	0.2		5.5	0.9	
			(H21)						58.8	1.9		1.3	-0.2	
	9	示された事柄が両方当て はまるグラフを選ぶ	折れ線グラフから変化 の特徴を読み取ること ができる		関	4	技	選	62.9	-0.7		8.5	1.3	

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率		
								千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差	
B	1 (1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる	図	2・3・4・5	知	選	69.3	-2.4		0.5	0.2	
	1 (2)	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる	量・図	3・4・5	考	記	44.9	-3.3	▼	17.5	3.1	▼
	2 (1)	全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	数・量・関	1・2・3	考	短	70.5	0.0		1.6	0.1	
	2 (2)	1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	数・量・関	3	考	記	48.0	0.1		1.8	0.2	
	3 (1)	メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	関	3	考	記	18.4	-2.3		21.3	3.3	▼
	3 (2)	一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる	関	3・5	考	選	24.3	0.4		1.2	0.1	
	4 (1)	「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す	示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	数・関	2・3・4	考	短	61.2	-1.5		6.9	0.7	
	4 (2)	横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く	示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	数	2・4	考	記	58.6	-0.9		12.4	1.1	
	5 (1)	横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	数・量	2・3・4	考	記	42.7	-0.5		17.4	0.8	
	5 (2)	4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	数	1・2・3・4・5	考	選	67.8	1.3		8.0	-0.3	

③ 成果と課題

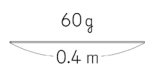
全体的な状況	成果	◇ 知識（Ａ問題）、活用（Ｂ問題）ともに全国と同程度である。 ◇ 領域別にみると「数と計算」「数量関係」の領域は、昨年度と比較して上昇した。 ◇ 問題形式別にみると「短答式」は、昨年度と比較して上昇した。
	課題	◆ 知識（Ａ問題）は、継続して低下傾向にある。

数と計算	◇ 3桁の整数どうしの大きさを比べ、十の位に入る適切な数字を書く設問【A 3】（千葉 76.9%、全国 76.4%）は全国と同程度である。数の大小を比較するために、どの位の数字に着目すれば良いかを判断することができている。 ◆ 針金 0.4m と、0.4m の重さの 60g と、1 m の重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ設問【A 1(2)】（千葉 60.8%、全国 66.7%）は全国を大きく下回っている。問題場面を的確に捉え数量の関係を図や数直線などに表すことができるように指導することが大切である。
量と測定	◇ 異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方や表し方を理解しているかをみる設問【A 4(1)】（千葉 84.3%、全国 87.8%）、180° の大きさを理解しているかをみる設問【A 5(1)】（千葉 93.8%、全国 94.4%）は、相当数の児童は理解できている。 ◆ 分度器の目盛りを読み、180° よりも大きい角の大きさを求める設問【A 5(2)】（千葉 55.7%、全国 58.5%）は、全国を下回り、課題として挙げられる。角の大きさの見当を付ける、測定する、測定の結果を振り返って確かめる活動を関連付けて角の大きさを正しく測定できるように指導することが大切である。
図形	◆ 円周率を求める式として正しいものを選ぶ設問【A 7(1)】（千葉 41.3%、全国 41.6%）の正答率は全国と同程度であるが、全国的にも正答率が低く、課題として挙げられる。 ◆ 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ設問【B 1(1)】（千葉 69.3%、全国 71.7%）、一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを求める設問【B 1(2)】（千葉 44.9%、全国 48.2%）は、全国を下回り、課題として挙げられる。日常生活の事象を図形の構成要素や性質を基に観察し、図形を判断したり、事柄が成り立つことを論理的に考察し、数学的に表現したりすることができるように指導することが大切である。
数量関係	◇ 百分率を求める設問【A 8】（千葉 53.1%、全国 52.9%）の正答率は、全国と同程度である。 ◆ メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する設問【B 3(1)】（千葉 18.4%、全国 20.7%）、棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断する設問【B 3(2)】（千葉 24.3%、全国 23.9%）は、全国的に正答率が低く、課題として挙げられる。日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることができるように指導を充実させることが必要である。

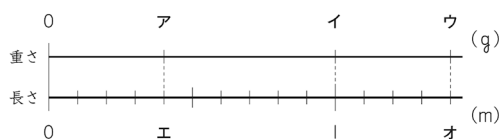
小学校・算数【課題の見られた設問の例】

A 1(2)	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
		県	差
		60.8	-5.9

0.4 mの重さが60gの針金があります。
この針金について、次の問題に答えましょう。



- (2) 針金 1 mの重さが何gになるかを考えます。
1 mの重さを□gとして、針金の長さ^{はり}と重さの関係を下の図に表します。
針金 0.4 mの「0.4」、0.4 mの重さ 60 gの「60」、1 mの重さ□gの「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。
ア から オ までの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その記号を書きましょう。



※「差」は、全国平均との差を示している。

○第5学年の指導内容である。正答は「0.4の場所→エ 60の場所→ア □の場所→イ」である。
1 mの重さ□gの□の場所をイと解答することができている解答類型については本県では 72.8%である。

○学習指導に当たっては、問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことは、問題を解決する上で大切である。その際、数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確に捉えることができるようにすることが大切である。

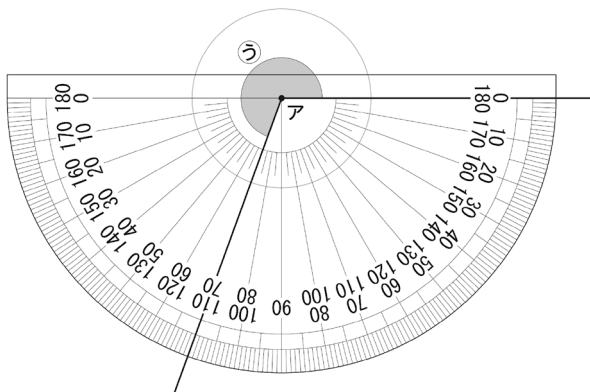
学習指導に当たって

テープの図を基に、長さの0.4や0.2、0.1に対応した場所に重さの数をそれぞれかく。

テープの図をとり、数直線のみで表し、長さの1と重さの□をかく。

A 5(2)	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
		県	差
		55.7	-2.8

- (2) 左ページの図4のときの角⑤の角度を、分度器を使ってはかります。
角⑤の角度は何度ですか。答えを書きましょう。



○第4学年の指導内容である。正答は「250°」である。誤答については、「110°」と解答している割合は、本県では27.0%いる。測定する角の大きさが180°以上であることを捉えることができず、分度器の目盛りの数値である110°を読んでそのまま回答していると考えられる。

○学習指導に当たっては、180°を越えた部分の角の大きさや360°に足りない部分の角の大きさについて測定することができるようにすることが大切である。

A 7(1)	問題の概要・趣旨	正答率(%)	
		県	差
	円周率を求める式として正しいものを選ぶ	41.3	-0.3

(1) 円周率を求める式を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 円周の長さ × 半径の長さ
- 2 円周の長さ × 直径の長さ
- 3 円周の長さ ÷ 直径の長さ
- 4 直径の長さ ÷ 円周の長さ

○第3学年、第5学年の指導内容である。正答は「3」である。誤答について、「2」と解答している割合は、本県で 36.6%である。円周率を求める式と円周を求める式を混同していると考えられる。「4」と解答している割合は、本県で 12.3%である。円周率が円周の直径に対する割合ではなく、直径の円周に対する割合であると捉えていると考えられる。

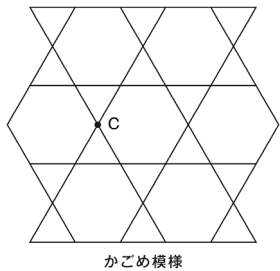
○円周率について学習する際には、作業的・体験的な活動を通して、円周率が円周の直径に対する割合であることを理解できるようにすることが大切である。
指導に当たっては、例えば、身の回りにある円の形をしたものについて、円周の長さや直径の長さを測定し、円周の直径に対する割合を調べる活動が考えられる。

測ったもの	コップ	お皿	おぼん	タイヤ
円周の長さ(cm)	22	36.1	78.6	125.7
直径の長さ(cm)	7	11.5	25	40
円周の長さ÷直径の長さ	約 3.14	約 3.14	約 3.14	約 3.14

表を作成する活動を通して、直径の長さが変わっても、直径に対する円周の割合が一定であり、「円周率＝円周の長さ÷直径の長さ」であることを理解できるようにすることが大切である。

B 1(2)	問題の概要・趣旨	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
	一つの点の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く。	44.9	-3.3	17.5	+3.1

はるとさんたちは、さらに、かごめ模様も調べることにしました。
はるとさんたちが調べているかごめ模様は、合同な正三角形と合同な正六角形でできつめられていました。



点Cのまわりに集まった角の大きさの和は、360°になっています。

(2) 点Cのまわりに集まった角の大きさの和が、360°になっていることを、着目した図形の「名前」と「角の大きさ」がわかるようにして、言葉や式を使って書きましょう。

○第3、4、5学年の指導内容である。
正答の条件は、次の①、②の全てを書き、着目した図形の角の大きさを正しく書いている。
①着目した図形の名称
②角の大きさを表す言葉や数とその角の大きさが幾つ分で360°になるかを表す言葉や式

○学習指導に当たっては、図形の構成要素や性質を基に、筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明することができるようにすることが大切である。

算数

TYPE
I・II

A①(1)(2)(3)
A②

「かけ算やわり算の意味を考えよう」

～問題場面の数量の関係を的確に捉えて、立式する～

A①(1)(2)(3)及びA②の結果を分析すると、小数の除法の場面における、二つの数量の関係の理解や除法の意味の理解に課題が見られました。算数の学習では、問題場面の数量について考察し、数量の関係を図や数直線などに表していく活動や、乗法や除法の意味を確認する活動を丁寧に進めていくことが大切です。本授業アイデア例では、問題場面で提示された事柄について考察し、図や数直線などに表すことで問題場面の数量の関係を的確に捉えて立式したり、問題場面と数直線を式と関連付けたりして、乗法や除法の意味について理解できるようにすることをねらいとした授業を紹介します。

授業アイデア例

① 数量の関係を的確に捉え、立式する。

①-1 問題場面で提示された事柄について考察する。



この針金の長さを変えて、そのときの重さについて考えてみましょう。

長さが 0.8 m のとき、重さは 120 g になります。

長さが 2 倍になると、重さも 2 倍になるのですね。

長さが半分の 0.2 m のとき、重さも半分の 30 g になりますね。

長さが 1 m のとき、重さは何 g になるのかな。

0.4 m よりも 1 m の方が長いので、1 m の重さは 60 g よりも重くなると思います。

1 m の重さが何 g になるか考えてみましょう。

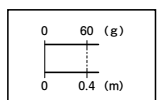
ポイント

児童が、数を 2 倍にしたり半分にしたりするなどして、提示された事柄について考える場を設定し、問題場면을把握することができるようにすることが大切です。

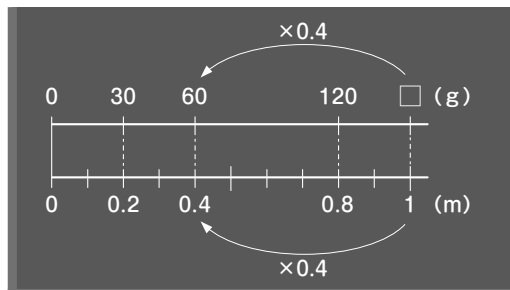
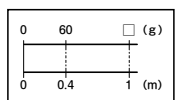
①-2 問題場면을数直線に表し、数量の関係を捉えて立式する。

それでは、針金の長さや重さを、数直線に表してみましょう。

0.4 m の重さが 60 g なので、
0.4 の上に 60 とかきました。



1 m の重さがわからないので、1 の上に
□をかきました。



0.4 m は、1 m の 0.4 倍なので、
60 g も、□ g の 0.4 倍だと思います。

$\square \times 0.4 = 60$ となるので、□ は $60 \div 0.4$ を
計算すれば求めることができます。

$60 \div 0.4 = 150$ で、□ は 150 です。
だから、1 m の重さは 150 g です。

1 m の重さを求めるときは、
わり算の計算をしましたね。

ポイント

二つの数量の関係を捉えることができるようにするために、
数直線などに表すことが大切です。また、求めた商が
基にする大きさであることを確認することも大切です。

課題の見られた問題の概要と結果

A① 計算の能力（計算の意味の理解と演算決定）

A② 計算の能力（計算の意味の理解）

A①(1)	正答率 63.2 %	針金0.2mの重さと針金0.1mの重さを書く
A①(2)	正答率 66.9 %	針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ
A①(3)	正答率 65.5 %	針金1mの重さを求める式を選ぶ
A②	正答率 40.1 %	答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ

学習指導要領における領域・内容

[第3学年]	A数と計算	(4)	ア
[第4学年]	A数と計算	(3)	イ
[第5学年]	A数と計算	(3)	ア
[第5学年]	D数量関係	(1)	ア

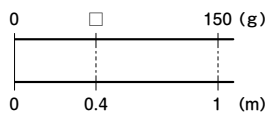
② 問題場面と数直線を、式と関連付けて考え、乗法と除法の関係を捉える。

ア、イ、ウで□を求める式をかけ算やわり算で表すと、どのようになりますか。A、B、Cから選びましょう。



ア

1mの重さが150gの針金があります。この針金0.4mの重さは何gでしょう。

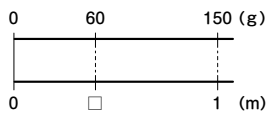


A

$$\text{式 } 150 \times 0.4 = \square$$

イ

1mの重さが150gの針金があります。この針金60gの長さは何mでしょう。

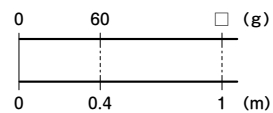


B

$$\text{式 } 150 \times \square = 60 \\ 60 \div 150 = 0.4$$

ウ

0.4mの重さが60gの針金があります。この針金1mの重さは何gでしょう。



C

$$\text{式 } \square \times 0.4 = 60 \\ 60 \div 0.4 = 150$$



アがAです。長さが0.4倍になると、重さも0.4倍になるので、 $150 \times 0.4 = \square$ です。



イがBです。長さが□倍になると、重さも□倍になるので、 $150 \times \square = 60$ だから $60 \div 150 = 0.4$ です。



ウがCです。長さが0.4倍になると、重さも0.4倍になるので、 $\square \times 0.4 = 60$ だから $60 \div 0.4 = 150$ です。



何を求めるときがかけ算で、何を求めるときがわり算になるのですか。

かけ算は、「0.4に当たる大きさ」を求めるときです。



わり算は、「1に当たる大きさ」と「150を1とみたときに60がいくつに当たるか」を求めるときです。



$$150 \times 0.4 = 60$$

□を求めるときがわり算

ポイント

小数の乗法及び除法の学習の最後などに、ある場面における式・図・言葉を関連付ける活動を行い、比例の関係に基づいた乗法と除法の関係について確かめ、乗法が「割合に当たる大きさ」、除法が「基にする大きさ」や「割合」を求めていることを確認することが大切です。

本授業アイデア例 活用のポイント！

- 整数の乗法や除法の場面でも、「割合に当たる大きさ」、「基にする大きさ」、「割合」のうち、どれを求めているのかを確認することが大切です。また、例えば、乗法や除法を扱うほかの調査問題（A④(2)「単位量当たりの大きさ」、A⑦(1)「直径、円周、円周率の関係」、A⑧「割合」）の場面でも、「割合に当たる大きさ」、「基にする大きさ」、「割合」のうち、どれを求めているのかを確認する学習活動を展開することができます。

参照▶「平成30年度 報告書 小学校 算数」P.24～P.31、P.32～P.34、「平成30年度 解説資料 小学校 算数」P.14～P.19、P.20～P.22

（国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」より）

(4) 中学校数学

① 全体的な結果

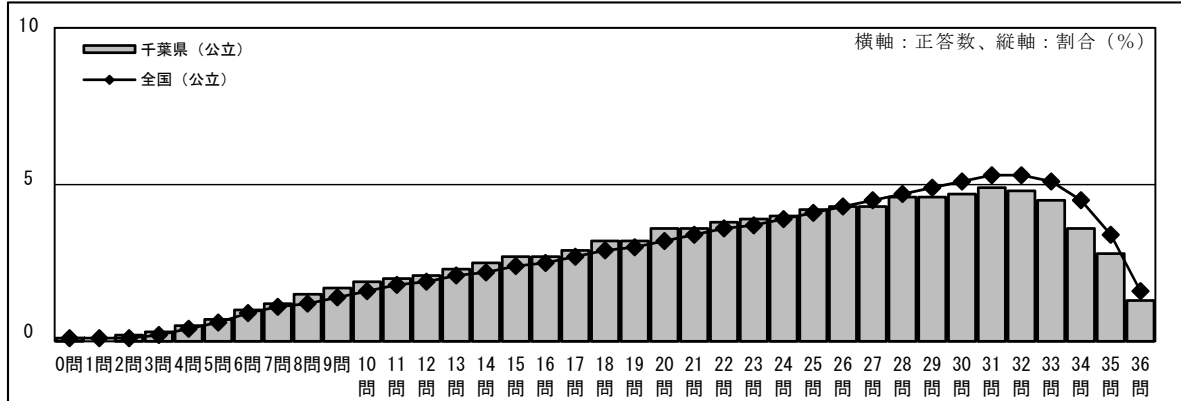
ア 正答数の分布

*「A～D層」について

- ・各層は全国（公立）の生徒を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数と同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
- ・千葉県的人数比率は、全国のA～D層を基準に示してある。

【数学A】

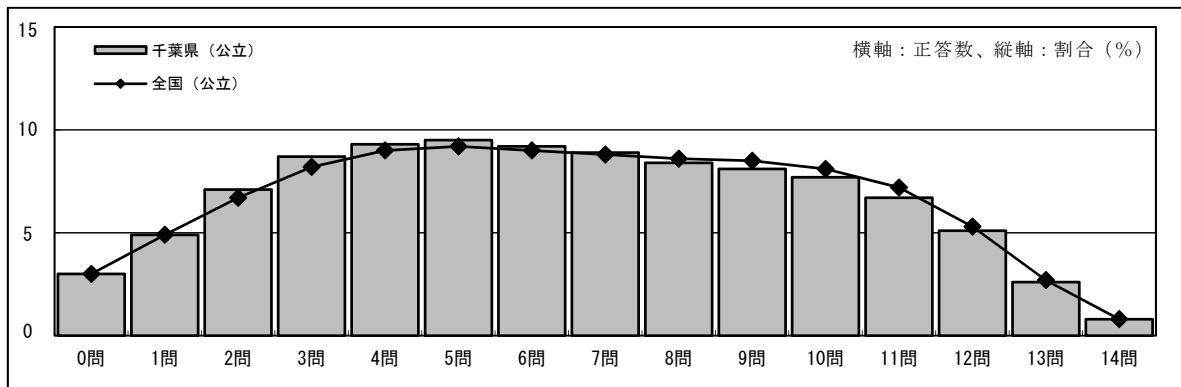
平均正答率は、全国を下回る。正答数の分布は、全国と比べA層、B層の割合が低く、C層、D層の割合が高くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		* D層	* C層	* B層	* A層
						0～17 問	18～24 問	25～30 問	31～36 問
千葉県 (公立)	23.0 問 ／36 問	64 %	24.0	8.1	千葉県 (公立)	26.2 %	25.3 %	26.6 %	21.9 %
全 国 (公立)	23.8 問 ／36 問	66.1 %	25.0	8.1	全 国 (公立)	23.4 %	23.8 %	27.6 %	25.2 %

【数学B】

平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		* D層	* C層	* B層	* A層
						0～3 問	4～6 問	7～8 問	9～14 問
千葉県 (公立)	6.4 問 ／14 問	46 %	6.0	3.5	千葉県 (公立)	23.7 %	28.0 %	17.3 %	30.9 %
全 国 (公立)	6.6 問 ／14 問	46.9 %	7.0	3.5	全 国 (公立)	22.8 %	27.2 %	17.4 %	32.6 %

イ 調査区分ごとに見た傾向（全国を100としたときの指数で示している）

知識／活用

「知識」は、全国を下回った。「活用」は、上昇傾向にあり、全国と同程度になった。

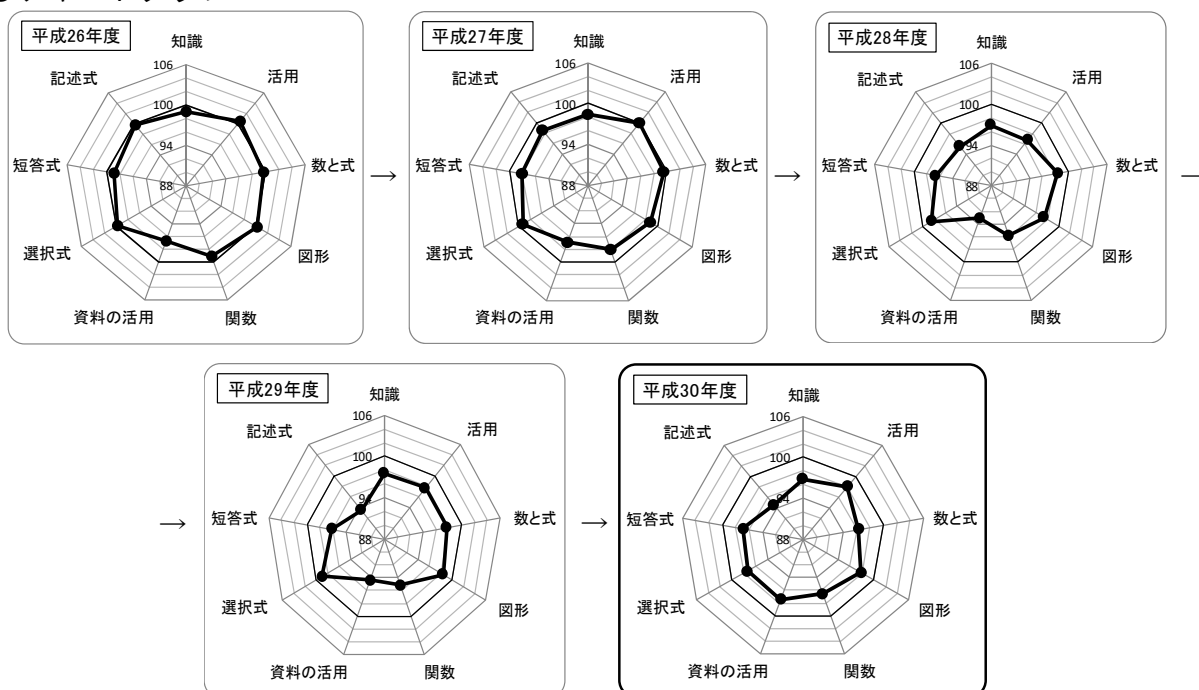
領域

「関数」「資料の活用」は、昨年度と比較して上昇したが、すべての領域で、全国を下回った。

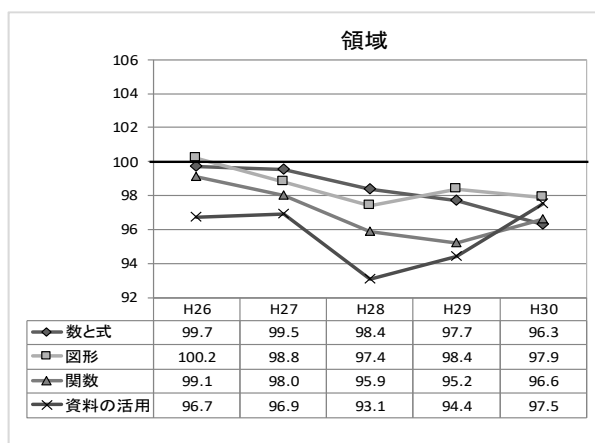
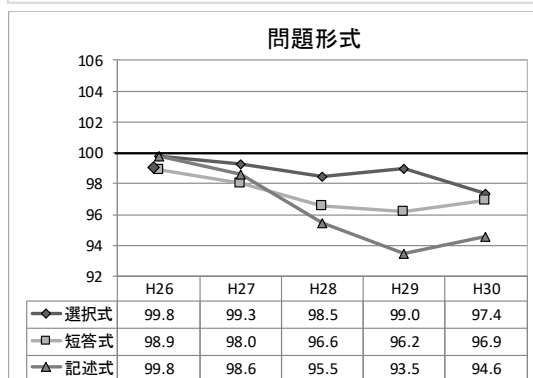
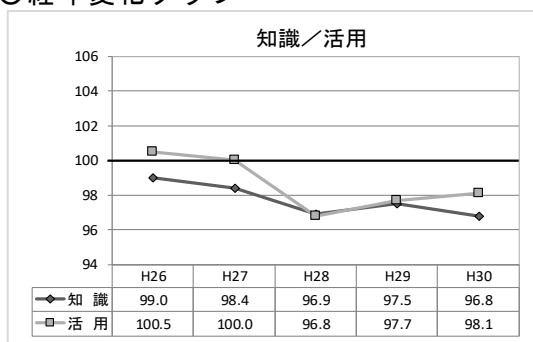
問題形式

「選択式」「短答式」は、全国を下回り、「記述式」は、全国を大きく下回った。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域〕 学習指導要領の領域

「数」 数と式 「図」 図形 「関」 関数 「資」 資料の活用

〔評価の観点〕

「考」 数学的な見方や考え方 「技」 数学的な技能

「知」 数量や図形などについての知識・理解

〔問題形式〕

「選」 選択式 「短」 短答式 「記」 記述式

□ 全国を上回るもの
■ 全国を下回るもの（課題あり）

△：全国との差3.0ポイント以上

▼：全国との差3.0ポイント以下

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率		
								千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公 立)	全 国 と の 差	
A	1 (1)	数直線上の点が表示負の整数の値を読み取る	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	数	1	技	短	94.7	0.1		0.4	0.0	
	1 (2)	絶対値が6である数を書く	絶対値の意味を理解している	数	1	知	短	60.9	-8.1	▼	10.7	3.4	▼
	1 (3)	$2 \times (-5^2)$ を計算する	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	数	1	技	短	65.9	-3.0	▼	1.2	0.2	
	1 (4)	ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	数	1	知	選	53.0	-1.2		0.1	0.0	
	2 (1)	「1個akgの荷物3個と1個bkgの荷物4個の全体の重さは15kg以上である」という数量の関係を表した不等式を書く	数量の大小関係を不等式に表すことができる	数	1	技	短	33.8	-7.7	▼	10.9	2.4	
	2 (2)	$6a^2b \div 3a$ を計算する	単項式どうしの除法の計算ができる	数	2	技	短	88.6	-2.4		3.4	1.0	
	2 (3)	$a=3$ 、 $b=-4$ のときの式 $a-2b$ の値を求める	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	数	1	技	短	76.1	-2.4		5.9	1.1	
	2 (4)	等式 $S=1/2ah$ を、 a について解く	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	数	2	技	短	44.1	-4.1	▼	18.6	3.3	▼

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	学習学年	評価の観点	問題形式	正答率			無解答率		
								千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差	
A	3 (1)	一元一次方程式 $6x-3=9$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ	方程式を解く場面における等式の性質の用い方について理解している	数	1	知	選	63.6	-0.4		0.7	0.1	
	3 (2)	比例式 $x:20=3:4$ を解く	簡単な比例式を解くことができる	数	1	技	短	86.5	-1.3		6.0	1.0	
	3 (3)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} 5x-2y=10 \\ 3x-2y=2 \end{cases}$ を解く	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	数	2	技	短	79.0	-1.0		5.4	0.8	
	3 (4)	連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	数	2	知	短	71.7	-3.5	▼	0.7	0.1	
	4 (1)	ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している	図	小6	※知	選	68.0	0.9		0.3	0.0	
	4 (2)	$\triangle ABC$ を辺 AB が辺 AC に重なるように折った線を作図するための線を選ぶ	折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している	図	1	知	選	54.3	-0.6		0.8	0.0	
	4 (3)	長方形 $ABCD$ を、点 A を中心として時計回りに 90° だけ回転移動した図形をかく	回転移動した図形をかくことができる	図	1	技	短	65.8	-0.3		5.2	0.8	
	5 (1)	直方体において、与えられた面に平行な辺を書く	空間における平面と直線との位置関係（面と辺が平行であること）を理解している	図	1	知	短	69.9	-4.4	▼	1.6	0.2	
	5 (2)	半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く	半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している	図	1	知	短	81.3	-1.1		3.3	0.4	
	5 (3)	与えられた円柱の見取図から、その円柱の投影図を選ぶ	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる	図	1	技	選	80.7	-3.0	▼	0.3	0.0	
	5 (4)	底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の $1/3$ であることを理解している	課題改善 (H20)	図	1	知	選	52.0	-5.6	▼	0.6	0.1
									49.0	-2.4		0.6	-0.1
	6 (1)	三角形の外角を表す式を選ぶ	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	図	2	知	選	70.5	-0.9		0.4	0.0	
	6 (2)	五角形の1つの頂点を動かし、角の大きさを 90° に変えたときの内角の和の変化として正しいものを選ぶ	多角形の内角の和の性質を理解している	図	2	知	選	74.7	-1.0		0.4	0.0	
	7 (1)	$\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している	図	2	知	選	71.1	-0.9		0.5	0.0	
	7 (2)	長方形で成り立ち、ひし形でも成り立つことを選ぶ	長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している	図	2	知	選	77.6	-0.6		0.5	0.0	

問 題	設 問 番 号	設問の概要	出題の趣旨	領 域	学 習 学 年	評 価 の 観 点	問 題 形 式	正答率			無解答率		
								千 葉 県 (公立)	全 国 と の 差		千 葉 県 (公立)	全 国 と の 差	
A	8	対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ	証明の必要性和意味を理解している	図	2	知	選	45.5	0.0		0.6	0.0	
	9 (1)	比例 $y=5x$ について、正しい記述を選ぶ	比例 $y=ax$ における比例定数 a の意味を理解している	関	1	知	選	64.9	-0.6		1.3	0.1	
	9 (2)	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる	関	1	技	短	51.5	-3.5	▼	15.4	2.4	
	9 (3)	反比例のグラフから表を選ぶ	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している	関	1	知	選	49.7	-3.1	▼	1.6	0.2	
	10	点 $(-2, 3)$ の位置を座標平面上に示す	点 $(-2, 3)$ の位置を座標平面上に示す	関	1	知	短	69.9	0.0		3.3	0.4	
								59.8	-1.2		4.0	0.0	
	11 (1)	一次関数 $y=2x+7$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める	一次関数 $y=ax+b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求めることができる	関	2	技	短	43.8	-1.5		17.1	2.3	
	11 (2)	一次関数 $y=-2x+6$ が表すグラフを選ぶ	一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している	関	2	知	選	52.5	-3.8	▼	1.0	0.1	
								75.2	0.1		1.5	0.1	
	12	歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ	一次関数の意味を理解している	関	2	知	選	34.3	-2.1		1.1	0.1	
	13	グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ	連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の2直線の交点であることを理解している	関	2	知	選	59.9	-2.8		2.1	0.2	
	14 (1)	生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ	最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している	資	1	知	選	66.5	-1.9		1.6	0.2	
	14 (2)	反復横とびの記録の中央値を求める	与えられた資料から中央値を求めることができる	資	1	技	短	73.1	-0.9		5.2	0.6	
	15 (1)	1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	資	2	知	選	37.9	-2.3		2.1	0.3	
	15 (2)	大小2つのさいころを同時に投げるとき、和が8になる確率を求める	表などを利用して、確率を求めることができる	資	2	技	短	69.1	-2.2		11.5	1.8	

問題	設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	学習学年	評価の観点	問題形式	正答率			無解答率		
								千葉県(公立)	全国との差		千葉県(公立)	全国との差	
B	1 (1)	全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒数の割合を求める	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	数資	小5中1	※技	短	55.2	-0.5		12.6	1.5	
	1 (2)	放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める	与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる	資	2	技	短	43.3	-0.6		7.5	0.5	
	1 (3)	全校よりも1年生の回答用紙によるくじ引きの方が曲Fが選ばれやすいことの理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	資	2	考	記	35.4	-0.8		27.6	2.7	
	2 (1)	はじめの数が10のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	数	1	技	短	89.6	0.1		4.6	0.2	
	2 (2)	はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することができる	数	2	考	記	33.4	-4.1	▼	29.9	4.9	▼
	2 (3)	計算の順番を入れ替えたものを選択し、その計算結果が何の倍数になるかを求める	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる	数	2	考	短	68.1	-0.2		1.1	0.0	
	3 (1)	列車の運行のようすが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる	関	2	考	選	67.1	-0.5		0.4	-0.1	
	3 (2)	グラフから、列車のすれ違いが起こる地点のA駅からの道のりを求める	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる	関	2	考	短	76.7	-1.0		7.5	0.6	
	3 (3)	A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Bが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関	2	考	記	12.0	-1.2		37.6	4.2	▼
	4 (1)	証明されたことから、新たにわかることを選ぶ	証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる	図	2	考	選	55.2	-0.2		0.6	-0.1	
	4 (2)	平行四辺形ABCDの外側に2つの点E、Fを取っても、四角形EBFDは平行四辺形となることの証明を完成する	発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる	図	2	考	短	40.6	-1.8		6.8	0.6	
	4 (3)	平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる	図	2	考	記	41.5	-0.8		27.3	2.7	
	5 (1)	S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	数量	小5	※技	短	15.7	-0.3		27.0	2.9	
	5 (2)	通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	数	2	考	記	9.8	-0.6		6.7	0.1	

※評価の観点は、数量や図形に関する技能(小学校)に対応させている。

中学校・数学【課題の見られた設問の例】

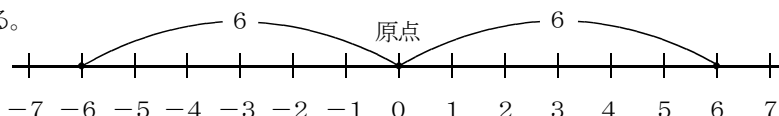
A 1(2)	問題の概要・趣旨 絶対値が6である数を書く	正答率(%)		無答率(%)	
		県	差	県	差
		60.9	-8.1	10.7	+3.4

※「差」は、全国平均との差を示している。

(2) 絶対値が6である数をすべて書きなさい。

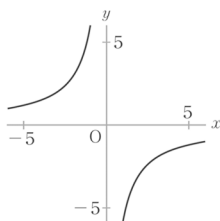
○第1学年の指導内容である。正答は「6，－6」である。誤答としては、「6」または「－6」だけと解答した割合の合計は、本県では**3.8%**である。それ以外の解答をした割合は、**24.6%**である。この中には、「1，2，3，6」や「6，12，18，…」という解答がみられた。これらは、6の約数や6の倍数と6の絶対値の意味を混同している生徒がいると考えられる。

○学習指導に当たっては、数直線上における原点からの距離が絶対値であることを理解できるように指導することが大切である。



A 9(3)	問題の概要・趣旨 反比例のグラフから表を選ぶ	正答率(%)	
		県	差
		49.7	-3.1

(3) 次の図の曲線は、反比例のグラフを表しています。このグラフについて、 x と y の関係を示した表が、下の**ア**から**エ**までの中にあります。それを1つ選びなさい。



ア

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-3	-6		6	3	2	...

イ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-4	-6		6	4	2	...

ウ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	3	6		-6	-3	-2	...

エ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	2	4	6		-6	-4	-2	...

○第1学年の指導内容である。

正答は「**ウ**」である。本設問の正答率は、本県では**49.7%**である。

誤答については、本県で「**ア**」と解答した割合は**10.1%**、「**イ**」と解答した割合は**12.9%**である。これらの中には、与えられたグラフと表の対応する x と y の値の組を関連付けることができていない生徒がいると考えられる。「**エ**」と解答した割合は**25.8%**である。この中には、反比例を、 x の値が1ずつ増加すると y の値は一定の割合で増加する関係と捉えた生徒がいると考えられる。

○学習指導に当たっては、反比例の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるように指導することが大切である。

例えば、比例定数は表の対応する x の値と y の値の積になることやグラフから比例定数の符号が判断できることを確認するとともに、比例定数の符号だけを変えた反比例の表についての式を求めたり、そのグラフをかいたりする活動を取り入れることが考えられる。

A 5(4)	問題の概要・趣旨 底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ	正答率(%)	
		県	差
		52.0	-5.6

- (4) 図1の四角錐の体積は、図2の四角柱の体積の何倍ですか。
下のアからオまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

図1

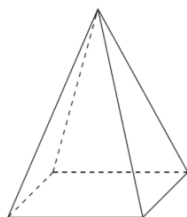
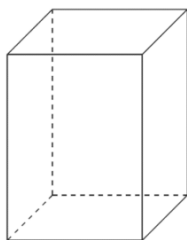


図2



ア $\frac{1}{4}$ 倍 イ $\frac{1}{3}$ 倍 ウ $\frac{1}{2}$ 倍 エ $\frac{2}{3}$ 倍 オ $\frac{3}{4}$ 倍

○第1学年の指導内容である。正答は「イ」である。誤答としては、本県で「ウ」と解答した割合は、21.2%である。この中には、底面が合同で高さが等しい四角錐と四角柱の体積の関係を、四角柱と四角錐の側面の図形から三角形と長方形の面積比で判断している生徒がいると考えられる。「エ」と解答した割合は、13.2%である。この中には、錐体の体積が柱体の体積の $\frac{1}{3}$ であることの理解が十分でなく、図2の四角柱の体積は図1の四角錐の体積の2倍になっていると捉えている生徒がいると考えられる。

○学習指導に当たっては、柱体と錐体の体積の関係を理解できるようにするために、柱体の体積と錐体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる場面を設定することが考えられる。

B 2(2)	問題の概要・趣旨 はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する	正答率(%)		無答率(%)	
		県	差	県	差
		33.4	-4.1	29.9	+4.9

- 2 次の図1のように、はじめの数として○に整数を入れて計算し、計算結果を求めます。



「はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる」という海斗さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。

説明

はじめの数として入れる整数を n とすると、計算結果は、

$$(n - 4) \times 3 + n =$$

○第2学年の指導内容である。正答率が低く、無解答率も高い設問で、課題として挙げられる。正答は、計算結果が $4(n - 3)$ または、 $4n - 12$ と計算する場合に分けられる。誤答の具体的な例としては、 $(n - 4) \times 3 + n = 4n$ がある。 4 の倍数であることを説明するために、 $4 \times (\text{整数})$ の形にすればよいという見通しにそって $4n$ の式で表していると考えられる。

○学習指導に当たっては、事柄が一般的に成り立つ理由を説明するために、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが必要である。
例えば $4n - 12$ という表現にとどまっているものを取り上げ、 $4 \times (\text{整数})$ の形にすればよいという見通しをもたせる。
$$(n - 4) \times 3 + n = 4n - 12$$
$$= 4(n - 3)$$
「 $n - 3$ は整数だから、 $4(n - 3)$ は4の倍数である」と表現するなどして、説明を洗練させていく活動を取り入れることが考えられる。

③ 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 領域別に見ると「関数」「資料の活用」は、昨年度と比較して上昇した。
	課題	◆ 知識（Ａ問題）は、全国を下回っている。 ◆ 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域で、全国を下回っている。

数と式	◇ 数直線上の点が表す負の整数の値を読み取る設問【Ａ１(１)】、単項式どうしの除法の計算をする設問【Ａ２(２)】、簡単な比例式を解く設問【Ａ３(２)】、問題場面における考察の対象を明確に捉える設問【Ｂ２(１)】については、相当数(正答率 80%以上)の生徒ができています。 ◆ 絶対値が 6 である数を書く設問【Ａ１(２)】(千葉 60.9%、全国 69.0%)、数量の大小関係を不等式に表す設問【Ａ２(１)】(千葉 33.8%、全国 41.5%)の正答率は、全国を大きく下回り、課題として挙げられる。
図形	◇ 半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を書く設問【Ａ５(２)】、与えられた円柱の見取り図から、その円柱の投影図を選ぶ設問【Ａ５(３)】については、相当数(正答率 80%以上)の生徒ができています。 ◆ 底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ設問【Ａ５(４)】(千葉 52.0%、全国 57.6%)の正答率は、全国を大きく下回り、課題として挙げられる。
関数	◇ 点の位置を座標平面上に示す設問【Ａ１０】(全国との差 H24 -1.2、H30 0.0)の正答率は平成 24 年度に行われた同趣旨の設問よりも改善されて全国と同程度になった。 ◆ 比例のグラフから、x の変域に対応する y の変域を求める設問【Ａ９(２)】(千葉 51.5%、全国 55.0%)、反比例のグラフから表を選ぶ設問【Ａ９(３)】(千葉 49.7%、全国 52.8%)の正答率は、全国を大きく下回り、課題として挙げられる。グラフから x と y の関係を式で表すことができるように指導する必要がある。 ◆ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問【Ｂ３(３)】(千葉 12.0%、全国 13.2%)は、全国的にも正答率が低い。また、本県としても無解答率(千葉 37.6%)が高く、課題として挙げられる。問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるようにする指導が必要である。
資料の活用	◇ 全国と比べて大きく下回る設問はない。 ◆ 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解する設問【Ａ１５(１)】(千葉 37.9%、全国 40.2%)は、全国的にも正答率が低く、課題として挙げられる。確率の意味について、実験を通して実感を伴って理解できるようにする指導が必要である。 ◆ 団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く設問【Ｂ５(１)】(千葉 15.7%、全国 16.0%)は、全国的にも正答率が低い。また、本県としても無解答率(千葉 27.0%)が高く、課題として挙げられる。与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるようにする指導が必要である。

「3つの計算の計算結果について成り立つ理由を説明する」～問題解決の過程を振り返って、構想を立てて事柄が成り立つ理由を説明する～

数学
TYPE
I・II
B2|2|3

数に関する事象について考察する場面では、生徒自らが帰納的に調べることで成り立つ事柄を予想して、帰納的に推論して事柄が成り立つ理由を数学的に説明することが大切です。しかし、事柄が成り立つ理由を数学的に説明することに課題がみられました。そこで、本アイディア例では、3つの計算の順序にしたがっていろいろな数を使って計算結果が何の倍数になるかを予想し、予想が正しいことを構想を立てて文字式を用いて説明することができるようになる指導事例を紹介します。

授業アイディア例

はじめの数として○に整数を入れて計算すると、計算結果はいくつになりますか。



1. 3つの計算の計算結果が4の倍数になる理由を説明する。

はじめの数に○にする整数を自分で決めて、計算結果を求め、その数がどんな数になるかを調べてみましょう。

はじめの数	5	4をひく	1	3をかける	3	4をひく	8	計算結果
はじめの数	6	4をひく	2	3をかける	6	4をひく	12	計算結果
はじめの数	9	4をひく	5	3をかける	15	4をひく	24	計算結果
はじめの数	10	4をひく	6	3をかける	18	4をひく	28	計算結果

求めた計算結果はどれも4の倍数だね。

8, 12, 24, 28は2の倍数だけど4の倍数でもないね。

計算結果はいつでも4の倍数になるといいでしょう。

でも、すべての整数で確かめることは難しいのではないかな。

それなら、いろいろな整数のかわりに文字を使って考えてみよう。

それでは、はじめの数にnとして、計算結果がいつでも4の倍数になるかどうかについて考えます。文字を使って説明してみましょう。

はじめの数にnとすると、 $(n-4) \times 3 + n$ と表せるよ。

計算すると $4n-12$ 、 $4 \times (n-3)$ と変形できるね。

はじめの数として、いくつかの整数を入れて計算し、その計算結果から4の倍数になることを予想しました。

さらに、計算結果がいつでも4の倍数になることを、文字を用いた式で捉え説明することができましたね。

はじめの数として入れる整数をnとすると、計算結果は、 $(n-4) \times 3 + n = 3n - 12 + n = 4n - 12 = 4(n-3)$ は4の倍数である。n-3は整数だから、4(n-3)は4の倍数である。したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも4の倍数になる。

課題の見られた問題の概要と結果

B2| 構想を立てて説明し、問題解決の過程を振り返って考えること(3つの計算)

B2|2|3 正答率 38.6%

はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になることを説明を完成する。

2. 3つの計算の順序を自分で入れ替え、その順序で計算したときの計算結果について調べる。

では次に、3つの計算の順序を自分で入れ替えてみて、その計算結果が何の倍数になるかを調べてみましょう。

私たちの班では、「はじめの数をたす」、「3をかける」、「4をひく」の順序にして、計算結果が何の倍数になるかを調べてみよう。

はじめの数としていろいろな整数を入れて計算してみよう。

3を入れたら、4を入れたら20になるから、2の倍数になりそうだよ。

はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも2の倍数になることについてどのように説明したらよいでしょうか。

いつでも4の倍数になることを考えたときには、文字を使うことで説明できました。計算の順序を入れ替えた場合も同じように、文字を使って説明すればよいと思います。

はじめの数にnとすると、 $(n+n) \times 3 - 4 = 6n - 4$ と表せるよ。

$6n-4$ を $2 \times (3n-2)$ の形で表すと、 $2(3n-2)$ になって、 $3n-2$ が整数だから、2の倍数になるといえるよ。

自分たちで計算の順序を入れ替えた場合でも、いくつかの整数を入れて予想したことを、文字を使って確かめることができましたね。

はじめの数として入れる整数をnとすると、計算結果は、 $(n+n) \times 3 - 4 = 6n - 4 = 2(3n-2)$ は整数だから、 $2(3n-2)$ は2の倍数である。したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも2の倍数になる。

本授業アイディア例 活用のポイント

- 帰納的に調べることで成り立つと予想される事柄を見だし、それを帰納的に推論することで、予想した事柄が成り立つ理由を数学的に表現する場面を設定することが大切である。
- 3つの計算の順序を入れ替えて、計算の中の演算のきまりを覚えてみたりするなど生徒自らが条件を変えて成り立つ事柄を新たに予想し、成り立つと予想した事柄について考察する場面を設定することが大切である。



(5) 小学校理科

① 全体的な結果

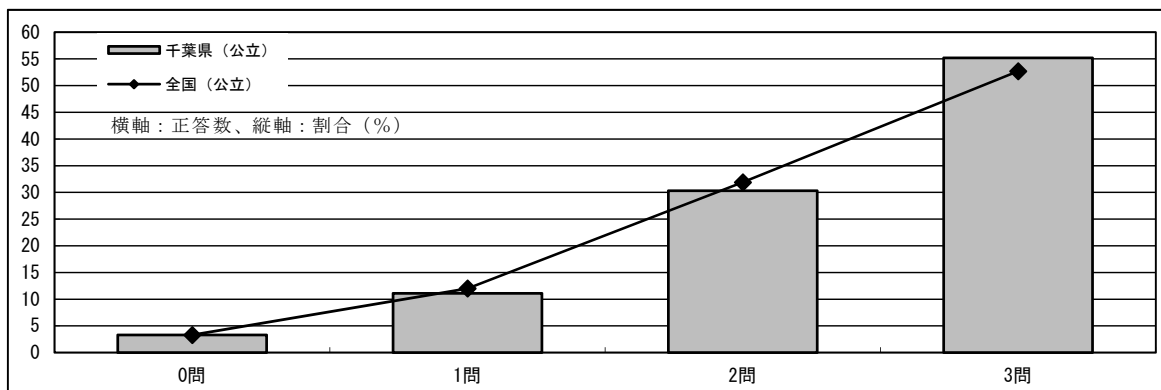
ア 正答数の分布

*「A～D層」について

- ・各層は全国（公立）の児童を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
- ・千葉県的人数比率は、全国のA～D層を基準に示してある。

【知識】

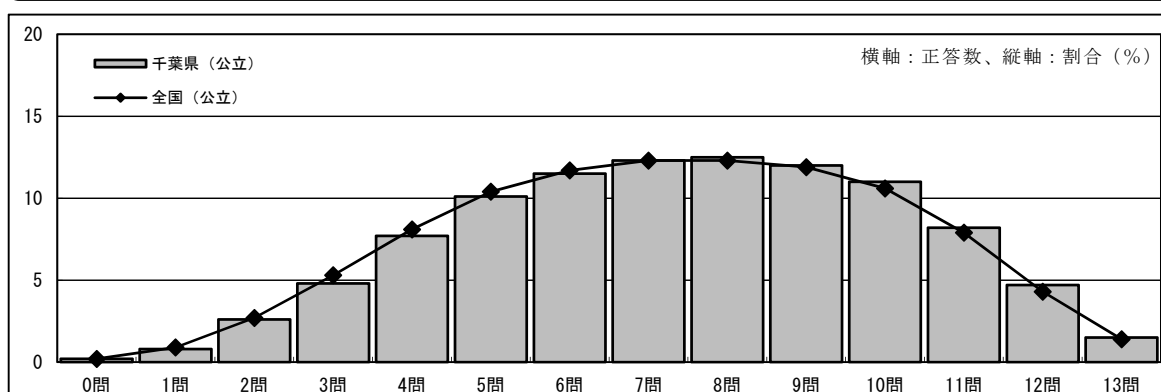
平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が高く、C層の割合が低くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差	*D層	*C層	*B層	*A層
					0～1問	2問		3問
千葉県 (公立)	2.4問／ 3問	79 %	3.0	0.8	14.4 %	30.3 %		55.2 %
全 国 (公立)	2.3問／ 3問	78.0 %	3.0	0.8	15.3 %	31.9 %		52.7 %

【活用】

平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が高く、D層の割合が低くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差	*D層	*C層	*B層	*A層
					0～4問	5～6問	7～9問	10～13問
千葉県 (公立)	7.4問／ 13問	57 %	7.0	2.7	16.1 %	21.6 %	36.8 %	25.4 %
全 国 (公立)	7.3問／ 13問	56.2 %	7.0	2.7	17.2 %	22.1 %	36.5 %	24.2 %

イ 調査区分ごとに見た傾向（全国を100としたときの指数で示している）

知識／活用

「知識」「活用」ともに全国と同程度である。

領域

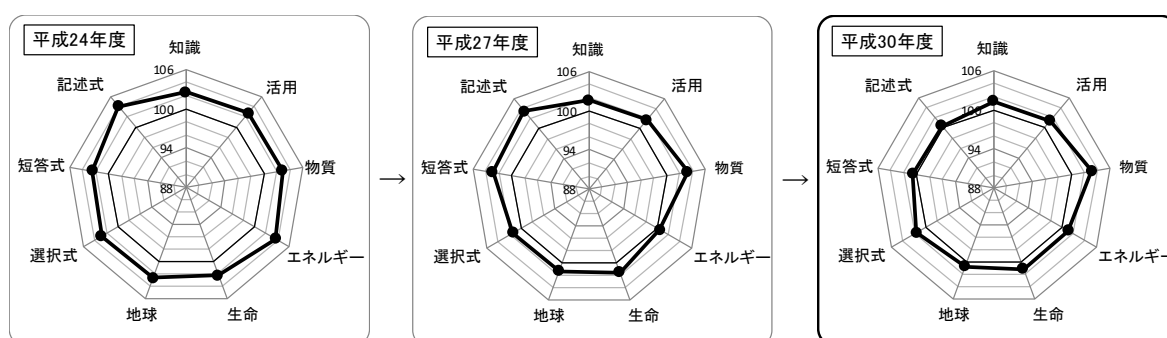
「物質」は平成24年度、平成27年度と同様に全国を上回り、「エネルギー」

「生命」は全国をやや上回っている。

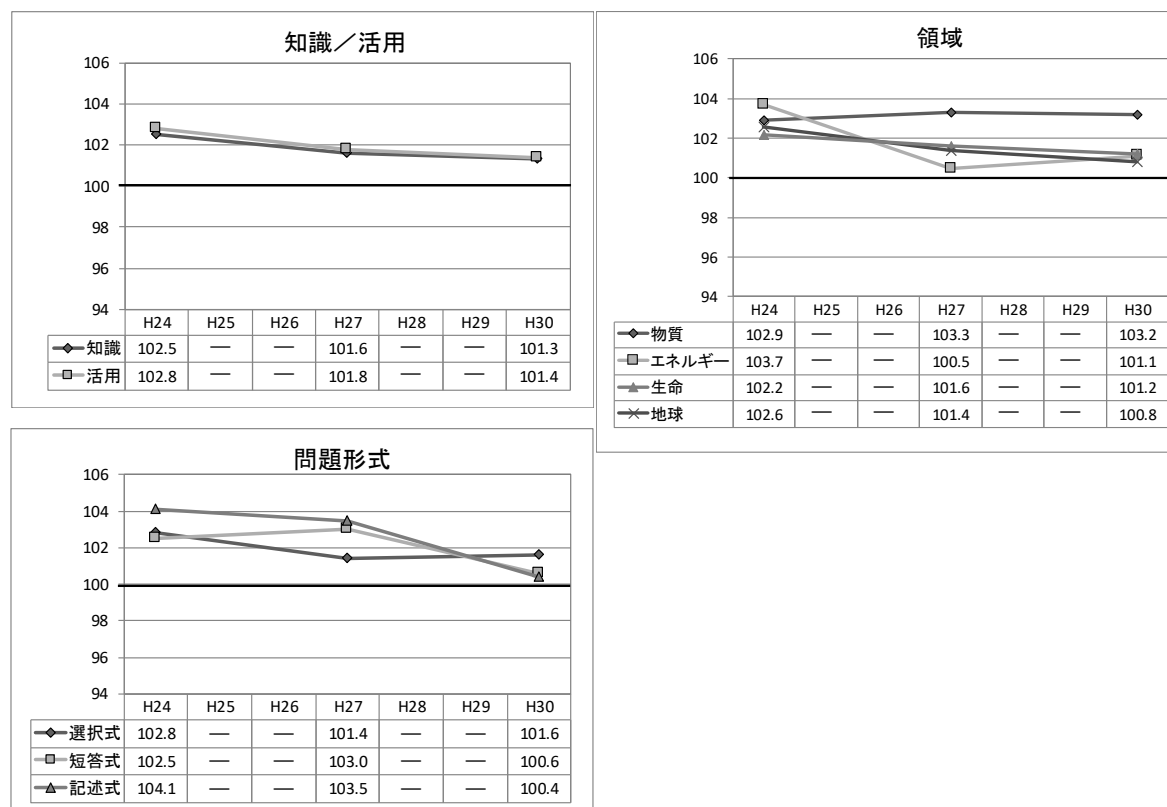
問題形式

「選択式」は全国をやや上回っている。「短答式」「記述式」は全国と同程度であるが、平成27年度と比較して低下している。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域〕 学習指導要領の領域

「物」 物質 「エ」 エネルギー 「生」 生命 「地」 地球

〔評価の観点〕

「関」 自然事象への関心・意欲・態度 「思」 科学的な思考・表現

「技」 観察・実験の技能 「知」 自然事象についての知識・理解

〔問題形式〕

「選」 選択式 「短」 短答式 「記」 記述式

□ 全国を上回るもの

■ 全国を下回るもの（課題あり）

△：全国との差3.0ポイント以上

▼：全国との差3.0ポイント以下

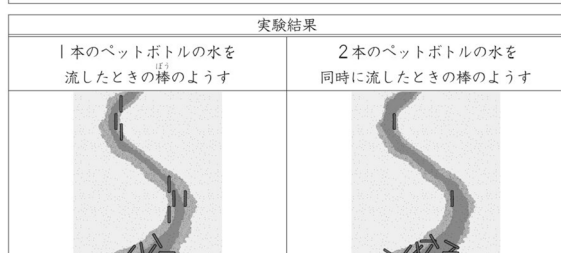
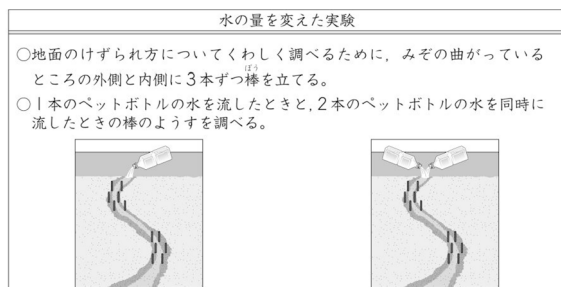
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		領域	学習学年	評価の観点	問題形式	正答率			無解答率		
			知識	活用					千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差	
1 (1)	野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって野鳥のひなを観察できる方法を構想できる		○	生	4	関	選	82.8	0.7		0.1	0.1	
1 (2)	鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる		○	生	4	思	選	77.0	0.8		0.1	0.0	
1 (3)	腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	○		生	4	知	短	79.9	0.5		4.0	0.2	
1 (4)	人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる		○	生	4	思	選	58.3	1.7		0.5	0.1	
2 (1)	流されてきた土や石を積みこませる水の働きを表す言葉を選ぶ	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	○		地	5	知	選	84.5	0.9		0.2	0.1	
2 (2)	流れる水の働きによる土地の侵食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる		○	地	5	思	選	55.8	0.4		0.4	0.1	
2 (3)	一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる		○	地	5	思	記	18.7	-1.4		1.2	0.2	

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		領域	学習学年	評価の観点	問題形式	正答率			無解答率		
			知識	活用					千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差	
2 (4)	上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる	課題改善 (H24)	○	地	5	思	選	60.2	0.4		0.4	0.1	
									77.2	1.7		1.4	-0.3	
3 (1)	風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる		○	エ	4	思	選	64.9	1.4		0.3	0.0	
3 (2)	回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ	電流の流れ方について予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	課題改善 (H27)	○	エ	4	思	選	47.9	0.2		0.6	0.1	
									55.0	1.0		0.7	0.0	
3 (3)	回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる	課題改善 (H27)	○	エ	4	思	選	59.3	-0.1		0.8	0.2	
									53.4	1.7		1.1	0.0	
3 (4)	目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる	課題改善 (H24)	○	エ・地	4・3	思	選	42.5	0.6		0.7	0.1	
									66.9	1.3		0.5	-0.1	
4 (1)	ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ	ろ過の適切な操作方法を身に付けている		○	物	5	技	選	73.0	1.9		0.6	0.1	
4 (2)	海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ	より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる		○	物	5	思	選	90.2	0.8		0.7	0.1	
4 (3)	食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる		○	物	5	思	選	45.9	3.2	△	1.5	0.2	
4 (4)	食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる		○	物・地	4・5・4	思	記	37.5	1.6		9.7	0.8	

小学校・理科【課題の見られた設問の例】

2(3)	問題の概要・趣旨 一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く	正答率(%)	
		県	差
		18.7	-1.4

※「差」は、全国平均との差を示している。



(3) 上の実験の結果から、川を流れる水の量が増え、川の曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるようにして書きましょう。

- 1 外側も内側もけずられる。
- 2 外側も内側もけずられない。
- 3 外側だけがけずられる。
- 4 内側だけがけずられる。

○第5学年の指導内容である。本設問の正答率は、本県で18.7%であり、より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題があり、指導の充実が求められる。正答は「1」と解答し、「みぞの曲がっているところの外側と内側の両方とも棒がたおれたから」など、実験結果について、溝の曲がっているところの外側と内側の両方で棒が倒れた様子を示す趣旨の理由を少なくとも解答しているものである。誤答については、「3」と解答している割合が、本県では47.9%である。実験で一度に流す水の量を増やしたときに、溝の曲がっているところの外側と内側の両側とも棒が倒れているにも関わらず、外側だけがけずられている選択肢を選んでいることから、知識で解答し、実験結果を基に分析して考察することができていないと考えられる。

○学習指導に当たっては、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするためには、観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるようにすることが大切である。本設問のように、実験結果である倒れた棒の本数を表などに整理して、考えの根拠となる事実を明確にすることや、事実（条件と結果）と、その解釈（結果から考えられること）の両方を整理して説明する学習活動が考えられる。

4(4)	問題の概要・趣旨 食塩水を熱したときに食塩が蒸発するのかという問題について、実験を通して導きだした結論を書く	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		37.5	+1.6	9.7	+0.8

ゆかりさんは、実験の結果からいえることを、下のようにまとめました。

【実験の結果からいえること】 水にとけた物は蒸発しない。

この実験の結果からそこまでいいのかな？



(4) ゆかりさんが【実験の結果からいえること】としてまとめた内容は、

【問題】に対するまとめとしてふさわしくありません。

ふさわしいまとめになるように書き直しましょう。

○第4、5学年の指導内容である。本設問の正答率は、本県で37.5%であり、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することに課題がある。無解答率が本県で9.7%となっている。正答は「食塩水の食塩は、蒸発しない」など、食塩のみが蒸発しないことを示す趣旨で解答しているものである。誤答は、「結論またはその根拠として、溶かした食塩が残る様子を示す趣旨を記述しているもの」と解答している割合が、本県では17.0%である。

○学習指導に当たっては、実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめができるようにするためには、問題を確認し、実験などで得られた結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討することが大切である。

③ 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 知識、活用ともに全国と同程度である。 ◇ 領域別にみると「物質」は平成24年度、平成27年度と同様に全国を上回り、「エネルギー」は、平成27年度と比較して上昇した。 ◇ 問題形式別にみると「選択式」は、平成27年度と比較して上昇した。
	課題	◆ 知識、活用ともに、継続して低下傾向にある。 ◆ 問題形式別にみると「記述式」は、低下傾向である。

物 質	◇ 海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断した内容を選ぶ設問【4(2)】(千葉90.2%、全国89.4%)では、全国と同程度で、相当数の児童ができています。ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ設問【4(1)】(千葉73.0%、全国71.1%)の正答率は、全国を上回っている。 ◆ 食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ設問【4(3)】(千葉45.9%、全国42.7%)と、食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く設問【4(4)】(千葉37.5%、全国35.9%)では、全国を上回ったが、全国的に正答率は低く、課題がある。
エネルギー	◇ 風が吹く方向を変えるためにモーターの回転が逆になる回路を選ぶ設問【3(1)】(千葉64.9%、全国63.5%)の正答率は、全国を上回った。 ◆ 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ設問【3(4)】(千葉42.5%、全国41.9%)では、全国を上回ったが、平成24年度の同様の問題と比較して正答率が低下しており、課題がある(平成24年度：千葉66.9%、全国65.6%)。
生 命	◇ 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ設問【1(1)】(千葉82.8%、全国82.1%)では、全国と同程度で、相当数の児童ができています。腕を曲げることのできる骨と骨のつなぎ目を表す言葉を書く設問【1(3)】(千葉79.9%、全国79.4%)、鳥の翼と人の腕のつくりについてのまとめから、どのような視点を基にまとめた内容なのかを選ぶ設問【1(2)】(千葉77.0%、全国76.2%)の正答率は、全国を上回っている。
地 球	◇ 流されてきた土や石を積もらせる水の働きを表す言葉を選ぶ設問【2(1)】(千葉84.5%、全国83.6%)では、正答率は全国と同程度で、相当数の児童ができています。 ◆ 一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く設問【2(3)】(千葉18.7%、全国20.1%)の正答率は、全国をやや下回っている。実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することで、より妥当な考えをつくりだす指導をすることが大切である。

授業アイディア例

理科
TYPE
I・III
②(3)

「曲がった川に大雨が降り、一度に流れる水の量が増えると、土地の様子はどのように変わるのだろうか」～より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する～
実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにすることに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、この課題を解決するために、結果を素直に整理し、事実（条件と結果）と、その解釈（結果から考えられること）の両方を整理して説明する授業展開を紹介します。

授業アイディア例

単元名 第5学年「流水の働き」(全14時間) (本時11/14、13/14)

第1次(4時間) まっすぐな川や曲がった川に水を流して調べ、流れる水には、土地を侵食し、石や土などを運搬し、堆積させる働きがあることを理解できるようにする。

第2次(5時間) 土地の傾きが大きい上流から平らな下流になるにつれ、流れは緩やかになり、川幅は広く、角張った大きな石は流れていくうちに、削られて丸い小さな石になることを理解できるようにする。

第3次(5時間) 前時までに学習は、「まっすぐな川で流れる水の量が離れたときには、一度に流れる水の量がどのくらいが土地を削ったり、石や土を運んだりする働きが大きくなり、土地の様子の变化に違いがある」という考えを整理している。

1 (体験活動Ⅰ) 事象への働き(1/5)
曲がった川で、流れる水の量が一度に増えたときの土地の様子の变化についての予想を話し合う。

問題 曲がった川に大雨が降り、一度に流れる水の量が増えると、土地の様子はどのように変わるのだろうか。

予想や仮説
あやか 曲がった川では、曲がっているところの外側がけずられたから、水の量が増えると外側がより多くけずられて、内側はより多くのすなや土がけずられると思う。

かつや まっすぐな川で流れる水の量が離れたときには、すなや土がけずられなくなった。曲がっている川でも、すなや土がけずられなくなったから、曲がった川でも、すなや土がけずられなくなった。

実験計画 川の曲がっているところの内側と外側に棒を立て、1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒の様子を班で調べる。

結果の見通し
あやか 川の曲がっているところの外側のほうは6本全部がたおれて、内側のほうは1本もたおれず、すなや土がたい積すると思う。

かつや 上流も下流も、内側と外側の両側のほうはほとんどがたおれると思う。

実験結果
結果 一度に流す水の重とたおれたぼうの数(1ばん)

川	内側	外側	内側	外側	内側	外側
1本	0本	2本	2本	0本	2本	3本
2本同時	2本	3本	2本	2本	3本	3本

2 (言語活動Ⅰ) 問題、予想や仮説、観察・実験計画(2/5)
予想を基に結果を見通し、実験方法を構想する。

3 (体験活動Ⅱ) 観察・実験(3/5)
流水実験装置に水を流し、水の流れる様子や土の削られ方をグループで調べる。

4 (言語活動Ⅱ) 結果の整理、考察、結論(4/5)
どのような結果でしたか。班ごとに実験結果を発表し、確認しましょう。

あやか ペットボトル2本分の水を同時に流したときは、上流でも下流でも曲がっているところの内側と外側の両側でぼうがたおれました。内側に立てたぼうは1本ずつ残ったけれど、ほとんどがたおれたことが表から読み取れます。

(国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」より)

課題の見られた問題の概要と結果

② 地球に関する問題 (地下水による土地の変化)

②(3) 正答率 **20.2%**
一度に流す水の重と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が離れたときの地面の削られ方を調べ、選んだわけを書く

学習指導要領における区分・内容

(第5学年)
B 生命・地球 (3) ウ

考察
あやか ペットボトル1本分の水を流したときは、上流でも下流でも曲がっているところの外側のほうはたおれて、内側のほうはたおれませんでした。でも、2本分の水を同時に流すと、外側も内側もぼうがたおれました。同時に流す水の量を増やすことによって、たおれた内側のぼうが0本から4本に増えました。

考察
かつや 「ぼうがたおれた」というのは実験結果が書いていないよ。「実験結果から考えられること」についてもう書いてほしいと思うよ。

教師 考察をノートに書いてから、話し合おう。考察には、実験の結果と「事実」を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるようにしよう。

事実
一度に流す水の量を増やすと、川の曲がっているところの内側でも外側でもぼうがたおれた。結果から考えられること。

解釈
内側も外側もしん急の働きが大きくなった。結果から考えられること。

結論
このように、事実と解釈を分けて、考察を書けるようにしよう。

教師 棒の数などの実験結果という事実と、結果から考えられることの間を表現するとわかりやすい考察になりますね。条件も正確に伝えよう。

結論
曲がった川に大雨が降り、一度に流れる水の量が増えると、流れる水の働きが大きくなり、川の形が大きく変わる。

5 (言語・体験活動Ⅱ) 活用問題(5/5)
様々な川の写真を基に流れる水の働きについてのまとめを行う。また、自然災害について話し合う。

本授業アイディア例 活用のポイント

- 傾けた棒の数を表などにまとめることで、結果を定量的に考えることができるようにします。川の上下と下流、カーブの内側と外側に立って棒の数の変化を定量的に調べ、結果を表などにまとめることで、児童が土地の様子の变化を捉えることができるようになります。
- 考察では、観察、実験結果を基に事実と解釈の両方を示しながら自分の考えを説明できるようにします。考察においては、実験結果という事実とその解釈の両方を整理することが、よりの確かな説明になることを捉えられるように指導することが考えられます。考察を行う際には、事実（条件と結果）と、その解釈（結果から考えられること）の両方を整理して説明することが大切です。

参照▶「平成30年度 報告書 小学校 理科」P.32～P.38, 「平成30年度 解説資料 小学校 理科」P.26～P.35

(6) 中学校理科

① 全体的な結果

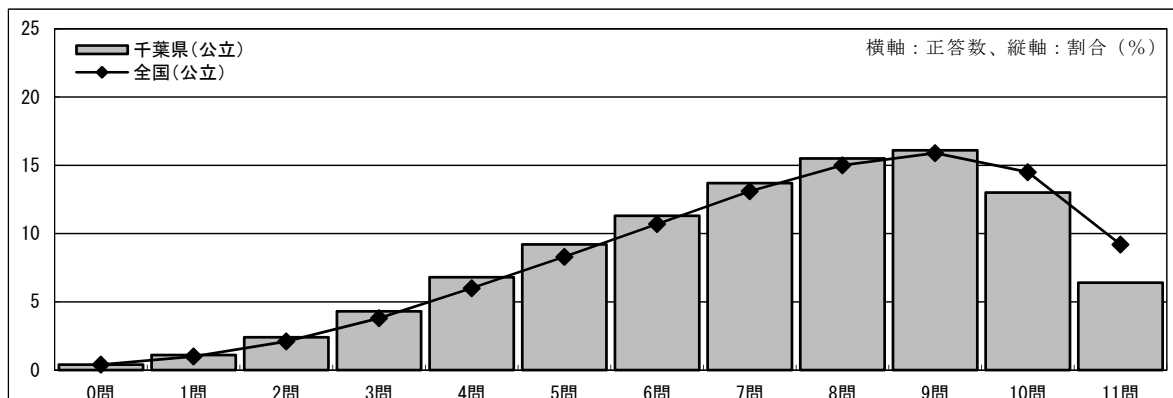
ア 正答数の分布

*「A～D層」について

- ・各層は全国（公立）の児童を正答数の大きい順に整列させ、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っている。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称する。正答数が同じ場合は、上位の層に含むため、25%を大きく超える場合がある。
- ・千葉県的人数比率は、全国のA～D層を基準に示してある。

【知識】

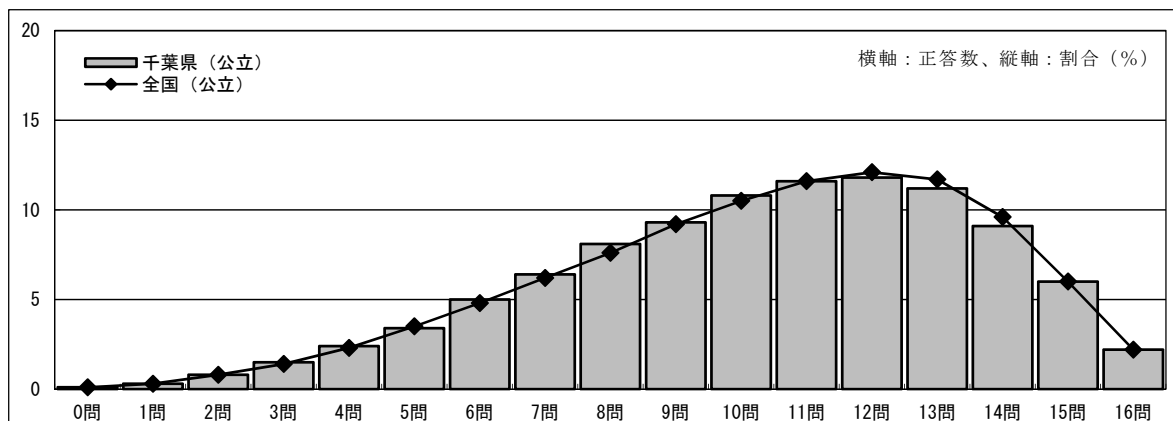
平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低く、C層、D層の割合が高くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		*D層 0～5問	*C層 6～7問	*B層 8問	*A層 9～11問
千葉県 (公立)	7.2問/ 11問	66 %	8.0	2.4	千葉県 (公立)	24.2 %	25.0 %	15.5 %	35.5 %
全 国 (公立)	7.5問/ 11問	67.9 %	8.0	2.4	全 国 (公立)	21.6 %	23.8 %	15.0 %	39.6 %

【活用】

平均正答率は、全国と同程度である。正答数の分布は、全国と比べA層の割合が低くなっている。



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差		*D層 0～7問	*C層 8～10問	*B層 11～12問	*A層 13～16問
千葉県 (公立)	10.3問/ 16問	64 %	11.0	3.2	千葉県 (公立)	19.9 %	28.2 %	23.4 %	28.5 %
全 国 (公立)	10.4問/ 16問	64.9 %	11.0	3.2	全 国 (公立)	19.4 %	27.3 %	23.7 %	29.5 %

イ 調査区分ごとに見た傾向（全国を100としたときの指数で示している）

知識／活用

「知識」「活用」とともに全国と同程度である。

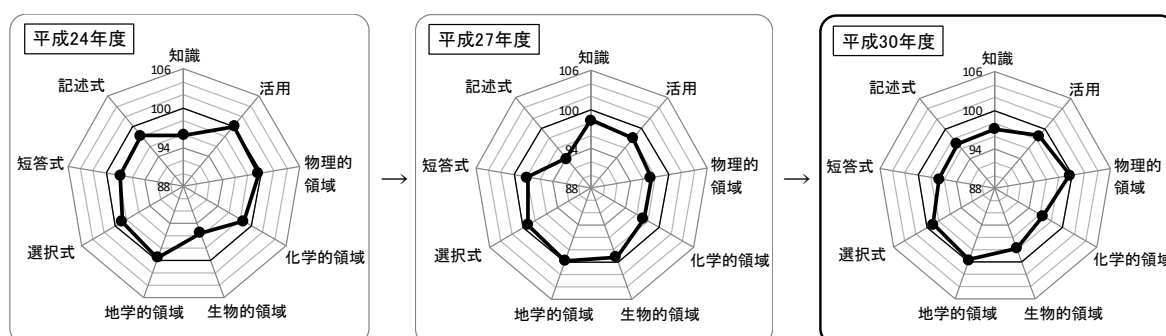
領域

「化学的領域」「生物的領域」は全国を下回り、平成27年度と比較して低下している。

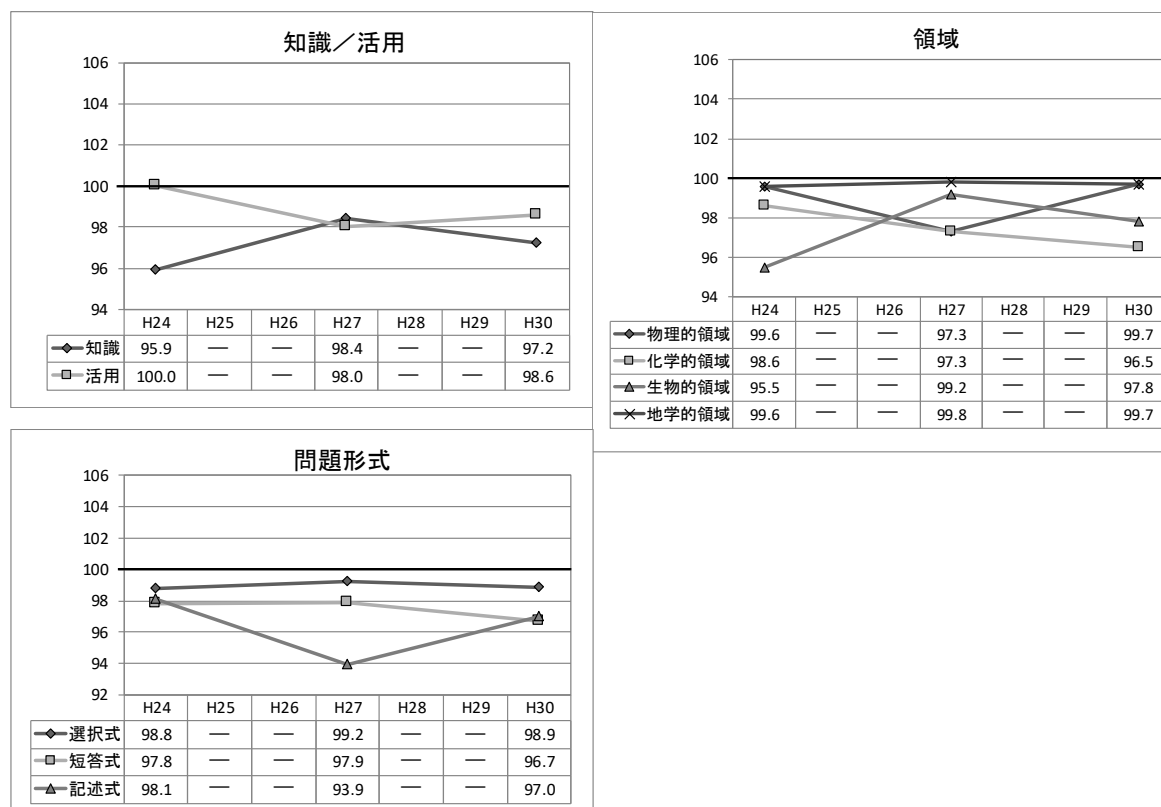
問題形式

「選択式」は全国をやや下回り、「短答式」は全国を下回っている。「記述式」は全国を下回っているが、平成27年度と比較して上昇している。

○チャートグラフ



○経年変化グラフ



② 各設問の結果

(凡例)

〔出題の趣旨〕

「課題改善」 過去の調査結果からの課題を踏まえた問題

「同一」 過去の調査と同一の問題

〔領域〕 学習指導要領の領域

「物」 物理的領域 「化」 化学的領域

「生」 生物的領域 「地」 地学的領域

〔評価の観点〕

「関」 自然事象への関心・意欲・態度 「思」 科学的な思考・表現

「技」 観察・実験の技能 「知」 自然事象についての知識・理解

〔問題形式〕

「選」 選択式 「短」 短答式 「記」 記述式

□ 全国を上回るもの

■ 全国を下回るもの（課題あり）

△：全国との差3.0ポイント以上

▼：全国との差3.0ポイント以下

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		領域	学習学年	評価の観点	問題形式	正答率			無解答率		
			知識	活用					千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差	
1 (1)	光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探究する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかをみる	光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる		○	物	1	思	選	62.7	1.0		0.1	0.0	
1 (2)		テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる		○	物	1	思	選	74.3	0.6		0.2	0.0	
2 (1)	理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる		○	生	2	思	選	86.8	0.6		0.1	0.0	
2 (2) 低い濃度		濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる	○		化	1	知	選	76.2	-0.3		1.1	-0.1	
2 (2) 3.0%の濃度		濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	○		化	1	技	選	42.0	-4.9	▼	1.2	-0.1	
		(H27)							41.1	-3.9	▼	20.0	2.4	
2 (3)		「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる		○	生	2	思	選	79.9	0.2		0.2	0.0	
2 (4)		1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる		○	生	2	思	記	60.5	-0.8		10.1	0.6	

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		領域	学習学年	評価の観点	問題形式	正答率			無解答率			
			知識	活用					千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差		
3 (1)	コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる		○	地	2	思	選	38.5	1.0		0.2	0.0		
3 (2)		太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている	○		地	2	知	選	68.4	1.1		0.4	0.0		
3 (3)		シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる		○	地	2	思	記	52.3	0.0		9.1	1.2		
4 (1)	図書便りに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探究する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる	○		化	1	技	選	73.0	-0.4		0.5	0.1		
4 (2)		炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる		○	化	2	思	記	41.6	-2.5		17.1	1.6		
4 (3)		化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる		○	化	2	思	記	44.8	-4.6	▼	19.7	3.5	▼	
5 (1)	「運転中の運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探究する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	神経系の働きについての知識を身に付けている	○		生	2	知	短	51.4	-5.8	▼	8.1	1.0		
5 (2)		反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる		○	生	2	思	選	62.2	-0.6		0.5	0.0		
6 (1)	自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている	○		物	2	技・知	選	70.5	0.0		0.4	0.0		
6 (2) 電流		実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる	○		物	2	技	短	76.1	-1.1		12.8	1.2		
6 (2) 抵抗		オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	課題改善 (H27)	○		物	2	知	短	50.2	-1.7		16.3	1.7	
									57.7	-1.9		17.2	1.6		
6 (3)		豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる		○	物	2	思	選	91.5	0.1		0.6	0.0		

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	枠組み		領域	学習学年	評価の観点	問題形式	正答率			無解答率		
			知識	活用					千葉県（公立）	全国との差		千葉県（公立）	全国との差	
7 (1)	緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探究する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる	地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている	○		地	1	知	選	51.8	-3.3	▼	0.4	0.0	
7 (2)		緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できる		○	地	1	思	選	78.0	-0.5		0.6	0.1	
7 (3)		初期微動継続時間の長さと震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できる		○	物・地	1	思	短	93.9	-0.5		4.0	0.4	
8 (1)	火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探究して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる また、探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探究を深めようとしているかどうかをみる	アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている	○		化	2	知	選	80.2	-3.3	▼	0.6	0.0	
8 (2)		発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる		○	化	2	思	選	71.7	-0.3		0.6	0.0	
8 (3)		探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探究を深めようとしているアルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見い出すことができる		○	化	2	関・思	記	72.1	-1.9		22.4	2.1	
9 (1)	部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	○		生	1	知	選	84.3	-3.7	▼	0.6	0.0	
9 (2)		植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる		○	地	2	思	記	20.6	1.2		24.7	3.3	▼

中学校・理科【課題の見られた設問の例】

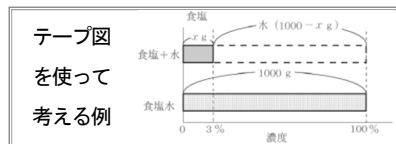
2(2) 3.0% の濃度	問題の概要・趣旨 食塩水の質量パーセント濃度が3.0%になる溶かし方を選ぶ	正答率(%)	
		県	差
		42.0	-4.9

※「差」は、全国平均との差を示している。

3%の食塩水をつくる場面



- (2) 食塩水の質量パーセント濃度が低いものを、上のA、Bの中から1つ選びなさい。
また、食塩水の質量パーセント濃度が3.0%のものを、上のA、Bの中から1つ選びなさい。



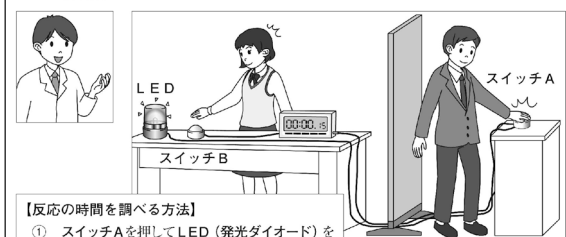
○第1学年の指導内容である。溶液（食塩水）の質量に対する溶質（食塩）の質量の割合（質量パーセント濃度）を表す技能に課題があり、指導の充実が求められる。正答は「A」である。なお、特定の水溶液の質量パーセント濃度を求める問題は、平成24年度・理科4(1)（本県正答率50.3%・差+0.5）、平成27年度・理科1(1)（本県正答率41.1%・差-3.9）であったことから、引き続き課題があると考えられる。

○学習指導に当たっては、水溶液の濃度を量的に扱うことは、水溶液における粒子の基本的な見方や概念を形成する上で大切である。溶質と溶媒の割合の関係を視覚的に捉えることができるようにするために、小学校の算数科の学習で使われている線分図（テープ図）を利用することが考えられる。また、身近なものとしてしょうゆや即席みそ汁などの食品を取り上げ、実際にそれに含まれる食塩の質量パーセント濃度を求める学習場面を設定することも考えられる。

5(1)	問題の概要・趣旨 「運転中の運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れる」のではないかとという予測から、科学的に探究する場面において、刺激と反応における経路の名称を答える	正答率(%)		無解答率(%)	
		県	差	県	差
		51.4	-5.8	8.1	+1.0

日常生活との関連を考える場面

先生：「反応の時間を測定する装置」で刺激に対する反応の時間を測定したら、約0.2秒でした。



【反応の時間を調べる方法】

- ① スwitchAを押してLED（発光ダイオード）を点灯させる。
- ② LEDの点灯を見たらSwitchBを押す。
- ③ ①から②までの時間が表示される。

先生：ところで、バスの注意書きの「お客様へお願い」を見たことがありますか。
なぜ話しかけてはいけないのでしょうか。
生徒：信号を見てブレーキを踏むのが遅れるからだと思います。
先生：なるほど。
でも、信号を見てブレーキを踏むのが遅れることを確かめることはできません。
そこで、運転中の運転士に話しかけてはいけない理由を探究するために、「反応の時間を測定する装置」を使って確かめることができる実験を計画しましょう。

○第2学年の指導内容である。神経の名称や、感覚器官が受けた刺激が脳に伝わる経路の名称を答えることに課題があり、指導の充実が求められる。正答は「感覚」「視」と解答しているものである。誤答については、「中枢」と解答している割合が、本県では17.2%である。これは、感覚器官と脳をつなぐ神経を中枢神経であると誤って捉えており、神経系の働きの知識を身に付けていないと考えられる。

○学習指導に当たっては、動物が外界の刺激に適切に反応する仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと働きとを関連付けて捉える上で、感覚器官や神経系の基礎的・基本的な知識を習得することは大切である。外界からの刺激が受け入れられ、感覚神経、中枢神経、運動神経を介して反応が起こることを、観察・実験や日常の経験などを通して理解する学習場面を設定することが考えられる。例えば、動物が外界の刺激に適切に反応して生活している様子を観察したり、落とされたものさしをつかむなどの実験を行ったりすることが考えられる。

- (1) 下線部の反応の経路を下のように示したとき、☐ X に適する語句を書きなさい。

目 → ☐ X 神経 → 脳・脊髓 → 運動神経 → 筋肉

③ 成果と課題

全体的な状況	成果	◇ 知識、活用ともに全国と同程度である。 ◇ 領域別にみると「物理的領域」は、平成27年度と比較して上昇した。 ◇ 問題形式別にみると「記述式」は、平成27年度と比較して上昇した。
	課題	◆ 領域別にみると「化学的領域」は、平成24年度以降低下傾向である。 ◆ 生徒質問紙では、理科に関わる質問事項13項目(P66)中12項目で、全国を下回る結果となった。

物理的領域	◇ 豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘する設問【6(3)】(千葉91.5%、全国91.4%)、時間の長さや距離の知識と音の速さに関する知識を活用する設問【7(3)】(千葉93.9%、全国94.4%)については、相当数(正答率80%以上)の生徒ができています。 ◆ オームの法則を使って、抵抗の値を求める設問【6(2)抵抗】(千葉50.2%、全国51.9%)の正答率は、全国を下回った。平成27年度に出題された同様の設問においても、正答率は全国を下回っており(千葉57.7%、全国59.6%)、電圧・電流・抵抗の関係を確実に理解できるように指導することが大切である。
化学的領域	◇ アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を問う設問【8(1)】(千葉80.2%、全国83.5%)では、正答率が全国に比べて下回っていたが、相当数の生徒ができています。 ◆ 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを選ぶ設問【2(2)3.0%濃度】(千葉42.0%、全国46.9%)と、化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明する設問【4(3)】(千葉44.8%、全国49.4%)では、正答率が全国に比べて大きく下回っており、課題がある。
生物的領域	◇ 無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用する設問【2(1)】(千葉86.8%、全国86.2%)、植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を問う設問【9(1)】(千葉84.3%、全国88.0%)については、相当数の生徒ができています。 ◆ 神経系の働きについての知識を問う設問【5(1)】(千葉51.4%、全国57.2%)では、正答率が全国に比べて大きく下回っている。神経系の働きについての知識を身に付けることができるように指導することが大切である。
地学的領域	◇ 太平洋高気圧(小笠原気団)の特徴についての知識を問う設問【3(2)】(千葉68.4%、全国67.3%)の正答率は、全国を上回った。 ◆ 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用する設問【3(1)】(千葉38.5%、全国37.5%)、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する設問【9(2)】(千葉20.6%、全国19.4%)は全国を上回ったが、全国的に正答率は低く、課題がある。

指導の狙い

飽和、質量パーセント濃度、溶解度についての理解を深めるとともに、科学的な思考力や表現力を育成する。

授業アイディア例

学習の流れ

水溶液の濃度を質量パーセント濃度で表す。(第1時)

「飽和食塩水の質量パーセント濃度を調べる」(第2時)
 ①飽和食塩水をつくり、その質量パーセント濃度を計算する。
 ②食塩水の濃度に関する他者の考えに対して、科学的な根拠を踏まえて説明する。
 ③身近な飲み物に質量パーセント濃度を利用する。

飽和食塩水の質量パーセント濃度はいくらだろう。(第2時)

1. 飽和食塩水の質量パーセント濃度を予想する。



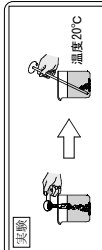
飽和食塩水の質量パーセント濃度はどうなと思いますか。



もうそれ以上溶けなくなるのが飽和だから100%になると思います。



それでは飽和食塩水をつくってみましょう。水100gに食塩を少しずつ溶かして、飽和したときの食塩の質量を調べましょう。



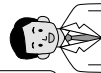
2. 実験結果を基に、質量パーセント濃度を計算する。



実験から、水100gに食塩35gを溶かしたら飽和食塩水になることが分かりましたね。水100gに物質を溶かして飽和水溶液にしたときの、溶けた物質の質量を「溶解度」といいます。飽和食塩水の質量パーセント濃度を計算してみましょう。

ワークシート(1)

$$\begin{aligned} \text{質量パーセント濃度} [\%] &= \frac{\text{溶質の質量} [g]}{\text{水溶液の質量} [g]} \times 100 [\%] \\ &= \frac{35g}{100g} \times 100 = 35\% \end{aligned}$$



あれ？どこかおかしいところはないですか。質量パーセント濃度は「水溶液の質量」に対する「溶質の質量」の割合ですよ。



食塩が35gで、それを水の100gで割っていたから…そうか、100gだと水だけだから、水と食塩の合計の135gで割らなくてはいいんですね。

ワークシート(1)

$$\begin{aligned} \text{質量パーセント濃度} [\%] &= \frac{\text{溶質の質量} [g]}{\text{水溶液の質量} [g]} \times 100 [\%] \\ &= \frac{35g}{100g + 35g} \times 100 = 35\% \end{aligned}$$



よくできましたね。

課題の見られた問題の概要と結果

- ①(1) 濃度10%の食塩水1000gをつくるために必要な食塩と水の質量を求める。
 ②(4) 食塩水がいくらかでも濃くできるわけではない理由を説明する。

正答率 52.0%
 正答率 48.3%

学習指導要領における内容

〔第1学年〕 第1分野 (2) 身の回りの物質 イ 水溶液

(7) 物質の溶解

物質が水に溶ける様子の観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見いだすこと

(4) 溶解度と再結晶

水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けてとらえること。

3. 予想と計算結果を比較する。

それでは、計算した値と、自分の予想した値を比較してみてください。



食塩が水に溶ける量には限度があることが分かりました。質量パーセント濃度は、28%になりました。私は、飽和になるともう食塩が溶けないので100%と予想していたのですが、違うんですね。



そうですね。ワークシート(2)に実験結果から分かったことをまとめ、さらに、濃い食塩水に関する「ある人の考え」について考えてみてください。

ワークシート(2)

- 実験結果から考えられることをまとめてみましょう。
 溶ける量について 食塩が水に溶ける量には限度がある。
 質量パーセント濃度について 飽和食塩水は28%になる。
- 次の「ある人の考え」について、あなたはどうか考えますか。
 「古い卵を水の中に入れたら、沈んでしまいました。うすい食塩水の中では浮きました。それを見た人が、食塩水をどんどん濃くしていけばなんでも浮かせることができると考えました。」
 食塩水は水に溶ける量が決まっています。飽和してしまう。だから、なんでも浮かせることはできない。

4. 身近な飲み物に質量パーセント濃度を利用する。



身近な飲み物に含まれている物質について、次のワークシートで考えてみましょう。炭水化物は全部砂糖だとします。飲み物100mLの質量は100gとします。

ワークシート(3) 「飲み物の栄養成分表示の具体例」

栄養成分表示 100mL当り	炭酸飲料	
	エネルギー	炭水化物
	45 kcal	11.3 g
	タンパク質	0 mg
	脂質	0 mg
	炭水化物	11.3 g
	ナトリウム	0 mg

○ 炭酸飲料500mLの中の砂糖の質量を求めましょう。 : $11.3g \times \frac{500mL}{100mL} = 56.5g$

○ 炭酸飲料の砂糖の質量パーセント濃度を求めましょう。 : $\frac{56.5g}{100g} \times 100 = 56.5\%$

○ 炭酸飲料の砂糖の質量パーセント濃度を求めましょう。 : $\frac{11.3g}{100g} \times 100 = 11.3\%$

質量パーセント濃度は、理科の教科書の中だけでなく、身近な飲み物にも使うことができるんですね。



留意点

- 飽和食塩水の質量パーセント濃度と溶解度については、実際に飽和食塩水をつくるなど、飽和について体験を通して理解させるようにする。
- 身近な飲み物を例に、質量パーセント濃度を利用することで、理科を学ぶ意義や有用性を実感させ、質量パーセント濃度について理解を深めるようにする。

Ⅱ 結果の詳細

Ⅱ 結果の詳細
2 質問紙調査

2 質問紙調査

全国学力・学習状況調査結果チャート（７、８ページ参照）における各領域について、それぞれに該当する質問事項の中で顕著な特徴の見られるものを取り上げ分析した。さらに、「家庭学習の充実に向けて」「主体的・対話的で深い学びの充実に向けて」「自己肯定感に関する状況について」「指導改善サイクルの確立を目指して」に関わる質問事項については、８２ページ以降に詳述した。主に平成３０年度調査結果を中心に、質問事項によって経年変化や回答結果と正答率の関連及び散布図を活用した。

※以下の「肯定的回答」とは、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」、「よく行った、どちらかといえば行った」など肯定的な選択肢を選択した割合の合計である。

※文中の、「同程度」は全国との差が１.０ポイントの範囲内、「やや高い、やや低い」は全国との差が１.１～５.０ポイントの範囲内、「高い、低い」は全国との差が５.１～１０.０ポイントの範囲内、「著しく高い、著しく低い」は全国との差が１０.１ポイント以上であることを表している。

※表中の、「全国との差」欄の、は全国を下回ることを示しており、△は全国との差５.１ポイント以上、▼は全国との差５.１ポイント以下であることを示している。

※「散布図」は、各都道府県の肯定的回答の割合について、児童・小学校を横軸に、生徒・中学校を縦軸に対応させ、○印で示したものである。（■は千葉県、▲は全国平均を示している。）

（１）児童生徒質問紙調査

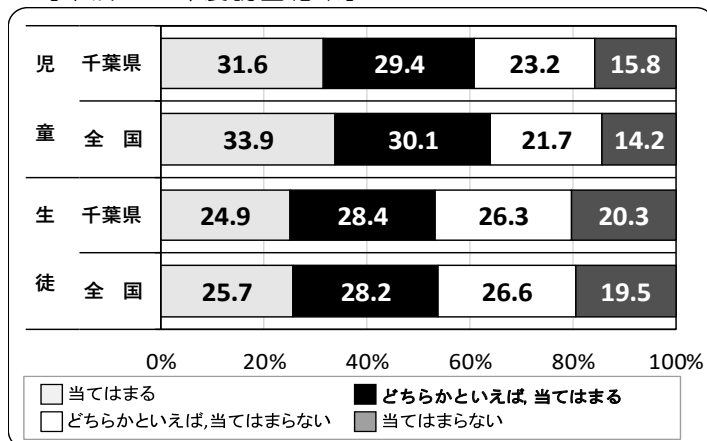
① 学習に対する関心・意欲・態度

ア 算数・数学への関心等

質問番号 児童 生徒	質問事項	児童(肯定的回答)		生徒(肯定的回答)	
		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
27 27	算数・数学の勉強は好きですか	61.0	-3.0	53.3	-0.6
28 28	算数・数学の勉強は大切だと思いますか	90.4	-1.7	81.6	-2.0
29 29	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	81.2	-2.2	68.3	-2.7
30 30	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか（小）／数学ができるようになりたいと思いますか（中）	71.8	-2.5	91.2	-1.3
31 31	算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	75.9	-2.5	67.5	-2.8
32 32	算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	64.3	-0.1	39.0	0.3
33 33	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.0	-1.3	70.0	-2.9

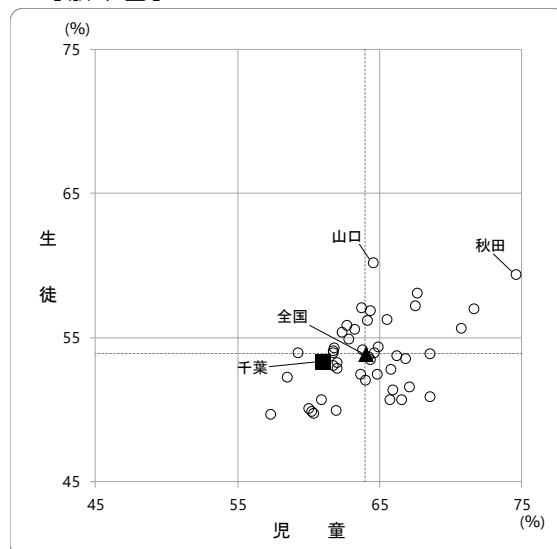
児 27 生 27	算数・数学の勉強は好きですか
--------------	----------------

【平成３０年度調査結果】



肯定的回答の割合は、児童は全国と比べてやや低い。

【散布図】

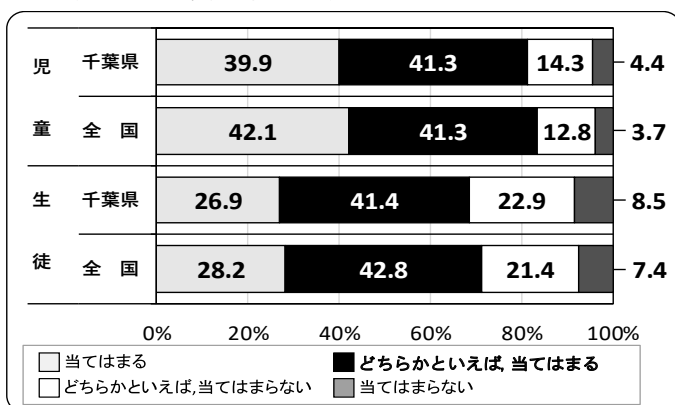


質問番号 児童 生徒	質問事項	児童(肯定的回答)		生徒(肯定的回答)	
		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
34 34	算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	77.4	-1.1	67.9	-1.3
35 35	算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ・根拠を理解するようにしていますか	79.5	-0.9	68.5	-1.9
36 36	算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	84.1	-1.7	80.7	0.1
37 37	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、どのように解答しましたか	67.1	-3.5	50.7	-4.8

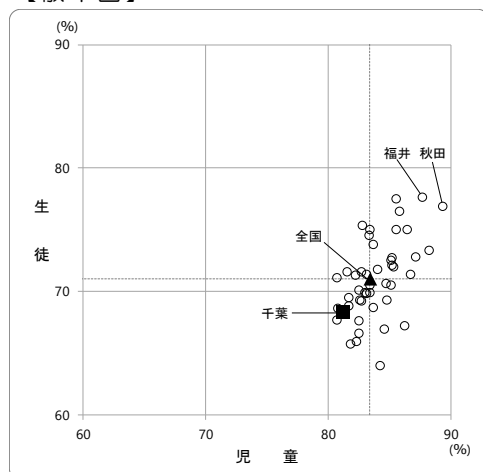
※37の「肯定的回答の割合」とは、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合である。

児 29 生 29	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか
--------------	----------------------

【平成30年度調査結果】



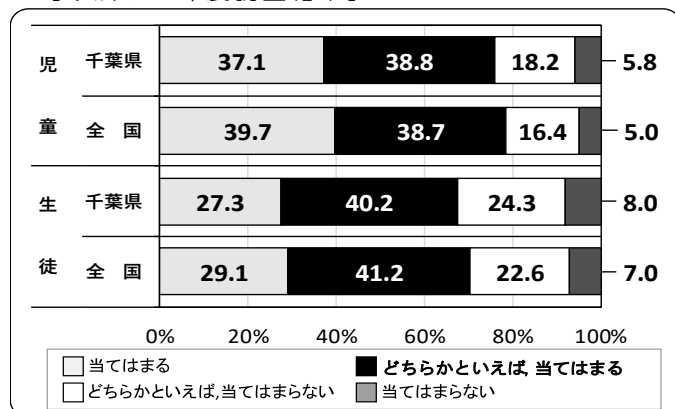
【散布図】



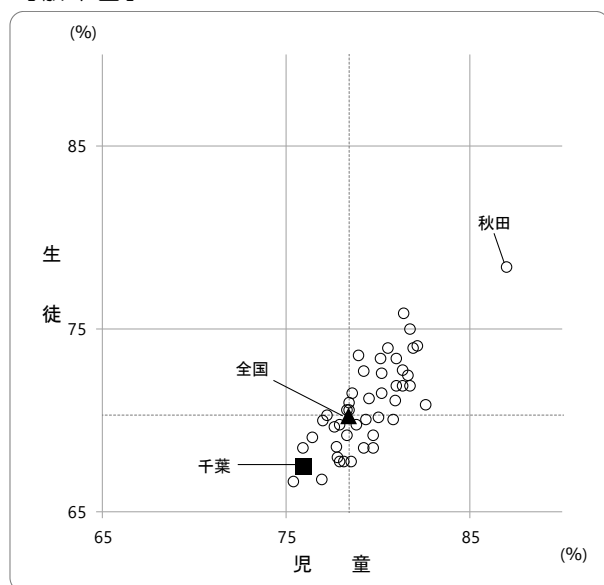
肯定的回答の割合について、児童は80%を超えているが、全国の中では下位に位置している。生徒は全国と比べてやや低い。

児 31 生 31	算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか
--------------	---

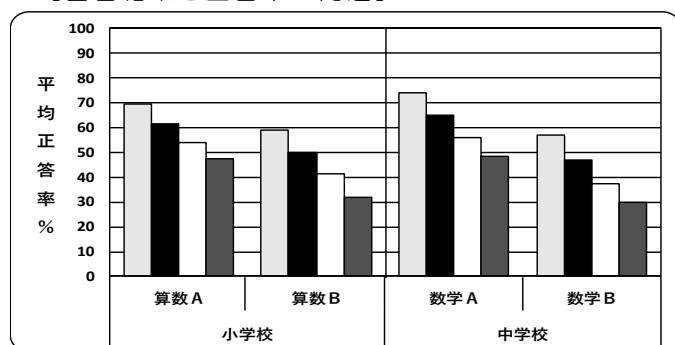
【平成30年度調査結果】



【散布図】



【回答結果と正答率の関連】



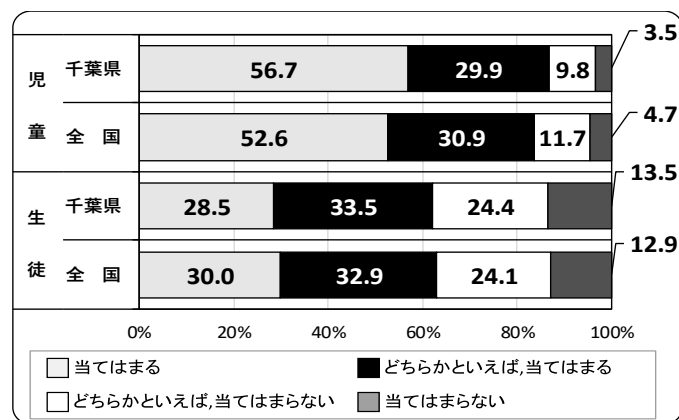
肯定的回答の割合について、児童生徒ともに全国と比べてやや低く、全国の中では下位に位置している。肯定的回答をしている児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。

イ 理科への関心等

質問番号	質問事項		児童(肯定的回答)		生徒(肯定的回答)	
			千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
38	38	理科の勉強は好きですか	86.6	3.1	62.0	-0.9
39	39	理科の勉強は大切だと思いますか	85.9	0.5	67.0	-3.6
40	40	理科の授業の内容はよく分かりますか	91.3	1.9	67.1	-2.9
41	41	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	86.9	-0.1	76.1	-1.5
42	42	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	65.9	1.2	44.2	-1.2
43	43	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	73.1	0.2	52.0	-3.7
44	44	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	27.9	1.8	22.0	-0.2
45	45	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか(小) / 理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか(中)	54.2	-0.3	39.4	-2.0
46	46	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか	87.2	-1.9	91.4	4.3
47	47	観察や実験を行うことは好きですか	89.6	-0.2	79.8	-2.3
48	48	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	75.6	0.4	57.1	-1.4
49	49	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか(小) / 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか(中)	81.5	-0.3	70.4	-1.9
50	50	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	68.0	-0.1	56.6	-2.4
52		5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか	88.8	1.3		
53		5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか	75.7	0.6		
54		今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか	83.3	1.3		

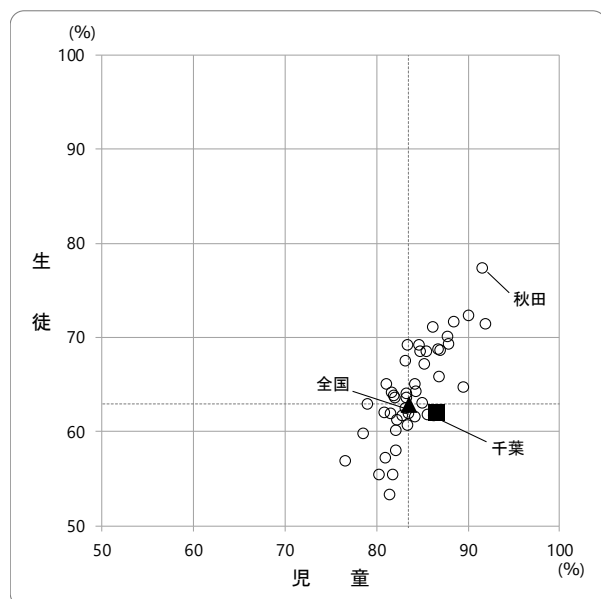
児 38 生 38	理科の勉強は好きですか
--------------	-------------

【平成30年度調査結果】



肯定的回答の割合は、児童は全国と比べてやや高く、生徒は同程度である。児童の理科への関心の高さは、継続して全国を上回っている。

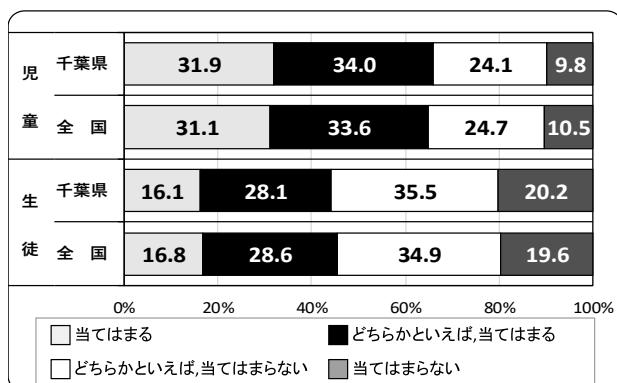
【散布図】



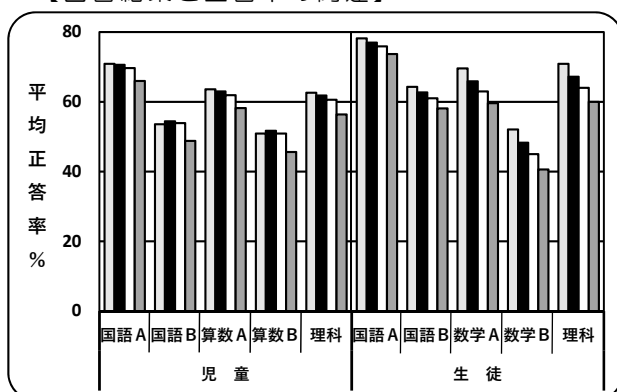
児 42
生 42

理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか

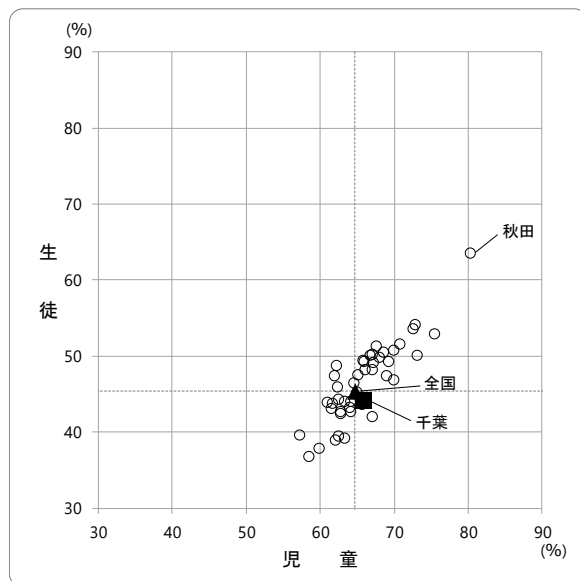
【平成30年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



【散布図】

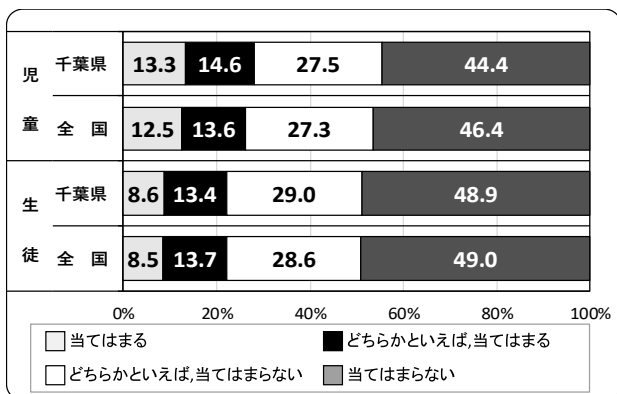


肯定的回答の割合は、児童は全国と比べてやや高く、生徒は全国と比べてやや低い。「普段の生活の中で活用できないか考えている」と回答した生徒ほど平均正答率が高い。

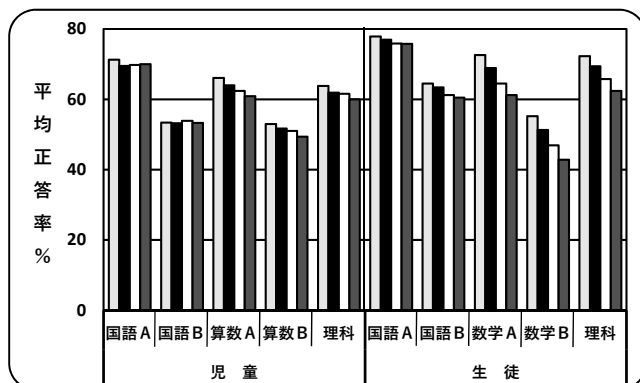
児 44
生 44

将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか

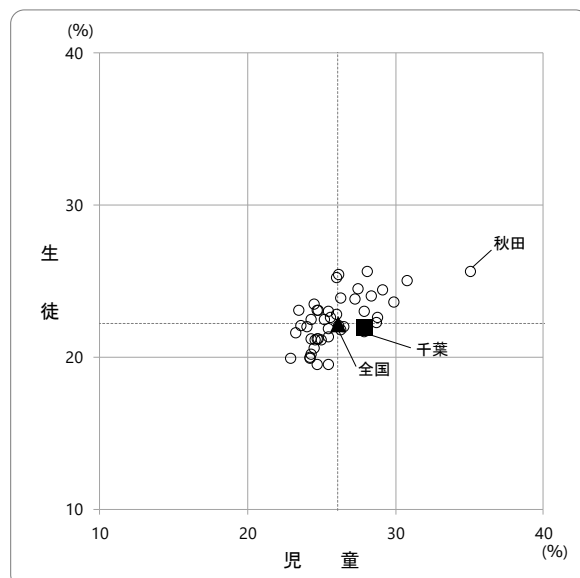
【平成30年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



【散布図】



肯定的回答の割合は、児童は全国と比べてやや高く、生徒は全国と同程度である。「理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う」児童生徒ほど、平均正答率が高い。

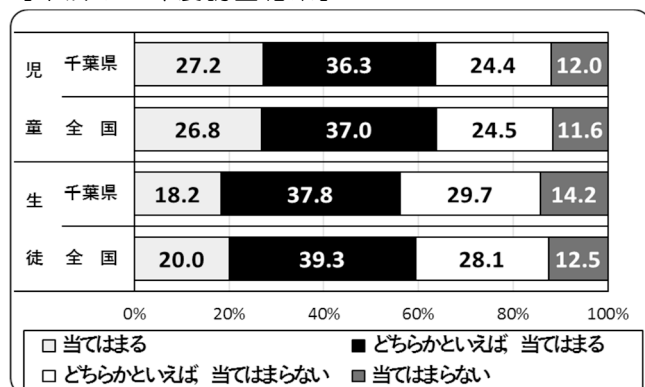
ウ 地域・社会への関心等

質問番号	児童 生徒	質 問 事 項	児童(肯定的回答)			生徒(肯定的回答)		
			千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
19	19	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	69.4	-5.0		59.8	-8.9	▼
20	20	今住んでいる地域の行事に参加していますか	54.8	-7.9	▼	39.6	-6.0	▼
21	21	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	63.5	-0.3		56.0	-3.3	
22	22	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	50.1	0.2		36.2	-2.5	
23	23	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	31.7	-4.4		44.9	-6.9	▼
24	24	地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	40.6	-1.0		25.1	-0.4	
25	25	新聞を読んでいますか	19.4	-0.5		12.3	-1.6	
26	26	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)	88.3	2.1		86.7	0.1	

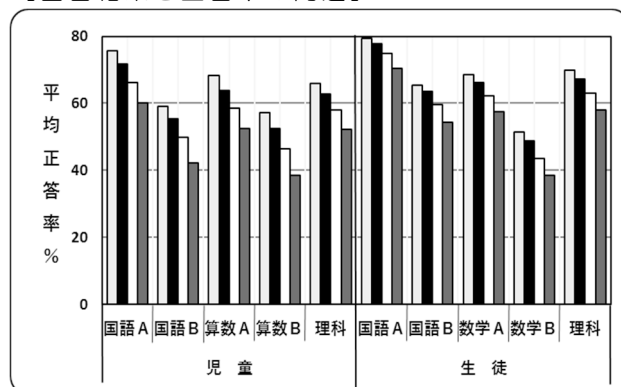
※25は「ほぼ毎日」「週に1〜3回程度読んでいる」、26は「よく見る」「時々見る」と回答した割合の合計である。

21 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

【平成30年度調査結果】



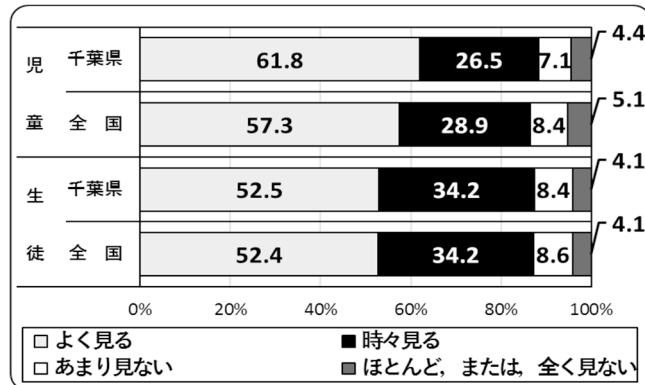
【回答結果と正答率の関連】



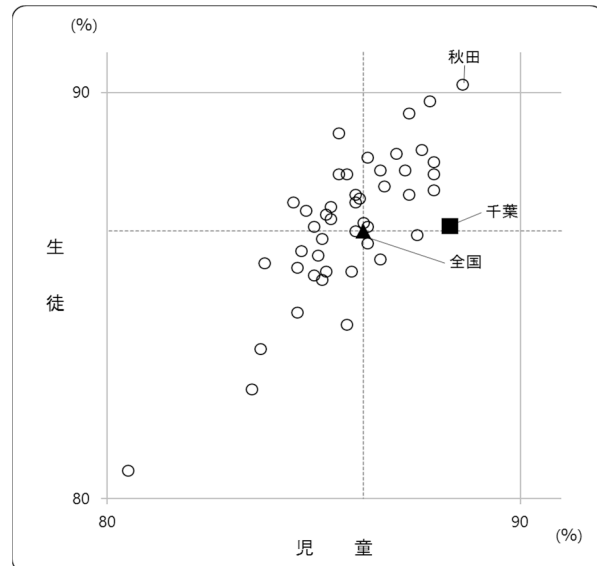
肯定的回答をしている割合は、児童は全国と同程度で、生徒はやや低い。肯定的回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

26 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか(携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)

【平成30年度調査結果】



【散布図】



肯定的回答をしている割合は、児童は全国よりやや高く、生徒は同程度である。ニュースを見ている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

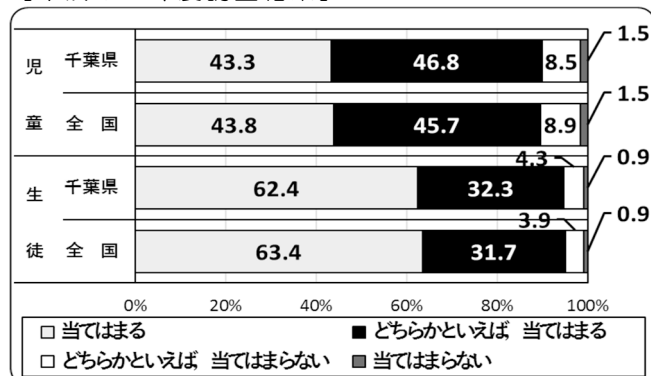
② 規範意識・自尊感情

ア 規範意識

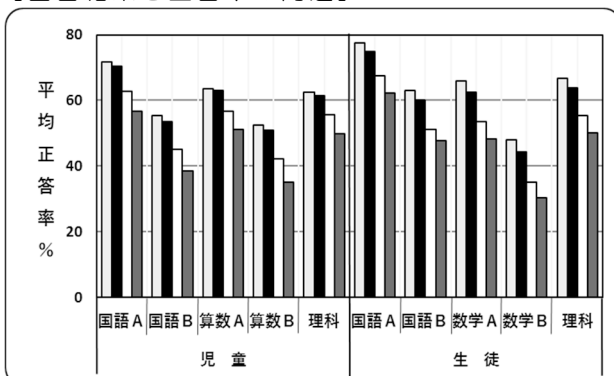
質問番号		質 問 事 項	児童(肯定的回答)			生徒(肯定的回答)		
			千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
4	4	学校のきまり・規則を守っていますか	90.1	0.6		94.7	-0.4	
5	5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.4	-0.4		94.8	-0.7	
6	6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.8	-0.4		94.3	-0.6	

4	学校のきまり・規則を守っていますか
---	-------------------

【平成30年度調査結果】



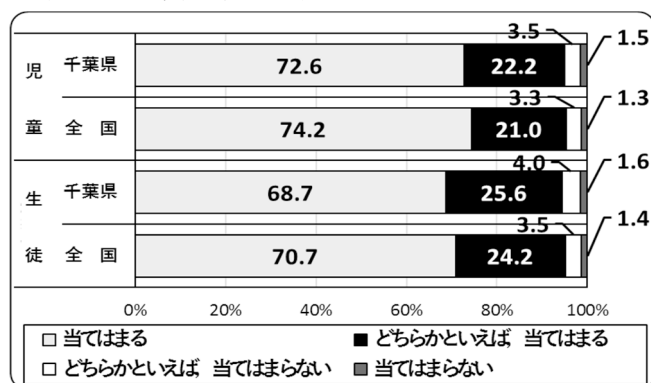
【回答結果と正答率の関連】



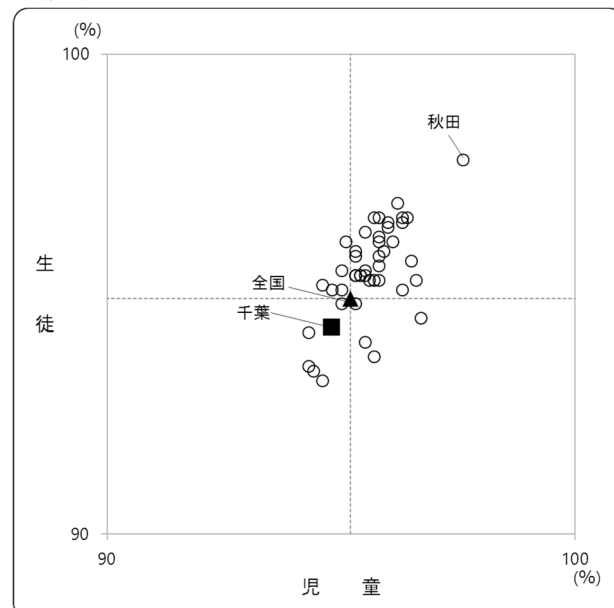
肯定的回答の割合は、児童生徒ともに90%を超えており、全国と同程度である。きまり・規則を守っている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

6	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
---	---------------------

【平成30年度調査結果】



【散布図】



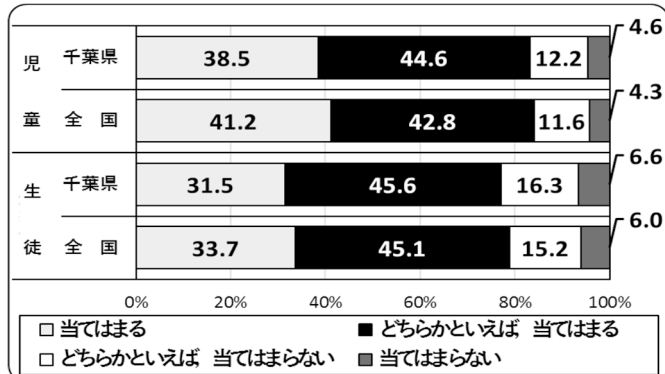
肯定的回答の割合は、児童生徒とも90%を超えており、全国と同程度である。人の役に立つ人間になりたいと思っている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

イ 自尊心

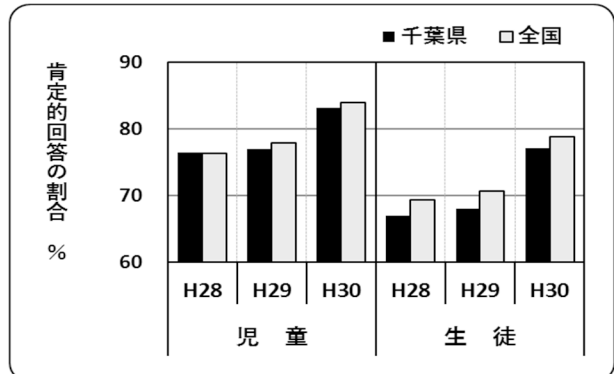
質問番号	質問事項		児童(肯定的回答)		生徒(肯定的回答)	
			千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
1	1	自分には、よいところがあると思いますか	83.1	-0.9	77.1	-1.7
3	3	将来の夢や目標を持っていますか	85.2	0.1	72.0	-0.4

1 自分には、よいところがあると思いますか

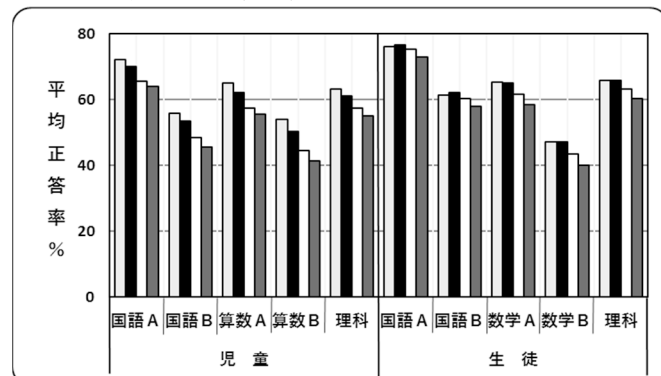
【平成30年度調査結果】



【経年変化】



【回答結果と正答率の関連】

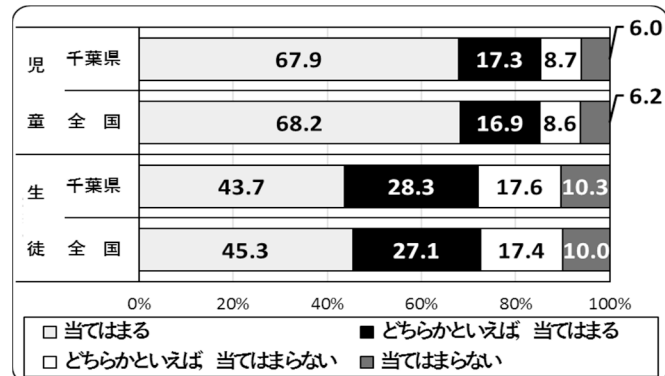


肯定的回答の割合は、児童は全国と同程度で、生徒はやや低い。肯定的回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

また、肯定的回答をしている児童生徒の割合は、年々増加している。昨年度と比べると、児童は 6.1 ポイント、生徒は 9.1 ポイント増加しており、児童生徒の自己肯定感が高くなってきている。

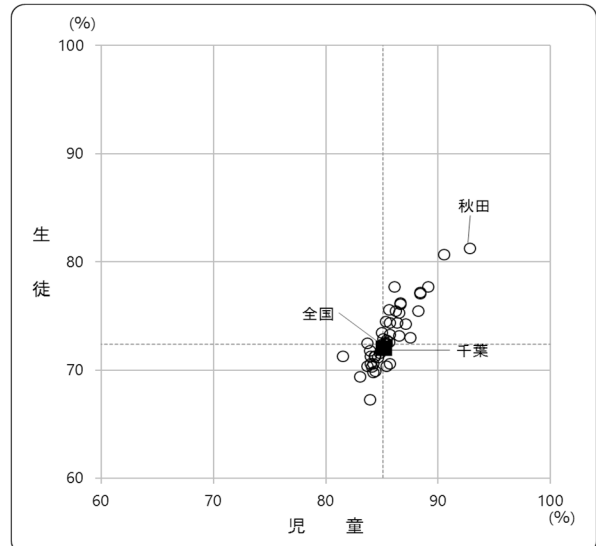
3 将来の夢や目標を持っていますか

【平成30年度調査結果】



肯定的回答の割合は、児童生徒とも全国と同程度である。昨年度と比べると、児童は大きな変化は見られないが、生徒はやや高くなっている。

【散布図】



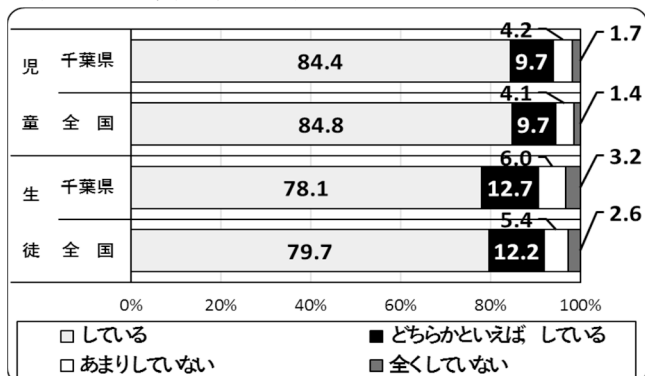
③ 学習の基盤となる活動・習慣

ア 生活習慣

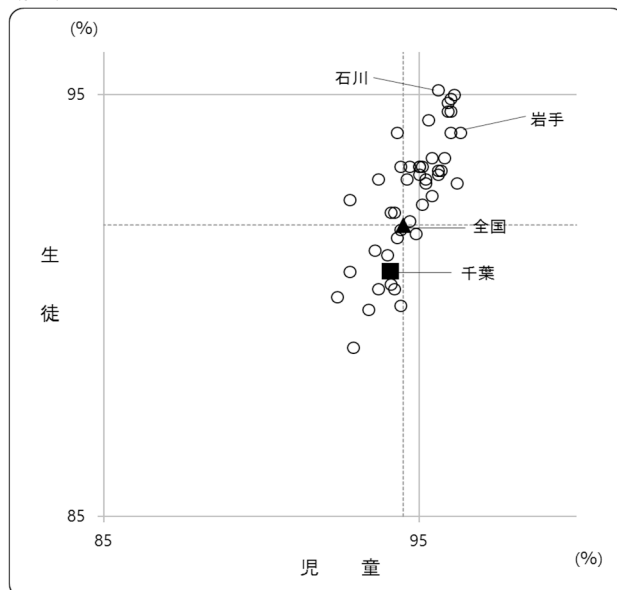
質問番号		質 問 事 項	児童(肯定的回答)		生徒(肯定的回答)	
			千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
7	7	朝食を毎日食べていますか	94.1	-0.4	90.8	-1.1
8	8	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	76.5	-0.5	72.5	-1.7
9	9	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.1	-0.7	89.7	-0.6

7	朝食を毎日食べていますか
---	--------------

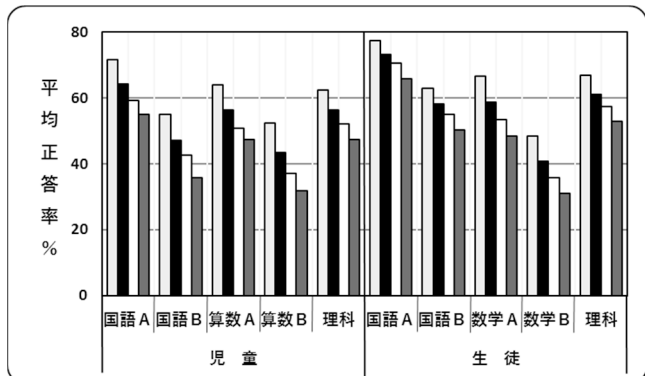
【平成30年度調査結果】



【散布図】



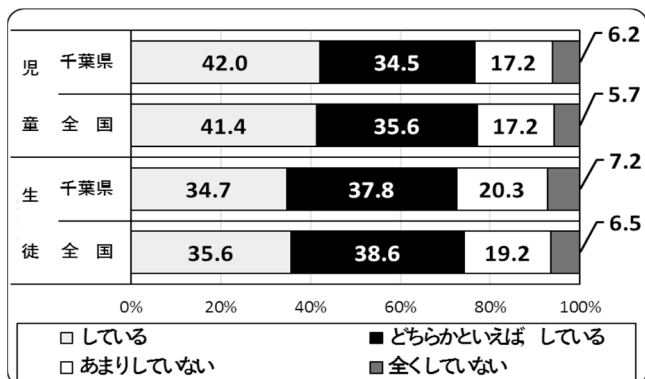
【回答結果と正答率の関連】



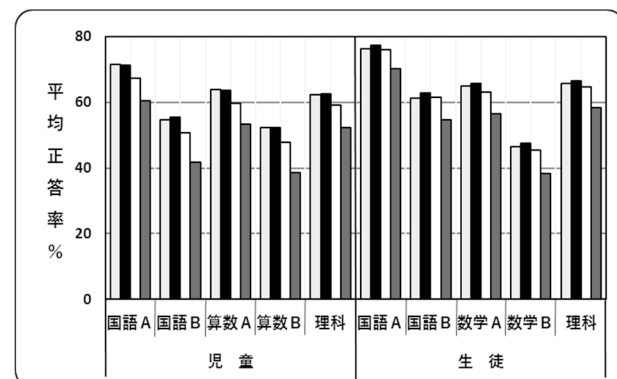
朝食を毎日食べている割合は、児童生徒とも90%を超えており、児童は全国と同程度、生徒はやや低い。肯定的回答をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

8	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
---	--------------------

【平成30年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答をした割合は、児童は全国と同程度であり、生徒はやや低い。肯定的回答をした児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

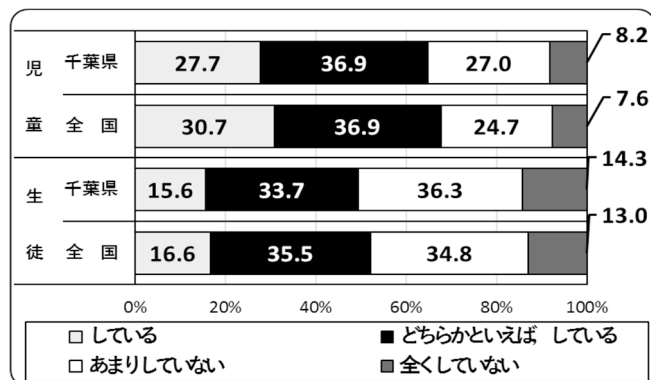
イ 学習習慣

質問番号		質 問 事 項	児童(肯定的回答)			生徒(肯定的回答)		
児童	生徒		千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
10	10	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	64.6	-3.0		49.3	-2.8	
11	11	家で、学校の宿題をしていますか	96.7	-0.4		88.5	-3.1	
12	12	学校の授業の予習・復習をしていますか	60.5	-2.1		53.7	-1.5	
13	13	予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしていますか	65.1	-4.8		68.3	-3.0	
14	14	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）	62.7	-3.5		70.0	-0.6	
15	15	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	43.9	2.8		32.7	1.8	

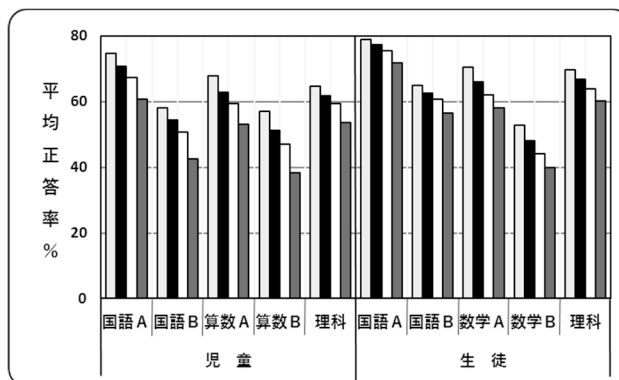
※14の「肯定的回答の割合」とは、「1時間」を超える回答をしたもの、15は「30分」を超える回答をした割合の合計である。

10 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか

【平成30年度調査結果】



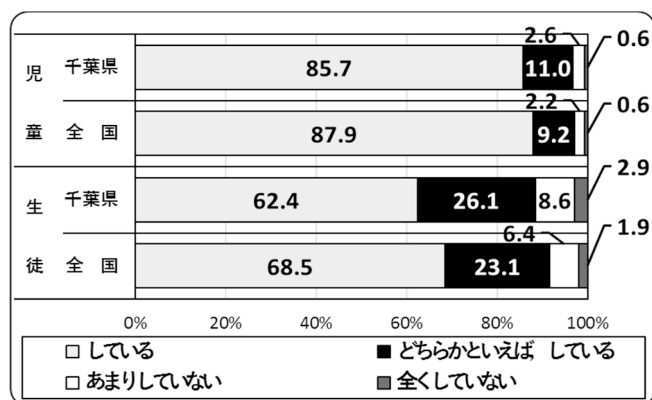
【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答をしている割合は、児童生徒ともに全国と比べてやや低い。計画的に勉強をしている児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

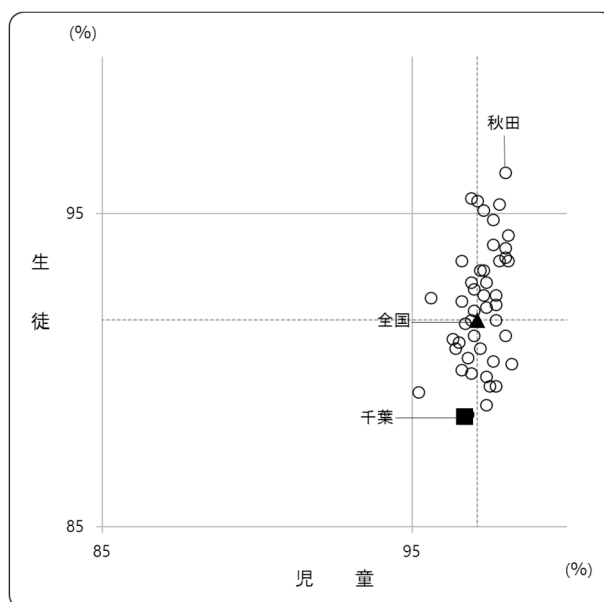
11 家で、学校の宿題をしていますか

【平成30年度調査結果】



家で、学校の宿題をしている児童の割合は、全国と同程度である。生徒は、全国と比べてやや低い状況であるが、全国の中で最も低かった。

【散布図】



(2) 学校質問紙調査

① 教科指導

ア 個に応じた指導

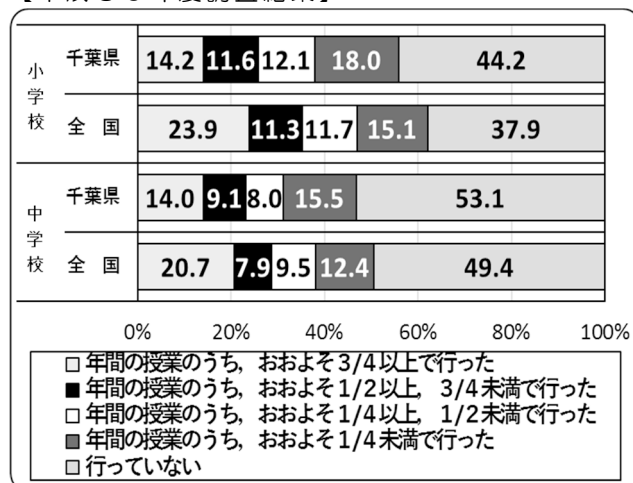
質問番号	小	中	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)			中学校(肯定的回答)		
				千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
35	34		算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	25.8	-9.4	▼	23.1	-5.5	▼
36	35		算数・数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	17.6	-8.1	▼	16.3	-6.6	▼

※35[34]～36[35]の「肯定的回答の割合」とは、年間の授業のうちおおよそ「3/4以上」、「1/2～3/4」で行ったと回答した割合の合計である。

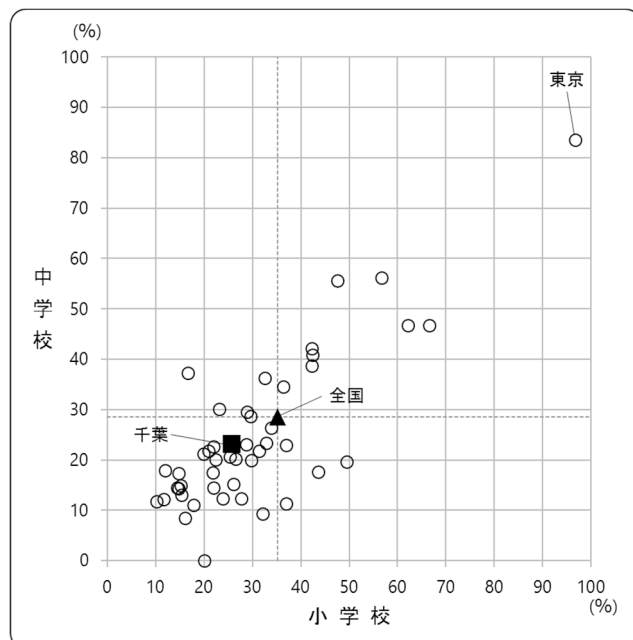
小 35 中 34	算数・数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか
--------------	--

小 36 中 35	算数・数学の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数指導を行い、発展的な内容を扱いましたか
--------------	---

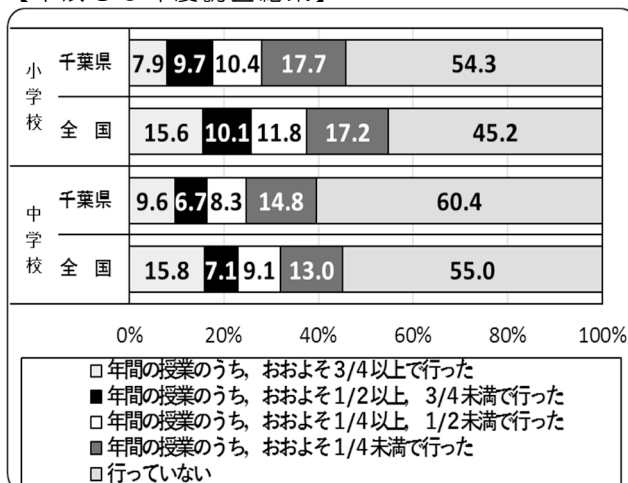
【平成30年度調査結果】



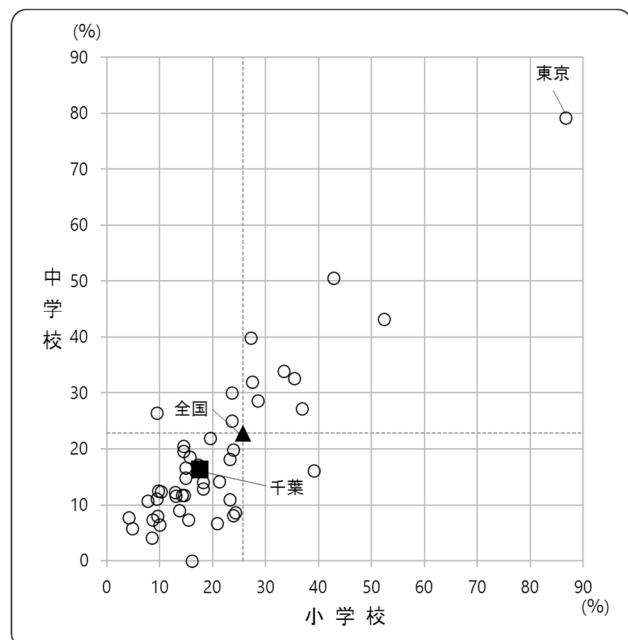
【散布図】



【平成30年度調査結果】



【散布図】



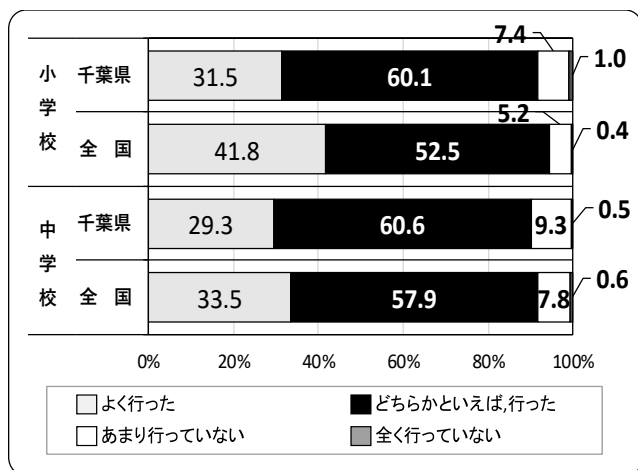
算数・数学の授業における習熟度別の少人数指導について、「前年度に年間の授業のうち、おおよそ1/2以上で行った」割合は、「習熟の遅いグループ」への指導、「習熟の早いグループ」への指導の両方において、小中学校ともに全国より低い状況にある。小中学校ともに、「習熟の早いグループ」に対する少人数指導を行った割合よりも、「習熟の遅いグループ」に対する少人数指導を行った割合の方が高い。

イ 算数・数学科の指導方法

質問番号	小	中	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
				千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
37	36		算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	91.6	-2.7	89.9	-1.5
38	37		算数・数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	57.6	-6.9 ▼	61.4	-5.1 ▼
39	38		算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	75.4	-2.6	68.7	-3.4
40	39		算数・数学の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	97.2	0.5	97.7	1.5
41			調査対象学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか	6.0	-3.3		

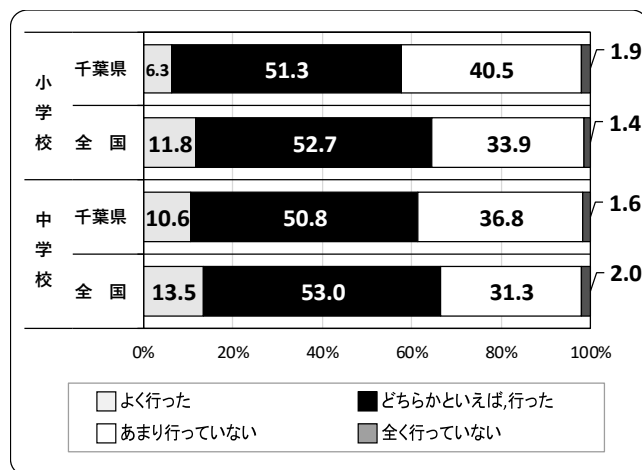
児 37 生 36	算数・数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか
--------------	-------------------------------------

【平成30年度調査結果】

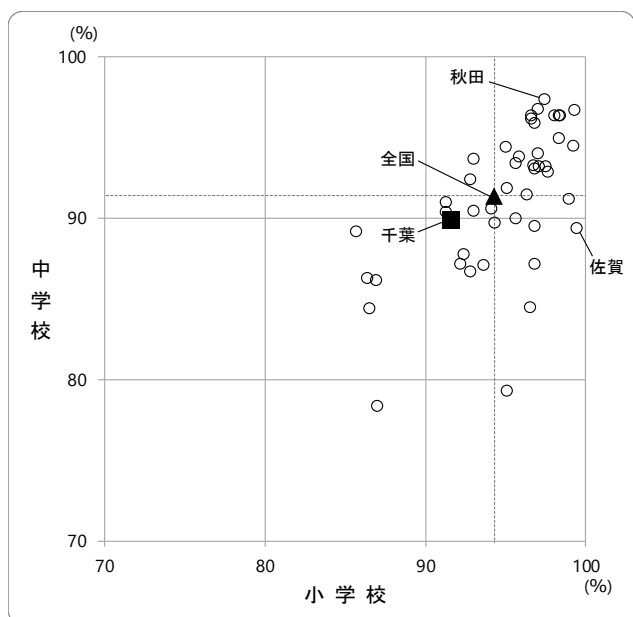


児 38 生 37	算数・数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか
--------------	-------------------------------------

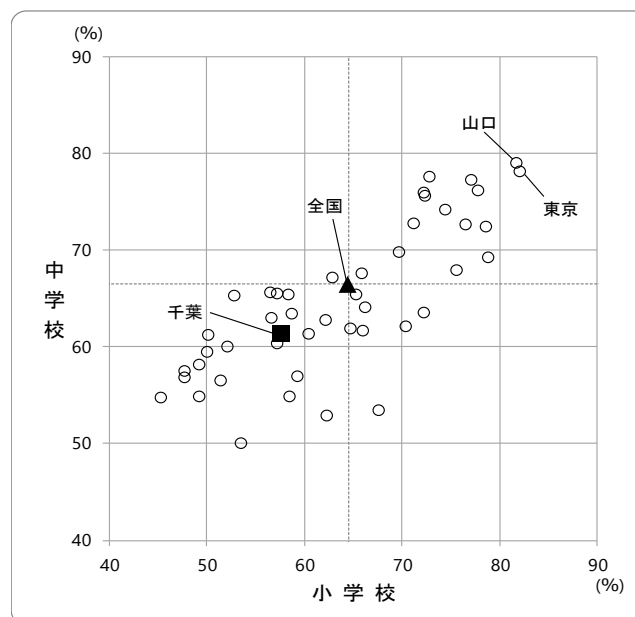
【平成30年度調査結果】



【散布図】



【散布図】



補充的な学習の指導を行った割合は、全国と比べて、小中学校ともにやや低く、全国の中でも下位に位置している。発展的な学習の指導を行った割合は、小中学校ともに全国と比べて低い。小中学校ともに、発展的な学習の指導を行った割合よりも補充的な学習の指導を行った割合の方が高い。

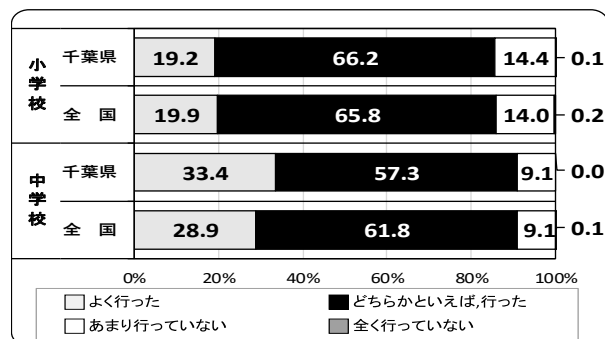
ウ 理科の指導方法

質問番号		質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
小	中		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
42	40	理科の授業において、前年度に、児童生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか	97.6	1.5	98.5	0.8
43	41	理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	64.5	-2.0	81.9	-3.3
44	42	理科の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	57.0	0.5	67.3	-1.7
45	43	理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	85.4	-0.3	90.7	0.0
46	44	理科の指導として、前年度までに、児童生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	89.5	1.4	81.6	-0.4
47	45	理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか	84.4	-2.1	68.4	-4.6
48	46	理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか(小)／理科の指導に関して、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか(中)	96.7	0.7	96.6	2.3
49	47	理科の指導として、前年度までに、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか(小)／理科の指導に関して、前年度までに、観察や実験のレポートの作成方法に関する指導を行いましたか(中)	94.6	0.2	85.7	4.5
50	48	理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていなかったか	17.8	3.1	13.5	9.1 △
51	49	理科の授業において、前年度に、理科室で児童生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	98.2	0.8	99.0	1.3

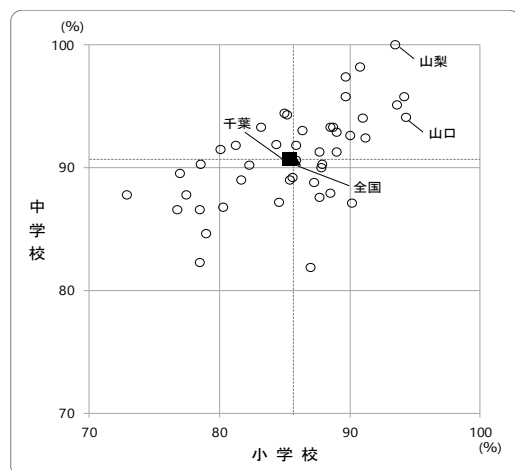
※51[49]の「肯定的回答の割合」とは、おおよそ「週1回以上」、「月1回以上」で行ったと回答した割合の合計である。

小 45 中 43	実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか
--------------	----------------------------

【平成30年度調査結果】

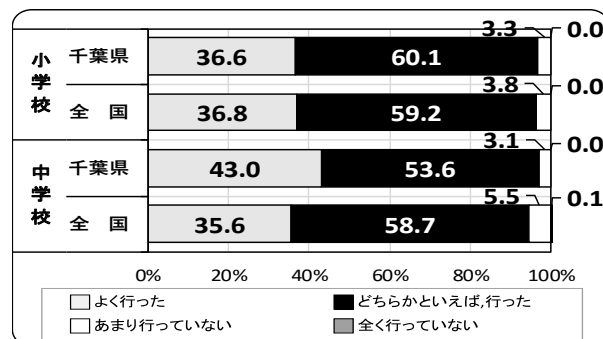


【散布図】

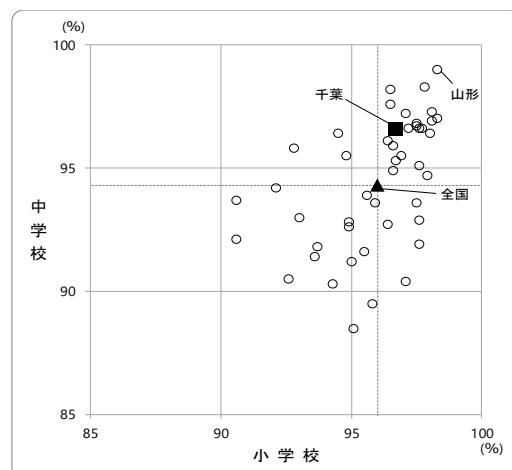


小 48 中 46	観察や実験の結果を整理し考察する(小)／分析し解釈する(中)指導を行いましたか
--------------	---

【平成30年度調査結果】



【散布図】



実生活における事象との関連を図った授業を行った割合は、小中学校ともに全国と同程度である。小学校において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行った割合は、全国と同程度であり、中学校において、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行った割合は、全国と比べてやや高い。

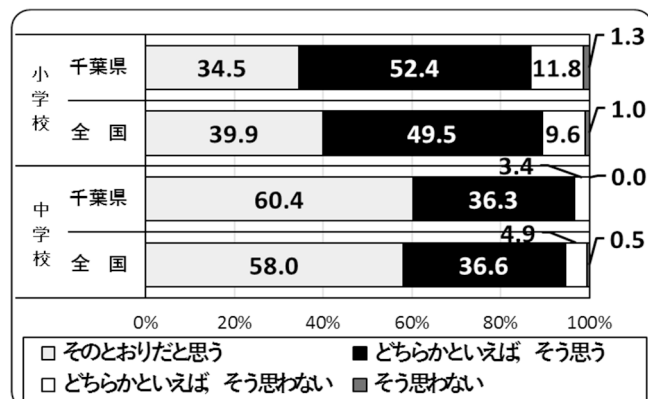
② 学力向上に向けた取組・指導方法

ア 児童生徒の状況

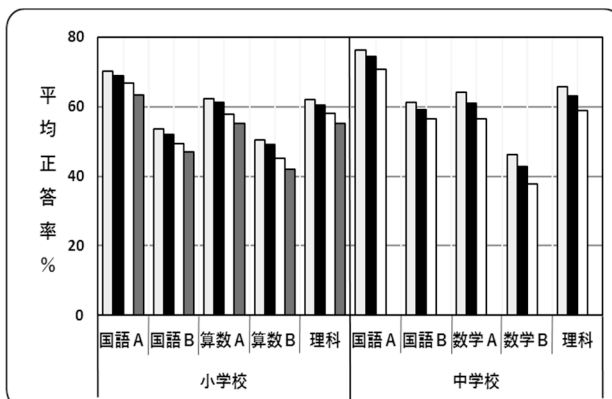
質問番号	質問事項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
12	12 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	86.9	-2.5	96.7	2.1
13	13 児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	78.9	-4.7	76.4	-4.4

12 児童（生徒）は授業中の私語が少なく、落ち着いていますか

【平成30年度調査結果】



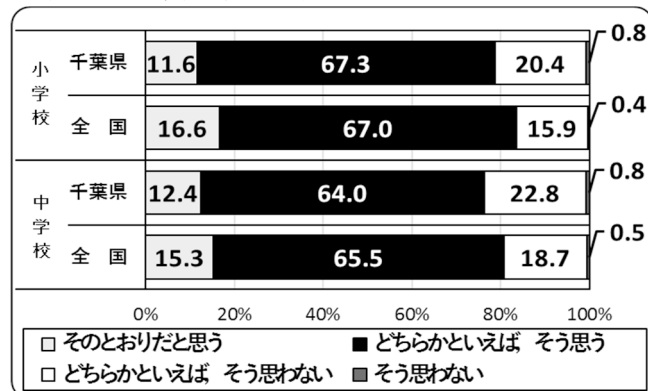
【回答結果と正答率の関連】



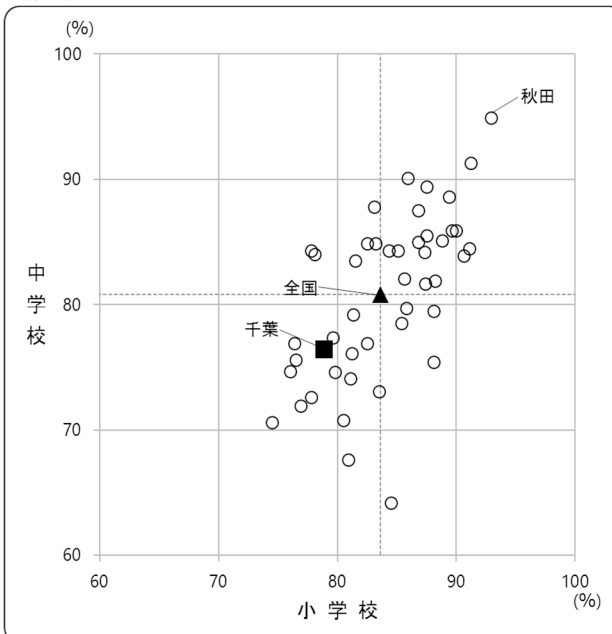
肯定的回答の割合は、小学校は全国よりやや低く、中学校はやや高い。肯定的な回答をした学校の児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

13 児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

【平成30年度調査結果】



【散布図】



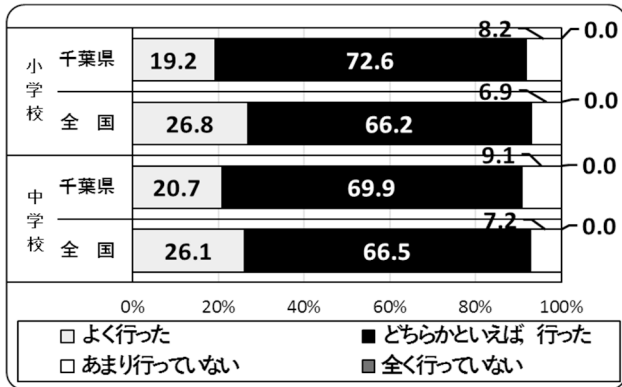
肯定的回答の割合は、小中学校ともに全国よりやや低い。肯定的な回答をした学校の児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

イ 学習指導・生徒指導

質問番号	小	中	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
				千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
22	21		前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	91.8	-1.2	90.6	-2.0
23	22		前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	79.9	-3.4	96.7	-1.9
24	23		前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	96.1	-0.4	93.5	-1.5
25	24		前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか	97.1	-0.6	98.4	0.1
26	25		前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	88.5	-1.2	77.2	-6.4 ▼
27	26		前年度に、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	83.4	-1.7	82.1	0.4
30	29		前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか	99.3	0.3	97.4	-0.5

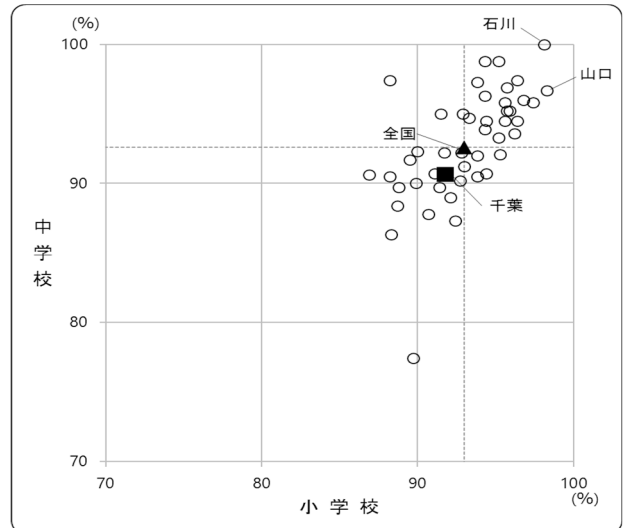
小 22	前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
中 21	

【平成30年度調査結果】



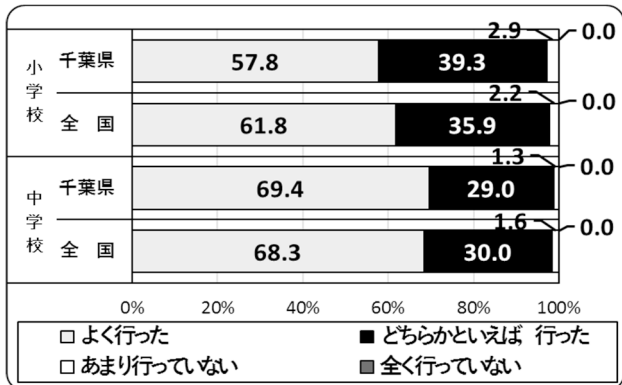
肯定的回答の割合は、小中学校ともに90%を超えているが、全国よりやや低い状況にある。

【散布図】

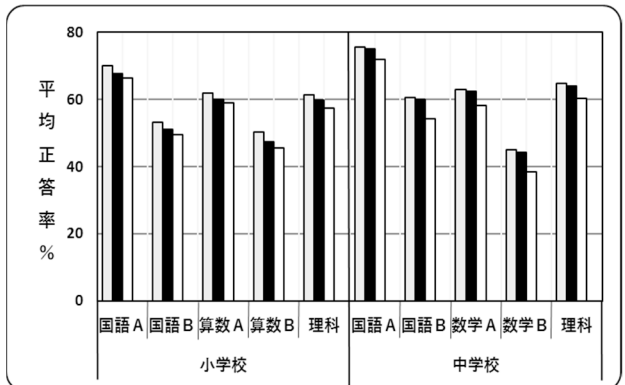


小 25	前年度までに、学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか
中 24	

【平成30年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



肯定的回答の割合は、小学校は97%、中学校は98%を超え、高い割合となっている。小中学校とも全国と同程度である。肯定的回答をした学校の児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られる。

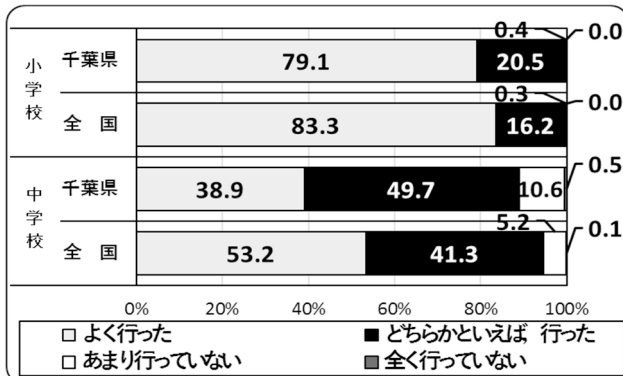
ウ 家庭学習

質問番号	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)			中学校(肯定的回答)		
小	中	千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
63	60	96.0	-1.2		92.8	0.9	
64	61	85.8	-5.8	▼	83.2	-3.9	
65	62	79.0	-5.4	▼	66.1	-7.6	▼
66	63	88.7	-4.6		85.5	-4.7	
67	64	99.6	0.1		88.6	-5.9	▼
68	65	97.2	-0.4		92.0	-2.5	
69	66	41.4	-4.3		58.6	-18.0	▼
70	67	93.1	7.1	△	96.2	15.1	△
71	68	79.5	5.4	△	86.8	-2.2	

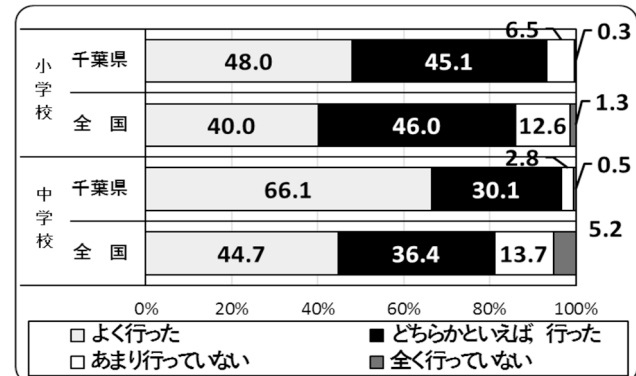
小 67 中 64	前年度までに、算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか
--------------	---------------------------------------

小 70 中 67	前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか
--------------	--

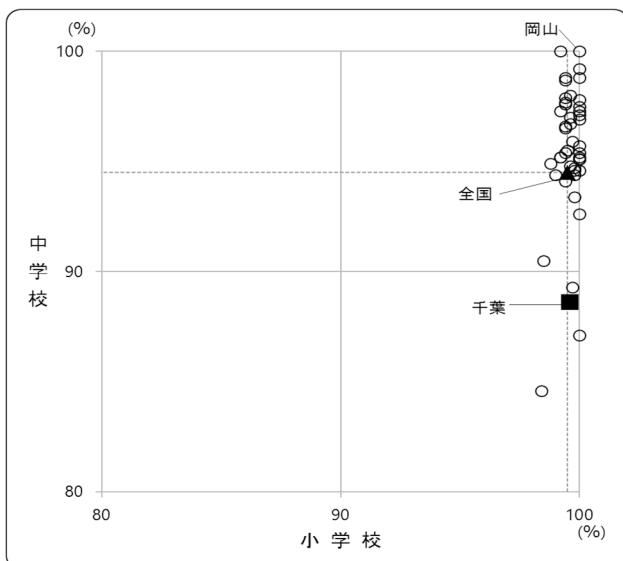
【平成30年度調査結果】



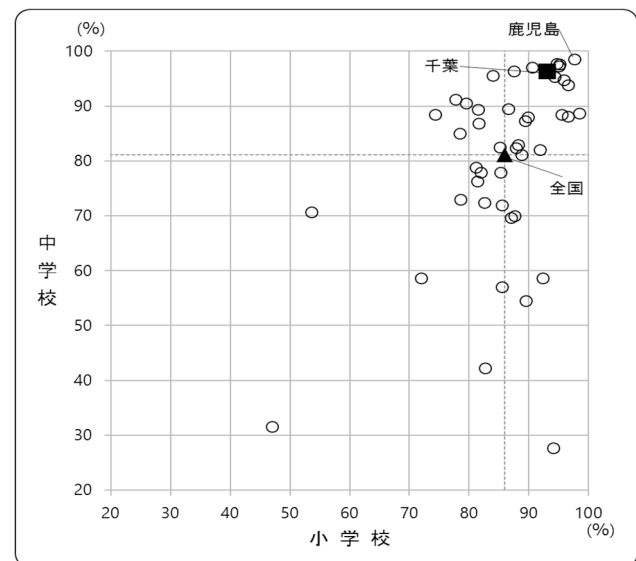
【平成30年度調査結果】



【散布図】



【散布図】



算数・数学で「課題（宿題）を与えた」に肯定的回答をした学校の割合は、小学校は全国と同程度で、中学校は低い。また、理科で「長期休業期間中に家庭学習の課題を与えた」に肯定的回答をした学校の割合は、小学校は全国より高く、中学校は著しく高い。

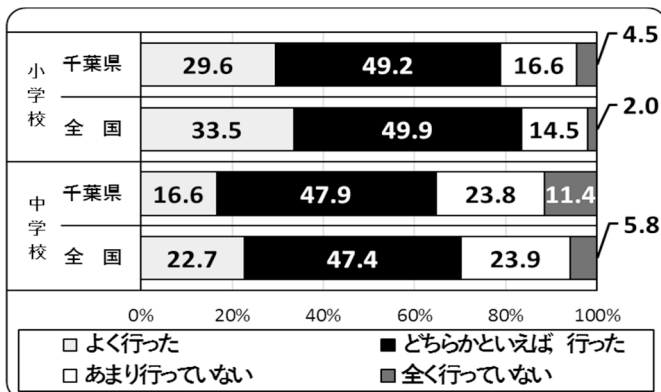
③ 学校経営

ア 地域の人材・施設の活用

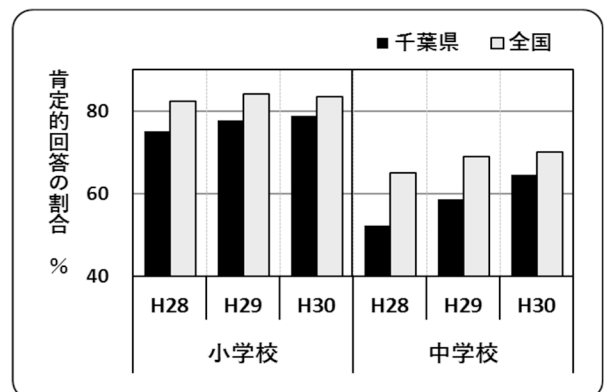
質問番号	質問事項		小学校(肯定的回答)			中学校(肯定的回答)		
			千葉(%)	全国との差		千葉(%)	全国との差	
53	51	前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	78.8	-4.6		64.5	-5.6	▼
54	52	前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	53.5	4.3		34.2	1.2	
55	53	前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	57.1	8.1	△	26.4	0.5	
56	54	前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか	73.6	-5.5	▼	63.7	-7.9	▼
57	55	前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか	77.7	-8.5	▼	73.6	-6.2	▼
59	56	職場見学や職場体験活動を行っていますか	69.0	21.5	△	97.4	-1.5	
60	57	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	98.7	1.0		94.9	4.5	
61	58	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、な保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	67.7	-5.1	▼	58.8	-1.9	
62	59	保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	95.3	-0.1		88.6	0.0	

小 53	前年度までに、調査対象学年の児童・生徒に対して、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか
中 51	

【平成30年度調査結果】



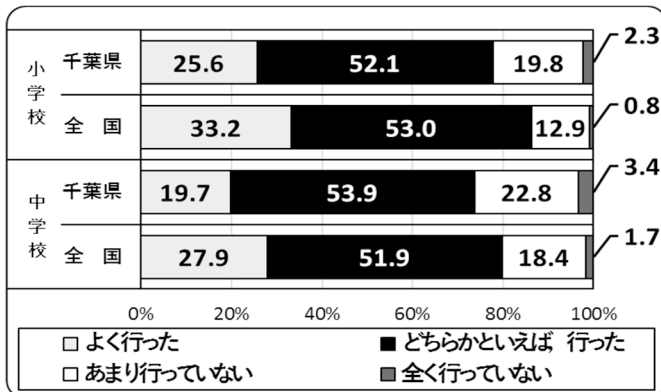
【経年変化】



肯定的回答の割合は、小学校は全国よりやや低く、中学校は低い、小中学校ともに昨年度よりも上昇し、全国との差は縮まってきている。

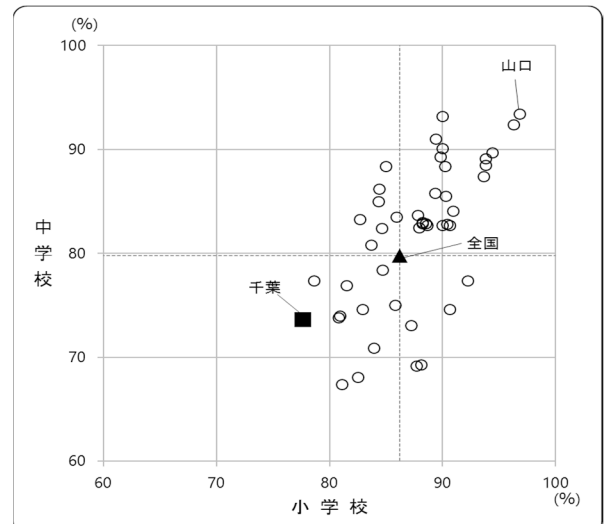
小 57	前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか
中 55	

【平成30年度調査結果】



肯定的回答の割合は、小中学校とも全国より低い。小学校は全国で最も低い、中学校より4.1ポイント高い。

【散布図】



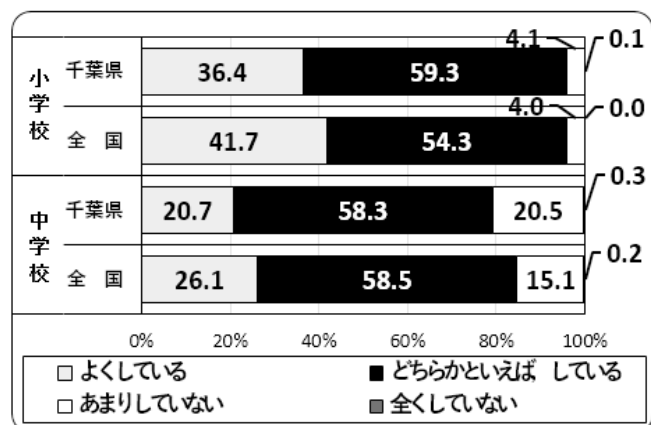
イ 教員研修・教職員の取組

質問番号	質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
小	中	千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
16	15	96.3	1.6	92.4	2.2
17	16	94.1	0.9	89.1	0.4
18	17	95.6	0.7	93.3	0.2
19	18	95.7	-0.3	79.0	-5.6 ▼
72	69	99.6	0.3	96.9	-1.2
73	70	99.2	5.2 △	95.9	7.4 △
74	71	96.9	0.2	86.8	-4.1
75	72	96.2	-1.2	93.5	-2.0
76	73	89.3	2.1		
	74			85.5	2.6
77	74	53.2	-16.3 ▼	60.1	-16.4 ▼
78	75	96.2	-0.7	95.1	1.2
79	76	96.5	-1.0	95.3	-0.3
80	77	89.8	-3.3	80.8	-5.2 ▼
81	78	94.2	0.0	86.6	-4.1
82	79	98.8	0.3	95.4	-1.5
83	80	98.0	0.6	94.5	-2.3
84	81	96.4	1.3	86.8	1.4

※84[81]の「肯定的回答の割合」とは、「ほぼ毎日」、「週に2～3日程度」と回答した割合の合計である。

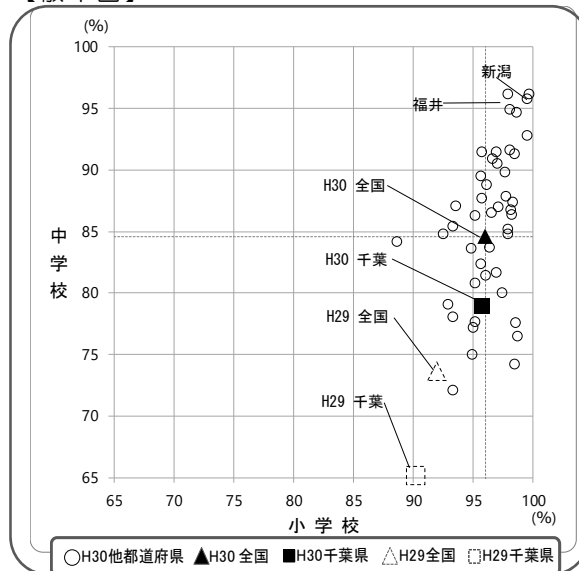
小19 中18	指導計画の作成にあたっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか
------------	--

【平成30年度調査結果】



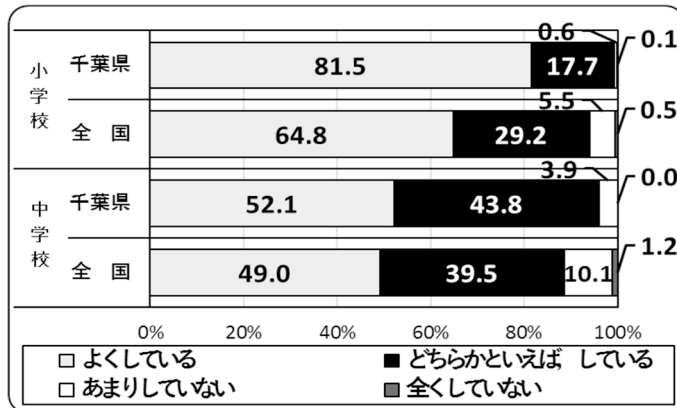
肯定的回答の割合は、昨年度と比べ増加しているものの、小学校は全国と同程度、中学校は低い状況である。

【散布図】



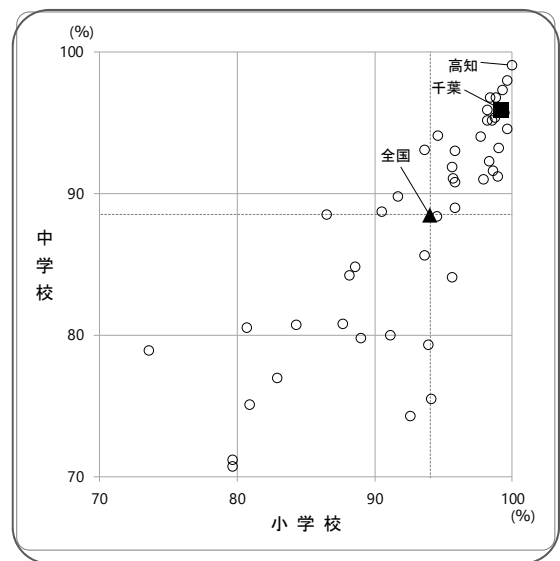
小73 中70	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか
------------	----------------------------------

【平成30年度調査結果】



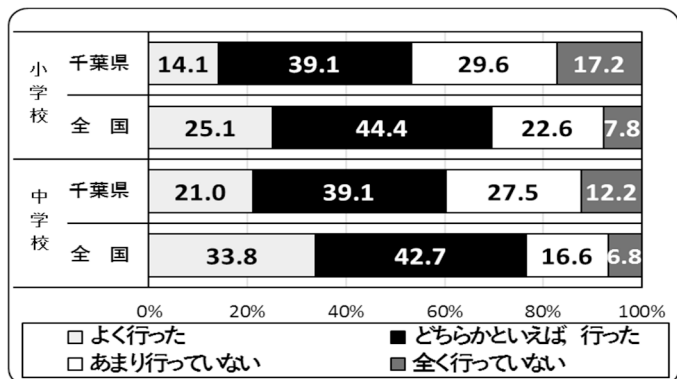
肯定的回答の割合は、小学校は 99%、中学校は 95%を超えており、小中学校とも全国よりも高い状況である。

【散布図】



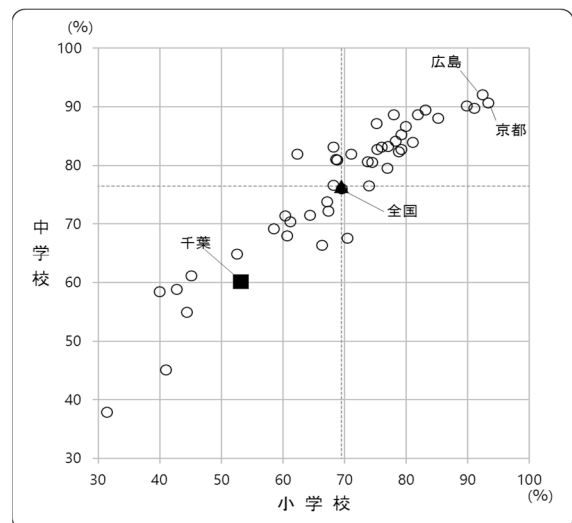
小77 中74	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と、研究授業を行うなど、合同して研修を行いましたか
------------	--

【平成30年度調査結果】



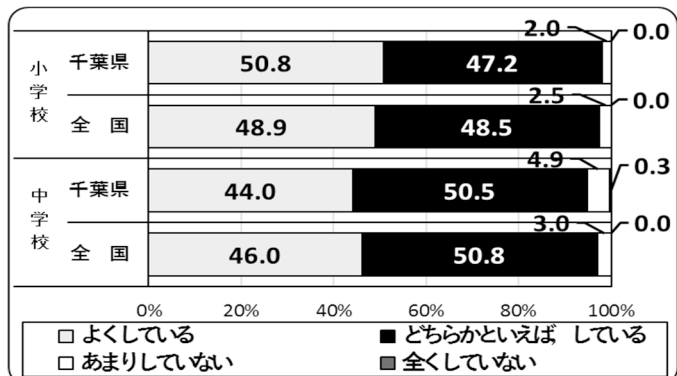
肯定的回答の割合は、小中学校とも全国より著しく低く、全国で下位に位置している状況である。

【散布図】



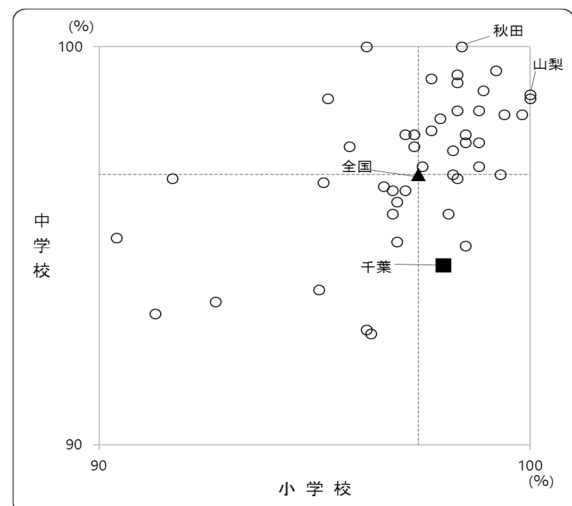
小83 中80	学校として業務改善に取り組んでいますか
------------	---------------------

【平成30年度調査結果】



肯定的回答の割合は、小学校は 98%を超え、全国と同程度、中学校は 94%を超えているが、全国よりやや低い状況である。

【散布図】



(3) トピックス

家庭学習の充実に向けて

全国学力・学習状況調査結果チャート（7、8ページ参照）に見られるとおり、児童生徒質問紙における「学習の基盤となる活動・習慣」の「生活習慣」「学習習慣」の領域、学校質問紙における「学力向上」の「家庭学習」の領域、ともに全国を下回っており、継続した課題である。

近年の結果を比較すると、肯定的回答の増加が見られる項目もあるが、児童生徒の生活習慣、学習習慣の確立や、家庭学習を充実させるための取組について、改善を図っていく必要がある。

①児童生徒質問紙調査から（平成30年度調査結果については、71、72ページ参照）

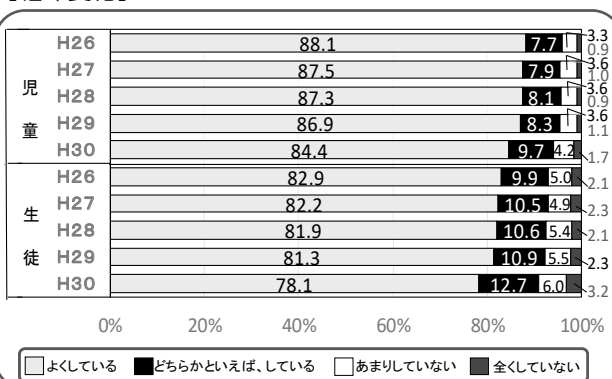
「生活習慣」「学習習慣」に係る項目すべてにおいて、肯定的回答をしている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向があり、これは全国と同じ傾向である。「生活習慣」の項目では、近年、児童は全国と同程度、生徒は全国よりやや低い状況が続いており、児童生徒ともに肯定的回答の割合が減少傾向にある。「学習習慣」の項目では、近年、児童生徒ともに肯定的回答の割合が増加傾向にあるものの、全国と比べ同程度、もしくはやや低い状況が続いている。

これらは学習の基盤となる事項であり、改善を図る働きかけや取組が必要である。児童生徒が計画的に学習に取り組み、自主的・主体的に学習へ向かう姿勢を育成することが求められる。

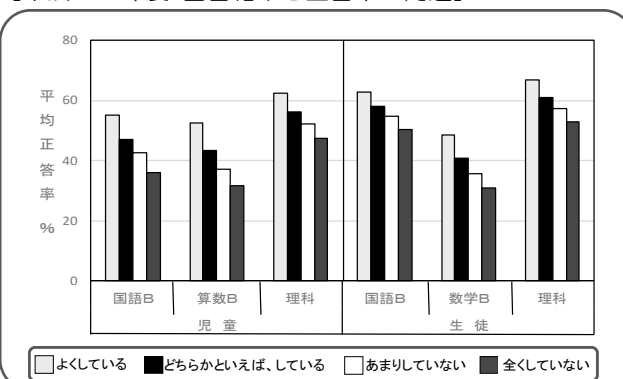
◆生活習慣について

7 朝食を毎日食べていますか

【経年変化】



【平成30年度 回答結果と正答率の関連】

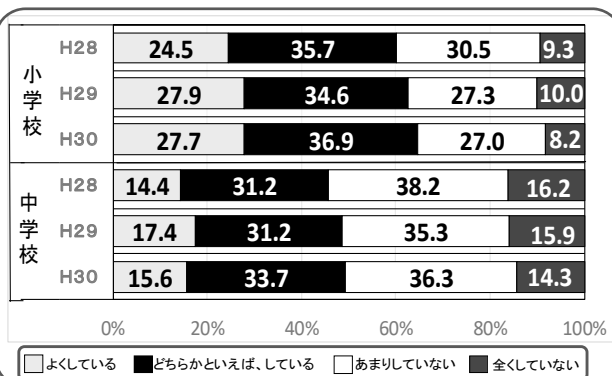


毎年、肯定的な回答の児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が継続している。しかし、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、微小ではあるがほぼ毎年減少している。今年度は、平成26年度に比べ、児童で1.7ポイント、生徒で2.0ポイント減少している。

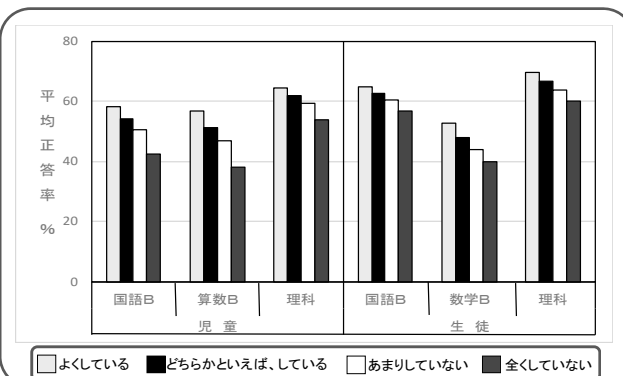
◆学習習慣について

10 自分で計画を立てて勉強をしていますか

【経年変化】



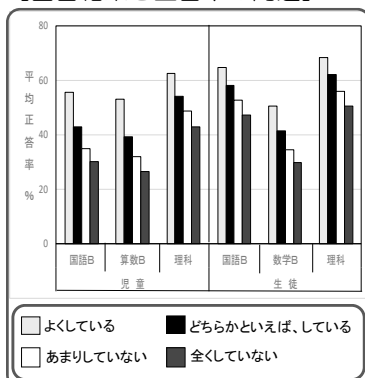
【平成30年度 回答結果と正答率の関連】



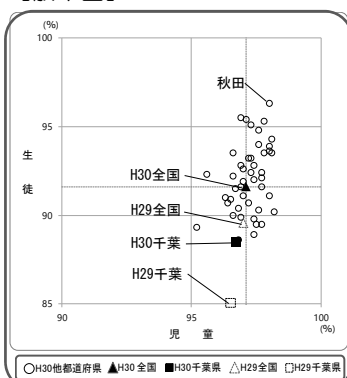
近年、肯定的回答の増加傾向が継続している。しかし、全国と比べ児童は2.8ポイント、生徒は3.0ポイント下回る状況である。

11 学校の宿題をしていますか

【回答結果と正答率の関連】



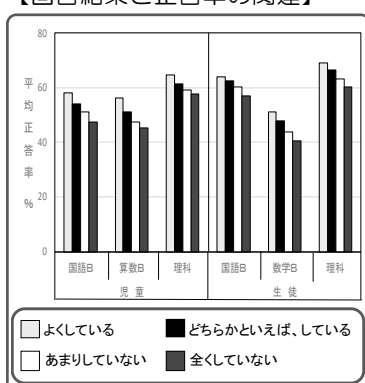
【散布図】



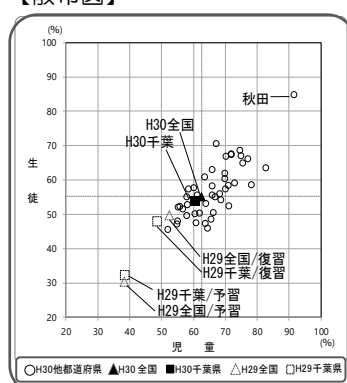
肯定的回答の児童生徒ほど平均正答率が高く、特に児童においてその傾向が強い。「よくしている」と回答した児童の平均正答率は、「全くしていない」と回答した児童より著しく高い状況である。生徒においても児童同様の傾向が見られるが、実施状況は、全国と比べ7.8ポイント下回り、全国において下位に位置している。

12 学校の授業の予習・復習をしていますか

【回答結果と正答率の関連】



【散布図】



肯定的な回答をした児童生徒ほど平均正答率が高い。昨年度(予習・復習について個別の質問で調査)に比べ向上しているが、全国と比べ児童、生徒ともにやや低い状況である。

また、全国でも同様な状況ではあるが、児童と比べ生徒の肯定的回答の割合が低い。

(県-6.8ポイント 国-7.4ポイント)

②学校質問紙調査から

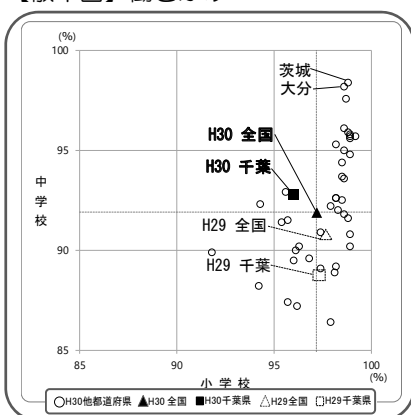
◆家庭学習に関わる学校の取組について

児童生徒の自主的・主体的に学習へ向かう姿勢を育成し、学力向上へ繋げるという視点から、家庭学習の習慣化を図り学習の仕方を身に付けることは、学習の成果に大きく影響する事項である。働きかけについては、全国とほぼ同程度に改善されてきている。しかし、具体的な学習方法等の指導については、全国と比べ肯定的回答が下回る状況が続いている。家庭での学習における具体的な取り組み方等について教職員が共通理解を図り、校内体制を整え取り組むことが必要である。

小 63
中 60

児童生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか
(国語/算数・数学共通)

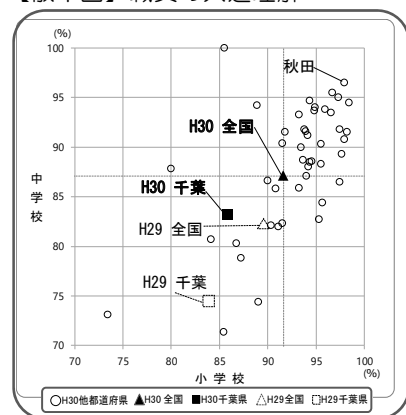
【散布図】働きかけ



小 64
中 61

児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか
(国語/算数・数学共通)

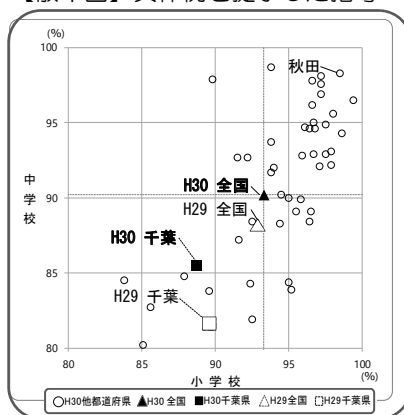
【散布図】職員の共通理解



小 66
中 63

児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

【散布図】具体例を提示した指導



「教職員の共通理解」における肯定的回答は、昨年度に比べ中学校で9.2ポイント増加したが、全国と比べると下回る状況である。「具体的指導」については、中学校では、昨年度に比べ増加したが、全国と比べると小学校、中学校ともに下回る状況である。

主体的・対話的で深い学びの充実に向けて

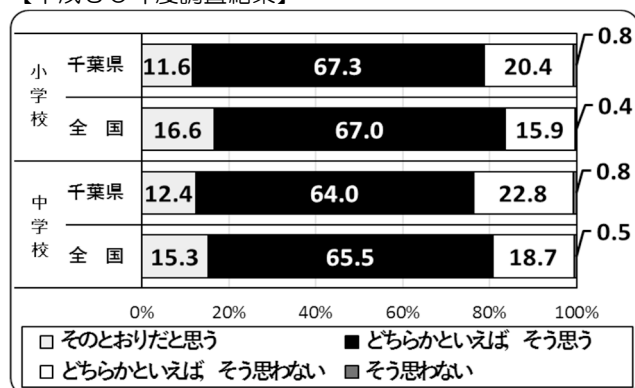
全国では、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」と回答している学校の方が、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思う」と回答している児童生徒の割合が高い。この質問に肯定的な回答をしている学校・児童生徒の方が、正答率が高い傾向が、全国、本県ともに見られる。学校として、児童生徒が自分で考え、自分で取り組めるような課題を意図的・計画的に設定し、授業の中で、自ら課題に取り組み、自ら解決できる場面を作っていくことが大切である。

また、主体的・対話的で深い学びを充実させるために、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を進め、授業の質の向上を図ることが大切である。

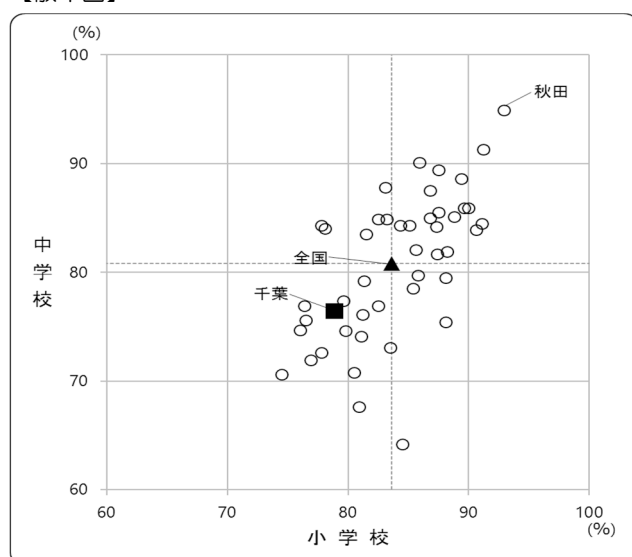
学校質問紙調査から

小 13 中 13	児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
--------------	---

【平成30年度調査結果】



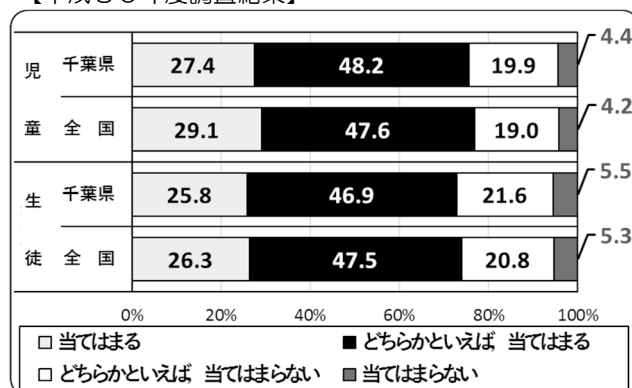
【散布図】



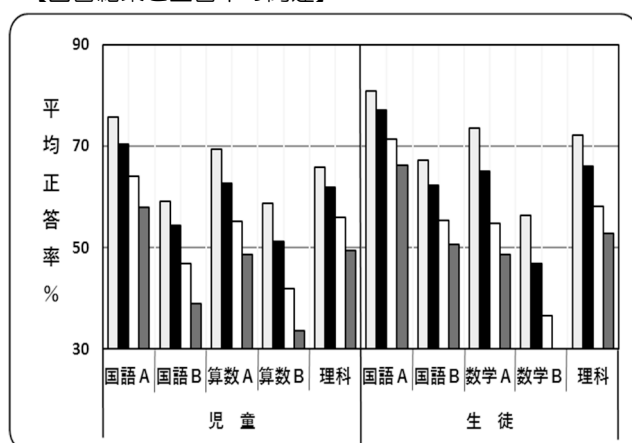
児童生徒質問紙調査から

児 55 生 52	5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか
--------------	--

【平成30年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



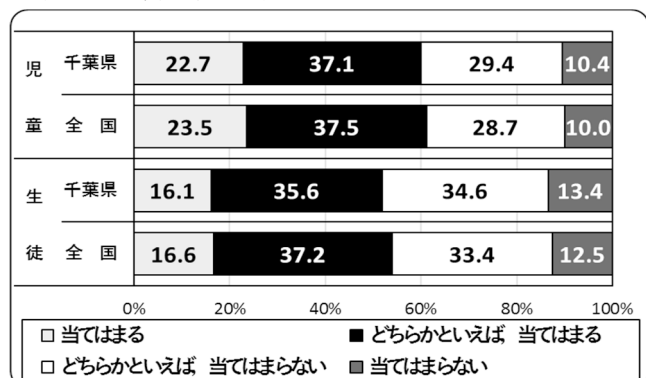
上記2項目について、肯定的な回答をした学校・児童生徒の割合は、いずれも全国よりやや低い状況である。

全国においても、本県においても、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。また、「児童（生徒）が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思っている」学校の方が、正答率が高い傾向が見られる。

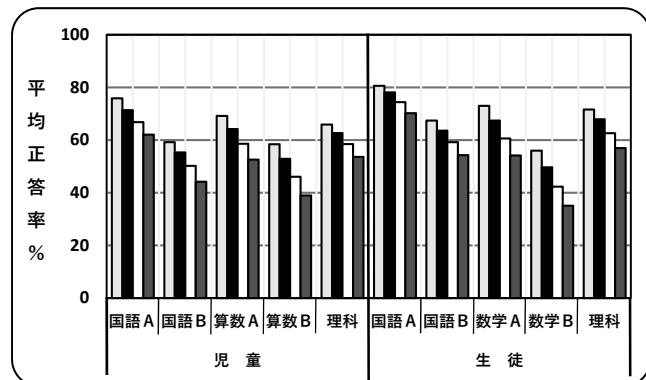
児童生徒質問紙調査から

児 56 生 53	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか
--------------	---

【平成30年度調査結果】

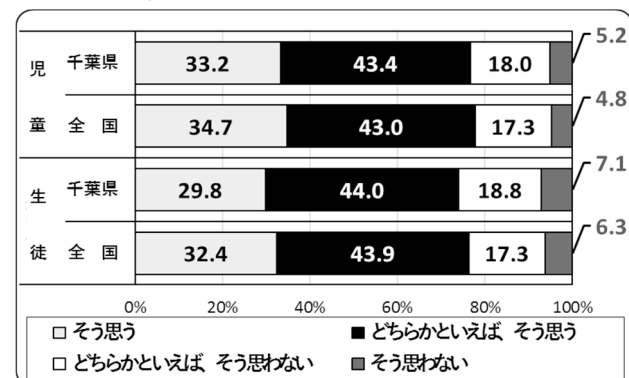


【回答結果と正答率の関連】

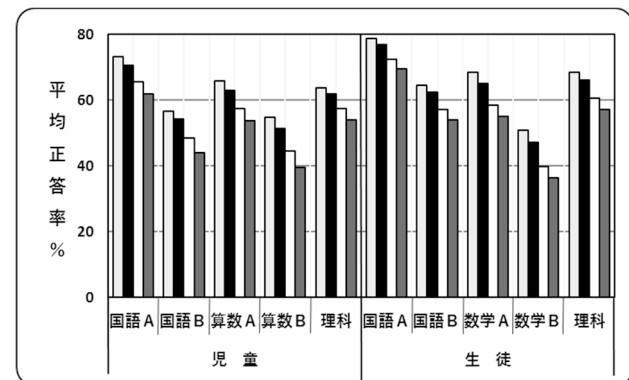


児 57 生 54	学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
--------------	---

【平成30年度調査結果】



【回答結果と正答率の関連】



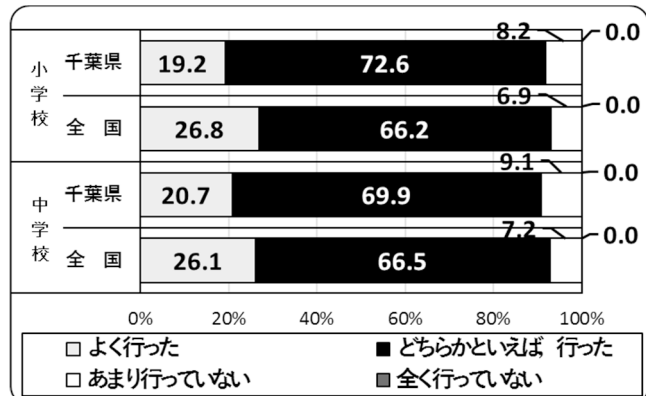
上記2項目について、肯定的な回答をした割合は、児童生徒ともに全国よりやや低い。また、全国、本県ともに、肯定的な回答をしている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる。

児童生徒の思考力・判断力・表現力を高めるために、資料や文章、話の組み立てなどをノート等に記録させ、その上で考えさせ、実際の活動に取り組むなどの工夫が必要である。

学校質問紙調査から

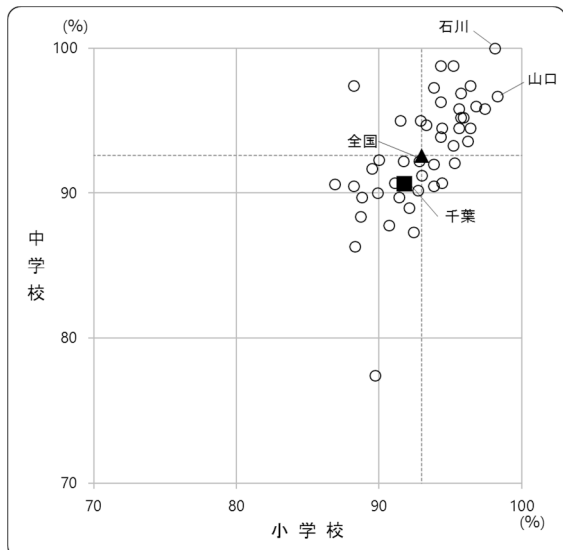
小 22 中 21	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
--------------	--------------------------------------

【平成30年度調査結果】



肯定的な回答をした学校の割合は、小中学校ともに全国よりやや低いものの、90%を超えて、昨年度よりも全国との差は小さくなっている。

【散布図】



自己肯定感に関する状況について

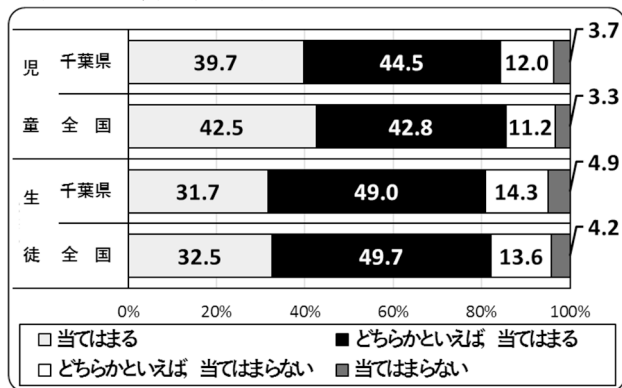
「社会に開かれた教育課程」の実現には、子供たちが自信をもって成長し、より良い社会の担い手になるよう、子供たち一人一人の自己肯定感を育む取組を進めていくことが大切である。

今回の調査において、「認められている－認めている」の視点で見ると、昨年同様、全国においても、本県においても、学校質問紙の肯定的な回答の割合が、児童生徒質問紙を大きく上回っており、児童生徒の実感と学校のとらえ方に差が見られる。学校は、より多くの児童生徒が自分は認められていると実感できるような取組を行っていくことが大切である。

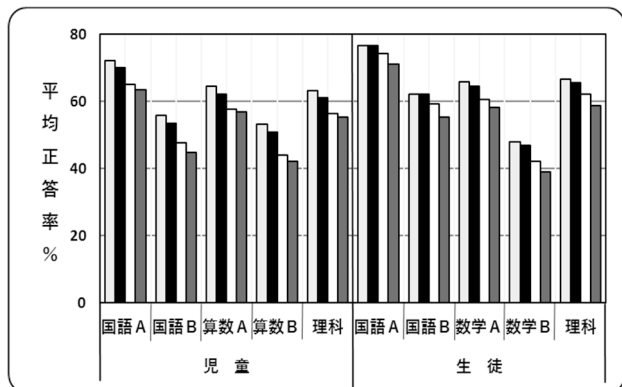
児童生徒質問紙調査から

児 2 生 2	先生は、あなたのよいところを認めて れていると思いますか
------------	---------------------------------

【平成30年度調査結果】



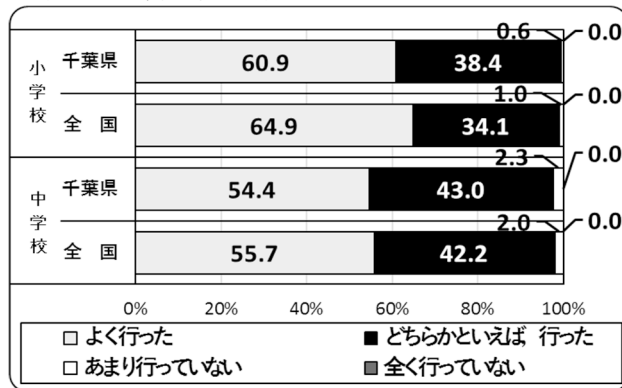
【回答結果と正答率の関連】



学校質問紙調査から

小 30 中 29	学校生活の中で、児童〔生徒〕一人一人のよい点や可能性を見付け評価する (褒めるなど)取組をどの程度行いましたか
--------------	--

【平成30年度調査結果】

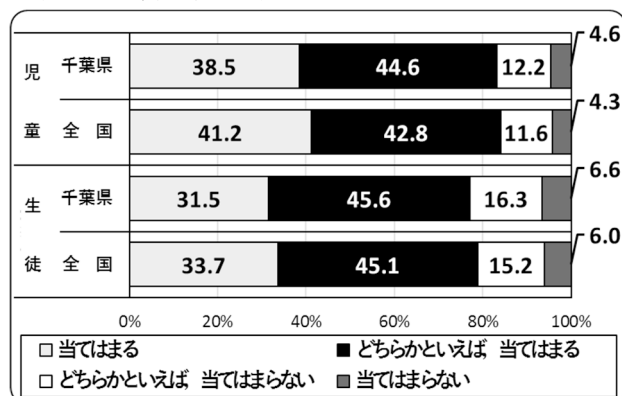


上記2項目についての肯定的回答の割合は、児童生徒とも全国よりやや低く、学校は同程度である。肯定的回答をしている児童生徒・学校の方が、正答率が高い傾向がある。

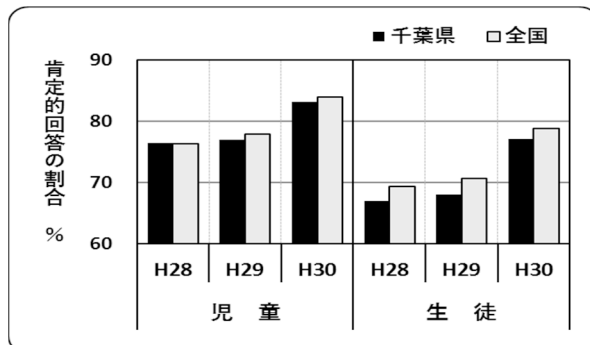
また、学校質問紙の肯定的な回答の割合が、児童生徒質問紙を大きく上回っている。

児 1 生 1	自分には、よいところがあると思う
------------	------------------

【平成30年度調査結果】



【経年変化】



肯定的回答の割合は、児童は全国と同程度、生徒はやや低い。肯定的回答をしている児童生徒は年々増えている状況である。

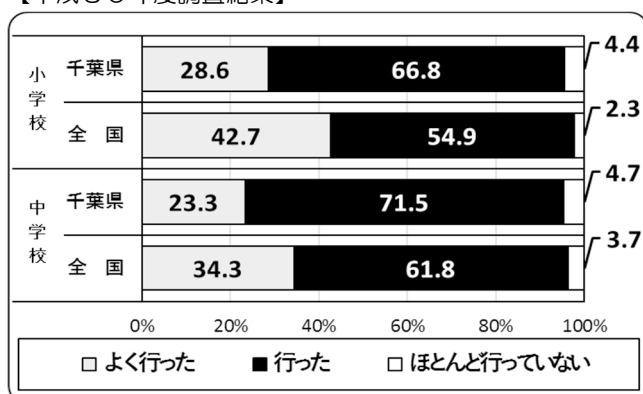
指導改善サイクルの確立を目指して

全国学力・学習状況調査の結果の活用に関しては、改善傾向にある。しかし、全国との状況とはまだ開きがある。各学校で、誤答分析を行い、自校の児童生徒の課題を明らかにし、課題を教員間で共有することが重要である。その上で、指導改善の方向性を明確にし、学校のみならず家庭や地域とも連携を図ることで指導改善サイクルを確立していくことが必要である。

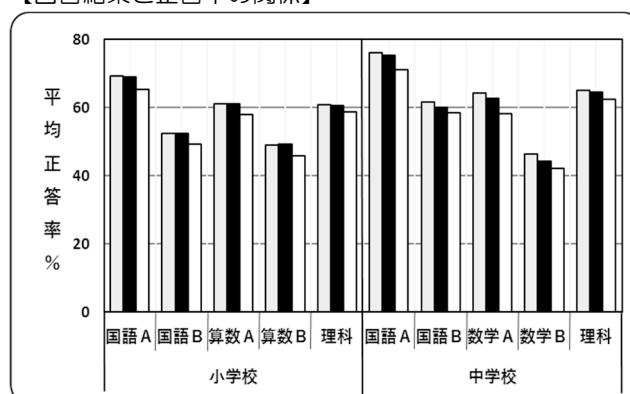
質問番号		質 問 事 項	小学校(肯定的回答)		中学校(肯定的回答)	
小	中		千葉(%)	全国との差	千葉(%)	全国との差
31	30	平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	95.4	-2.2	94.8	-1.3
32	31	平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	75.8	-16.5 ▼	78.5	-10.0 ▼
33	32	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	90.4	-4.0	85.5	-6.3 ▼
34	33	平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校〔小学校〕と成果や課題を共有しましたか	46.1	-17.2 ▼	41.5	-22.5 ▼

小 31 全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、
中 30 学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

【平成30年度調査結果】



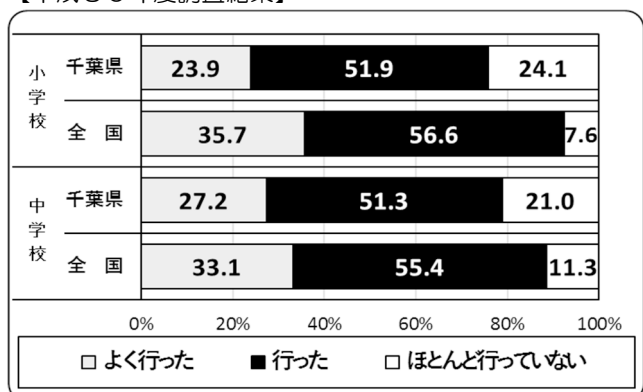
【回答結果と正答率の関係】



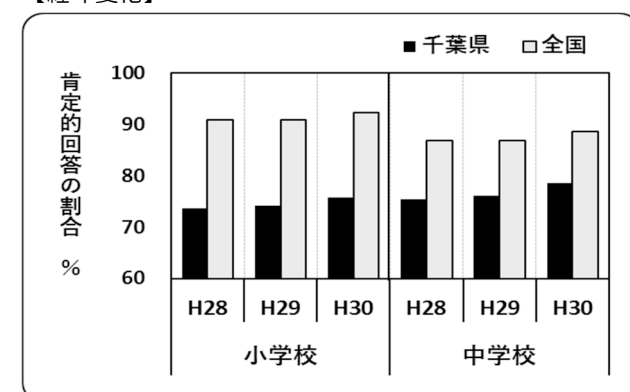
肯定的な回答の割合は、小中学校ともに全国よりやや低い状況であるが、小中学校ともに90%を超え、かつ昨年度よりも上昇している。

小 32 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や
中 31 説明を行いましたか

【平成30年度調査結果】



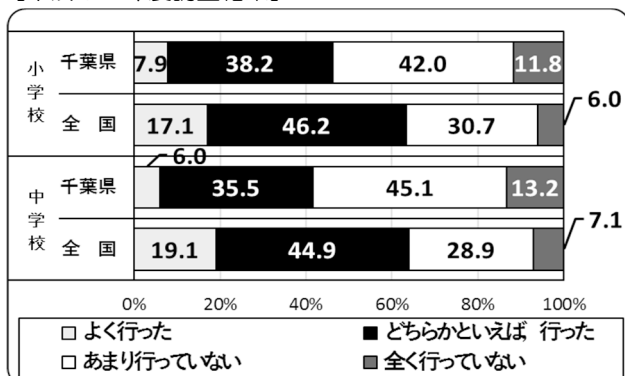
【経年変化】



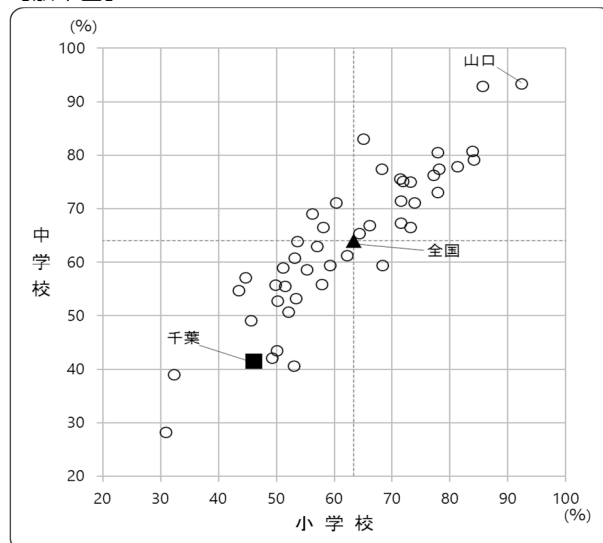
肯定的な回答の割合は、小学校は全国より著しく低く、中学校は低い。「学校を核とした地域づくり」を推進するためにも、地域への積極的な情報公開に取り組んでいく必要がある。

小 34 全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を
中 33 共有しましたか

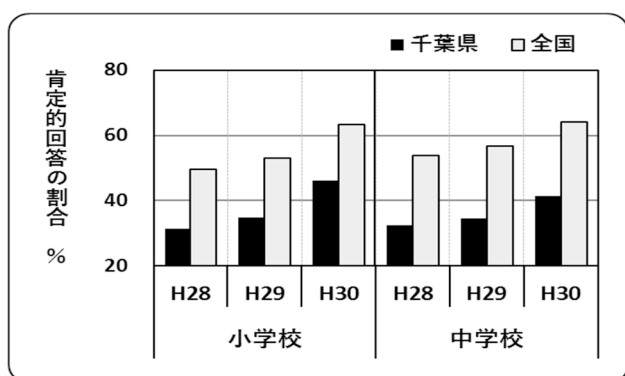
【平成30年度調査結果】



【散布図】



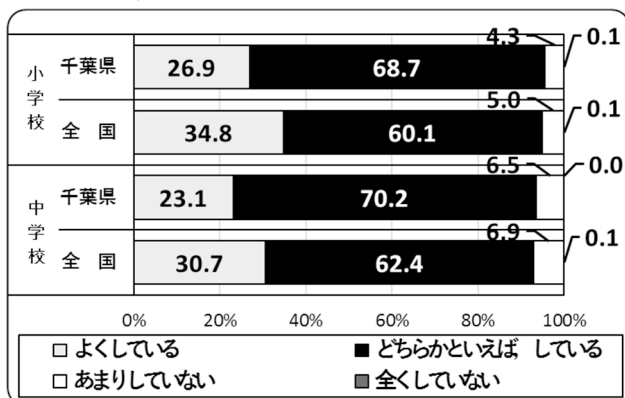
【経年変化】



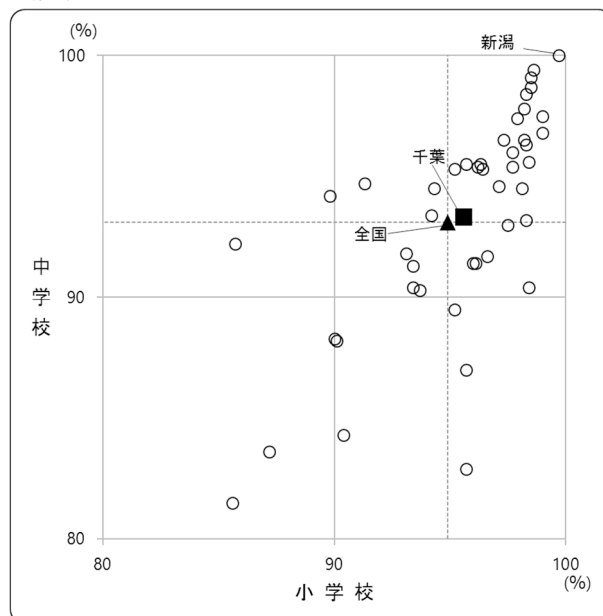
肯定的な回答の割合は、小中学校ともに全国より著しく低いですが、年々高くなってきている。全国調査の分析結果について、小中学校で成果と課題を共有し、児童生徒の学力向上につなげていくことも課題の一つである。

小 18 児童・生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、
中 17 実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

【平成30年度調査結果】



【散布図】



肯定的な回答の割合は、小中学校ともに全国と同程度である。

学校には、全国学力・学習状況調査の分析結果を含め、児童生徒、家庭、地域の実態に基づいた教育課程の編成、カリキュラム・マネジメントの確立が求められている。全教職員で共通理解を図り、取り組むことが重要である。

Ⅲ 結果の活用に向けて

Ⅲ 結果の活用
に 向 け て

各地域の「学力・学習状況」検証事業 検証協力校
の取組についても掲載しています

1 地域別の傾向

(1) 葛南地区

教科についての傾向と課題

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。
 ○ 正答率が全国と比べて低いもの
 ○ 正答率そのものが低いもの
 * [] 内の学年は、学習学年を示している。

小学校 国語

「知識(A問題)」は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が低下している。「活用(B問題)」は「自分の考えをまとめること」に課題が見られる。

- ・国語A[5] 「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」 [3、4年]
- ・国語A[8] オ 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」 [5、6年]
- ・国語B[1] 三 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」 [5、6年]
- ・国語B[2] 二 「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」 [5、6年]

中学校・国語

「知識(A問題)」は「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が低下している。「活用(B問題)」は「内容を整理したり、考えをまとめたりすること」に課題が見られる。

- ・国語A[8] 一 1 「文脈に即して漢字を正しく書く」 [2年]
- ・国語A[8] 六 2 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」 [1年]
- ・国語B[1] 三 「目的に応じて文を読み、内容を整理して書く」 [1、2年]
- ・国語B[2] 三 「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」 [1年]

小学校 算数

「知識(A問題)」、「活用(B問題)」ともに前年度と同程度であり、「量と測定」領域が前年度より低下している。

- ・算数A[1] (2) 「1に当たる大きさを求める場面における数量関係を理解し、数直線上に表すことができる」 [5年]
- ・算数A[7] (2) 「直径と円周の長さの関係について理解している」 [3、5年]
- ・算数B[1] (1) 「敷き詰められた模様の中から、条件に合う図形を見いだす」 [2、3、4、5年]
- ・算数B[3] (1) 「メモとグラフを関連付け、メモの内容を解釈し、その特徴を記述する」 [3年]

中学校 数学

「知識(A問題)」、「活用(B問題)」ともに前年度と同程度であり、「関数」領域が前年度より上昇している。

- ・数学A[1] (2) 「絶対値の意味を理解している」 [1年]
- ・数学A[2] (1) 「数量の大小関係を不等式に表す」 [1年]
- ・数学B[2] (2) 「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明する」 [2年]
- ・数学B[5] (2) 「数学的な結果の解釈を通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を説明する」 [2年]

小学校 理科

「『知識』に関する問題」では、理科で学習する用語に対する理解に課題が見られる。

「『活用』に関する問題」では、観察・実験に対するまとめについての理解がよくできている。

- ・理科[1] (3) 「うでを曲げたりすることができる骨と骨のつなぎめの名前を答える」 [4年]
- ・理科[2] (1) 「土や石を積み重ねるはたらきの名前を答える」 [5年]
- ・理科[1] (2) 「鳥のつばさや人の手やうでのつくりについて本で調べた内容をもとにまとめる」 [4年]
- ・理科[4] (4) 「実験の結果から言えることを学習問題に照らし合わせてまとめる」 [4、5年]

中学校 理科

「『知識』に関する問題」では、理科で学習する用語に対する理解および計算を伴う問題、化学反応式の作成に課題が見られる。「『活用』に関する問題」では、は実験方法を考える際に条件制御に関する内容に課題が見られる。

- ・理科[2] (2) 「質量パーセント濃度を求める」 [1年]
- ・理科[4] (3) 「原子の数に気を付けて化学反応式のモデルを修正する」 [2年]
- ・理科[5] (1) 「反応の経路について答える」 [2年]
- ・理科[9] (1) 「水蒸気が植物から出る働きについて答える」 [1年]
- ・理科[4] (2) 「実験の際に変えない条件を考える(条件制御)」 [2年]

課題が見られた設問の例

小学校 国語 [3・4年] 【A 5】

⑤ 大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、……部と……部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の【春休みの出来事の一部】をよく読んで後の（問い）にこたえましょう。

【春休みの出来事の一部】

① ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。② ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③ 今年の春休みは、とてもじゆう実したのとなりました。でも、反省していることもあります。④ 反省点：用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけでなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

（問い）……部と……部とのつながりが合っていない分の番号を①から④までのなかから一つ選んで書きましよう。また、……部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましよう。

相手や目的に応じ、伝えたいことが伝わるように文章を書くためには、文の中の語句の役割や、語句相互の関係を付けて、文をどのように組み立てればよいのかを考えることが大切であり、文の中における主題と述語との関係などに注意して文を正しく書くことができるかどうかをみる。

中学校 国語 [1年] 【B 2】(三)

② 山川さんは、総合的な学習の時間に、ロボットについて発表しています。次は、山川さんが発表のために作成した【資料】（発表の直前の場面）と、それに続く【発表・質問の場面の一部】です。これらを読んであとの問いに答えなさい。

（資料等 省略）

三 山川さんは、最後にロボットに期待することを述べて発表をまとめます。山川さんの進め方として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 これまで話してきた内容や聞き手とのやり取りを踏まえた上で、【資料】の中の③の情報を取り上げながら発表をまとめよう。

2 聞き手とのやり取りを通して生まれた新たな考えをもとに、【資料】の中の①と②の情報を基に発表をまとめよう。

3 これまで話してきた内容や聞き手とのやり取りを踏まえずに、【資料】の中の③の情報を基に発表をまとめよう。

4 聞き手とのやり取りの内容を受けて話の方向を転換し、【資料】の中の③の情報を基に発表をまとめよう。

全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すことができるかどうかをみる。

小学校 算数 [5年] 【A 1】(2)

- ① 0.4mの重さが60gの針金があります。この針金について、次の問題に答えましよう。
- (2) 針金1mの重さが何gになるかを考えます。1mの重さを□gとして、針金の長さ（m）と重さ（g）の関係を下の図に表します。針金0.4mの「0.4」、0.4mの重さ60gの「60」、1mの重さ□gの「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。
- アからオまでの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その記号を書きましよう。



- 計算の能力を身に付けているかどうかをみる。
- ・除法で表すことができる二つの数量の関係を理解していること。
 - ・小数の除法の問題場面において、二つの数量の関係を数直線に表すこと。
 - ・除数が小数の場合の1に当たる大きさを求める式を理解していること。

中学校 数学 [1年] 【A 2】(1)

- ② 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。
- (1) 「1個 a kg の荷物3個と1個 b kg の荷物4個の全体の重さは15 kg 以上である」という数量の関係を、不等式で表しなさい。

事象において比べようとする数量に着目し、それらを数や文字を用いた式で表し、不等号を用いて数量の大小関係を適切に表すことができるように指導すること。

本設問を使って授業を行う際には、1個 a kg の荷物3個の重さを $3a$ 、1個 b kg の荷物4個の重さを $4b$ 、荷物全体の重さを $3a + 4b$ と表現し、その重さが15 kg以上であることから、 $3a + 4b \geq 15$ または15より大きいと捉え、このことを不等号を用いて $3a + 4b \geq 15$ と表せるように指導すること。

小学校 理科 [4年] 【1】(3)・【2】(1)

- ① 【たかしさんのまとめ】
＜鳥のつばさと人の手やうでのつくり＞
- 同じところ
○つばさやうでのつけ根からのびる骨は1本で、その骨から2本の骨がつながっている。
○鳥のつばさにも人のうでにも、つばさを折りたんだらうでを曲げたりすることができる骨と骨のつなぎ目がある。
- ちがうところ
○骨の数は、鳥より人の方が多い。
○骨と骨のつなぎ目の数は、鳥より人の方が多い。
- ③ 【たかしさんのまとめ】に書かれている「うでを曲げたりすること」ができる骨と骨のつなぎ目のことを何といいいますか。そのことばを書きましよう。
- ② 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉を理解しているかどうかをみる。
- ② 流れる水のはたらきにより、川が曲がっているところの外側では地面がけずられて、内側では流れてきた土や石を積みもらせるからだと思うよ。
- (1) かつやさんの予想にあるような、ながれる水の「土や石を積みもらせる」はたらきを何と言いますか。そのことばを下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。
- 1 たい積 2 運搬 3 しん食

堆積作用について、科学的な言葉を理解しているかどうかをみる。

中学校 理科 [2年] 【5】(1)

- ⑤ ヒトの刺激と反応について、日常生活と関連する課題を、理科の授業で科学的に探究しました。

日常生活との関連を考える場面（一部省略）

先生：ところで、バスの注意書きの「お客様へお乗りをされたことがありますか。なぜ話しかけてはいけませんの」でしょうか。

生徒：信号を見てブレーキを踏むのが遅れるからだと思います。

先生：なるほど。

でも、信号を見てブレーキを踏むのが遅れることを確かめることはできません。そこで、運転中の運転士に話しかけてはいけません理由を探究するために、「反応の時間を測定する装置」を使って確かめることができる実験を計画しましよう。



- (1) 下線部の反応の経路を下のように示したとき、 に適する語句を書きなさい。

目 → 神経 → 脳・脊髄 → 運動神経 → 筋肉

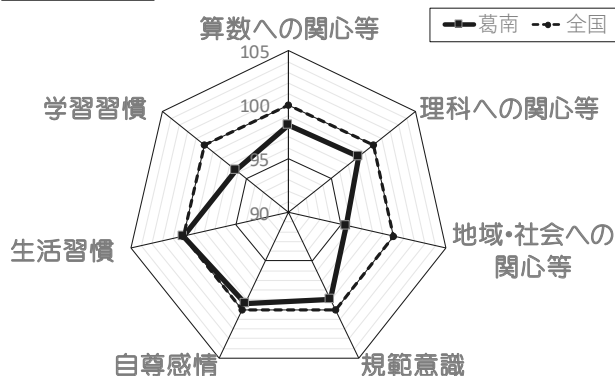
神経系の働きについての知識を身に付けているかどうかをみる。

生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

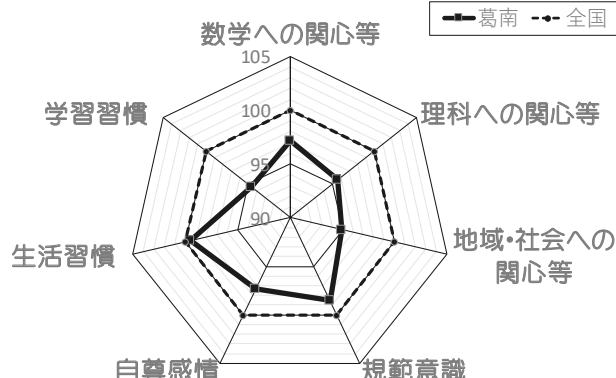
児童質問紙から

平成30年度



生徒質問紙から

平成30年度

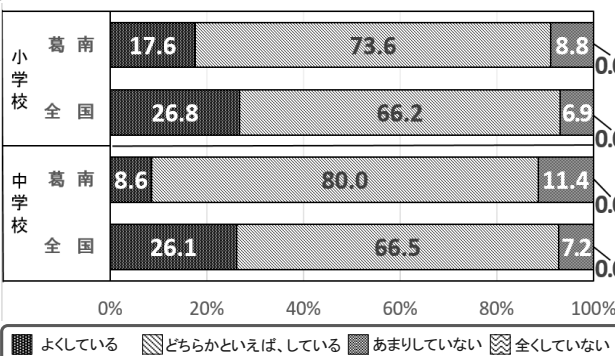


児童生徒ともに、「生活習慣」(【7】朝食喫食【8】就寝時刻【9】起床時刻)については、全国と同等の傾向にあるが、「学習習慣」(【10】自分で計画を立てて学習【11】学校の宿題【12】予習・復習【13】教科書を使用した自学自習)については、全国と比べて低い傾向にある。また、児童生徒ともに、「地域・社会への関心等」が、全国と比べて低い傾向にある。

学校質問紙から『主体的・対話的で深い学びの充実に向けて』

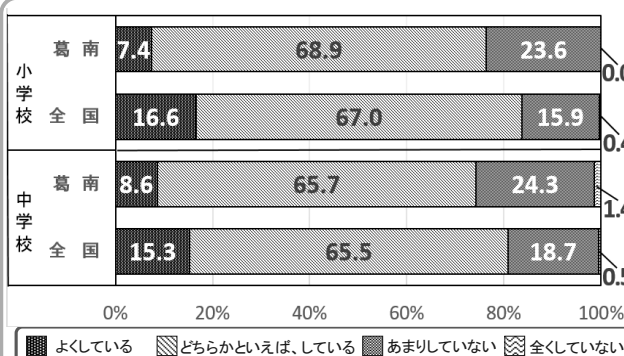
小22
中21

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



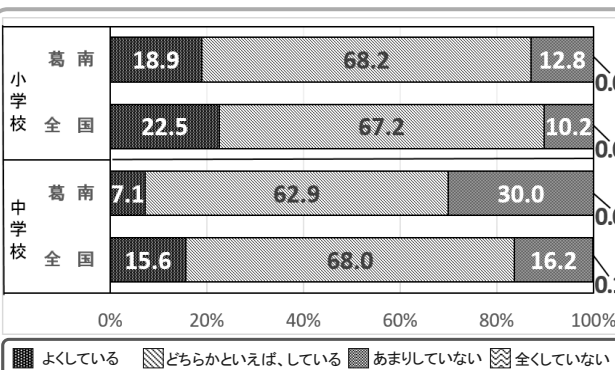
小13
中13

調査対象学年の児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか



小26
中25

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



- ・【小22・中21】については、小学校は「どちらかといえば、している」の回答が全国に比べて高いが、「よくしている」の回答は低く、中学校は全国に比べて低い状況にある。
- ・【小13・中13】の項目では、小中ともに「よくしている」の回答が全国と比べて低く、「あまりしていない」「まったくしていない」を併せた回答も小中ともに低い状況にある。
- ・【小26・中25】の項目では、肯定的回答の割合が小学校は全国とほぼ同程度であるが、中学校が全国と比べて低くなっている。

【市川市立鬼高小学校】

校内研修を通して「書く力」に課題があることを明確にし、全職員共通理解の下、授業改善に取り組んだ。

【具体的取組】

第5学年「子ども句会／歌会を開こう」という単元では、俳句や短歌を作るだけでなく、その作品の背景や作った思い等を作品に添付する実践に取り組んだ。「作品の背景にあるものや自身の思いを、読み手に伝わるように書く」という条件をつけることで、「書く力」の向上を図った。

【取組のまとめ】

- ・児童の実態分析を全職員で行い、様々な条件で書く力を培うことについて共通理解を図った。
- ・PDCAサイクルの視点での授業実践に全職員で取り組み、講義形式の授業からの改善を図った。今後、授業の実態を把握できるアンケート等、検証可能なデータについて検討していく。
- ・言語活動を通して指導事項の明確化を図り、様々な条件のもと「ともに考え合う」をキーワードに、書く力の指導を重点的に行ったところ、国語B「書くこと」の領域で無解答率が下がった。

【市川市立稲荷木小学校】

全職員で児童の実態分析や共通事項を確認するとともに、中学校ブロックで作成した「授業の約束」を全学級で指導する等、授業改善の取組を進めた。

【具体的取組】

全学年で、「学習問題」は青、「まとめ」は赤に統一し、わかりやすい板書に取り組んだ。また、中学校ブロックで作成した「授業の約束『これだけは！』」を各学級に掲示し意識化を図った。国語科において、年間を通して単元ごとの初発の感想の記入を行うとともに、行事や総合的な学習の時間等、他教科において体験したことや考えを文章にまとめる活動の日常化に取り組んだ。算数科の指導において、中学年以上の全ての学級で担任と加配教員が習熟度別指導等のきめ細かな指導を行った。

【取組のまとめ】

- ・年度初めに全職員で共通理解することで、学校全体で統一した指導を行うことができた。
- ・年間を通して「考えを書く」活動を日常化したことにより、平成30年度全国学力・学習状況調査の国語A「読むこと」「書くこと」の領域では全国平均を上回る結果となった。

【市川市立第六中学校】

調査結果の細かな分析を基に、授業改善や基礎・基本の定着を図る取組を進めた。数学科においては、習熟度別少人数指導を行い、学力の向上を図った。

【具体的取組】

- ・校務分掌に「校内学力検証」という分掌を置き、全国学力・学習状況調査を分析し、経年データを利用した領域や能力別の正答率の高低を分析。課題に取り組む校内体制をつくった。
- ・担任と加配教員による少人数指導の工夫、きめ細かな指導に取り組んだ。また、誤答例を参考に一人一人のつまづきをつかみ、放課後学習等での資料として活用した。

【取組のまとめ】

- ・習熟度別少人数指導を工夫することは、数学の学力向上に有効であることが確認できた。
- ・生徒による「授業評価」を年間2回行い、指導方法の改善に活かしている。2学期初めと3学期初めに授業改善できる箇所を個別に記載し、全職員が閲覧できるようにした。
- ・朝学習や小テストを有効活用することで基礎・基本の定着を図るとともに、放課後を中心とした「校内塾」を活用することで自分で課題を見つけて学習する機会になった。

(2) 東葛飾地区

教科についての傾向と課題

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。

○ 正答率が全国と比べて低いもの

○ 正答率そのものが低いもの

* [] 内の学年は、学習学年を示している。

小学校 国語

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「話すこと・聞くこと」、「書くこと」に課題が見られる。

- ・国語A⁵ 「文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く」 [3、4年]
- ・国語A⁸ オ 「書かれている内容や文の意味を理解し、文の中で漢字を正しく使う（せつ極的）」 [5、6年]
- ・国語B¹ 三 「相手の話の内容を十分聞き取り、共通点や相違点等を整理し、自分の考えをまとめる」 [5、6年]
- ・国語B² 二 「推薦する理由として適切な内容を取り上げ、相手に伝わるように詳しく書く」 [5、6年]

中学校 国語

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。

- ・国語A⁸ 1 「文脈に即して漢字を正しく書く（紙をひもでタバねる）」 [2年]
- ・国語A⁸ 六 2 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む（とほさざるなし）」 [1年]
- ・国語B² 三 「ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する」 [1年]

小学校 算数

第4学年、第5学年の「量と測定」「図形」に課題が見られる。

- ・算数A¹ (2) 「針金0.4mと0.4mの重さの60gと1mの重さが、それぞれ数直線のどこに当てはまるかを選ぶ」 [5年]
- ・算数A⁴ (1) 「面積がそろっている㊦と㊧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ」 [5年]
- ・算数A⁵ (2) 「分度器の目盛りを読み、180°よりも大きい角の大きさを求める」 [4年]
- ・算数B¹ (2) 「一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く」 [3、4、5年]
- ・算数B³ (1) 「メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く」 [3年]

中学校 数学

第1学年の「数と式」「図形」「関数」に課題が見られる。特に第1学年での力の定着を大事にしたい。

- ・数学A¹ (2) 「絶対値の意味を理解している」 [1年]
- ・数学A² (1) 「数量の大小関係を不等式に表すことができる」 [1年]
- ・数学A⁵ (4) 「四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の1/3であることを理解している」 [1年]
- ・数学A⁹ (3) 「反比例について、グラフと表を関連付けて理解している」 [1年]
- ・数学B² (2) 「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる」 [2年]

小学校 理科

「生命・地球」「物質・エネルギー」に関する事項、資料やイラストから情報を読み解く力に課題が見られる。

- ・理科³ (4) 「目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の1日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ」 [3、4年]

中学校 理科

「生物的領域」「化学的領域」で、自然事象についての知識・理解に課題が見られる。

- ・理科² (2) 「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度（3.0%の濃度）のものを指摘できるかどうかをみる」 [1年]
- ・理科⁴ (3) 「化学変化の前後で「原子の種類と数」は変化しないという知識と、化学変化を原子や分子のモデルで表す知識・技能を活用して、原子や分子のモデルで説明できるかどうかをみる」 [2年]
- ・理科⁵ (1) 「神経系の働きについての知識を身に付けているかどうかをみる」 [2年]
- ・理科⁸ (1) 「アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けているかどうかをみる」 [2年]

課題が見られた設問の例

小学校 国語 [3・4年] 【A 5】

【5】 大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、部と一部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。

次の「春休みの出来事の一部」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【春休みの出来事の一部】

①ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。②ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③今年の春休みは、とてもじゅう実したものでした。でも、反省点として、道具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、道具の手入れもしつかりがんばりたいと思います。

【問い】部と一部とのつながりが合っていない文の番号を①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また、部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

文中の主語と述語、修飾と被修飾の関係を理解できていない誤答が4割以上と多い。文の構成の理解とともに、文中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けて読み返す場を設定する等、文の組み立てについて理解できるようにする必要がある。

中学校 国語 [1年] 【A 8】

【8】 次は、中国の「韓非子」という本にある話「A」と、その現代語訳「B」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

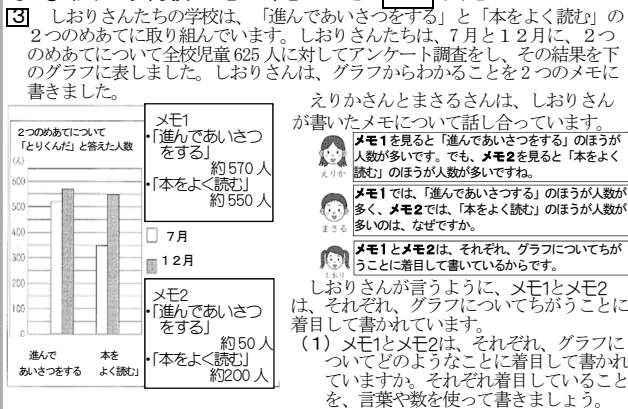
【A】 魯載でまきんので間用紙を参照してなさい。

【B】 楚の国の人で、盾と矛とを売っている者がいた。その盾をほめて言うには、「私の盾の堅いこと」といつたら、突き通せるものはない。と。また、その矛をほめて言うには、「わたしの矛の鋭いこと」といつたら、どんなものでも突き通さないことではない。と。ある人が言うには、「あなたの矛で、あなたの盾を突き通したらどうなるか。」と。その人は答えることができなかった。

2 線部「とほきさるなし」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

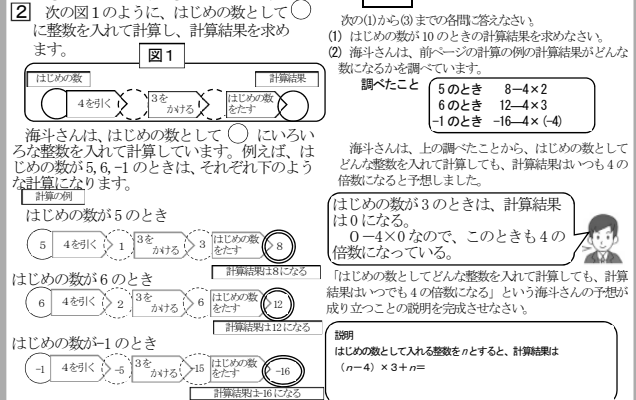
誤答、無回答を合わせると4割以上が歴史的仮名遣いを正しく直して読むことができていない。古典の決まりや訓読の仕方を知り、古典や漢文を音読するなどともって古典の世界に触れることが大切である。

小学校 算数 [3年] 【B 3】 (1)



解答類型を分析すると、それぞれのグラフについて着目しているところを答えなければならないが、メモ1のみの記述が多い。また、無解答率も高くなっている。複数のグラフからのデータの読み取りや、情報とグラフを関連付けて読み取ること、それを自分の言葉で記述する等の学習活動を大切に扱う必要がある。

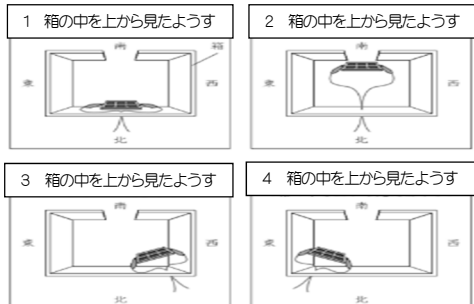
中学校 数学 [1年] 【B 2】 (2)



解答類型を分析すると、正解は約15%、文字式に表せているが説明不足もしくは誤りがあるものは約30%、文字式に誤りがあるものは約28%、無解答は約27%であった。まず、文字式で表現する力を養うこと徹底し、さらに文字式を使って説明する力をつけるために日々の授業で説明する機会を多く取り入れる必要がある。

小学校 理科 [6年] 【3】 (4)

【3】 (4) 午前1時ごろから午後3時ごろだけプロペラが回るようにするには、箱の中で光電池をどのようにおけばよいと考えられますか。下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。



解答類型を分析すると、午後1時頃から午後3時頃までの間に太陽の位置を解答例1、2は南側、解答例3は南東側と捉えている。①乾電池や光電池でモーターを回すことができること、②一日の太陽の軌道、③太陽が箱の中の光電池にどのような状態で当たるか、4種類のイラストを論理的に分析する力が必要である。

中学校 理科 [3年] 【5】 (1)

【5】 先生：ところで、バスの注意書きの～お客様へお願い～を見たことがありますか。なぜ話しかけてはいけないのでしょうか。

生徒：信号を見てブレーキを踏むのが遅れるからだだと思います。

先生：なるほど。

でも、信号を見てブレーキを踏むのが遅れることを確かめることはできません。

そこで、運転中の運転士に話しかけてはいけない理由を探究するために、「反応の時間を測定する装置」を使って確かめることができる実験を計画しましょう。



(1) 下線部の反応の経路を下のように示したとき、に適する語句を書きなさい。

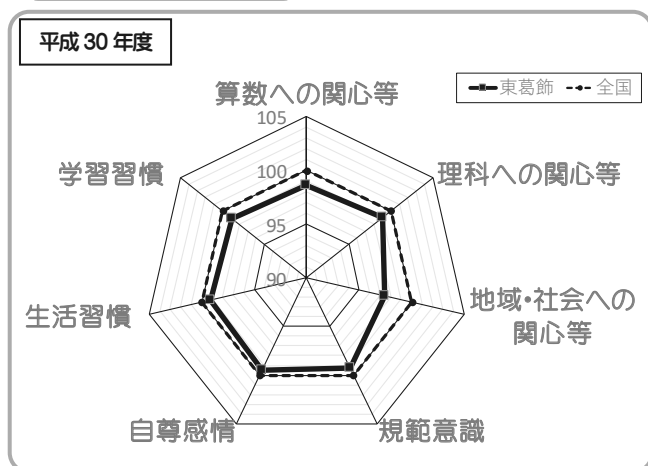
目 → 神経 → 脳・脊髄 → 運動神経 → 筋肉

解答類型を分析すると、正解は約4割であり、約2割は感覚器官と脳をつなぐ神経を中枢神経であると誤って捉えている。神経系の働きについての知識を身に付けていないと考えられるため、単発的な名称だけでなく、矢印を用いた図でまとめるなどして、総合的に理解が深まる取組が必要である。

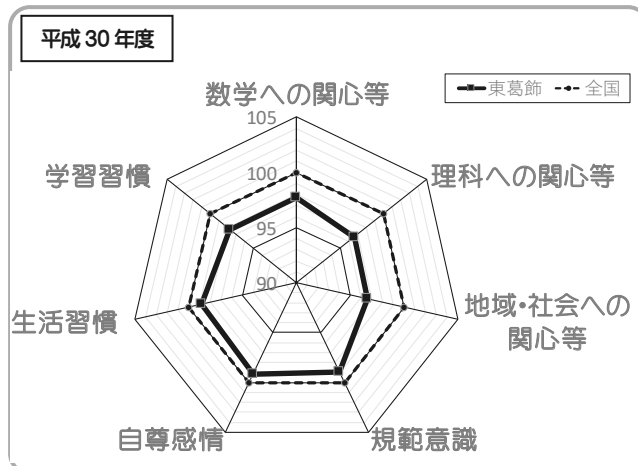
生活習慣や学習環境等について

全国平均を100としたときの指数で示している。

児童質問紙から



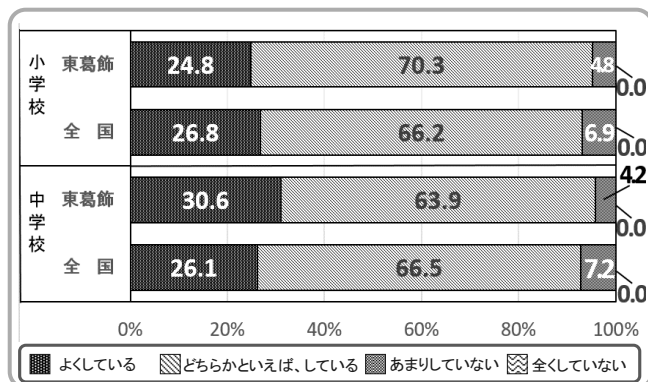
生徒質問紙から



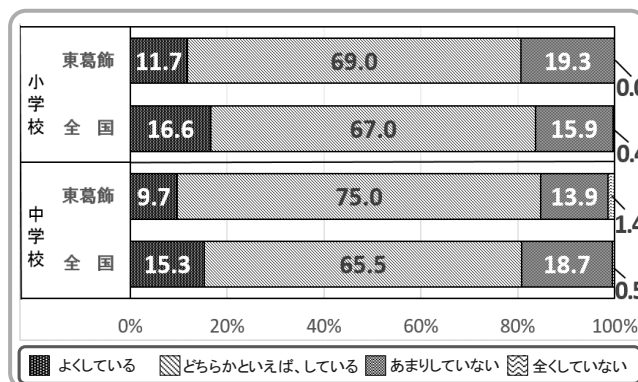
児童質問紙、生徒質問紙ともに、東葛の地区では全国と比べて全体的に低い傾向にある。特に、「地域・社会への関心等」が小学校、中学校ともに低い。また、児童質問紙に比べて生徒質問紙では各教科への関心が低下する傾向がある。教科の正答率とも合わせて考えると、特に中学校における理科への興味・関心を高める指導が求められる。

学校質問紙から『主体的・対話的で深い学びの充実に向けて』

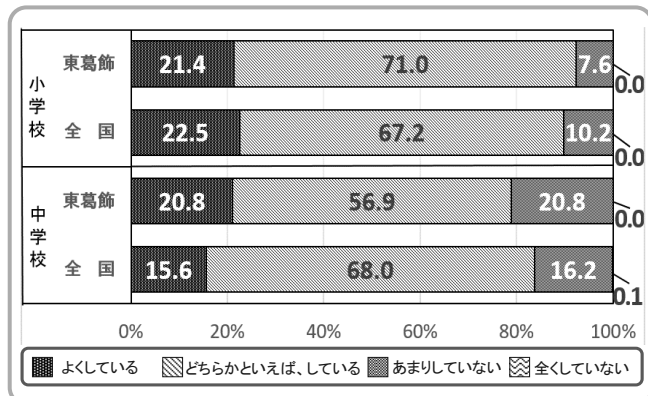
小22 中21 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



小13 中13 調査対象学年の児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか



小26 中25 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



・【小22・中21】の習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善への取組については「よくしている」「どちらかといえばしている」合わせて肯定的な回答が多い。

・【小13】のでは肯定的な回答が全国と比べて低くなっている。【中13】では肯定的な回答が全国と比べて高くなっている。小中とも「よくしている」の回答は全国より低い。

・【小26】では肯定的な回答が全国に比べて高くなっている。【中25】では「よくしている」が全国より高くなっているものの肯定的回答は全国より低くなっている。

【松戸市立梨香台小学校】

＜取組＞

- 「わかるから楽しい学習指導のあり方（算数科の指導を通して）」
四分位数による階層分布から分析を行い、上・下位層に対して以下の手立てを講じる。
- わかりやすい授業づくり 演習量の確保と工夫 わかる授業→わかるから楽しい授業へ
ユニバーサルデザインの視点、板書やノート指導等の学習の流れを校内で統一
 - きめ細かな指導
少人数指導教員、学習サポーターを活用 「あきらめない姿勢」と「できた実感」
 - 「梨の子ぐんぐん算数プリント」（ステップ学習教材）の開発と活用
保護者ボランティア活用
児童一人一人のつまずきに応じた学習教材を作成。課題がみられた学習内容までさかのぼり学び直すことで、意欲の向上とつまずき克服に向けた取組を実施。

＜現状分析＞

- 児童の授業に取り組む姿の変化、教員の授業研究に向き合う積極性に向上が見られた。

【柏市立風早北部小学校】

＜課題分析＞

- 記述式の課題について「自分の言葉でまとめる力」「誤答と無解答率」に着目。
基礎・基本の定着・一つの課題にじっくり取り組む学習習慣
→「課題に対し、最後まであきらめずにやり抜く力」を焦点化

＜取組＞

- 学習指導案に「困難度査定（子どものつまずき）」と「つまずきに対する具体的な手立て」を記載。児童一人一人の学習状況に応じた手立てを講じる。
 - 『つなげる』学び～「教えて考えさせる授業」における『つなげる』を意識した研究を通して～
 - ・『つなげる』学びとは ・未習と既習をつなげる・人をつなげる・学びと社会をつなげる
 - ・『教えて考えさせる授業』とは 「教えること（教師が教える場面）」「考えさせること（児童が考える場面）」の明確化 習得と探究のバランス
- 「理解確認」は、児童が互いの理解を共有し、認め合う場。
「理解深化」で、学びに対する必要感（伝えたい、表現したい）が強く持てる課題を解く。
「自己評価」により子どものメタ認知を促す。

【我孫子市立湖北中学校】

＜課題の分析から 学習習慣の定着と新学習指導要領に対応した学力の向上＞

- 基礎的・基本的な学力の定着に課題がある。
- 全国学力・学習状況調査の結果から、「自分の考えを相手に伝える」・「自ら課題を設定する」等の主体的な学びや話し合い活動等の対話的な学びを苦手とする生徒が多い。

以上の2点が主な課題であることが分かった。そこで、研究テーマ「学び合いを通して主体的に課題を解決する生徒を育成し、学力向上に繋げる」～ケアのある学びを通して～と設定し、全授業・全学級で授業改善を主とし研究を進めてきた。

＊ケアのある学び・・・他者の声を聴こうとする姿勢、相手を思いやり、互いに尋ね合える人間関係の構築を根幹とし、授業への参加意識を学習意欲の向上へと結びつける学び

＜取組＞

- 授業における小集団の活用と学び合い活動の推進（授業改善）
- 主体的・対話的な学びに基づいた校内研修の活性化
- 「Kタイム」（10分間の朝学習）による基礎・基本の徹底
- 「ワンデーワンページ」による家庭学習の習慣化

(3) 北 総 地 区

教科についての傾向と課題

- *例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。
○正答率が全国と比べて低いもの
○正答率そのものが低いもの
* [] 内の学年は、学習学年を示している。

小学校 国語

「話すこと・聞くこと(A問題)」の領域は前年度より上昇しており、「短答式」の問題形式が前年度より低下している。

- ・国語A 5 「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」 [3、4年]
- ・国語A 8 オ 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」 [5、6年]
- ・国語B 1 一 「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える」 [5、6年]
- ・国語B 1 三 「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」 [5、6年]

中学校・国語

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(A問題)」の領域は前年度より上昇しており、「書くこと」の領域が前年度より低下している。

- ・国語A 8 一 1 「文脈に即して漢字を正しく書く(紙をひもでタバねる)」 [2年]
- ・国語A 8 五 「行書の基礎的な書き方を理解して書く」 [1年]
- ・国語A 8 六 2 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」 [1年]
- ・国語B 2 三 「全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」 [1年]

小学校 算数

「数量関係(A問題)」の領域は前年度よりやや上昇しており、「量と測定」の領域が前年度より低下している。

- ・算数A 4 (1) 「面積がそろっている⑦と⑧の二つのシートの混み具合について、正しいものを選ぶ」 [5年]
- ・算数A 7 (1) 「円周率を求める式として正しいものを選ぶ」 [3、5年]
- ・算数B 1 (2) 「一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になっていることを、着目した図形とその大きさの角の大きさを基に書く」 [3、4、5年]
- ・算数B 4 (2) 「横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く」 [2、4年]

中学校 数学

「数と式」の領域に課題が見られるが、「記述式」の問題形式が前年度よりやや上昇している。

- ・数学A 1 (2) 「絶対値が6である数を書く」 [1年]
- ・数学A 2 (1) 「【1個a kgの荷物3個と1個b kgの荷物4個の全体の重さは15kg以上である】という数量の関係を表した不等式を書く」 [1年]
- ・数学A 5 (4) 「底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ」 [1年]

小学校 理科

「『知識』に関する問題」は前回(H27)と同程度であり、「記述式」の問題形式が前回(H27)より大きく低下している。

- ・理科 2 (2) 「土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できるかどうかをみる」 [5年]
- ・理科 2 (3) 「大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方について、実験結果を分基に析して考察し、その内容を記述する」 [5年]
- ・理科 3 (2) 「電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できるかどうかをみる」 [4年]

中学校 理科

「『活用』に関する問題」は前回(H27)より上昇しており、「『知識』に関する問題」が前回(H27)より低下している。

- ・理科 2 (2) 3.0%の濃度「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる」 [1年]
- ・理科 4 (3) 「ガスバーナーの炎が赤いときの化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる」 [2年]
- ・理科 5 (1) 「神経系の働きについての知識を身につけているかどうかをみる」 [2年]

課題が見られた設問の例

小学校 国語 [3・4年] 【A 5】

- ⑤ 大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、……部と……部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の「春休みの出来事の一部」をよく読んで後の(問い)に答えましょう。
- (問い) ……部と……部とのつながりが合っていない部分の番号を①から④までの中から一つ選んで書きましょう。また、……部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。
- ① ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。② ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③ 今年の春休みは、とてもじゅう実したものでした。でも、反省していることもあります。④ 反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけでなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

中学校 国語 [1年] 【A 8】 六(二)

- ⑧ 次は、中国の「韓非子」という本にある話【A】と、その現代語訳【B】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。
- 【A】 龜載でござんので、問用紙を参照してください。
- 【B】 竹内照夫「新釈漢文大系 第12巻 韓非子(下)」による。
- 楚の国の人で、盾と矛とを売る者がいた。その盾をほめて言うには、「わたしの盾の堅いことといったら、突き通せるものはない。」と。また、その矛をほめて言うには、「わたしの矛の鋭いことといったら、どんなものでも突き通さないことはない。」と。ある人が言うには、「あなたの矛で、あなたの盾を突き通したらどうなるか。」と。その人は答えることができなかった。
- ② 線部「とほさざるなし」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。
- 文語のきまりについては、言葉の意味を考えながら音読したり、音読を聞いたりすることを通して古典特有のリズムを味わいながら理解させること。

小学校 算数 [5年] 【A 4】 (1)

- ④ こみぐあいについて、次の問題に答えましょう。
- (1) ⑦と⑧の2つのシートがあります。⑦と⑧のシートの面積は、同じです。
- 次の表は、シートの上にすわっている人数とシートの面積を示しています。
- 表から、こみぐあいについてどのようなことがわかりますか。下の1から3までの中から1つ選んでその番号を書きましょう。
- 1 ⑦のほうがこんでいる。
2 ⑧のほうがこんでいる。
3 どちらもこみぐあいは同じである。

混み具合については、面積がそろっていれば、人数の大小で混み具合を比べることができることなどを、実感的に理解できること。また、人数は変えずに面積を広くしていき、広くなるにつれて、混み具合が変わることを実感できるようにすること。

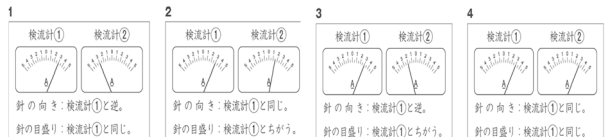
中学校 数学 [1年] 【A 1】 (2)・【A 2】 (1)

- ① 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。
- (2) 絶対値が6である数をすべて書きなさい。
- ② 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。
- (1) 「1個 a kgの荷物3個と1個 b kgの荷物4個の全体の重さは15kg以上である」という数量の関係を、不等式で表しなさい。

数直線上における原点からの距離が絶対値であることを理解できるように指導すること。
1個 a kgの荷物3個の重さを $3a$ 、1個 b kgの荷物4個の重さを $4b$ 、荷物全体の重さを $3a+4b$ と表現し、その重さが15kg以上であることから、 $3a+4b \geq 15$ または 15 より大きいと捉え、このことを不等号を用いて $3a+4b \geq 15$ と表せるように指導すること。

小学校 理科 [4年] 【3】 (2)

- ③ ひろしさんたちは、図の回路を流れる電気のながれ方について予想したことを話し合いました。
- ひろしさん：かん電池の+極からモーターを渡って、電気が流れていて、モーターを通る前と後の電気の量は、同じだと思うよ。
- やす子さん：かん電池の+極からモーターを渡って、電気が流れていて、モーターから戻ってくるときは、電気の量は、減っていると思うよ。
- ひろしさんたちは、予想を確かめるために、2つの検流計を使って、図の回路で実験することにした。
- (2) やす子さんの予想が正しければ、検流計①の針が右に動いて3の目盛りを指したときに、検流計②の針はどのようにになると考えられますか。1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



実験結果の見通しを伴った解決の方向性を構想できるようにするために、自らの予想や仮説を基に実験計画を立案し、実験を行う前に、予想が確かめられた場合に得られる実験結果を見通すこと。

中学校 理科 [2年] 【4】 (3)

- ④ 科学部の雪子さんは、図書便りに紹介されていたファラデーの「ろうそくの科学」を読んで、科学的に探究してレポートにまとめました。

化学変化を原子や分子のモデルで表す

【理科で学習したこと】
化学反応式のつくり方
化学変化の前後で、原子の種類と原子の数は変化しない。

【インターネットで調べたこと】
ガスバーナーのガスの主な成分
プロパンという炭素の化合物(化学式は C_3H_{12})である。
プロパンの燃焼
酸素が十分あるときには、主に二酸化炭素と水が生じる

【炎が青い(酸素が十分にある)ときの化学変化】
酸素分子を5個にすると、化学変化の前後で原子の種類と数が合った。
プロパン + 酸素 → 二酸化炭素 + 水

【炎が赤い(酸素が十分にある)ときの化学変化】
酸素分子を1個にすると、化学変化の前後で原子の種類は合ったが、原子の数が合わなかった。
プロパン + 酸素 → 一酸化炭素 + 水 + 炭素

(3) 雪子さんは、「化学反応式のつくり方」をもとに、【炎が赤い(酸素が不足している)ときの化学変化】を見直して「……」の中のモデルを修正しました。修正したモデルを書きなさい。

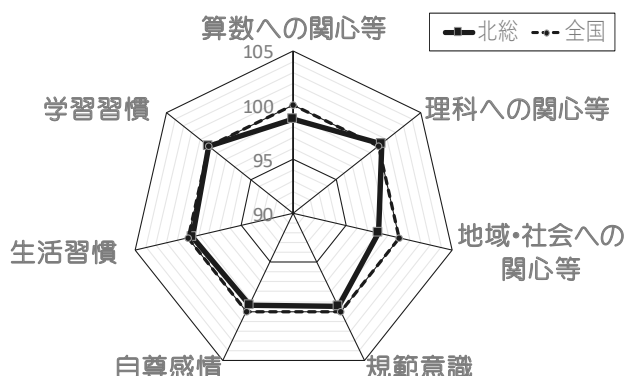
プロパンの燃焼を取り上げる場合は、あらかじめプロパンの燃焼に関する情報を提示し、化学変化に関する知識・技能を活用することに重点を置くようにすること。

生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

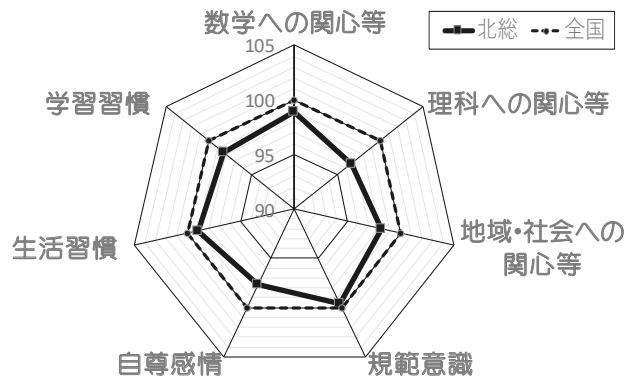
児童質問紙から

平成30年度



生徒質問紙から

平成30年度

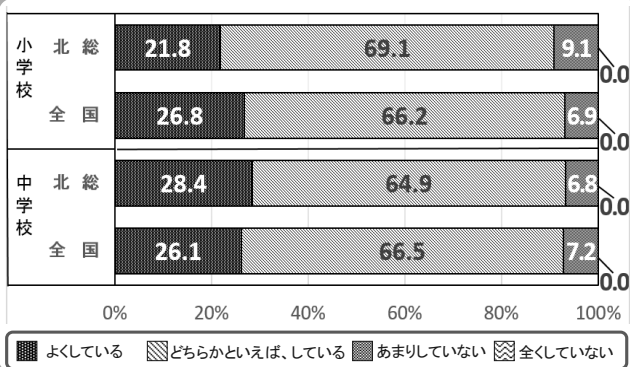


「算数・数学への関心等」については、児童生徒とも全国と比べてやや低い傾向にある。小学校算数では、「算数の重要性【28】」「算数の学習内容の理解【29】」について、全国に比べて大きく下回っている。算数を学習する楽しさを感じさせることや個に応じた指導を心がけることが学力向上につながると考えられる。中学校理科では、「観察や実験への意欲【47】」が全国に比べて下回っている。生徒の意欲を喚起できるような授業づくりが求められる。

学校質問紙から『主体的・対話的で深い学びの充実に向けて』

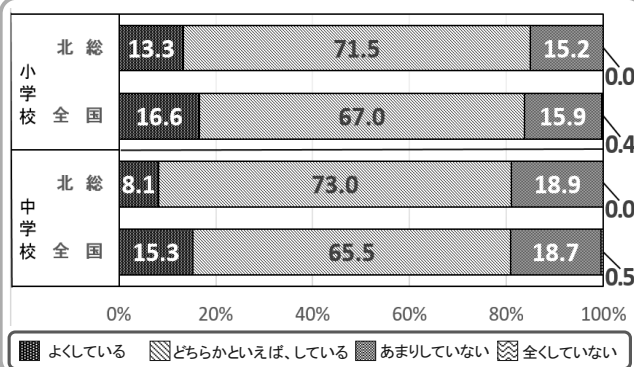
小22
中21

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



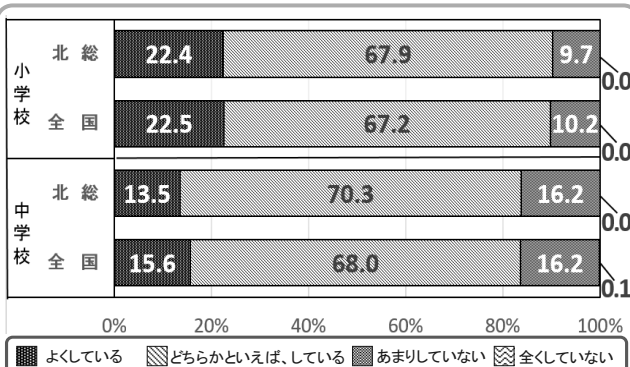
小13
中13

調査対象学年の児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか



小26
中25

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



肯定的回答の割合は、

- ・【小22・中21】の項目では、小学校は全国と比べて「よくしている」がやや低く、中学校はやや高い傾向にある。
- ・【小13・中13】の項目では、小学校は全国に比べて「よくしている」がやや低く、中学校は低い傾向にある。
- ・【小26・中25】の項目では、小中学校とも全国と同程度の傾向にある。中学校は「よくしている」がやや低い傾向にある。

【多古町立多古中学校】

1 生徒の実態

本校の過去3年間の全国学力・学習状況調査結果から、国語・数学ともに「記述式において無解答が多い。」ことが課題の一つに見られた。

2 実際の取組

- 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを取り入れた授業実践研究
 - ・国語科…問題解決を図る学習過程の中で思考力・判断力・表現力を高めるために、単元を貫く言語活動として「新聞の投書を書く」という単元を構成し、グループでの対話を用いた授業を行った。生徒は、自分の考えをもつ、交流する、考えを再構築し表現するという活動をする中で、自分自身の考え（表現）が深まるという体験をした。
 - ・数学科…自力解決後のグループでの学び合いやICT機器（タブレット、電子黒板）を活用して考えを表現させたり、生徒のつぶやきや発表を引き出したりすることを学習過程に適切に位置付け、図と言葉、数式を関連付けさせた。

3 生徒の変容（平成27～29年度 全国学力・学習状況調査生徒質問紙の結果から）

- ・「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。」といった「書く」活動の回答が、年を追って改善された。
- ・「1、2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。」といった「思考し、表現する力」に対する肯定的な回答が、年を追って増加している。

4 取組のまとめ

- ・教科部会を定期的に行い、実践モデルプログラムについて研修を進めた。その結果、授業での話し合い活動の充実や自分で筋道を立て課題を解決していこうとする力の育成につながっている。
- ・書くことに抵抗を感じる生徒は減少しているが、今後も教科研修や全体研修などをおして、「思考し、表現する力」の育成を目指した授業改善に努めたい。

【銚子市立明神小学校】

- ・全国学力・学習状況調査結果の設問ごとに分析を行い、自校の傾向や課題を経年にわたり把握した。課題が見られた設問から考えられるつまずきや手立てを複数考え、全教職員共通理解の下、学習指導に当たった。
- ・読書活動でお気に入りの本を紹介したり、調べた情報を活用して本にまとめたりするなど付けたい力を明確にし、文章を読む目的を設定し、児童の主体的に読む態度を促した。また、複数の本や新聞を同時に読み進め、文章を要約する活動を取り入れたことで、多様な文章を読み深める力の向上が見られた。

【八街市立笹引小学校】

- ・全国学力・学習状況調査結果を調査対象学年だけの課題としてとらえるのではなく、学校全体の課題としてとらえるために、学力向上委員会を設立し児童の学習状況や学力向上に向けた取組状況の把握に努めた。
- ・算数科の授業で少人数指導を実施。学習内容の見通しを児童にもたせ、児童自らコースを選択できるようにした。
- ・火曜日の6校時に5、6年生を対象に算数補習を実施している。全職員で5、6年生の指導にあたる時間を設定している。本年度より、算数の領域ごとにコースを設定し、児童が苦手と感じている領域を児童自らが選択できるようにした。その結果、学習に積極的に取り組む姿が多く見られた。

(4) 東 上 総 地 区

教科についての傾向と課題

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。
 ○ 正答率が全国と比べて低いもの
 ○ 正答率そのものが低いもの
 * [] 内の学年は、学習学年を示している。

小学校
国語

- 「話すこと・聞くこと」の領域は前年度より上昇しており、「書くこと」の領域が前年度より低下している。
- ・国語A 2 「物語を書くときの構成の工夫の説明として適切なものを選択する」 [5、6年]
 - ・国語A 5 「【春休みの出来事の一部】の中で、点線部と傍線部とのつながりが合っていない文を選択し、正しく書き直す」 [3、4年]
 - ・国語B 1 三 「これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げて書く」 [5、6年]

中学校
・国語

- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は前年度より上昇しているが、目的や場に応じて伝えたい内容や考えを書いたり話したりすることに課題が見られる。
- ・国語A 8 一 2 「漢字を書く（舞台のマクが上がる）」 [2年]
 - ・国語A 8 四 2 「「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰（何）」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く」 [2年]
 - ・国語B 1 三 「「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く」 [1、2年]
 - ・国語B 2 三 「ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する」 [1年]

小学校
算数

- 「数と計算」の領域は前年度より上昇したが、「量と測定」「図形」の領域が前年度より低下している。
- ・算数A 1 (2) 「針金 0.4m と 0.4m の重さの 60g と 1m の重さ $\square\text{g}$ が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるか、選ぶ」 [5年]
 - ・算数A 4 (2) 「二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ」 [5年]
 - ・算数B 1 (1) 「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことのできる図形として正しいものを選ぶ」 [2、3、4、5年]
 - ・算数B 1 (2) 「一つの円の周りに集まった角の大きさの和が 360° になっていることを、着目した図形とその角の大きさを基に書く」 [3、4、5年]

中学校
数学

- 「数学的な技能」の観点では前年度より上昇したが、「数と式」「関数」、「図形」の領域は引き続き課題がある。
- ・数学A 2 (1) 「『1個 $a\text{kg}$ の荷物3個と1個 $b\text{kg}$ の荷物4個の全体の重さは 15kg 以上である』という数量の関係を表した不等式を書く」 [1年]
 - ・数学A 5 (4) 「底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係」 [1年]
 - ・数学A 9 (2) 「比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める」 [1年]
 - ・数学B 2 (2) 「はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する」 [2年]

小学校
理科

- 「観察・実験の技能」、「自然事象についての知識・理解」で、全国平均を大きく上回ったが、「記述式」の問題形式に課題が見られる。
- ・理科 2 (2) 「流れる水のはたらきによる土地の浸食について、じぶんの考えと異なる他者の予想を元に斜面地に水を流した時の地面の削られ方を選び、選んだ理由を書く」 [5年]
 - ・理科 2 (3) 「一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えた時の地面の削られ方を選んだわけを書く」 [5年]

中学校
理科

- すべての分野、観点、問題形式で、全国平均を下回り、特に「記述式」の問題形式に課題が見られる。
- ・理科 4 (3) 「実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・理解の活用ができるどうか」 [2年]
 - ・理科 6 (2) 「実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる」 [2年]
 - ・理科 7 (1) 「地震の揺れの伝わり方や光や音の伝わり方に関する知識、技能を活用することができるかどうか」 [1年]

課題が見られた設問の例

小学校 国語 [3・4年] 【A 5】

- ⑤ 大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して……部と……部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の【春休みの出来事の一部】をよく読んで後の(問い)に答えましょう。
- 【春休みの出来事の一部】
文のはじめにある部は、その文の番号を示しています。
- ① ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。② ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③ 今年の春休みは、とてもじゅうう実したのとなりました。でも、反省していることもあります。④ 反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけでなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。
- (問い) ……部と……部とのつながりが合っていない文の番号を①から④までの中から一つ選んで書きましよう。また、……部はそのままだとして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましよう。
- 主語と述語が適切な係り受けになっていることが、伝えたいことを正確に伝える上で重要であることが、付かせるため、主語と述語の関係に注意しながら読みだり書いたりする習慣を身に付けさせること。

中学校 国語 [2年] 【A 8 四(2)】

- ⑧ 四 次の各問に答えなさい。
- 1 次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。
- 心を打たれる
- 1 遠慮する。
2 感動する。
3 一つのことに集中する。
4 あれこれと心配する。
- 2 「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかがわかるように書くこと。
- 文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるように書くことができるかを常に吟味するように指導すること。

小学校 算数 [5年] 【A 1 (2)】

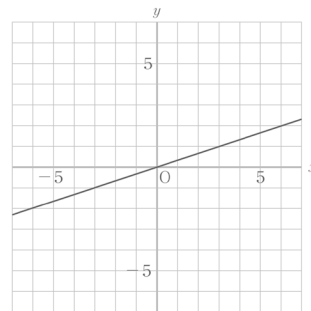
- ① 0.4mの重さが60gの針金があります。この針金について、次の問題に答えましょう。
- (2) 針金1mの重さが何gになるかを考えます。1mの重さを□gとして、針金の長さ(重さ)の関係を下の図に表します。針金0.4mの「0.4」、0.4mの重さ60gの「60」、1mの重さ□gの「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。
- アからオまでの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その記号を書きましよう。



数直線上の数量の対応関係や大小関係を的確に捉えることができるようにすること。

中学校 数学 [1年] 【A 9 (2)】

- ⑨ 次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。
- (2) 次の図の直線は、比例のグラフを表しています。xの変域が
- $3 \leq x \leq 6$
- はどのようにになりますか。
- 下のそれぞれの□に当てはまる数を求めなさい。
- $\leq y \leq$ □



xの変域の端点に対応するy座標を求めたり、グラフを用いて変域を視覚的に捉えたりする活動を取り入れ、与えられたxの変域からそれに対応するyの変域を求めることができるように指導すること。

小学校 理科 [5年] 【2 (3)】(説明 略)

- ②(3) 実験結果から、川を流れる水の量が増えると、川の曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようにになると考えられますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましよう。また、その番号を選んだわけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるようにして書きましよう。

水の量を変えた実験

○地面のけずられ方について詳しく調べるために、みぞの曲がっているところの外側と内側に3本ずつ棒を立てる。

○1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの様子を調べる

実験結果

1本のペットボトルの水を流したとき

2本のペットボトルの水を同時に流したとき



- 1 外側も内側もけずられる。
2 外側も内側もけずられない。
3 外側だけがけずられる。
4 内側だけがけずられる。

実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするためには、観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるようにすること。

中学校 理科 [1年] 【7 (1)】

- ⑦ 「緊急地震速報による避難訓練」の後、理科の授業で地震の学習を行い、科学的に探究しました。
- (1) 地震の揺れの強さを何と言いますか。また、S波による揺れを何と言いますか。それぞれア、イから1つ選びなさい。



- 地震の揺れの強さ
ア マグニチュード
イ 震度
○S波による揺れ
ア 初期微動
イ 主要動

資料の活用場面①

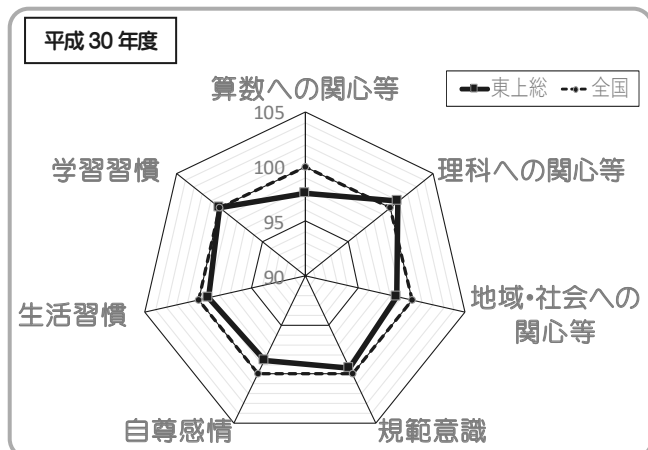
緊急地震速報は、震源に近い地震計でP波をとらえ、S波による強い揺れが起こる可能性があることを一斉に知らせる仕組みです。

身に付けた地震に関する知識が活用されている例として緊急地震速報を取り上げ、その仕組みについて調べたり発表したりすることを通して、理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるようにすること。

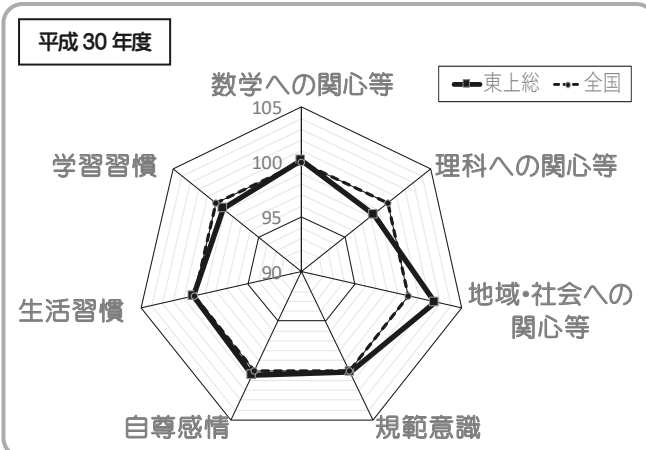
生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

児童質問紙から



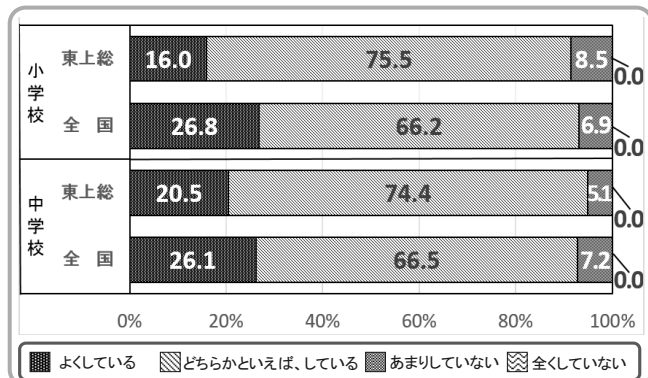
生徒質問紙から



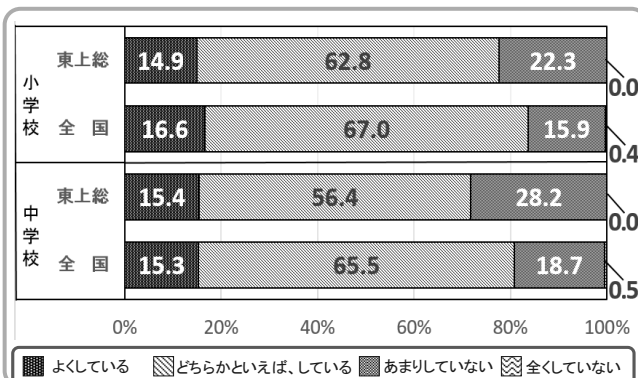
小学校算数では、「学習意欲【27】【30】」が全国に比べ下回っている。また、「算数の学習内容の理解【29】」も全国に比べて下回っている。児童の興味関心を引き出す授業づくりや児童一人一人の習熟状況に応じた、きめ細やかな指導が求められる。中学校理科では、「学習意欲【38】」「観察実験に対する関心【47】」が全国に比べ下回っている。小学校算数同様に、生徒の意欲を喚起する授業づくりが求められる。

学校質問紙から『主体的・対話的で深い学びの充実に向けて』

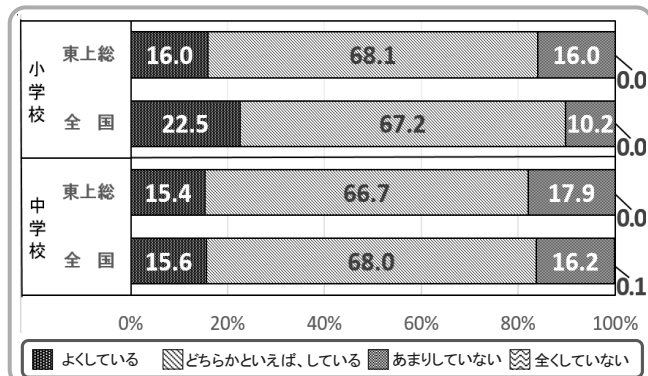
小22
中21 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



小13
中13 調査対象学年の児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか



小26
中25 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



【小22・中21】の項目では、「よくしている」の割合が小・中学校ともに全国と比べて低い。

【小13・中13】の項目では、小・中学校ともに肯定的回答の割合が全国と比べて低い。

【小26・中25】の項目では、小学校では肯定的回答の割合が全国と比べて低く、中学校では同程度である。

【大多喜町立大多喜中学校】

- ① 学校独自の取組
 - ・サク作タイムの実施 隔週の朝自習の時間に全校で作文活動に取り組んでいる。
- ② 授業改善に関わる取組
 - ・黒板掲示の工夫・・・「学習課題」「ポイント」「まとめ」等の掲示
 - ・ホワイトボードを活用したペアやグループでの学び合い、教え合い、伝え合い学習
 - ・話し合いの前に個人で考える時間を設定。自力解決を促し学習に対する主体性を育成
- ③ 学力向上に向けた組織づくり
 - ・学力向上推進委員会の設置
 - 教科・領域部会・・・学力向上に向けた実践、評価
 - 調査推進員会・・・調査集計及び分析ツールを用いて生徒の課題や傾向の把握

【横芝光町立東陽小学校】

- ① 授業改善に関わる取組
 - ・東陽小学校学びのプロセス（県の施策『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を基に、主に国語・算数科で学習過程を構成）
 - 国語→授業中、考える時間を確保し、自分の考えを書いたり、話したりする力を伸ばす。
 - 算数→授業中、記述力を高めるために自分の考えや説明を書くことに取り組んでいる。
 - 「まとめあげる場面（算数科例）」
 - 「わ・た・が・し」→「わかったこと」「たのしかったこと」「がんばったこと」
 - 「しりたくなったこと」を視点に、学んだことを記述させる。
- ② 学校独自の取組
 - ・職員の専門性や特性を生かした校内研修体制の構築
 - ・学級経営の充実（教師と児童及び児童相互の信頼関係の構築）
 - ・視写チャレンジ
 - ・学校行事の感想文を書く。
- ③ ちばっ子「学力向上」総合プランの活用
 - ・ちばっ子チャレンジ 100 の活用
 - 朝のドリルタイムで算数（火曜日）、国語（木曜日）を行う。
 - ・学びの突破口ガイドの活用（一覧表を使って、活用したページを記録）
- ④ 家庭との連携
 - ・「学習便り」の発行
 - 漢字や式の書き方など、児童がつまずきやすい学習内容を中心に保護者に周知

【長生村立長生中学校】

- ① 授業力向上
 - ・相互授業参観の実施（月 1 回以上、年間を通して実施）
 - ・生徒による授業評価を実施し、調査結果を基に課題を共有し、授業改善に向けて職員全体で共有。
- ② 主体的学習態度の育成
 - ・個に応じた指導の充実（学習相談、夏季補充学習、学習指導支援員や特別支援教育介助員の活用と重点的配置）
 - ・ノートやレポート指導を中心としたまとめや整理能力の育成
 - ・自己評価カードを活用した振り返りの時間を全教科、全時間で行い学びの自覚化を図る。また、生徒の実態把握に努め、次時の指導につなぐ。

(5) 南 房 総 地 区

教科についての傾向と課題

* 例示した設問や出題の趣旨等は、以下のうち、特徴的なものである。
 ○ 正答率が全国と比べて低いもの
 ○ 正答率そのものが低いもの
 * [] 内の学年は、学習学年を示している。

小学校
国語

「書くこと」領域が全国を下回っている。「話すこと・聞くこと」領域に関連する記述式が低下している。「活用(B問題)」において、記述式の正答率が全国を下回っている。

- ・国語A 2 「宝物を探す物語を創作する 文章全体の効果を考える」 [5、6年]
- ・国語A 7 「敬語を使う 相手や場面に応じて適切に敬語を使う」 [5、6年]
- ・国語B 1 三 「言葉の使い方を見直すために話し合う」 [5、6年]
- ・国語B 2 三 「献立を推薦する文章を書く」 [5、6年]

中学校
・国語

「書くこと」領域が全国を下回っている。また、「活用(B問題)」では、「話すこと・聞くこと」領域で課題がある。記述式の正答率が前年度より向上したが、全国を下回っている。

- ・国語A 2 二 「伝えたい事実や事柄を相手にわかりやすく伝えるように書く」 [2年]
- ・国語A 5 一 「説明的な文章を読む 段落が文章全体の中で果たす役割を捉える」 [2年]
- ・国語A 8 六 2 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」 [1年]
- ・国語B 2 三 「ロボットについて資料を作成して発表する」 [1年]

小学校
算数

「活用(B問題)」に課題が見られる。特に「記述式」の問題形式は前年度より向上しているが、全国を下回っている。

- ・算数A 1 (2) 「2つの数量の関係を理解し、数直線上に表す」 [5年]
- ・算数A 2 「小数の除法の意味について理解し、それを適切に用いる」 [3、4、5年]
- ・算数B 1 (1) 「図形の性質を基に観察し、条件に合う図形を見出す」 [3、4年]
- ・算数B 1 (2) 「模様の中から図形を見出し、集まった角の和が 360° になる理由を言葉や式を用いて記述する」 [3、4、5年]

中学校
数学

「活用(B問題)」に課題が見られる。特に「記述式」の問題形式は前年度より向上しているが、全国を大きく下回っている。

- ・数学A 2 (1) 「数量の関係を文字を用いて、不等式に表す」 [1年]
- ・数学B 2 (2) 「事柄が成り立つ理由を、文字式を使って関係をとらえ説明する」 [2年]
- ・数学B 4 (2) 「(1)の問題を基に条件が変わっても、平行四辺形の性質を使って論理的に考察し表現する」 [2年]

小学校
理科

「短答式」の問題形式は、全国を上回っているが、「記述式」の問題形式では、全国を下回っている。

- ・理科 2 (3) 「実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する」 [5年]
- ・理科 2 (4) 「複数の情報を関連付けながら、分析して考察する」 [5年]
- ・理科 3 (2) (3) 「電流の流れ方について、予測が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できたり、実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善する」 [4年]

中学校
理科

平均正答率が全国を下回っている。特に「記述式」の問題形式は、全国を大きく下回っている。

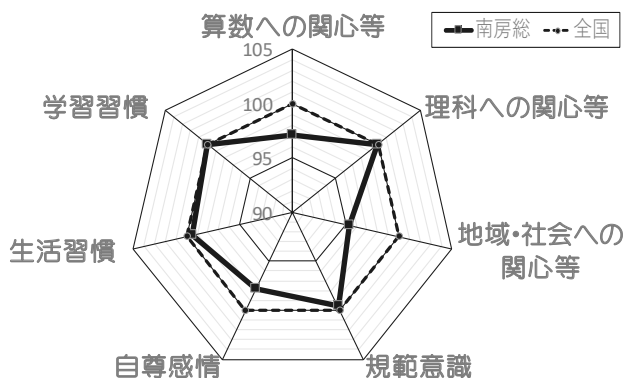
- ・理科 4 (3) 「化学変化の前後の知識・技能を活用して化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルを説明する」 [2年]
- ・理科 6 (2) (3) 「LEDが豆電球に比べて明るいことに疑問をもって、科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用する」 [2年]
- ・理科 7 (1) 「地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に着けている」 [1年]

生活習慣や学習環境等について

*チャート図は、全国平均を100としたときの指数で示している。

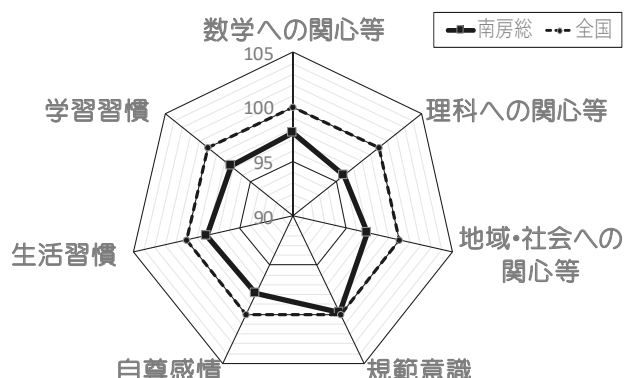
児童質問紙から

平成30年度



生徒質問紙から

平成30年度

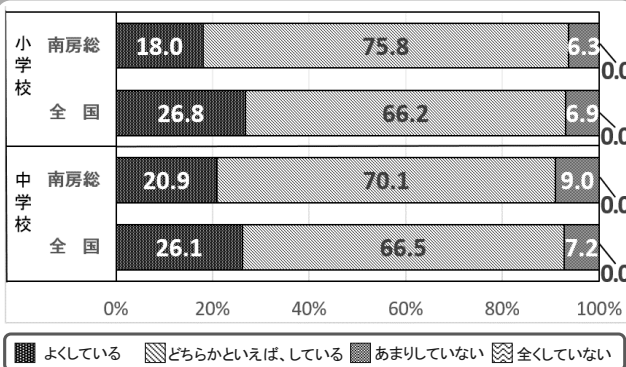


児童生徒ともに算数・数学への関心が全国に比べてやや低い傾向にあり、理科についても生徒が同様の傾向である。関心を高めるための工夫・改善が必要である。児童生徒ともに地域社会への関心がやや低く、新聞をほとんど読んでいない児童生徒が多い。児童は学習習慣において、「自分で計画を立てて勉強する」ことを意識しているが、生徒はあまり意識していない傾向にある。

学校質問紙から『主体的・対話的で深い学びの充実に向けて』

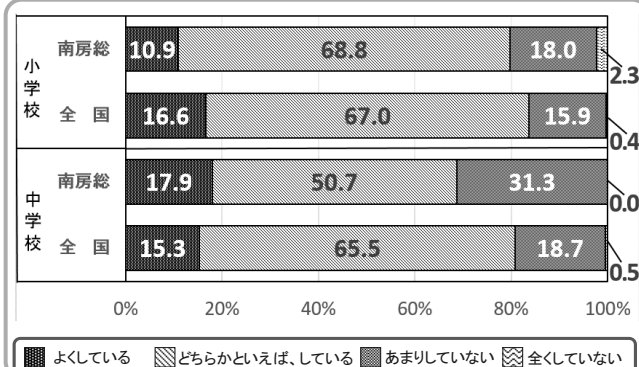
小22
中21

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



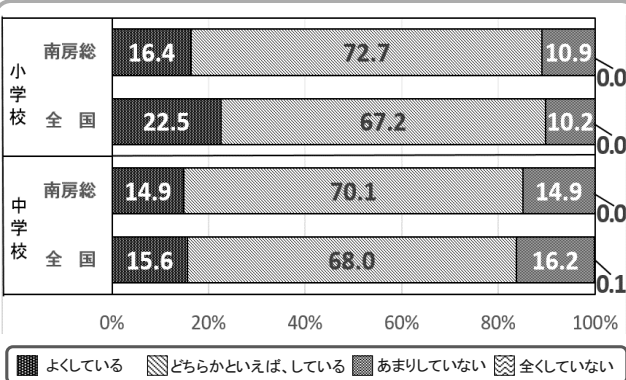
小13
中13

調査対象学年の児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか



小26
中25

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



・【小22中21】では全国に比べ小中学校ともに「よく改善工夫している」割合が低い。一方、中学校では「あまりしていない」割合がやや高い。

・【小13中13】では、肯定的な回答の割合が小中学校ともに全国と比べて低いが、中学校では「よく取り組んでいる」割合がやや高い。

・【小26・中25】では、小学校は「機会をよく設けている」割合が全国より低い。中学校は全体的に「機会を設ける」ことを意識している傾向にある。

【富津市立富津小学校】

児童質問紙の「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」という質問に対する回答が全国平均を下回ったこともあり、「算数科における学習システムの充実」を目指して、主に以下のような取組を行っている。

- ・授業改善—セルフチェックシートを活用し、自己の授業の振り返りを実施。思考力を高める場面（書く活動）の位置づけや児童の課題に応じた手立て等を記載し、日々の授業改善に向けて意図的な取組を実施
つまずきやすい学習内容や習熟度状況に応じて、少人数指導を実施
- ・児童質問紙調査の実施（４年生以上）—自校の課題となる質問１８項目を取り上げ、年２回調査。経年で児童の意欲を測り指導改善に生かす
- ・家庭学習カード—学習時間や内容を毎日記入する全学年での取組
- ・家庭への啓発—学年だよりの「今月の学習コーナー」に子供たちの家庭学習の様子について記載

【市原市立辰巳台東小学校】

教科の調査結果から記述式の正答率が低く、無解答率が高いことが課題であり、児童質問紙の調査結果からは、教科に関すること・生活習慣・学習習慣についていくつかの課題が見られた。主に以下のような取組を行っている。

- ・指導力向上—「授業力向上のための『セルフチェックシート』」を活用
- ・授業改善—「めあての明確化」「振り返り」「自分で考えさせ、書く時間の確保」などの指導の共通化を図り、継続して指導



- ・朝のチャレンジタイム—１００マス作文・基礎基本の定着。学年に応じたテーマ、文字数を設定。また、自分が書いたことを俳句に表し要約
- ・千葉県学習サポーター—３・４年生での算数の学習支援、放課後学習教室の実施を通して学習意欲の向上
- ・家庭学習の手引きの作成—児童・保護者に周知

【館山市立第一中学校】

過去３年間の調査結果の経年変化を見ると年々改善されてきているが、国語・数学共に記述式の項目については引き続き改善が必要とされる状況である。主に以下のような取組を行っている。

- ・授業改善
 - 〈国語〉読み取った内容を自分の言葉で表現する活動、自分の意見を表現する活動の場面を設定
 - 〈数学〉生徒間で振り返りをし、学んだことを自分の言葉でノートにまとめる場面を設定
 - 〈各教科〉学習課題を明確にし、授業規律を統一（「授業が始まる前の約束」の掲示）
自分の考えを話したり書いたりする学習活動を実施



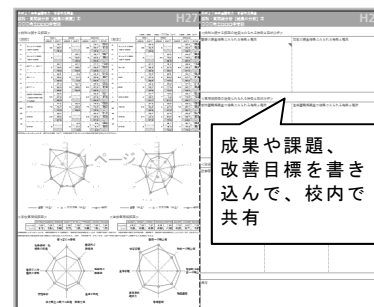
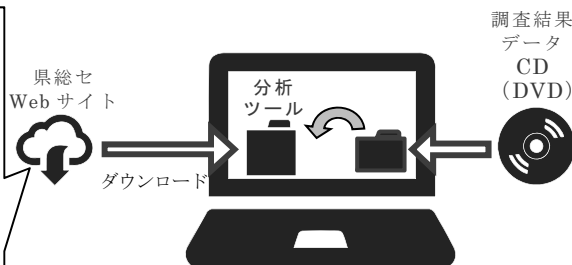
- ・朝の読書・ドリル学習—「ちばのやる気」学習ガイドの活用 月末に評価テストを実施
- ・加配教員の活用—数学・外国語の授業でのＴＴ・少人数指導、定期テスト前の学習支援

2 分析ツールを活用した指導改善

市町村教育委員会及び学校による全国学力・学習状況調査の結果分析に基づく成果と課題の実態把握や指導改善サイクルの確立を支援するため、千葉県総合教育センターでは、分析ツールを提供しています。

《分析ツールとは》

文部科学省から提供される調査結果データを簡単な操作で可視化。自校の課題発見を支援する自動計算ツールです。



①教科・質問紙シート

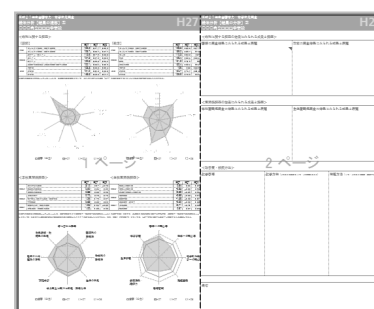
《分析結果は4つのシートに自動表示⇒印刷して共有・活用》

○教科・質問紙分析ツール（⇒①②の作成）

教科（国語、算数・数学、理科）や質問紙（学校質問紙、児童生徒質問紙）の結果がチャート図に示されるので、多角形の形状や面積に着目して、課題がみられる項目や成果を確認することができます。さらに過去の調査結果を同時に読み込ませることにより、経年変化の分析や、指導改善の成果を確認することができます。

○誤答分析ツール（⇒③の作成）

教科（国語、算数・数学、理科）に関する調査で、課題がみられた項目や設問について、解答類型ごとの反応率を分析することができます。



②経年分析シート



③誤答分析シート

【誤答分析シート】を活用した指導改善

- ・誤答率の高い解答類型に着目〔どうつまずいたか〕
- ・学習指導要領における指導学年に着目〔いつつまずいたか〕
→学習学年と情報を共有してつまずきを未然に防止
- ・「報告書」（国立政策研究所）の「学習指導に当たって」を参照し、つまずきの原因〔なぜつまずいたか〕と授業実践を通じて改善する方法を探る

○クロス集計ツール（⇒④の作成）

児童生徒質問紙調査で課題がみられた項目や質問について、教科に関する調査結果との相関を分析することができます。児童生徒の生活習慣や学習習慣と学力との相関関係を確認することができます。



④クロス集計シート

分析ツールの入手方法（千葉県総合教育センターのWebサイト）



※ダウンロードに必要なパスワードは、県学習指導課 学力向上室長発の文書（平成30年8月1日付 事務連絡）をご覧ください。

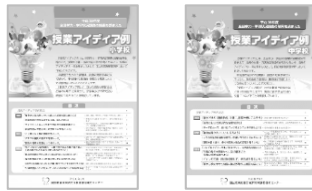
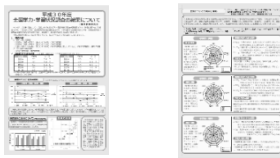
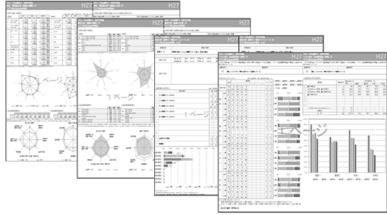
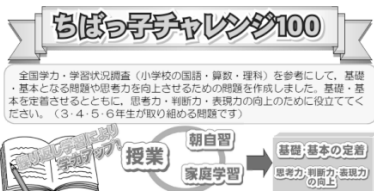
全国学力
学習状況
調査

「分析ツール」ダウンロードのほか、授業改善のヒントとなるリンクページを紹介しています。

- ◆県教育委員会「ちばっ子チャレンジ100」「『ちばのやる気』学習ガイド」ほか
 - ◆国立教育政策研究所「学習指導の改善・充実に向けた説明会資料」「授業アイデア例」ほか
- 印刷して活用できる素材や授業アイデアなどの情報収集に役立ちます。

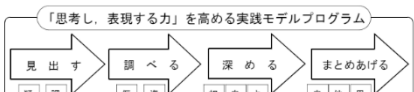
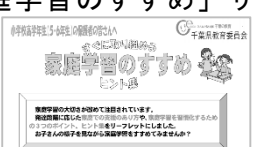
3 学力向上に役立つ情報

(1) 千葉県総合教育センターWebサイト からアクセスできる情報

千葉県総合教育センター →調査・研究 →全国学力・学習状況調査 →平成30年度 全国学力・学習状況調査 に関わるWebページ紹介 【国立教育政策研究所】へのリンク	平成30年度全国学力・学習状況調査 解説資料  調査実施後、教育委員会や学校が速やかに設問の概要や解答類型からみられる課題等を把握し、指導の改善・充実に取り組むための資料。 ▶5月に教育委員会及び学校に配付。 ▶小学校国語、算数、理科、中学校国語、数学、理科	平成30年度全国学力・学習状況調査 報告書  児童生徒の学力・学習状況を総合的に分析・評価するため、指導上の課題を分析し、改善のポイントを提示している。 ▶文部科学省による調査結果の公表時に教育委員会及び学校に配付。 ▶小学校国語、算数、理科、中学校国語、数学、理科、質問紙調査
	授業アイデア例  調査結果を踏まえ、学校が授業の改善・充実を図る上で参考となる授業展開の一例。 ▶教育委員会及び学校に配付。 ▶小学校（国語・算数・理科）、中学校（国語・数学・理科）	
	平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について (リーフレット)  千葉県の児童生徒の調査結果をまとめ、10月に速報版としてリーフレットを学校に配付。 ▶11月を中心に県内8会場で実施される「学力向上交流会」でも配布。 (さらに詳細に分析したのが本報告書)	
千葉県総合教育センター →調査・研究 →全国学力・学習状況調査 →平成30年度 【分析ツール】 【速報版リーフレット】	分析ツール  市町村教育委員会及び学校による全国学力・学習状況調査の結果分析を支援するためのデータ処理ソフト。「教科・質問紙」「経年分析」「誤答分析」「クロス集計」の各種シートを作成できる。	
	学びの突破口ガイド  小学校の国語、算数、理科について、児童がつまづきやすい内容を中心に、効果的な指導方法等をまとめた指導用冊子。ワークシートとして活用できる児童用の冊子（高学年版・中学年版・低学年版）とともに配付。活用事例も紹介されている。	
千葉県総合教育センター →調査・研究 →全国学力・学習状況調査 →平成30年度 全国学力・学習状況調査 に関わるWebページ紹介 【千葉県教育委員会】へのリンク	ちばっ子チャレンジ100 (児童)  全国学力・学習状況調査（小学校の国語・算数・理科）を参考にして、基礎・基本となる問題や思考力を高めるための問題を作成しました。基礎・基本を定着させるとともに、思考力・判断力・表現力の向上のために役立ててください。（3・4・5・6年生が取り組める問題です） 授業 → 朝自習 → 家庭学習 基礎・基本の定着 思考力・判断力・表現力の向上	全国学力・学習状況調査（小学校の国語・算数・理科）を参考にして作成した、基礎・基本となる問題や思考力を高める問題。授業、朝自習、家庭学習資料として幅広く活用できる。 ▶小学校1～6年

	「ちばのやる気」学習ガイド (生徒) 	学習内容への見通しを持たせ、学習意欲を高めさせる教材。習熟の程度に応じて取り組むことができる。 ▶中学校各学年版を学校に配付。 ▶本ガイド準拠の評価問題をWebサイトで配信。
千葉県総合教育センター →カリキュラムサポート室 →ガイドブック等ダウンロード	授業づくりガイドブック(改訂版) 	「授業企画」「授業展開力」「実態把握力」「授業改善力」の4つの力を伸ばす方策を、具体的にわかりやすく示している。これらの力を総合的に向上させることで児童生徒の確かな学力の定着を図る。

(2) 千葉県教育委員会Webサイト からアクセスできる情報

千葉県教育委員会 →学校教育 →学力向上 →「思考し、表現する力」 を高める実践モデル プログラム	「思考し、表現する力」を高める 実践モデルプログラム 	児童生徒が意欲的に取り組み、思考力・判断力・表現力を高める授業づくりのために開発されたモデルプログラム。指導事例(小・中学校の各教科・領域)も掲載。
→学校教育 →学力向上 →Act.4「評価改善」 アクティブプラン →「学力・学習状況」 検証事業	「学力・学習状況」検証事業 	児童・生徒の学力向上を目的として、全国学力・学習状況調査の結果等をもとに、協力校が自校の学力・学習状況調査の把握及び分析を行い、課題解決に向けた取組を行う。
→学校教育 →学力向上 →Act.3子どもいきいき 「授業力アップ」プラン →「ちばっ子の学び変革」 推進事業 ・ちば「授業練磨の公開日」 ・学力向上交流会	「ちばっ子の学び変革」推進事業 	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。また、関係機関の協力を得ながら研究指定校の授業実践研究を進めるとともに、教員の授業力向上を図る。
	ちば「授業練磨の公開日」 	県内全ての公立学校で授業公開を実施することで、教員が異校種を含めた他校の優れた授業を見合う機会とし、授業力向上を図る。 ▶11月の「学力向上月間」を中心に実施。
	学力向上交流会 	ちばっ子「学力向上」総合プランをテーマに意見交換会を行ったり、「魅力ある授業づくりの達人」などの優れた授業実践や研究推進校における成果などを伝えたり、協議したりする場。 ▶11月を中心に実施。
→学校教育 →学力向上 →Act.2「子どもたちの夢・ チャレンジ」サポ ートプラン →「学習サポーター派遣 事業」 ・家庭学習のすすめ	学習サポーター派遣事業 	児童生徒の基礎学力や学習意欲の向上を図るため小・中学校に退職教員等を派遣し、放課後の補習等による学習支援、少人数指導や習熟度別指導などの授業支援等を行う。 ▶県下190校に1名ずつ派遣している。
	「家庭学習のすすめ」サイト 	学習習慣の定着や家庭学習への理解の促進を図るために、保護者向けリーフレットや、児童生徒向け学習プリント、手引きモデル例を配信。 ▶児童、保護者及び小中学校教員向け。
→学校教育 →学力向上 →Act.1興味ワクワク「読 書体験学習」チャレ ンジプラン →「確かな学びの早道 「読書」事業	確かな学びの早道「読書」事業 	学校図書館の活用による児童生徒の学習意欲の向上を目指し、実践協力校による学校図書館を有効に活用した学習事例を「実践記録集」としてまとめ、県内各校に提供するなど、読書活動の一層の推進を図っている。

IV 回答結果集計データ

児童生徒質問紙調査
学校質問紙調査

IV 回答結果
集計データ

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県－児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	51,336	796	47,557	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢							その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例		
				1	2	3	4	5	6	7						8	9
(1) 小	自分には、よいところがあると思いますか	小学校	千葉県 全国	38.5 41.2	44.6 42.8	12.2 11.6	4.6 4.3						0.0 0.1	0.1 0.0	83.1 84.0	-0.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(1) 中		中学校	千葉県 全国	31.5 33.7	45.6 45.1	16.3 15.2	6.6 6.0						0.0 0.0	0.1 0.0	77.1 78.8	-1.7	
(2) 小	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	小学校	千葉県 全国	39.7 42.5	44.5 42.8	12.0 11.2	3.7 3.3						0.0 0.1	0.1 0.1	84.2 85.3	-1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(2) 中		中学校	千葉県 全国	31.7 32.5	49.0 49.7	14.3 13.6	4.9 4.2						0.0 0.0	0.1 0.1	80.7 82.2	-1.5	
(3) 小	将来の夢や目標を持っていますか	小学校	千葉県 全国	67.9 68.2	17.3 16.9	8.7 8.6	6.0 6.2						0.0 0.1	0.0 0.0	85.2 85.1	0.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(3) 中		中学校	千葉県 全国	43.7 45.3	28.3 27.1	17.6 17.4	10.3 10.0						0.0 0.0	0.2 0.2	72.0 72.4	-0.4	
(4) 小	学校のきまり（規則）を守っていますか	小学校	千葉県 全国	43.3 43.8	46.8 45.7	8.5 8.9	1.5 1.5						0.0 0.1	0.0 0.0	90.1 89.5	0.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(4) 中		中学校	千葉県 全国	62.4 63.4	32.3 31.7	4.3 3.9	0.9 0.9						0.0 0.0	0.1 0.1	94.7 95.1	-0.4	
(5) 小	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小学校	千葉県 全国	84.1 85.9	12.3 10.9	2.2 1.9	1.2 1.1						0.1 0.1	0.0 0.0	96.4 96.8	-0.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(5) 中		中学校	千葉県 全国	78.2 80.7	16.6 14.8	3.5 3.0	1.5 1.5						0.0 0.0	0.1 0.1	94.8 95.5	-0.7	
(6) 小	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	小学校	千葉県 全国	72.6 74.2	22.2 21.0	3.5 3.3	1.5 1.3						0.0 0.1	0.2 0.1	94.8 95.2	-0.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(6) 中		中学校	千葉県 全国	68.7 70.7	25.6 24.2	4.0 3.5	1.6 1.4						0.0 0.0	0.2 0.2	94.3 94.9	-0.6	
(7) 小	朝食を毎日食べていますか	小学校	千葉県 全国	84.4 84.8	9.7 9.7	4.2 4.1	1.7 1.4						0.0 0.0	0.0 0.0	94.1 94.5	-0.4	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(7) 中		中学校	千葉県 全国	78.1 79.7	12.7 12.2	6.0 5.4	3.2 2.6						0.0 0.0	0.0 0.0	90.8 91.9	-1.1	
(8) 小	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	小学校	千葉県 全国	42.0 41.4	34.5 35.6	17.2 17.2	6.2 5.7						0.0 0.1	0.0 0.0	76.5 77.0	-0.5	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(8) 中		中学校	千葉県 全国	34.7 35.6	37.8 38.6	20.3 19.2	7.2 6.5						0.0 0.0	0.1 0.0	72.5 74.2	-1.7	
(9) 小	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	小学校	千葉県 全国	59.6 59.9	28.5 28.9	8.6 8.2	3.2 2.9						0.0 0.1	0.1 0.0	88.1 88.8	-0.7	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(9) 中		中学校	千葉県 全国	55.4 55.9	34.3 34.4	7.8 7.5	2.4 2.2						0.0 0.0	0.1 0.1	89.7 90.3	-0.6	
(10) 小	自分で計画を立てて勉強をしていますか	小学校	千葉県 全国	27.7 30.7	36.9 36.9	27.0 24.7	8.2 7.6						0.0 0.1	0.0 0.0	64.6 67.6	-3.0	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(10) 中		中学校	千葉県 全国	15.6 16.6	33.7 35.5	36.3 34.8	14.3 13.0						0.0 0.0	0.1 0.1	49.3 52.1	-2.8	
(11) 小	学校の宿題をしていますか	小学校	千葉県 全国	85.7 87.9	11.0 9.2	2.6 2.2	0.6 0.6						0.0 0.1	0.1 0.0	96.7 97.1	-0.4	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(11) 中		中学校	千葉県 全国	62.4 68.5	26.1 23.1	8.6 6.4	2.9 1.9						0.0 0.0	0.1 0.0	88.5 91.6	-3.1	

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
千葉県一児童・生徒(公立)

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県(公立)	51,336	796	47,557	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

1段目：千葉県(公立)の児童数の割合(%) 2段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

質問 番号	質問事項	校種	全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
(12) 小	学校の授業の予習・復習をしていますか	小学校	千葉県 全国	24.8 27.7	35.7 34.9	28.7 27.3	10.7 10.0							0.0 0.1	0.0 0.0	60.5 62.6	-2.1	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(12) 中		中学校	千葉県 全国	18.7 18.2	35.0 37.0	32.2 31.6	14.0 13.1							0.0 0.0	0.1 0.1	53.7 55.2	-1.5	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(13) 小	予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習をしていますか	小学校	千葉県 全国	32.0 37.5	33.1 32.4	23.6 20.5	11.2 9.4							0.0 0.1	0.1 0.1	65.1 69.9	-4.8	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(13) 中		中学校	千葉県 全国	33.0 35.1	35.3 36.2	21.8 20.1	9.7 8.4							0.0 0.0	0.2 0.2	68.3 71.3	-3.0	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(14) 小	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)	小学校	千葉県 全国	13.7 12.5	15.6 16.8	33.4 36.9	25.7 23.8	8.7 7.4	2.8 2.5					0.1 0.1	0.0 0.0	62.7 66.2	-3.5	1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない 5. 30分より少ない 6. 全くしない
(14) 中		中学校	千葉県 全国	11.1 10.5	25.5 25.9	33.4 34.2	16.1 16.6	8.2 7.9	5.6 4.9					0.0 0.0	0.1 0.0	70.0 70.6	-0.6	1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない 5. 30分より少ない 6. 全くしない
(15) 小	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)をしますか	小学校	千葉県 全国	9.1 7.8	12.9 11.5	21.9 21.8	23.9 25.1	14.0 14.9	18.0 18.7					0.1 0.1	0.1 0.1	43.9 41.1	2.8	1. 2時間以上 2. 1時間以上、2時間より少ない 3. 30分以上、1時間より少ない 4. 10分以上、30分より少ない 5. 10分より少ない 6. 全くしない
(15) 中		中学校	千葉県 全国	6.8 6.1	9.0 8.7	16.9 16.1	25.0 22.6	13.2 13.5	29.1 32.9					0.0 0.0	0.1 0.1	32.7 30.9	1.8	1. 2時間以上 2. 1時間以上、2時間より少ない 3. 30分以上、1時間より少ない 4. 10分以上、30分より少ない 5. 10分より少ない 6. 全くしない
(16) 小	放課後に何をして過ごすことが多いですか	小学校	千葉県 全国	62.2 64.1	5.7 7.0	4.5 6.1	36.4 32.2	47.8 46.5	45.3 47.2	81.8 81.0	67.4 67.1	76.0 74.5		- -	0.3 0.3			1. 家で勉強や読書をしている 2. 放置型子供教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している 3. 地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民等による学習・体験プログラムを含む) 4. 学習塾など学校や家以外の場所で開催している 5. 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている 6. スポーツ(スポーツに関する習い事を除く)をしている 7. 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 8. 家族と過ごしている 9. 友達と遊んでいる
(16) 中		中学校	千葉県 全国	83.6 82.2	41.8 42.2	1.8 2.3	49.8 42.1	18.0 17.7	20.3 21.6	79.6 77.3	49.6 50.2	41.9 36.9		- -	0.1 0.1			1. 学校の部活動に参加している 2. 家で勉強や読書をしている 3. 学習塾など学校や家以外の場所で開催している 4. 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている 5. 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている 6. スポーツ(スポーツに関する習い事を除く)をしている 7. 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 8. 家族と過ごしている 9. 友達と遊んでいる
(17) 小	週末に何をして過ごすことが多いですか	小学校	千葉県 全国	15.8 14.8	57.8 58.1	18.8 16.1	26.3 25.7	42.5 43.4	6.6 9.0	81.2 82.4	80.0 80.7	60.9 63.6		- -	0.6 0.6			1. 学校で授業を受けている 2. 家で勉強や読書をしている 3. 学習塾など学校や家以外の場所で開催している 4. 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている 5. 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている 6. スポーツ(スポーツに関する習い事を除く)をしている 7. 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 8. 家族と過ごしている 9. 友達と遊んでいる
(17) 中		中学校	千葉県 全国	12.6 11.9	72.8 69.4	39.6 41.0	30.7 23.4	10.3 10.1	19.6 21.0	3.4 4.0	79.4 80.1	58.6 61.3	56.0 56.0	- -	0.3 0.2			1. 学校で授業を受けている 2. 学校の部活動に参加している 3. 家で勉強や読書をしている 4. 学習塾など学校や家以外の場所で開催している 5. 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている 6. スポーツ(スポーツに関する習い事を除く)をしている 7. 家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている 8. 家族と過ごしている 9. 友達と遊んでいる
(18) 小	家の人(兄弟姉妹は含まない)と学校での出来事について話をしますか	小学校	千葉県 全国	52.6 52.8	27.7 27.7	14.8 15.0	4.8 4.4							0.0 0.1	0.1 0.0	80.3 80.5	-0.2	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(18) 中		中学校	千葉県 全国	43.7 44.7	30.8 31.3	18.2 17.6	6.8 5.9							0.0 0.0	0.6 0.5	74.5 76.0	-1.5	1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(19) 小	5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	小学校	千葉県 全国	33.0 40.1	36.4 34.3	21.7 18.3	8.8 7.2							0.0 0.1	0.1 0.0	69.4 74.4	-5.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(19) 中		中学校	千葉県 全国	23.2 31.6	36.6 37.1	27.8 22.0	12.4 9.2							0.0 0.0	0.1 0.1	59.8 68.7	-8.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(20) 小	今住んでいる地域の行事に参加していますか	小学校	千葉県 全国	27.0 35.9	27.8 26.8	23.0 19.2	22.1 18.0							0.1 0.1	0.1 0.1	54.8 62.7	-7.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(20) 中		中学校	千葉県 全国	13.6 18.6	26.0 27.0	30.1 27.9	30.1 26.4							0.0 0.0	0.1 0.1	39.6 45.6	-6.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(21) 小	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	小学校	千葉県 全国	27.2 26.8	36.3 37.0	24.4 24.5	12.0 11.6							0.0 0.1	0.1 0.0	63.5 63.8	-0.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(21) 中		中学校	千葉県 全国	18.2 20.0	37.8 39.3	29.7 28.1	14.2 12.5							0.0 0.0	0.1 0.1	56.0 59.3	-3.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
 千葉県－児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	51,336	796	47,557	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
(22) 小	地域や社会をよくするために何を すべきかを考えることがありますか	小学校	千葉県 全国	17.1 17.3	33.0 32.6	32.6 33.0	17.2 17.0							0.0 0.1	0.1 0.0	50.1 49.9	0.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(22) 中		中学校	千葉県 全国	9.8 10.6	26.4 28.1	40.3 39.6	23.3 21.7							0.0 0.0	0.1 0.1	36.2 38.7	-2.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(23) 小	地域社会などでボランティア活動 に参加したことがありますか	小学校	千葉県 全国	31.7 36.1	30.7 26.5	36.2 36.2								1.2 1.1	0.1 0.1	31.7 36.1	-4.4	1. 参加したことがある 2. 参加したことがない 3. 分からない
(23) 中		中学校	千葉県 全国	44.9 51.8	27.7 21.8	27.1 26.2								0.0 0.0	0.3 0.2	44.9 51.8	-6.9	1. 参加したことがある 2. 参加したことがない 3. 分からない
(24) 小	地域の大人（学校や塾・習い事の 先生は除く）に勉強やスポーツを 教えてもらったり、一緒に遊んだ りすることがありますか	小学校	千葉県 全国	17.9 18.1	22.7 23.5	26.9 27.5	32.4 30.7							0.0 0.1	0.1 0.1	40.6 41.6	-1.0	1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
(24) 中		中学校	千葉県 全国	9.3 9.2	15.8 16.3	24.0 25.5	50.7 48.8							0.0 0.0	0.2 0.2	25.1 25.5	-0.4	1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
(25) 小	新聞を読んでいますか	小学校	千葉県 全国	7.1 7.4	12.3 12.5	18.2 19.0	62.2 60.9							0.0 0.1	0.1 0.1	19.4 19.9	-0.5	1. ほぼ毎日読んでいる 2. 週に1～3回程度読んでいる 3. 月に1～3回程度読んでいる 4. ほとんど、または、全く読まない
(25) 中		中学校	千葉県 全国	4.0 4.9	8.3 9.0	14.2 15.3	73.0 70.4							0.1 0.0	0.3 0.3	12.3 13.9	-1.6	1. ほぼ毎日読んでいる 2. 週に1～3回程度読んでいる 3. 月に1～3回程度読んでいる 4. ほとんど、または、全く読まない
(26) 小	テレビのニュース番組やインター ネットのニュースを見ますか（携 帯電話やスマートフォンの使っ てインターネットのニュースを見る 場合も含む）	小学校	千葉県 全国	61.8 57.3	26.5 28.9	7.1 8.4	4.4 5.1							0.1 0.1	0.2 0.2	88.3 86.2	2.1	1. よく見る 2. 時々見る 3. あまり見ない 4. ほとんど、または、全く見ない
(26) 中		中学校	千葉県 全国	52.5 52.4	34.2 34.2	8.4 8.6	4.1 4.1							0.0 0.0	0.7 0.7	86.7 86.6	0.1	1. よく見る 2. 時々見る 3. あまり見ない 4. ほとんど、または、全く見ない
(27) 小	算数（数学）の勉強は好きですか	小学校	千葉県 全国	31.6 33.9	29.4 30.1	23.2 21.7	15.8 14.2							0.0 0.1	0.0 0.0	61.0 64.0	-3.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(27) 中		中学校	千葉県 全国	24.9 25.7	28.4 28.2	26.3 26.6	20.3 19.5							0.0 0.0	0.1 0.0	53.3 53.9	-0.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(28) 小	算数（数学）の勉強は大切だと思 いますか	小学校	千葉県 全国	63.3 67.3	27.1 24.8	6.6 5.5	2.9 2.3							0.0 0.1	0.1 0.0	90.4 92.1	-1.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(28) 中		中学校	千葉県 全国	42.5 45.9	39.1 37.7	12.8 11.6	5.5 4.7							0.0 0.0	0.1 0.1	81.6 83.6	-2.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(29) 小	算数（数学）の授業の内容はよく 分かりますか	小学校	千葉県 全国	39.9 42.1	41.3 41.3	14.3 12.8	4.4 3.7							0.0 0.1	0.1 0.0	81.2 83.4	-2.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(29) 中		中学校	千葉県 全国	26.9 28.2	41.4 42.8	22.9 21.4	8.5 7.4							0.0 0.0	0.2 0.1	68.3 71.0	-2.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(30) 小	算数の授業で新しい問題に出合っ たとき、それを解いてみたいと思 いますか	小学校	千葉県 全国	42.0 44.4	29.8 29.9	18.7 17.5	9.4 8.1							0.0 0.1	0.1 0.0	71.8 74.3	-2.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(30) 中		中学校	千葉県 全国	70.5 73.4	20.7 19.1	5.2 4.5	3.5 2.8							0.0 0.0	0.2 0.1	91.2 92.5	-1.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(31) 小	算数（数学）の問題の解き方が分 からないときは、諦めずにいろ んな方法を考えますか	小学校	千葉県 全国	37.1 39.7	38.8 38.7	18.2 16.4	5.8 5.0							0.0 0.1	0.1 0.0	75.9 78.4	-2.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(31) 中		中学校	千葉県 全国	27.3 29.1	40.2 41.2	24.3 22.6	8.0 7.0							0.0 0.0	0.1 0.1	67.5 70.3	-2.8	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(32) 小	算数（数学）の授業で学習したこ とを普段の生活の中で活用できな いか考えますか	小学校	千葉県 全国	28.3 28.5	36.0 35.9	24.5 24.6	11.1 10.9							0.0 0.1	0.1 0.0	64.3 64.4	-0.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(32) 中		中学校	千葉県 全国	12.2 12.0	26.8 26.7	37.8 37.5	23.1 23.6							0.0 0.0	0.1 0.1	39.0 38.7	0.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(33) 小	算数（数学）の授業で学習したこ とは、将来、社会に出たときに役 に立つと思いますか	小学校	千葉県 全国	62.4 65.5	26.6 24.8	7.8 7.0	3.1 2.6							0.0 0.1	0.1 0.0	89.0 90.3	-1.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(33) 中		中学校	千葉県 全国	31.7 34.9	38.3 38.0	20.5 18.8	9.4 8.2							0.0 0.0	0.1 0.1	70.0 72.9	-2.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
 千葉県－児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	51,336	796	47,557	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

1段目：千葉県(公立)の児童数の割合(%) 2段目：全国(公立)の児童数の割合(%)

質問 番号	質問事項	校種	全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
(34)小	算数〔数学〕の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	千葉県 小学校	全国	43.4	34.0	16.3	6.2							0.0	0.1	77.4	-1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(34)中		千葉県 中学校	全国	44.2	34.3	15.7	5.7							0.1	0.0	78.5	-1.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(35)小	算数〔数学〕の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしていますか	千葉県 小学校	全国	43.0	36.5	15.4	4.9							0.0	0.1	79.5	-0.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(35)中		千葉県 中学校	全国	43.7	36.7	14.9	4.5							0.1	0.0	80.4	-1.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(36)小	算数〔数学〕の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	千葉県 小学校	全国	54.0	30.1	11.6	4.1							0.1	0.1	84.1	-1.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(36)中		千葉県 中学校	全国	56.8	29.0	10.5	3.5							0.1	0.1	85.8	0.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(37)小	言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、どのように解答しましたか	千葉県 小学校	全国	67.1	30.1	2.0								0.3	0.5	67.1	-3.5	1. 全ての書く問題で最後まで解答を書くことと努力した 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった 3. 書く問題は全く解答しなかった
(37)中		千葉県 中学校	全国	70.6	26.9	1.8								0.3	0.4	70.6	-4.8	1. 全ての書く問題で最後まで解答を書くことと努力した 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった 3. 書く問題は全く解答しなかった
(38)小	理科の勉強は好きですか	千葉県 小学校	全国	56.7	29.9	9.8	3.5							0.0	0.1	86.6	3.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(38)中		千葉県 中学校	全国	52.6	30.9	11.7	4.7							0.1	0.0	83.5	-0.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(39)小	理科の勉強は大切だと思いますか	千葉県 小学校	全国	55.7	30.2	10.8	3.1							0.0	0.1	85.9	0.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(39)中		千葉県 中学校	全国	55.0	30.4	11.2	3.3							0.1	0.0	85.4	-3.6	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(40)小	理科の授業の内容はよく分かりますか	千葉県 小学校	全国	60.1	31.2	6.9	1.8							0.0	0.1	91.3	1.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(40)中		千葉県 中学校	全国	55.9	33.5	8.3	2.2							0.1	0.0	89.4	-2.9	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(41)小	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	千葉県 小学校	全国	65.7	21.2	9.4	3.6							0.0	0.1	86.9	-0.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(41)中		千葉県 中学校	全国	66.6	20.4	9.2	3.6							0.1	0.0	87.0	-1.5	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(42)小	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	千葉県 小学校	全国	31.9	34.0	24.1	9.8							0.0	0.1	65.9	1.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(42)中		千葉県 中学校	全国	31.1	33.6	24.7	10.5							0.1	0.0	64.7	-1.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(43)小	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	千葉県 小学校	全国	39.5	33.6	19.7	7.1							0.0	0.1	73.1	0.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(43)中		千葉県 中学校	全国	39.9	33.0	19.6	7.4							0.1	0.0	72.9	-3.7	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(44)小	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいですか	千葉県 小学校	全国	13.3	14.6	27.5	44.4							0.1	0.1	27.9	1.8	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(44)中		千葉県 中学校	全国	12.5	13.6	27.3	46.4							0.1	0.1	26.1	-0.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(45)小	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	千葉県 小学校	全国	21.2	33.0	31.9	13.8							0.0	0.1	54.2	-0.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(45)中		千葉県 中学校	全国	21.8	32.7	31.5	13.8							0.1	0.1	54.5	-2.0	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]
 千葉県－児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	51,336	796	47,557	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問番号	質問事項	校種	千葉県 全国	1	2	3	4	選 択 肢						5	6	7	8	9	10	その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
(46)小	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか	小学校	千葉県 全国	34.1 41.2	53.1 47.9	9.8 8.0	2.7 2.6													0.1 0.2	0.2 0.1		1. 週1回以上 2. 月1回以上 3. 学期に1回以上 4. ほとんど、または、全く行っていない	
(46)中		中学校	千葉県 全国	48.3 40.7	43.1 46.4	5.9 9.7	2.5 3.0													0.0 0.0	0.2 0.2			
(47)小	観察や実験を行うことは好きですか	小学校	千葉県 全国	68.0 68.8	21.6 21.0	7.1 6.8	3.2 3.2													0.0 0.1	0.1 0.1	89.6 89.8	-0.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(47)中		中学校	千葉県 全国	49.0 52.8	30.8 29.3	13.5 12.0	6.6 5.9													0.0 0.0	0.1 0.1	79.8 82.1	-2.3	
(48)小	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	小学校	千葉県 全国	37.2 37.2	38.4 38.0	19.0 19.1	5.3 5.5													0.1 0.1	0.1 0.1	75.6 75.2	0.4	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(48)中		中学校	千葉県 全国	18.4 19.4	38.7 39.1	32.1 30.9	10.7 10.5													0.0 0.0	0.2 0.1	57.1 58.5	-1.4	
(49)小	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	小学校	千葉県 全国	43.3 43.6	38.2 38.2	14.5 14.3	3.9 3.8													0.0 0.1	0.1 0.1	81.5 81.8	-0.3	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(49)中		中学校	千葉県 全国	29.8 31.7	40.6 40.6	21.9 20.4	7.5 7.1													0.0 0.0	0.2 0.1	70.4 72.3	-1.9	
(50)小	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	小学校	千葉県 全国	29.1 29.4	38.9 38.7	23.8 23.8	8.1 7.9													0.1 0.1	0.1 0.1	68.0 68.1	-0.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(50)中		中学校	千葉県 全国	19.7 20.7	36.9 38.3	31.3 29.6	11.8 11.2													0.0 0.0	0.2 0.1	56.6 59.0	-2.4	
(51)小	解答を文章などで書く問題について、どのように解答しましたか	小学校	千葉県 全国	76.0 77.3	21.5 20.3	1.9 1.8														0.4 0.5	0.2 0.1	76.0 77.3	-1.3	1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した 2. 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった 3. 書く問題は全く解答しなかった
(51)中		中学校	千葉県 全国	58.6 62.8	36.1 32.9	4.6 3.8														0.0 0.0	0.6 0.5	58.6 62.8	-4.2	
(52)小	5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか	小学校	千葉県 全国	54.6 52.5	34.2 35.0	7.8 8.8	3.1 3.6													0.1 0.1	0.2 0.1	88.8 87.5	1.3	1. よく思った 2. 時々思った 3. あまり思わなかった 4. 全く思わなかった
		中学校	千葉県 全国																					
(53)小	5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができませんでしたか	小学校	千葉県 全国	30.0 30.0	45.7 45.1	19.0 19.3	5.1 5.3													0.1 0.1	0.2 0.2	75.7 75.1	0.6	1. よくできてきた 2. 時々できてきた 3. あまりできていなかった 4. 全くできていなかった
		中学校	千葉県 全国																					
(54)小	今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか	小学校	千葉県 全国	44.7 42.7	38.6 39.3	12.6 13.6	3.7 4.0													0.1 0.1	0.4 0.3	83.3 82.0	1.3	1. よく思う 2. 時々思う 3. あまり思わない 4. 全く思わない
		中学校	千葉県 全国																					
(55)小	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	小学校	千葉県 全国	27.4 29.1	48.2 47.6	19.9 19.0	4.4 4.2													0.0 0.1	0.2 0.1	75.6 76.7	-1.1	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(52)中		中学校	千葉県 全国	25.8 26.3	46.9 47.5	21.6 20.8	5.5 5.3													0.0 0.0	0.1 0.1	72.7 73.8	-1.1	
(56)小	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	小学校	千葉県 全国	22.7 23.5	37.1 37.5	29.4 28.7	10.4 10.0													0.1 0.1	0.2 0.2	59.8 61.0	-1.2	1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
(53)中		中学校	千葉県 全国	16.1 16.6	35.6 37.2	34.6 33.4	13.4 12.5													0.0 0.0	0.3 0.2	51.7 53.8	-2.1	
(57)小	学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	小学校	千葉県 全国	33.2 34.7	43.4 43.0	18.0 17.3	5.2 4.8													0.0 0.1	0.2 0.1	76.6 77.7	-1.1	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わない 4. そう思わない
(54)中		中学校	千葉県 全国	29.8 32.4	44.0 43.9	18.8 17.3	7.1 6.3													0.0 0.0	0.2 0.2	73.8 76.3	-2.5	

回答結果集計 [児童・生徒質問紙]

千葉県－児童・生徒（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	児童数	小学校数	生徒数	中学校数
千葉県（公立）	51,336	796	47,557	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。1段目：千葉県（公立）の児童数の割合（％） 2段目：全国（公立）の児童数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	全国 ※	選 択 肢										その他	無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
(58) 小	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	千葉県 小学校	全国	43.7	35.7	17.2	3.0							0.0	0.3	79.4	-0.6	1.時間が余った 2.ちょうどよかった 3.やや足りなかった 4.全く足りなかった
		千葉県 全国		44.1	35.9	16.8	2.9							0.1	0.2	80.0		
(55) 中		千葉県 中学校	全国	54.9	36.2	7.0	1.5							0.0	0.3	91.1	-1.0	
		千葉県 全国		56.4	35.7	6.3	1.3							0.0	0.2	92.1		
(59) 小	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	千葉県 小学校	全国	40.9	33.5	20.6	4.6							0.1	0.3	74.4	-0.3	1.時間が余った 2.ちょうどよかった 3.やや足りなかった 4.全く足りなかった
		千葉県 全国		40.3	34.4	20.5	4.4							0.1	0.2	74.7		
(56) 中		千葉県 中学校	全国	45.2	36.6	15.4	2.5							0.0	0.3	81.8	-0.4	
		千葉県 全国		44.9	37.3	15.2	2.4							0.0	0.2	82.2		
(60) 小	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A・数学A）	千葉県 小学校	全国	43.6	34.5	17.4	4.1							0.1	0.3	78.1	-2.2	1.時間が余った 2.ちょうどよかった 3.やや足りなかった 4.全く足りなかった
		千葉県 全国		45.1	35.2	15.8	3.6							0.1	0.2	80.3		
(57) 中		千葉県 中学校	全国	55.6	34.7	7.7	1.8							0.0	0.3	90.3	-1.2	
		千葉県 全国		58.3	33.2	6.7	1.5							0.0	0.2	91.5		
(61) 小	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B・数学B）	千葉県 小学校	全国	38.6	28.6	25.7	6.7							0.1	0.3	67.2	1.2	1.時間が余った 2.ちょうどよかった 3.やや足りなかった 4.全く足りなかった
		千葉県 全国		37.1	28.9	26.8	6.9							0.1	0.2	66.0		
(58) 中		千葉県 中学校	全国	42.0	32.3	20.1	5.2							0.0	0.2	74.3	0.8	
		千葉県 全国		40.5	33.0	21.0	5.3							0.0	0.2	73.5		
(62) 小	調査問題の解答時間は十分でしたか（理科）	千葉県 小学校	全国	72.8	19.0	6.3	1.6							0.1	0.3	91.8	1.7	1.時間が余った 2.ちょうどよかった 3.やや足りなかった 4.全く足りなかった
		千葉県 全国		69.4	20.7	7.8	1.7							0.1	0.2	90.1		
(59) 中		千葉県 中学校	全国	65.7	26.9	5.8	1.3							0.0	0.2	92.6	0.3	
		千葉県 全国		64.3	28.0	6.3	1.3							0.0	0.2	92.3		

平成30年度全国学力・学習状況調査
回答結果集計 [学校質問紙]
千葉県一学校（公立）

小学校・中学校調査

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(1) 小	調査対象日現在の学校の全学年の児童数、生徒数	小学校	千葉	4.1	10.1	23.5	28.5	26.4	7.4				0.0			1. 49人以下 2. 50人以上、99人以下 3. 100人以上、249人以下 4. 250人以上、499人以下 5. 500人以上、799人以下 6. 800人以上
			全国	11.8	11.1	22.5	30.7	19.3	4.7				0.0			
(1) 中		中学校	千葉	4.9	5.7	23.1	35.5	26.2	4.7				0.0			
			全国	12.5	8.8	22.8	35.4	17.9	2.6				0.0			
(2) 小	調査対象日現在の第6学年の児童数、第3学年の生徒数（特別支援学級の児童数、生徒数を除く）	小学校	千葉	6.3	9.5	10.3	9.0	29.0	24.0	9.4	2.0	0.4	0.0			1. 10人以下 2. 11人以上、30人以下 3. 31人以上、40人以下 4. 41人以上、80人以下 5. 81人以上、120人以下 6. 121人以上、160人以下 7. 161人以上、200人以下 8. 201人以上、240人以下 9. 241人以上
			全国	14.3	12.4	9.6	8.6	29.9	18.0	5.7	1.3	0.1	0.0			
(2) 中		中学校	千葉	2.8	2.3	4.9	2.6	17.6	21.8	14.2	14.5	19.2	0.0			
			全国	8.8	5.9	4.9	5.0	17.7	18.9	15.7	11.6	11.3	0.1			
(3) 小	平成29年5月1日現在の第5学年の児童数、第2学年の生徒数（特別支援学級の児童数、生徒数を除く）	小学校	千葉	6.5	20.2	9.7	28.8	21.4	10.4	1.9	0.5	0.4	0.3			1. 10人以下 2. 11人以上、30人以下 3. 31人以上、40人以下 4. 41人以上、80人以下 5. 81人以上、120人以下 6. 121人以上、160人以下 7. 161人以上、200人以下 8. 201人以上、240人以下 9. 241人以上
			全国	14.3	21.9	8.4	29.7	17.8	5.7	1.2	0.2	0.2	0.6			
(3) 中		中学校	千葉	2.8	7.0	3.6	16.8	22.0	15.3	13.7	9.6	9.1	0.0			
			全国	8.5	11.0	4.8	18.1	18.8	15.6	11.5	6.1	5.0	0.7			
(4) 小	調査対象日現在の学校の全学年の学級数（特別支援学級を除く）	小学校	千葉	3.8	37.7	27.3	21.7	6.9	2.6				0.0			1. 5学級以下 2. 6学級以上、11学級以下 3. 12学級以上、17学級以下 4. 18学級以上、23学級以下 5. 24学級以上、29学級以下 6. 30学級以上
			全国	10.9	37.9	28.7	15.0	4.8	2.7				0.0			
(4) 中		中学校	千葉	0.8	12.7	18.9	21.0	15.3	13.7	8.3	5.7	3.6	0.0			1. 2学級以下 2. 3学級以上、5学級以下 3. 6学級以上、8学級以下 4. 9学級以上、11学級以下 5. 12学級以上、14学級以下 6. 15学級以上、17学級以下 7. 18学級以上、20学級以下 8. 21学級以上、23学級以下 9. 24学級以上
			全国	2.8	23.1	18.3	19.0	15.9	10.3	5.6	2.9	1.9	0.1			
(5) 小	調査対象日現在の第6学年、第3学年の学級数（特別支援学級を除く）	小学校	千葉	32.2	29.0	23.1	11.3	3.6	0.5	0.0	0.0	0.3	0.0			1. 1学級 2. 2学級 3. 3学級 4. 4学級 5. 5学級 6. 6学級 7. 7学級 8. 8学級以上 9. 複式学級
			全国	38.7	29.6	18.5	7.0	1.7	0.3	0.0	0.0	4.1	0.1			
(5) 中		中学校	千葉	10.9	17.1	20.7	15.3	13.2	11.7	6.2	4.9	0.0	0.0			
			全国	21.9	17.7	17.9	16.4	12.4	7.1	3.5	2.6	0.4	0.1			
(6) 小	平成29年5月1日現在の第5学年、第2学年の学級数（特別支援学級を除く）	小学校	千葉	32.2	28.4	22.5	12.2	3.1	0.6	0.0	0.4	0.6	0.0			1. 1学級 2. 2学級 3. 3学級 4. 4学級 5. 5学級 6. 6学級 7. 7学級 8. 8学級以上 9. 複式学級
			全国	38.5	29.5	18.2	6.9	1.7	0.3	0.0	0.3	4.2	0.4			
(6) 中		中学校	千葉	10.4	17.4	22.0	14.5	13.7	10.1	6.2	5.7	0.0	0.0			
			全国	21.6	17.7	18.2	16.1	12.1	7.0	3.5	2.7	0.6	0.5			
(7) 小	調査対象日現在の学校の全教員数（副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭・教諭・養護教諭・栄養教諭・常勤講師等）は、何人ですか	小学校	千葉	0.0	3.6	25.6	18.0	15.8	17.0	9.4	5.5	5.0	0.0			1. 4人以下 2. 5人以上、9人以下 3. 10人以上、14人以下 4. 15人以上、19人以下 5. 20人以上、24人以下 6. 25人以上、29人以下 7. 30人以上、34人以下 8. 35人以上、39人以下 9. 40人以上
			全国	0.8	12.1	23.8	15.6	17.2	13.3	8.5	4.5	4.1	0.0			
(7) 中		中学校	千葉	0.0	1.0	10.9	17.4	19.2	18.9	14.0	8.3	10.4	0.0			
			全国	0.3	6.8	17.1	15.7	17.5	16.3	11.2	7.0	8.0	0.0			
(8) 小	経験年数が5年未満の教員は何人ですか	小学校	千葉	44.8	37.6	14.7	2.6	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			1. 4人以下 2. 5人以上、9人以下 3. 10人以上、14人以下 4. 15人以上、19人以下 5. 20人以上、24人以下 6. 25人以上、29人以下 7. 30人以上、34人以下 8. 35人以上、39人以下 9. 40人以上
			全国	57.0	32.8	8.6	1.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
(8) 中		中学校	千葉	28.8	50.5	17.6	2.8	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
			全国	53.4	35.1	9.3	1.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

平成30年度全国学力・学習状況調査
回答結果集計 [学校質問紙]
千葉県一学校（公立）

小学校・中学校調査

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（％） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（％）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(9) 小	経験年数が5年以上10年未満の 教員は何人ですか	小学校	千葉	64.4	30.5	4.5	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			1. 4人以下 2. 5人以上、9人以下 3. 10人以上、14人以下 4. 15人以上、19人以下 5. 20人以上、24人以下 6. 25人以上、29人以下 7. 30人以上、34人以下 8. 35人以上、39人以下 9. 40人以上
(9) 中			全国	73.4	22.7	3.5	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
		中学校	千葉	53.6	39.1	6.7	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
全国			63.6	29.5	6.0	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
(10) 小	経験年数が10年以上20年未満 の教員は何人ですか	小学校	千葉	53.5	38.7	7.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			1. 4人以下 2. 5人以上、9人以下 3. 10人以上、14人以下 4. 15人以上、19人以下 5. 20人以上、24人以下 6. 25人以上、29人以下 7. 30人以上、34人以下 8. 35人以上、39人以下 9. 40人以上
(10) 中			全国	63.5	29.6	6.1	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
		中学校	千葉	54.9	39.6	4.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
全国			60.2	32.9	5.8	0.9	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
(11) 小	経験年数が20年以上の教員は何 人ですか	小学校	千葉	21.7	58.4	16.8	2.4	0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0			1. 4人以下 2. 5人以上、9人以下 3. 10人以上、14人以下 4. 15人以上、19人以下 5. 20人以上、24人以下 6. 25人以上、29人以下 7. 30人以上、34人以下 8. 35人以上、39人以下 9. 40人以上
(11) 中			全国	21.3	49.0	19.7	6.9	2.2	0.6	0.2	0.1	0.0	0.0			
		中学校	千葉	5.7	45.9	35.0	10.6	2.1	0.3	0.3	0.3	0.0	0.0			
全国			10.7	42.2	28.9	12.6	3.7	1.3	0.3	0.2	0.1	0.0				
(12) 小	児童〔生徒〕は授業中の私語が少 なく、落ち着いていますか	小学校	千葉	34.5	52.4	11.8	1.3						0.0	86.9	-2.5	1. そのとおりだと思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わ ない 4. そう思わない
(12) 中			全国	39.9	49.5	9.6	1.0						0.0	89.4		
		中学校	千葉	60.4	36.3	3.4	0.0						0.0	96.7	2.1	
全国			58.0	36.6	4.9	0.5						0.0	94.6			
(13) 小	児童〔生徒〕は、授業では、課題 の解決に向けて、自分で考え、自 分から取り組むことができていま すか	小学校	千葉	11.6	67.3	20.4	0.8						0.0	78.9	-4.7	1. そのとおりだと思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わ ない 4. そう思わない
(13) 中			全国	16.6	67.0	15.9	0.4						0.0	83.6		
		中学校	千葉	12.4	64.0	22.8	0.8						0.0	76.4	-4.4	
全国			15.3	65.5	18.7	0.5						0.0	80.8			
(14) 小	調査対象学年の児童・生徒のう ち、就学援助を受けている児童・ 生徒の割合	小学校	千葉	12.6	28.3	29.8	17.7	5.8	2.8	1.8	0.8	0.6	0.0			1. 在籍していない 2. 5%未満 3. 5%以上、10%未満 4. 10%以上、15%未満 5. 15%以上、20%未満 6. 20%以上、25%未満 7. 25%以上、30%未満 8. 30%以上、50%未満 9. 50%以上
(14) 中			全国	13.3	14.2	20.1	18.8	11.4	8.0	5.4	6.5	2.3	0.0			
		中学校	千葉	5.2	19.2	36.8	27.7	7.0	1.6	1.3	0.8	0.5	0.0			
全国			6.7	9.1	20.1	20.7	15.7	10.5	6.9	7.6	2.6	0.1				
(15) 小	調査対象日現在の第6学年の児童 が、第6学年に進級する際に、ク ラス替えをしましたか	小学校	千葉	28.4	71.6								0.0			1. 行った 2. 行っていない
(15) 中			全国	41.2	58.7								0.0			
		中学校	千葉													
全国																
(16) 小	指導計画の作成に当たっては、各 教科等の教育内容を相互の関係で 捉え、学校の教育目標を踏まえた 横断的な視点で、その目標の達成 に必要な教育の内容を組織的に配 列していますか	小学校	千葉	29.1	67.2	3.6	0.0						0.0	96.3	1.6	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(16) 中			全国	32.9	61.8	5.2	0.0						0.0	94.7		
		中学校	千葉	25.6	66.8	7.3	0.0						0.3	92.4	2.2	
全国			27.7	62.5	9.6	0.1						0.0	90.2			
(17) 小	教育課程表（全体計画や年間指導 計画等）について、各教科等の教 育目標や内容の相互関連が分かる ように作成していますか	小学校	千葉	30.9	63.2	5.8	0.1						0.0	94.1	0.9	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(17) 中			全国	36.1	57.1	6.7	0.1						0.0	93.2		
		中学校	千葉	28.0	61.1	10.9	0.0						0.0	89.1	0.4	
全国			30.7	58.0	11.0	0.3						0.0	88.7			

回答結果集計 [学校質問紙]

千葉県一学校（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例	
			1	2	3	4	5	6	7	8	9					
(18) 小	児童〔生徒〕の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	小学校	千葉県	26.9	68.7	4.3	0.1						0.0	95.6	0.7	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
		全国	34.8	60.1	5.0	0.1						0.0	94.9			
(17) 中		中学校	千葉県	23.1	70.2	6.5	0.0						0.3	93.3	0.2	
		全国	30.7	62.4	6.9	0.1						0.0	93.1			
(19) 小	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	小学校	千葉県	36.4	59.3	4.1	0.1						0.0	95.7	-0.3	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
		全国	41.7	54.3	4.0	0.0						0.0	96.0			
(18) 中		中学校	千葉県	20.7	58.3	20.5	0.3						0.3	79.0	-5.6	
		全国	26.1	58.5	15.1	0.2						0.0	84.6			
(20) 小	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	小学校	千葉県	27.3	66.1	6.5	0.0						0.1	93.4	2.8	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
		全国	28.9	61.7	9.4	0.1						0.0	90.6			
(19) 中		中学校	千葉県	20.2	68.9	10.4	0.3						0.3	89.1	3.9	
		全国	23.1	62.1	14.5	0.3						0.1	85.2			
(21) 小	前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	小学校	千葉県	13.6	40.2	39.2	7.0						0.0	53.8	-9.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		全国	18.7	44.4	31.4	5.5						0.0	63.1			
(20) 中		中学校	千葉県	17.4	42.2	33.9	6.2						0.3	59.6	-9.6	
		全国	25.5	43.7	26.2	4.5						0.1	69.2			
(22) 小	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	小学校	千葉県	19.2	72.6	8.2	0.0						0.0	91.8	-1.2	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		全国	26.8	66.2	6.9	0.0						0.1	93.0			
(21) 中		中学校	千葉県	20.7	69.9	9.1	0.0						0.3	90.6	-2.0	
		全国	26.1	66.5	7.2	0.0						0.1	92.6			
(23) 小	児童〔生徒〕に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	小学校	千葉県	22.4	57.5	19.5	0.6						0.0	79.9	-3.4	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		全国	23.0	60.3	16.3	0.3						0.1	83.3			
(22) 中		中学校	千葉県	49.0	47.7	3.1	0.0						0.3	96.7	-1.9	
		全国	51.1	47.5	1.3	0.0						0.1	98.6			
(24) 小	児童〔生徒〕に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	小学校	千葉県	48.0	48.1	3.6	0.1						0.1	96.1	-0.4	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		全国	48.8	47.7	3.3	0.1						0.1	96.5			
(23) 中		中学校	千葉県	43.0	50.5	6.0	0.0						0.5	93.5	-1.5	
		全国	44.4	50.6	4.7	0.1						0.2	95.0			
(25) 小	学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか	小学校	千葉県	57.8	39.3	2.9	0.0						0.0	97.1	-0.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		全国	61.8	35.9	2.2	0.0						0.1	97.7			
(24) 中		中学校	千葉県	69.4	29.0	1.3	0.0						0.3	98.4	0.1	
		全国	68.3	30.0	1.6	0.0						0.1	98.3			
(26) 小	各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	小学校	千葉県	19.0	69.5	11.6	0.0						0.0	88.5	-1.2	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
		全国	22.5	67.2	10.2	0.0						0.1	89.7			
(25) 中		中学校	千葉県	14.5	62.7	22.5	0.0						0.3	77.2	-6.4	
		全国	15.6	68.0	16.2	0.1						0.1	83.6			

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9					
(27) 小	教科等の指導に当たって、地域や 社会で起こっている問題や出来事 を学習の題材として取り扱いまし たか	小学校	千葉県	18.8	64.6	16.6	0.0						0.0	83.4	-1.7	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
			全国	22.7	62.4	14.7	0.1						0.1	85.1			
(26) 中		中学校	千葉県	14.2	67.9	17.1	0.3						0.5	82.1	0.4		
			全国	16.0	65.7	18.0	0.1						0.1	81.7			
(28) 小	調査対象学年の児童・生徒に対す る指導において、前年度に、教員 が大型提示装置（プロジェク ター、電子黒板等）等のICTを活用 した授業を1クラス当たりどの程度 行いましたか	小学校	千葉県	16.7	48.0	24.6	9.4	1.3					0.0	64.7	-8.3	1. ほぼ毎日 2. 週1回以上 3. 月1回以上 4. 学期に1回以上 5. ほとんど、または、全く行っ ていない	
			全国	30.2	42.8	18.6	7.0	1.3					0.1	73.0			
(27) 中		中学校	千葉県	29.0	40.2	21.0	8.5	1.0					0.3	69.2	-5.6		
			全国	36.2	38.6	16.7	7.1	1.4					0.1	74.8			
(29) 小	調査対象学年の児童・生徒に対す る指導において、前年度に、児 童・生徒がコンピュータ等のICTを 活用する学習活動を1クラス当 りどの程度行いましたか	小学校	千葉県	5.9	34.3	49.2	10.2	0.4					0.0	40.2	3.6	1. 週2回以上 2. 週1回以上 3. 月1回以上 4. 学期に1回以上 5. ほとんど、または、全く行っ ていない	
			全国	9.2	27.4	49.1	13.4	0.8					0.1	36.6			
(28) 中		中学校	千葉県	7.8	22.3	48.2	19.4	1.8					0.5	30.1	-3.4		
			全国	9.7	23.8	45.4	19.2	1.7					0.1	33.5			
(30) 小	前年度までに、学校生活の中で、 児童〔生徒〕一人一人のよい点や 可能性を見付け評価する(褒めるな ど)取組をどの程度行いましたか	小学校	千葉県	60.9	38.4	0.6	0.0						0.0	99.3	0.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
			全国	64.9	34.1	1.0	0.0						0.1	99.0			
(29) 中		中学校	千葉県	54.4	43.0	2.3	0.0						0.3	97.4	-0.5		
			全国	55.7	42.2	2.0	0.0						0.1	97.9			
(31) 小	平成29年度全国学力・学習状況 調査の自校の分析結果について、 調査対象学年・教科だけではなく、 学校全体で教育活動を改善す るために活用しましたか	小学校	千葉県	28.6	66.8	4.4							0.1	95.4	-2.2	1. よく行った 2. 行った 3. ほとんど行っていない	
			全国	42.7	54.9	2.3							0.2	97.6			
(30) 中		中学校	千葉県	23.3	71.5	4.7							0.5	94.8	-1.3		
			全国	34.3	61.8	3.7							0.2	96.1			
(32) 小	平成29年度全国学力・学習状況 調査の自校の結果について、保護 者や地域の人たちに対して公表や 説明を行いましたか（学校のホーム ページや学校だより等への掲 載、保護者会等での説明を含む）	小学校	千葉県	23.9	51.9	24.1							0.1	75.8	-16.5	1. よく行った 2. 行った 3. ほとんど行っていない	
			全国	35.7	56.6	7.6							0.1	92.3			
(31) 中		中学校	千葉県	27.2	51.3	21.0							0.5	78.5	-10.0		
			全国	33.1	55.4	11.3							0.2	88.5			
(33) 小	全国学力・学習状況調査の結果を 地方公共団体における独自の学力 調査の結果と併せて分析し、具体 的な教育指導の改善や指導計画等 への反映を行っていますか	小学校	千葉県	23.9	66.5	7.0	2.6						0.0	90.4	-4.0	1. よく行っている 2. どちらかといえば、行っている 3. ほとんど行っていない 4. 地方公共団体における独自の学 力調査を実施していない	
			全国	35.9	58.5	3.3	2.3						0.1	94.4			
(32) 中		中学校	千葉県	18.7	66.8	10.1	4.1						0.3	85.5	-6.3		
			全国	29.6	62.2	5.8	2.2						0.1	91.8			
(34) 小	平成29年度の全国学力・学習状 況調査の分析結果について、近隣 等の中学校〔小学校〕と成果や課 題を共有しましたか	小学校	千葉県	7.9	38.2	42.0	11.8						0.1	46.1	-17.2	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
			全国	17.1	46.2	30.7	6.0						0.1	63.3			
(33) 中		中学校	千葉県	6.0	35.5	45.1	13.2						0.3	41.5	-22.5		
			全国	19.1	44.9	28.9	7.1						0.1	64.0			
(35) 小	調査対象学年の児童・生徒に対す る指導方法として、算数〔数学〕 の授業において、前年度に、習熟 の遅いグループに対して少人数に よる指導を行い、習得できるよう にしましたか	小学校	千葉県	14.2	11.6	12.1	18.0	44.2					0.0	25.8	-9.4	1. 年間の授業のうち、おおよそ3/4 以上で行った 2. 年間の授業のうち、おおよそ1/2 以上、3/4未満で行った 3. 年間の授業のうち、おおよそ1/4 以上、1/2未満で行った 4. 年間の授業のうち、おおよそ1/4 未満で行った 5. 行っていない	
			全国	23.9	11.3	11.7	15.1	37.9					0.1	35.2			
(34) 中		中学校	千葉県	14.0	9.1	8.0	15.5	53.1					0.3	23.1	-5.5		
			全国	20.7	7.9	9.5	12.4	49.4					0.1	28.6			

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(36) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する指導方法として、算数〔数学〕の授業において、前年度に、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った	小学校	千葉県 全国	7.9 15.6	9.7 10.1	10.4 11.8	17.7 17.2	54.3 45.2					0.0 0.1	17.6 25.7	-8.1	1. 年間の授業のうち、おおよそ3/4以上で行った 2. 年間の授業のうち、おおよそ1/2以上、3/4未満で行った 3. 年間の授業のうち、おおよそ1/4以上、1/2未満で行った 4. 年間の授業のうち、おおよそ1/4未満で行った 5. 行っていない
(35) 中		中学校	千葉県 全国	9.6 15.8	6.7 7.1	8.3 9.1	14.8 13.0	60.4 55.0					0.3 0.1	16.3 22.9	-6.6	
(37) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する算数〔数学〕の授業において、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	小学校	千葉県 全国	31.5 41.8	60.1 52.5	7.4 5.2	1.0 0.4						0.0 0.1	91.6 94.3	-2.7	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(36) 中		中学校	千葉県 全国	29.3 33.5	60.6 57.9	9.3 7.8	0.5 0.6						0.3 0.1	89.9 91.4	-1.5	
(38) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する算数〔数学〕の授業において、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	小学校	千葉県 全国	6.3 11.8	51.3 52.7	40.5 33.9	1.9 1.4						0.1 0.1	57.6 64.5	-6.9	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(37) 中		中学校	千葉県 全国	10.6 13.5	50.8 53.0	36.8 31.3	1.6 2.0						0.3 0.1	61.4 66.5	-5.1	
(39) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する算数〔数学〕の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	小学校	千葉県 全国	8.8 11.2	66.6 66.8	24.6 21.8	0.0 0.2						0.0 0.1	75.4 78.0	-2.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(38) 中		中学校	千葉県 全国	12.2 10.4	56.5 61.7	31.1 27.4	0.0 0.3						0.3 0.1	68.7 72.1	-3.4	
(40) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する算数〔数学〕の授業において、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	小学校	千葉県 全国	56.7 56.1	40.5 40.6	2.8 3.1	0.0 0.0						0.1 0.1	97.2 96.7	0.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(39) 中		中学校	千葉県 全国	51.3 50.4	46.4 45.8	1.8 3.6	0.0 0.1						0.5 0.1	97.7 96.2	1.5	
(41) 小	調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか	小学校	千葉県 全国	6.0 9.3	93.8 90.6								0.1 0.1			1. 実施していた 2. 実施していなかった
		中学校	千葉県 全国													
(42) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、前年度に、児童〔生徒〕の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか	小学校	千葉県 全国	40.3 36.6	57.3 59.5	2.4 3.7	0.0 0.0						0.0 0.1	97.6 96.1	1.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(40) 中		中学校	千葉県 全国	49.5 44.3	49.0 53.4	1.3 2.1	0.0 0.1						0.3 0.2	98.5 97.7	0.8	
(43) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、補充的な学習の指導を行いましたか	小学校	千葉県 全国	12.2 13.7	52.3 52.8	31.9 30.2	3.6 3.2						0.0 0.1	64.5 66.5	-2.0	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(41) 中		中学校	千葉県 全国	20.2 24.6	61.7 60.6	17.1 13.8	0.8 0.9						0.3 0.1	81.9 85.2	-3.3	
(44) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、発展的な学習の指導を行いましたか	小学校	千葉県 全国	7.4 8.0	49.6 48.5	40.5 40.8	2.4 2.5						0.1 0.1	57.0 56.5	0.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(42) 中		中学校	千葉県 全国	14.2 12.6	53.1 56.4	31.1 29.5	1.0 1.3						0.5 0.2	67.3 69.0	-1.7	

回答結果集計 [学校質問紙]

千葉県一学校（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9					
(45) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	小学校	千葉	19.2	66.2	14.4	0.1						0.0	85.4	-0.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
			全国	19.9	65.8	14.0	0.2						0.1	85.7			
(43) 中		中学校	千葉	33.4	57.3	9.1	0.0						0.3	90.7	0.0		
			全国	28.9	61.8	9.1	0.1						0.1	90.7			
(46) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、児童〔生徒〕が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか	小学校	千葉	21.9	67.6	10.4	0.1						0.0	89.5	1.4	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
			全国	24.6	63.5	11.6	0.2						0.1	88.1			
(44) 中		中学校	千葉	29.5	52.1	17.9	0.3						0.3	81.6	-0.4		
			全国	23.5	58.5	17.4	0.5						0.1	82.0			
(47) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、自ら考えた仮説をもとに観察、実験の計画を立てさせる指導を行いましたか	小学校	千葉	24.5	59.9	15.2	0.3						0.1	84.4	-2.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
			全国	27.3	59.2	13.1	0.3						0.1	86.5			
(45) 中		中学校	千葉	18.4	50.0	30.1	1.3						0.3	68.4	-4.6		
			全国	17.9	55.1	25.6	1.3						0.1	73.0			
(48) 小	調査対象である第6学年の児童に対する理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	小学校	千葉	36.6	60.1	3.3	0.0						0.1	96.7	0.7	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
			全国	36.8	59.2	3.8	0.0						0.1	96.0			
(46) 中		中学校	千葉	43.0	53.6	3.1	0.0						0.3	96.6	2.3		1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	35.6	58.7	5.5	0.1						0.1	94.3			
(49) 小	調査対象である第6学年の児童に対する理科の授業において、観察や実験におけるカードやノートへの記録・記述の方法に関する指導を行いましたか	小学校	千葉	36.1	58.5	5.4	0.0						0.0	94.6	0.2	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
			全国	35.6	58.8	5.5	0.0						0.1	94.4			
(47) 中		中学校	千葉	32.1	53.6	13.2	0.8						0.3	85.7	4.5		1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	24.2	57.0	17.9	0.8						0.1	81.2			
(50) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業やその準備において、前年度に、観察実験補助員が配置されていましたか	小学校	千葉	17.8	82.2								0.0	17.8	3.1	1. 配置されていた 2. 配置されていない	
			全国	14.7	85.2								0.1	14.7			
(48) 中		中学校	千葉	13.5	86.3								0.3	13.5	9.1		
			全国	4.4	95.5								0.1	4.4			
(51) 小	調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、前年度に、理科室で児童〔生徒〕が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	小学校	千葉	58.9	39.3	1.6	0.0						0.1	98.2	0.8	1. 週1回以上 2. 月1回以上 3. 学期に1回以上 4. ほとんど、または、全く行っていない	
			全国	61.0	36.4	2.2	0.3						0.1	97.4			
(49) 中		中学校	千葉	76.2	22.8	0.8	0.0						0.3	99.0	1.3		
			全国	65.5	32.2	2.0	0.2						0.1	97.7			

平成30年度全国学力・学習状況調査
回答結果集計 **【学校質問紙】**
 千葉県一学校（公立）小学校・中学校調査

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。				各校種の1段目：千葉県(公立)の学校数の割合(%)										2段目：全国(公立)の学校数の割合(%)					
質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9							
(52) 小	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童・生徒に対する授業の中で、児童〔生徒〕の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか	小学校	千葉県	37.3	57.2	5.4	0.1							0.0	94.5	0.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
		小学校	全国	40.4	54.0	5.2	0.3							0.1	94.4				
(50) 中		中学校	千葉県	39.1	49.0	10.6	1.0							0.3	88.1	-4.1			
		中学校	全国	41.0	51.2	6.9	0.8							0.2	92.2				
(53) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	小学校	千葉県	29.6	49.2	16.6	4.5							0.0	78.8	-4.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
		小学校	全国	33.5	49.9	14.5	2.0							0.1	83.4				
(51) 中		中学校	千葉県	16.6	47.9	23.8	11.4							0.3	64.5	-5.6			
		中学校	全国	22.7	47.4	23.9	5.8							0.1	70.1				
(54) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	小学校	千葉県	17.1	36.4	26.9	19.6							0.0	53.5	4.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
		小学校	全国	16.5	32.7	30.6	20.1							0.1	49.2				
(52) 中		中学校	千葉県	10.1	24.1	31.3	34.2							0.3	34.2	1.2			
		中学校	全国	10.6	22.4	30.5	36.5							0.1	33.0				
(55) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	小学校	千葉県	10.2	46.9	34.8	8.0							0.1	57.1	8.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
		小学校	全国	7.5	41.5	41.8	9.1							0.1	49.0				
(53) 中		中学校	千葉県	3.6	22.8	44.0	29.3							0.3	26.4	0.5			
		中学校	全国	2.9	23.0	49.8	24.2							0.1	25.9				
(56) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか	小学校	千葉県	12.9	60.7	25.1	1.3							0.0	73.6	-5.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
		小学校	全国	18.0	61.1	20.1	0.6							0.1	79.1				
(54) 中		中学校	千葉県	11.9	51.8	33.9	2.1							0.3	63.7	-7.9			
		中学校	全国	16.4	55.2	26.6	1.7							0.1	71.6				
(57) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか	小学校	千葉県	25.6	52.1	19.8	2.3							0.1	77.7	-8.5	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない		
		小学校	全国	33.2	53.0	12.9	0.8							0.1	86.2				
(55) 中		中学校	千葉県	19.7	53.9	22.8	3.4							0.3	73.6	-6.2			
		中学校	全国	27.9	51.9	18.4	1.7							0.1	79.8				
(58) 小	調査対象である第6学年の児童に対して小学校在籍期間中に、教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行ったことがあるか、または今後行う予定がありますか(複数回実施した場合は、最も長期のもの)	小学校	千葉県	0.8	3.4	39.8	53.9	2.1						0.0	97.9	1.2	1. 4泊5日以上教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動を行った(今後行う予定) 2. 3泊4日の自然の中での集団宿泊活動を行った(今後行う予定) 3. 2泊3日の自然の中での集団宿泊活動を行った(今後行う予定) 4. 1泊2日の自然の中での集団宿泊活動を行った(今後行う予定) 5. 教育課程に位置づけられた自然の中での集団宿泊活動は行っておらず、今後も予定はない		
		小学校	全国	4.6	4.4	31.8	55.9	3.3						0.0	96.7				
		中学校	千葉県																
		中学校	全国																
(59) 小	あなたの学校では、職場見学や職場体験活動を行っていますか	小学校	千葉県	69.0	31.0									0.0	69.0	21.5	1. 行っている 2. 行っていない		
		小学校	全国	47.5	52.4									0.0	47.5				
(56) 中		中学校	千葉県	97.4	2.3									0.3	97.4	-1.5			
		中学校	全国	98.9	1.0									0.1	98.9				
(60) 小	あなたの学校では、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか	小学校	千葉県	69.7	29.0	1.3	0.0							0.0	98.7	1.0	1. よく参加している 2. 参加している 3. あまり参加していない 4. 全く参加していない		
		小学校	全国	64.4	33.3	2.1	0.2							0.0	97.7				
(57) 中		中学校	千葉県	47.7	47.2	4.4	0.5							0.3	94.9	4.5			
		中学校	全国	40.2	50.2	8.8	0.8							0.1	90.4				

回答結果集計 [学校質問紙]

千葉県一学校（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例	
				1	2	3	4	5	6	7	8	9					
(61) 小	地域学校協働本部やコミュニ ティ・スクールなどの仕組みを生 かして、(60) [57] の質問にあ るような、保護者や地域の人との 協働による活動を行いましたか	小学校	千葉県	27.6	40.1	19.8	12.4						0.0	67.7	-5.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
		小学校	全国	34.0	38.8	17.2	10.0						0.0	72.8			
(58) 中		中学校	千葉県	17.6	41.2	27.5	13.5						0.3	58.8	-1.9		
		中学校	全国	22.1	38.6	25.1	14.2						0.1	60.7			
(62) 小	(60) [57] の質問にあるよう な、保護者や地域の人との協働に よる取組は、学校の教育水準の向 上に効果がありましたか	小学校	千葉県	49.9	45.4	2.0	0.1	2.6					0.0	95.3	-0.1	1. そう思う 2. どちらかといえば、そう思う 3. どちらかといえば、そう思わ ない 4. そう思わない 5. 取組を行っていない	
		小学校	全国	49.1	46.3	2.1	0.3	2.3					0.0	95.4			
(59) 中		中学校	千葉県	36.0	52.6	4.1	1.3	5.7					0.3	88.6	0.0		
		中学校	全国	33.6	55.0	4.3	0.7	6.4					0.1	88.6			
(63) 小	調査対象学年の児童・生徒に対 して、前年度までに、保護者に対 して児童〔生徒〕の家庭学習を促 すような働きかけを行いましたか 〔国語／算数・数学共通〕	小学校	千葉県	50.0	46.0	3.9	0.1						0.0	96.0	-1.2	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
		小学校	全国	55.8	41.4	2.6	0.1						0.1	97.2			
(60) 中		中学校	千葉県	40.2	52.6	7.0	0.0						0.3	92.8	0.9		
		中学校	全国	38.8	53.1	7.5	0.4						0.2	91.9			
(64) 小	調査対象学年の児童・生徒に対 して、前年度までに、家庭学習の課 題の与え方について、校内の教職 員で共通理解を図りましたか〔国 語／算数・数学共通〕	小学校	千葉県	35.9	49.9	13.8	0.4						0.0	85.8	-5.8	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
		小学校	全国	45.6	46.0	8.0	0.3						0.1	91.6			
(61) 中		中学校	千葉県	33.7	49.5	16.3	0.0						0.5	83.2	-3.9		
		中学校	全国	37.5	49.6	12.5	0.4						0.1	87.1			
(65) 小	調査対象学年の児童・生徒に対 して、前年度までに、家庭学習の取 組として、調べたり文章を書いた りしてくる宿題を与えましたか 〔国語／算数・数学共通〕	小学校	千葉県	23.1	55.9	20.5	0.4						0.1	79.0	-5.4	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
		小学校	全国	28.3	56.1	15.4	0.1						0.1	84.4			
(62) 中		中学校	千葉県	13.5	52.6	31.9	1.6						0.5	66.1	-7.6		
		中学校	全国	18.1	55.6	25.7	0.5						0.1	73.7			
(66) 小	調査対象学年の児童・生徒に対 して、前年度までに、家庭学習の取 組として、児童〔生徒〕に家庭で の学習方法等を具体例を挙げなが ら教えましたか〔国語／算数・数 学共通〕	小学校	千葉県	32.4	56.3	11.1	0.1						0.1	88.7	-4.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
		小学校	全国	40.4	52.9	6.5	0.1						0.1	93.3			
(63) 中		中学校	千葉県	28.5	57.0	14.2	0.0						0.3	85.5	-4.7		
		中学校	全国	32.0	58.2	9.5	0.1						0.1	90.2			
(67) 小	調査対象学年の児童・生徒に対 して、前年度までに、算数〔数学〕 の指導として、家庭学習の課題(宿 題)を与えましたか	小学校	千葉県	79.1	20.5	0.4	0.0						0.0	99.6	0.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
		小学校	全国	83.3	16.2	0.3	0.0						0.1	99.5			
(64) 中		中学校	千葉県	38.9	49.7	10.6	0.5						0.3	88.6	-5.9		
		中学校	全国	53.2	41.3	5.2	0.1						0.1	94.5			
(68) 小	調査対象学年の児童・生徒に対 して、前年度までに、算数〔数学〕 の指導として、児童〔生徒〕に与 えた家庭学習の課題（長期休業期 間中の課題を除く）についての評 価・指導を行いましたか	小学校	千葉県	57.0	40.2	2.5	0.3						0.0	97.2	-0.4	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
		小学校	全国	62.4	35.2	2.2	0.1						0.1	97.6			
(65) 中		中学校	千葉県	45.6	46.4	7.5	0.3						0.3	92.0	-2.5		
		中学校	全国	49.7	44.8	5.2	0.2						0.1	94.5			
(69) 小	調査対象学年の児童・生徒に対 して、前年度までに、理科の指導と して、家庭学習の課題（宿題）を 与えましたか	小学校	千葉県	5.7	35.7	56.7	1.9						0.1	41.4	-4.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない	
		小学校	全国	8.6	37.1	51.1	3.0						0.1	45.7			
(66) 中		中学校	千葉県	15.3	43.3	38.3	2.6						0.5	58.6	-18.0		
		中学校	全国	27.8	48.8	22.2	1.2						0.1	76.6			

平成30年度全国学力・学習状況調査
回答結果集計 [学校質問紙]
 千葉県一学校（公立）

小学校・中学校調査

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県(公立)の学校数の割合(%) 2段目：全国(公立)の学校数の割合(%)

質問 番号	質問事項	校種	千葉県	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
			全国	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(70) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、長期休業期間中に自由研究や課題研究などの家庭学習の課題を与えましたか	小学校	千葉	48.0	45.1	6.5	0.3						0.1	93.1	7.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(67) 中			全国	40.0	46.0	12.6	1.3						0.1	86.0		
		中学校	千葉	66.1	30.1	2.8	0.5						0.5	96.2	15.1	
全国			44.7	36.4	13.7	5.2						0.1	81.1			
(71) 小	調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、理科の指導として、児童〔生徒〕に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除く）についての評価・指導を行いましたか	小学校	千葉	28.5	51.0	19.1	1.4						0.0	79.5	5.4	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(68) 中			全国	26.7	47.4	23.6	2.2						0.1	74.1		
		中学校	千葉	40.2	46.6	10.6	2.3						0.3	86.8	-2.2	
全国			40.2	48.8	9.9	0.9						0.1	89.0			
(72) 小	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか	小学校	千葉	75.5	24.1	0.4	0.0						0.0	99.6	0.3	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(69) 中			全国	73.6	25.7	0.7	0.0						0.0	99.3		
		中学校	千葉	59.6	37.3	2.8	0.0						0.3	96.9	-1.2	
全国			63.0	35.1	1.8	0.0						0.0	98.1			
(73) 小	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	小学校	千葉	81.5	17.7	0.6	0.1						0.0	99.2	5.2	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(70) 中			全国	64.8	29.2	5.5	0.5						0.0	94.0		
		中学校	千葉	52.1	43.8	3.9	0.0						0.3	95.9	7.4	
全国			49.0	39.5	10.1	1.2						0.1	88.5			
(74) 小	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	小学校	千葉	64.1	32.8	3.0	0.0						0.1	96.9	0.2	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(71) 中			全国	63.3	33.4	3.2	0.0						0.1	96.7		
		中学校	千葉	36.5	50.3	12.4	0.5						0.3	86.8	-4.1	
全国			46.2	44.7	8.7	0.3						0.1	90.9			
(75) 小	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	小学校	千葉	54.1	42.1	3.6	0.1						0.0	96.2	-1.2	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
(72) 中			全国	56.5	40.9	2.5	0.0						0.1	97.4		
		中学校	千葉	42.2	51.3	6.0	0.3						0.3	93.5	-2.0	
全国			47.0	48.5	4.4	0.1						0.1	95.5			
(76) 小	（小学校において）個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	小学校	千葉	39.8	49.5	10.6	0.1						0.0	89.3	2.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	36.6	50.6	12.6	0.2						0.0	87.2		
(73) 中	（中学校において）教員は、校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	中学校	千葉	33.7	51.8	13.7	0.5						0.3	85.5	2.6	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	30.7	52.2	16.6	0.5						0.1	82.9		
(77) 小	前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、研究授業を行うなど、合同して研修を行いましたか	小学校	千葉	14.1	39.1	29.6	17.2						0.0	53.2	-16.3	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
(74) 中			全国	25.1	44.4	22.6	7.8						0.1	69.5		
		中学校	千葉	21.0	39.1	27.5	12.2						0.3	60.1	-16.4	
全国			33.8	42.7	16.6	6.8						0.1	76.5			

回答結果集計 [学校質問紙]

千葉県一学校（公立）

・以下の集計値は、4月17日に実施した調査の結果を集計した値である。

	小学校数	中学校数
千葉県（公立）	796	386

※【その他】とは、『選択肢以外の回答や複数回答』されたものである。

各校種の1段目：千葉県（公立）の学校数の割合（%） 2段目：全国（公立）の学校数の割合（%）

質問 番号	質問事項	校種	千葉県 全国	選 択 肢									その他 無回答	肯定的	全国 との差	選択肢 凡例
				1	2	3	4	5	6	7	8	9				
(78) 小	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	小学校	千葉県	43.1	53.1	3.6	0.1						0.0	96.2	-0.7	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
			全国	41.0	55.9	3.0	0.0						0.0	96.9		
(75) 中		中学校	千葉県	28.0	67.1	4.7	0.0						0.3	95.1	1.2	
			全国	32.3	61.6	6.0	0.0						0.1	93.9		
(79) 小	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか	小学校	千葉県	44.5	52.0	3.4	0.1						0.0	96.5	-1.0	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
			全国	48.2	49.3	2.5	0.0						0.0	97.5		
(76) 中		中学校	千葉県	39.1	56.2	4.4	0.0						0.3	95.3	-0.3	
			全国	40.2	55.4	4.3	0.0						0.0	95.6		
(80) 小	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか	小学校	千葉県	35.8	54.0	10.1	0.1						0.0	89.8	-3.3	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
			全国	40.0	53.1	6.8	0.1						0.1	93.1		
(77) 中		中学校	千葉県	22.8	58.0	18.7	0.3						0.3	80.8	-5.2	
			全国	29.2	56.8	13.7	0.2						0.1	86.0		
(81) 小	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	小学校	千葉県	35.2	59.0	5.7	0.1						0.0	94.2	0.0	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	39.1	55.1	5.8	0.1						0.0	94.2		
(78) 中	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	中学校	千葉県	29.3	57.3	13.0	0.3						0.3	86.6	-4.1	1. よく行った 2. どちらかといえば、行った 3. あまり行っていない 4. 全く行っていない
			全国	34.9	55.8	9.2	0.1						0.1	90.7		
(82) 小	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	小学校	千葉県	55.5	43.3	1.1	0.0						0.0	98.8	0.3	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
			全国	57.9	40.6	1.4	0.0						0.0	98.5		
(79) 中		中学校	千葉県	41.5	53.9	4.1	0.3						0.3	95.4	-1.5	
			全国	49.1	47.8	3.0	0.1						0.0	96.9		
(83) 小	学校として業務改善に取り組んでいますか	小学校	千葉県	50.8	47.2	2.0	0.0						0.0	98.0	0.6	1. よくしている 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない
			全国	48.9	48.5	2.5	0.0						0.0	97.4		
(80) 中		中学校	千葉県	44.0	50.5	4.9	0.3						0.3	94.5	-2.3	
			全国	46.0	50.8	3.0	0.0						0.1	96.8		
(84) 小	あなた（校長）は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	小学校	千葉県	75.8	20.6	3.5	0.1						0.0	96.4	1.3	1. ほぼ毎日 2. 週に2～3日程 3. 月に数日程 4. ほとんど行っていない
			全国	70.4	24.7	4.8	0.2						0.0	95.1		
(81) 中		中学校	千葉県	56.0	30.8	12.4	0.8						0.0	86.8	1.4	
			全国	48.1	37.3	14.1	0.5						0.0	85.4		

研究報告

第 4 3 4 号

平成 3 0 年 1 1 月 2 2 日

編集発行者 千葉県総合教育センター所長

秋元 大輔

発行所 千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉 2 丁目 1 3 番

TEL 0 4 3 (2 7 6) 1 1 6 6

FAX 0 4 3 (2 7 2) 5 1 2 8
